

姿川第一小南遺跡

(第3次調査)

平成20年5月

宇都宮市教育委員会

序

姿川第一小南遺跡が所在する宇都宮市の姿川地区は、かつては緑豊かな田園地帯でしたが、近年急速に開発が進み、現在ではその様相が大きく変化いたしました。

開発の進展に伴い埋蔵文化財の発掘調査が行われ、当地域の歴史を解明する数多くの資料が発見されてまいりました。

そのようななか、姿川第一小南遺跡の範囲内において、トヨタウッドユーホーム株式会社による宅地造成が行われることとなりました。

同社と宇都宮市教育委員会とは、文化財保護の立場から誠意をもって協議した結果、遺跡を記録として保存するための発掘調査を実施することとなりました。

調査は、宇都宮市教育委員会が調査主体となり、トヨタウッドユーホーム株式会社が費用を負担し、株式会社日本窯業史研究所が調査の実務を担当する体制で、平成11年度から同12年度にかけて行われました。

その結果をまとめたものが本報告書であります。関係各位におかれましては、本報告書をさまざまな方面でご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書の刊行にいたるまで多大なご理解・ご協力をいただきました関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成20年 5 月

宇都宮市教育委員会

教育長 伊 藤 文 雄

例 言

1. 本書は宇都宮市西川田町・幕田町に所在する姿川第一小南遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書で、「第3次調査」を収録する。
2. 発掘調査は、トヨタウッドユーホーム株式会社が施行する「みやの森ニュータウン」建設に伴うもので、事業主の依頼により宇都宮市教育委員会を調査主体者とし、調査実務は同社より委託を受けた株式会社日本窯業史研究所がこれにあたった。
3. 野外調査は、平成11年10月25日より12年4月28日まで実施した。整理報告書作成作業は、調査終了直後に着手し、一時中断していたが、平成20年3月に再開し、同年5月まで実施した。
4. 野外調査は、新井 潔が担当し、報告書作成作業には水野順敏が協力した。報文の執筆はⅠ・Ⅲを水野、Ⅱは新井、栗田欣行が執筆した。

5. 調査組織（現段階に限定）

宇都宮市教育委員会

伊藤 文雄 教 育 長
渡辺 卓 文化課長
大塚 雅之 文化財保護グループ係長
神野 安伸 文化財保護グループ



(株)日本窯業史研究所

水野 順敏 調査統括
新井 潔 調査担当者

6. 調査記録類及び出土遺物は、宇都宮市教育委員会が保管する。
7. 野外調査及び整理作業・報告書作成作業において下記の機関、関係各位からご助力とご指導を賜った。記して謝意を表する。（敬称略・順不同）
トヨタウッドユーホーム(株)、興和産業(株)、(株)ダイショー、(株)テクノプランニング（旧名フジテクノ）、
梁木 誠、今平利幸、国土館大学考古学研究室

凡 例

1. 本遺跡の略称は、「スガー小」で、遺物注記はこれによる。遺構の略号はSIJ—縄文時代住居跡、SI—古墳～平安時代住居跡、SB—掘立柱建物跡、ED—円形周溝遺構、SK—土坑・井戸跡、SD—溝跡を示す。
2. 第1図は国土地理院発行の1/25,000の地形図『宇都宮西部』を部分複製した。
3. 遺構実測図の縮尺は、住居跡・土坑が1/80、掘立柱建物跡が1/120を基本とし、これ以外はスケールによる。遺物実測図の縮尺は土器類1/4、大型土器類1/6、鉄器、石器・石製品、土製品は1/2を基本とするも、異なるものはスケールを脇に記した。
4. 図面の北の方位は座標北を示す。断面図等の水準線上の数字は海拔標高を示す。
5. 挿図の遺物番号は本文及び写真図版の番号と合致する。写真図版は□—○の前が住居跡もしくは挿図番号、後が遺物の番号である。遺物番号を①のように囲んだものは縮尺1/6、他は1/4を基本とし、他はそれぞれ示した。また、○1の如く、番号の前に小丸印を示したものは住居跡に伴うと考えられるものである。
6. 遺構図面で使用したスクリーンパターンは以下の通りである。

 焼土・硬化面  カマド構築材（地山・粘土）

目 次

I はしがき

1. 調査に至る経緯と経過 7
2. 遺跡の位置と環境 7
3. 調査の方法 7

II 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡（遺構，遺物） 11
2. 掘立柱建物跡（遺構，遺物） 25
3. 円形周溝遺構跡（遺構，遺物） 28
4. 土坑・井戸跡（遺構，遺物） 29
5. 溝跡（遺構，遺物） 30
6. その他の遺物 32

III まとめ

1. 土地利用の変遷 86
2. 特色ある遺構，遺物 87

挿 図 目 次

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 第1図 遺跡周辺の地形図（1：2万5千） | 第25図 竪穴住居跡（22）SI-191 |
| 第2図 遺跡全体図（1：1500） | 第26図 竪穴住居跡（23）SI-193 |
| 第3図 調査区配置図（1：600） | 第27図 掘立柱建物跡（1）SB-51・53～55・59・60 |
| 第4図 竪穴住居跡（1）SIJ-1～4 | 第28図 掘立柱建物跡（2）SB-52・56A・56B・58・64・65 |
| 第5図 竪穴住居跡（2）SI-140～144 | 第29図 掘立柱建物跡（3）SB-61～63・66・68・69 |
| 第6図 竪穴住居跡（3）SI-141・145・147 | 第30図 掘立柱建物跡（4）円形周溝遺構SB-67・ED-6～9 |
| 第7図 竪穴住居跡（4）SI-148～150 | 第31図 土坑類SK-301～340 |
| 第8図 竪穴住居跡（5）SI-151～153 | 第32図 溝跡SD-20・62～70 |
| 第9図 竪穴住居跡（6）SI-154・155・157 | 第33図 竪穴住居跡出土土器・石器（1）SIJ-1～4 |
| 第10図 竪穴住居跡（7）SI-156・158・159 | 第34図 竪穴住居跡出土土器（2）SI-140～144 |
| 第11図 竪穴住居跡（8）SI-159カ・160・163 | 第35図 竪穴住居跡出土土器（3）SI-145・147～149 |
| 第12図 竪穴住居跡（9）SI-161 | 第36図 竪穴住居跡出土土器（4）SI-150～152 |
| 第13図 竪穴住居跡（10）SI-162・164・165 | 第37図 竪穴住居跡出土土器（5）SI-153～155 |
| 第14図 竪穴住居跡（11）SI-167 | 第38図 竪穴住居跡出土土器（6）SI-156・157(1) |
| 第15図 竪穴住居跡（12）SI-166・167カ・168 | 第39図 竪穴住居跡出土土器（7）SI-157(2)・158・159 |
| 第16図 竪穴住居跡（13）SI-169・171 | 第40図 竪穴住居跡出土土器（8）SI-160～163 |
| 第17図 竪穴住居跡（14）SI-170・173・174 | 第41図 竪穴住居跡出土土器（9）SI-164・165・168・169 |
| 第18図 竪穴住居跡（15）SI-175・177・178 | 第42図 竪穴住居跡出土土器（10）SI-166・167・170 |
| 第19図 竪穴住居跡（16）SI-177カ・176 | 第43図 竪穴住居跡出土土器（11）SI-171・173～175 |
| 第20図 竪穴住居跡（17）SI-179・180 | 第44図 竪穴住居跡出土土器（12）SI-176・177(1) |
| 第21図 竪穴住居跡（18）SI-181・182・184・190 | 第45図 竪穴住居跡出土土器（13）SI-177(2)・178・179 |
| 第22図 竪穴住居跡（19）SI-183・185 | 第46図 竪穴住居跡出土土器（14）SI-180～183 |
| 第23図 竪穴住居跡（20）SI-186・187・189 | 第47図 竪穴住居跡出土土器（15）SI-184～186 |
| 第24図 竪穴住居跡（21）SI-188・192・194 | 第48図 竪穴住居跡出土土器（16）SI-187 |

第49図	竪穴住居跡出土土器 (17) SI-188~191(1)	第55図	土製品・石製品
第50図	竪穴住居跡出土土器 (18) SI-191(2) ~194	第56図	鉄製品・屋瓦
第51図	掘立柱建物跡・円形周溝遺構出土土器	第57図	遺構外出土縄文・弥生時代土器
第52図	土坑類出土遺物	第58図	遺構外出土先土器・縄文時代石器
第53図	溝跡出土遺物	第59図	間仕切住居跡比較図
第54図	遺構外出土中世以降遺物	第60図	墨書・ヘラ書文字

表 目 次

第1表 周辺の遺跡
第2表 土坑一覧表

図 版 目 次

図版1 調査区近景(南東から) 調査前全景 D地区トレンチ調査風景 D地区GトレンチSI-140確認状況(南から)
D地区全景(南西から) F地区全景(東から) 現地説明会風景 E地区全景(南から)

図版2 SIJ-1全景(南から) SIJ-2全景(南から) SIJ-2小穴全景(南から) SIJ-3全景(南から) SIJ-3炉全景(南から)
SIJ-4全景(南東から) SI-140全景(南から) SI-141全景(南から) SI-142全景(南から) SI-143・152全景(南から)
SI-144全景(南西から) SI-145全景(東から) SI-147全景(南から) SI-147カマド全景(南から) SI-148・149全景(南から)
SI-150全景(南東から) SI-151全景(南東から) SI-151カマド全景(南東から)

図版3 SI-153全景(南から) SI-154全景(南から) SI-155全景(南から) SI-156全景(南西から)
SI-156炉全景(南西から) SI-157全景(南から) SI-158全景(南から) SI-159全景(南から) SI-160・179全景(南から)
SI-161全景(南から) SI-162全景(南東から) SI-163全景(南から) SI-164・178全景(南から) SI-165・178全景(南から)
SI-166全景(南西から) SI-167全景(南から) SI-167掘り方全景(南東から) SI-168全景(南西から)

図版4 SI-169全景(南から) SI-170全景(南東から) SI-171全景(南から) SI-173全景(南東から)
SI-174全景(南東から) SI-175全景(南から) SI-176全景(南から) SI-177全景(南から) SI-177出土遺物(南から)
SI-180全景(南から) SI-181全景(南から) SI-182全景(南東から) SI-183全景(南から) SI-184全景(東から)
SI-184炉全景(西から) SI-185全景(南東から) SI-186全景(南東から) SI-187全景(東から)

図版5 SI-188全景(南から) SI-189全景(南から) SI-190全景(南西から) SI-191全景(南西から)
SI-192全景(北西から) SI-193全景(南から) SI-193出土遺物(西から) SI-194全景(南から) SI-194出土遺物(北から)
SB-51全景(南西から) SB-52全景(東から) SB-53全景(南から) SB-54・55全景(南から) SB-56全景(西から)
SB-57全景(南から) SB-58全景(南から) SB-60全景(南から) SB-61・67全景(南から)

図版6 SB-62全景(南から) SB-63全景(南から) SB-64全景(南から) SB-65全景(南から) SB-66全景(西から)
SB-68全景(南から) SB-69全景(南から) SB-70全景(南から) ED-6・7全景(南から) ED-8全景(北東から)
ED-9全景(南から) SK-303全景(南から) SK-319全景(東から) SK-320~322全景(南西から) SK-330全景(東から)
SK-331全景(東から) SK-332全景(南から) SD-20全景(東から)

図版7 古墳時代の土器(1) 図版8 古墳時代の土器(2) 図版9 奈良・平安時代の土器・屋瓦 図版10 その他の遺物

I はしがき

1. 調査に至る経緯と経過 (第1・2図)

遺跡は宇都宮市西川田町・幕田町に所在する。当該地区において、(株)ユーエスケー [現・トヨタウッドユーホーム(株)、以下事業主] により約7万3千㎡におよぶ宅地開発が計画された。当地には周知の遺跡として「姿川第一小南遺跡、県No3115」が所在し、関係者で協議の上平成3年に試掘調査を実施した結果、古墳時代前期～平安時代にわたる集落跡であることが確認された。そこで、翌平成4年と5年の2次にわたって発掘調査を実施したが、諸般の事情により計画は一時凍結された。平成11年に至り開発計画が本格的に再開され、未調査部分における発掘調査が急務となった。

そこで、事業主の依頼により宇都宮市教育委員会（以下市教委）を調査主体者、事業主より委託を受けた(株)日本窯業史研究所（以下当研究所）が調査実務にあたった。過去の調査も同じ体制である。

第1次調査は平成4年5月～12月にA地区約1万5千㎡を調査、古墳時代前期～平安時代にわたる竪穴住居跡約100軒、掘立柱建物跡6棟、円墳1基などを確認した。

第2次調査は平成5年2月～7月にB・C地区約1万6千㎡を調査、古墳時代前期～平安時代にわたる竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡26棟の他多数の中・近世遺構を確認した。

第3次調査は平成11年10月25日～12年4月28日にD～F地区約1万㎡を調査、縄文時代、古墳時代前期～平安時代にわたる竪穴住居跡57軒、掘立柱建物21棟、円形周溝遺構、土坑などを確認した。

整理報告作成作業はそれぞれ、野外調査終了後に過半を終了したが、諸般の事情により編集等は一時的に凍結していた。第3次調査の報告書作成作業は平成20年3月より再開し、同年5月まで実施した。

2. 遺跡の位置と環境 (第1図、第1表)

遺跡は栃木県宇都宮市西川田町・幕田町に跨って所在する。宇都宮市は栃木県のほぼ中央部に位置するが、遺跡は市域の南西端に位置し、西方を南流する姿川を隔てて、下都賀郡壬生町と境を接する。

市域の西を流れる姿川の右岸は鹿沼台地で、遺跡は左岸の宝木台地に立地し、台地は同水系の小支谷（沢）が樹枝状に開析している。遺跡を乗せる台地も東・西両側に小支谷があって遺跡の南で合流しており、南に向かって突出する舌状台地状を呈し、標高は92～94m、姿川との比高は3m程である。

交通的にはJR宇都宮駅より南西約7km、東武宇都宮線西川田駅の南西約1kmに位置する。また、東方約200mを県道宇都宮・栃木線（通称栃木街道）の旧道、西方約200mには同線のバイパスが北東・南西に併走し、北東約600mで宇都宮環状線と交叉する。

姿川の両岸には多数の遺跡の存在が知られており、近隣でも開発に伴う遺跡の調査例が多く見られる。遺跡の北東約600mでは、昭和55年に前記の宇都宮環状線と栃木街道バイパスの建設に伴い、辻の内（現在は星の宮神社北）遺跡が調査され、古代の集落跡と中世遺構が確認されている。その後、昭和62・63年度には環状線の延長に伴い、辻の内（現在は西の内）遺跡の北西部とこの北に位置する柿の内（現在は下砥上下の内）遺跡が調査された。辻の内遺跡では、古代の住居跡100軒以上が確認され、四面廂の三方に孫廂をもつ大型の掘立柱建物跡が確認されて注目をあびた。柿の内遺跡でも古代の住居跡14軒、他多数の中世遺構が調査されている。

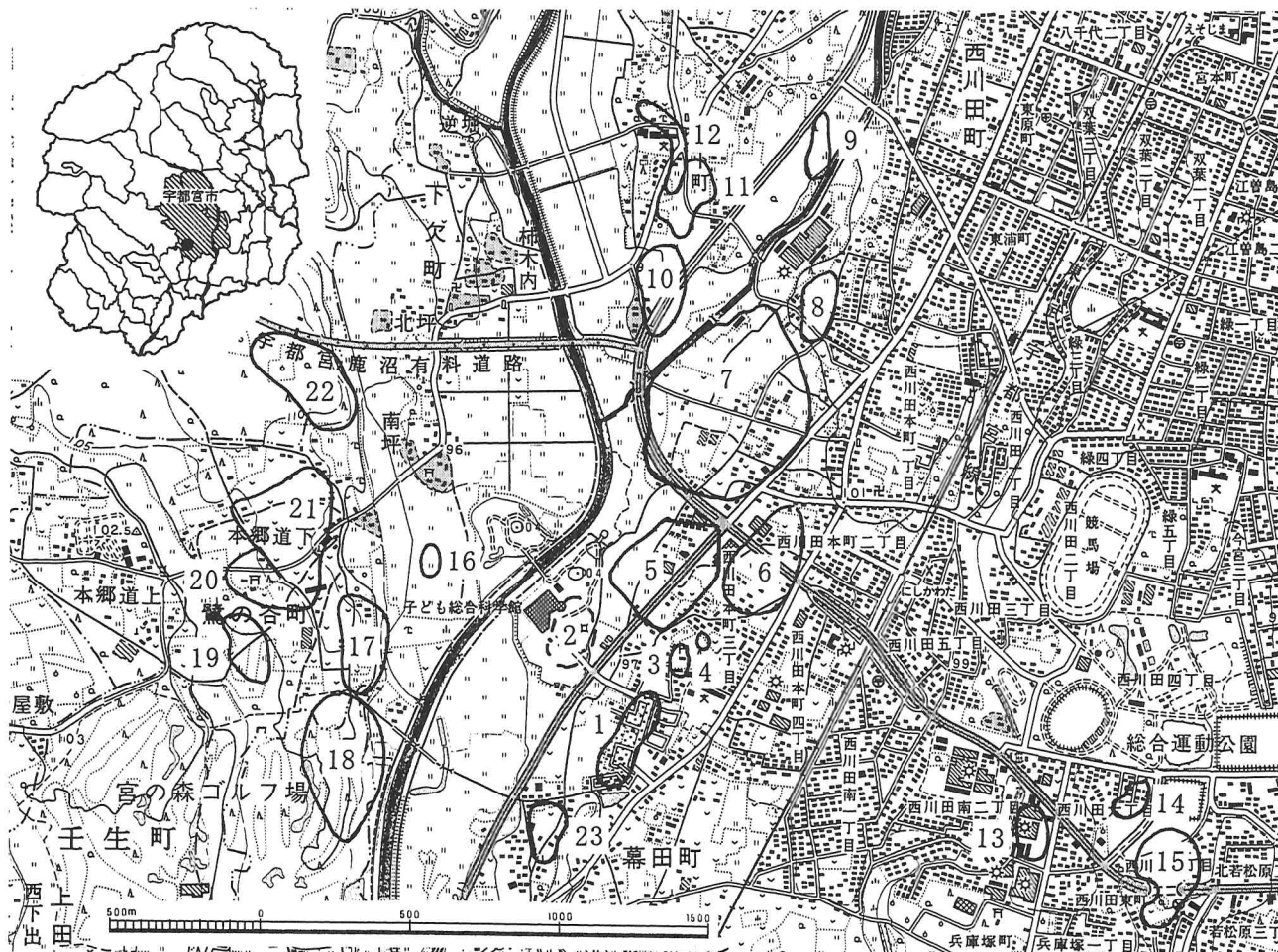
また、遺跡の北西約500mで、昭和59年に県立こども総合科学館（当時）の建設に伴い花の木町遺跡の調査が行われ、古墳時代前期末葉の住居跡8軒が確認された。本遺跡の古墳時代前期の集落に後続する時期と思われる。平成19年には、遺跡の北方約300mの辻の内遺跡南端部で、5世紀代末葉と推定される円墳が1基調査された。

尚、周辺の遺跡については第1図、第1表を参照されたい。

3. 調査の方法 (第2・3図)

今次調査は第3次調査となる為調査区が3か所に点在する。調査記録は第1次調査次に設定した、開発区域全体を網羅するグリッドを使用した。開発区域南西隅を原点とする10m方眼で、X軸は北に向かって1～48のアラビア数字で、Y軸は東に向かってA～Zのアルファベットで示し、調査対象によってはさらに1～25の2m方眼に細分して使用した。原点の座標値は、日本測地系の第IX座標系によるもので、X=55,980.000m、Y=780.000mを示す。標高は海拔標高を使用した。

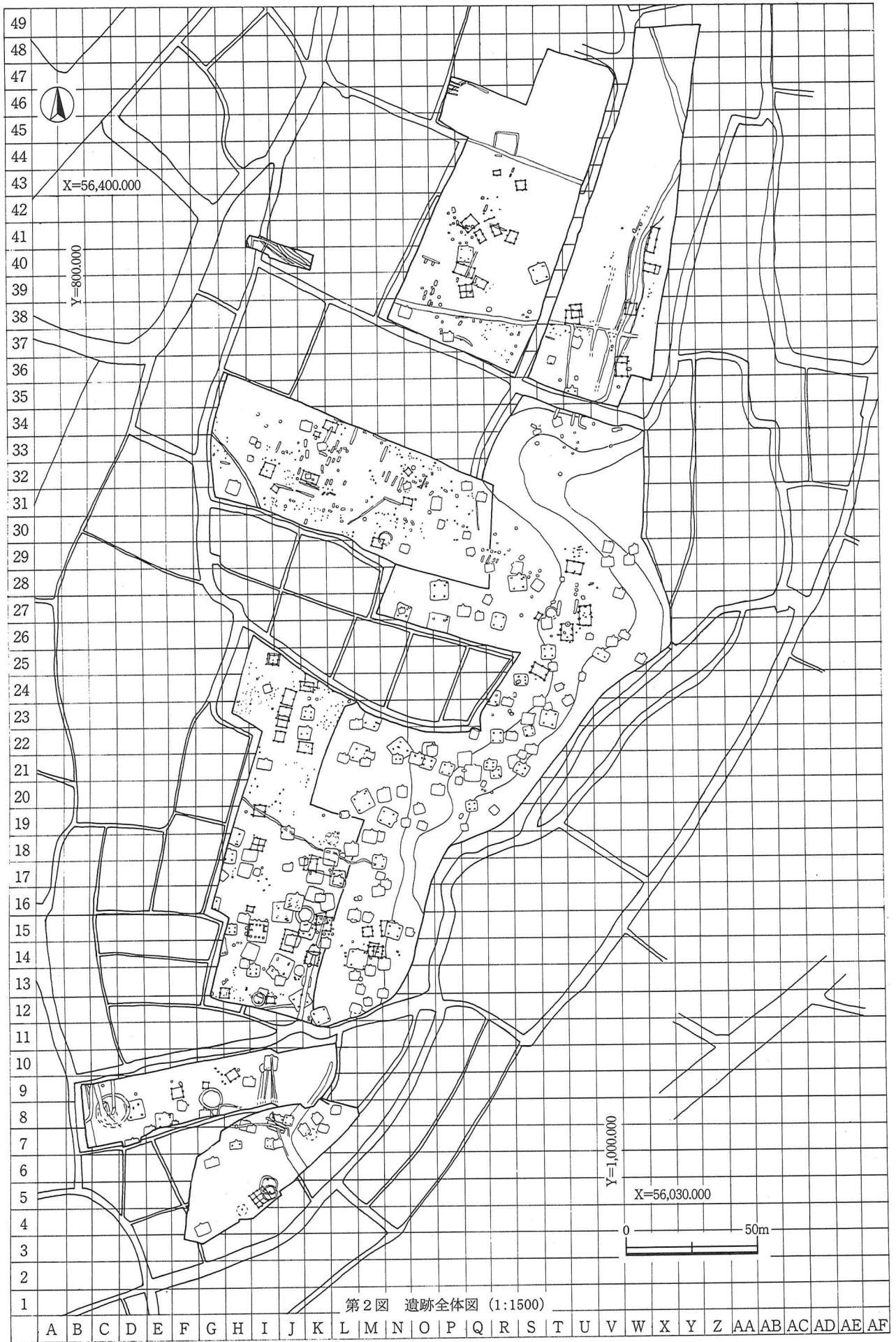
調査は重機によりローム漸移層まで表土を除去した後、人力により遺構確認作業、埋積土除去作業を行った。その後は土層記録、写真撮影、平面測量作業等の通常の調査作業を反復した。遺構実測は前記の区画を利用し、人力によって実施した。遺構写真の撮影は、大型脚立、ローリングタワーを利用し、全景写真はラジコンヘリを使用した。



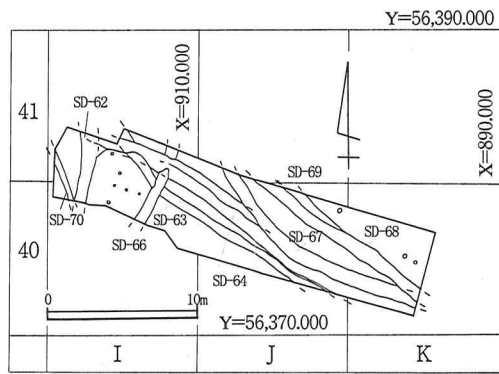
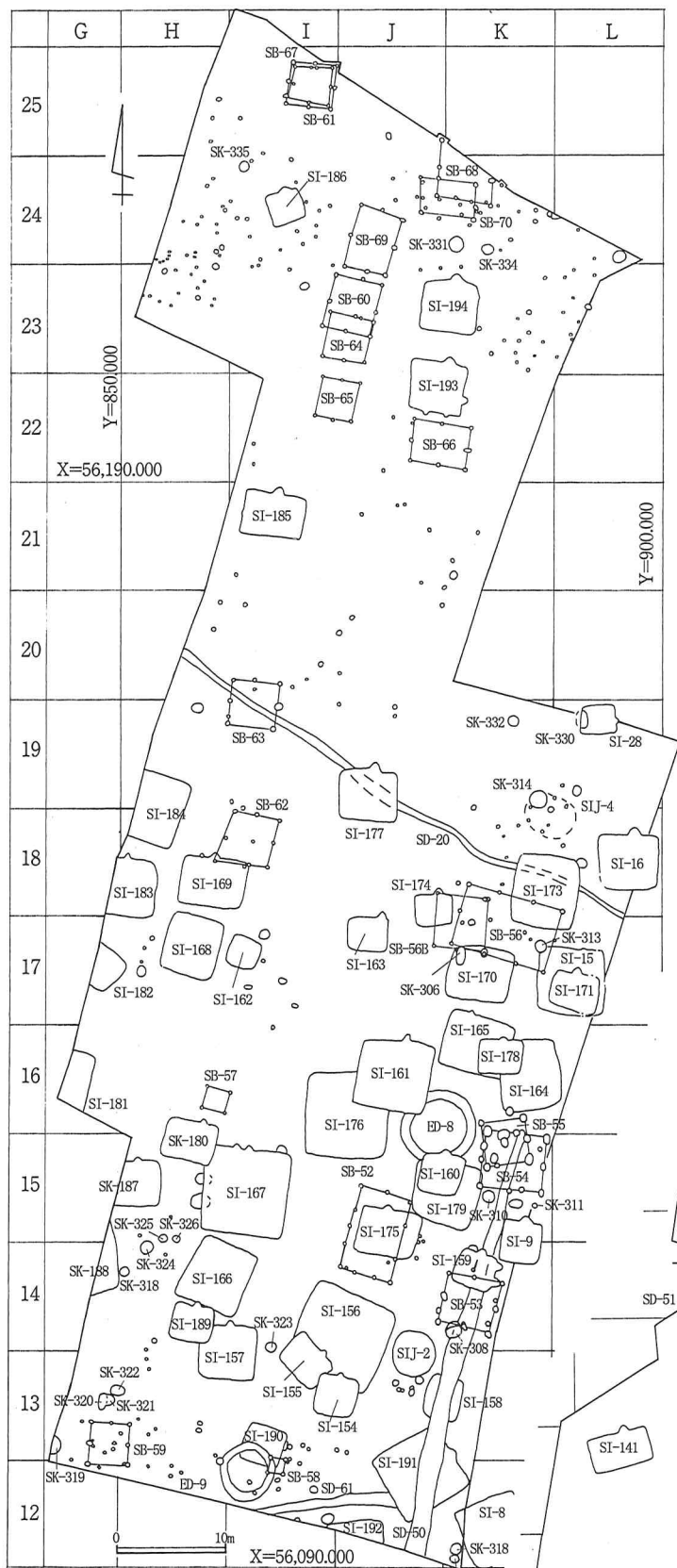
第1図 遺跡周辺の地形図（1：2万5千）

No	遺跡名	種類	時代	備考(参考文献)
1	姿川第一小南遺跡	集落跡	古墳・歴史	本書
2	花の木町遺跡	集落跡	古墳	昭和59年調査、「花の木町遺跡」
3	西川田星宮神社古墳	古墳	古墳	「宇都宮の遺跡」
4	星宮神社遺跡	散布地	奈良・平安	「宇都宮の遺跡」
5	辻の内遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	「宇都宮の遺跡」
6	星の宮神社北遺跡	散布地	奈良・平安	「宇都宮の遺跡」
7	西の内遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安	「宇都宮の遺跡」
8	北之原遺跡	集落跡	奈良・平安	「宇都宮の遺跡」
9	山ノ神遺跡	集落跡	縄文	「宇都宮の遺跡」
10	下砥上下の内遺跡	集落跡	縄文・古墳	「宇都宮の遺跡」
11	下の内北遺跡	集落跡	奈良・平安	「宇都宮の遺跡」
12	下砥上古墳群	古墳	古墳	円墳3基, 「宇都宮の遺跡」
13	旭マーケット前遺跡	集落跡	縄文	縄文中期, 「宇都宮の遺跡」
13	小野測器北遺跡	集落跡	縄文	縄文中期, 「宇都宮の遺跡」
14	塚山北遺跡	集落跡	古墳	「宇都宮の遺跡」
15	塚山古墳群	古墳	古墳	前方後円墳3基, 円墳3基(消滅), 埴輪棺9基, 動物埴輪・短甲形埴輪・円筒埴輪, 「宇都宮の遺跡」, 「栃木県史資料編考古1」, 「宇都宮市史第1巻」, 「塚山古墳群」 「栃木県埋蔵文化財年報 昭和35年度」
16	亀塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳, 「宇都宮の遺跡」
17	厩久保遺跡	集落跡	縄文・古墳	「宇都宮の遺跡」
18	安塚上原古墳群	古墳	古墳	円墳13基, 「宇都宮の遺跡」, 「栃木県埋蔵文化財保護年報 昭和61・62年度」, 「上原古墳群」平成元年 壬生町教育委員会・日本窯業史研究所
19	萩山遺跡	集落跡	古墳	「宇都宮の遺跡」
20	大明神南遺跡	集落跡	奈良	「宇都宮の遺跡」
20	大明神南古墳	古墳	古墳	円墳1基, 「宇都宮の遺跡」
21	大明神遺跡	集落跡	古墳～平安	「宇都宮の遺跡」
22	下台原古墳群	古墳	古墳	前方後円墳1基, 円墳16基(内円墳5基が宇都宮に所在し, 他は鹿沼市), 「宇都宮の遺跡」
23	合ノ畑遺跡	集落跡	奈良・平安	「宇都宮の遺跡」

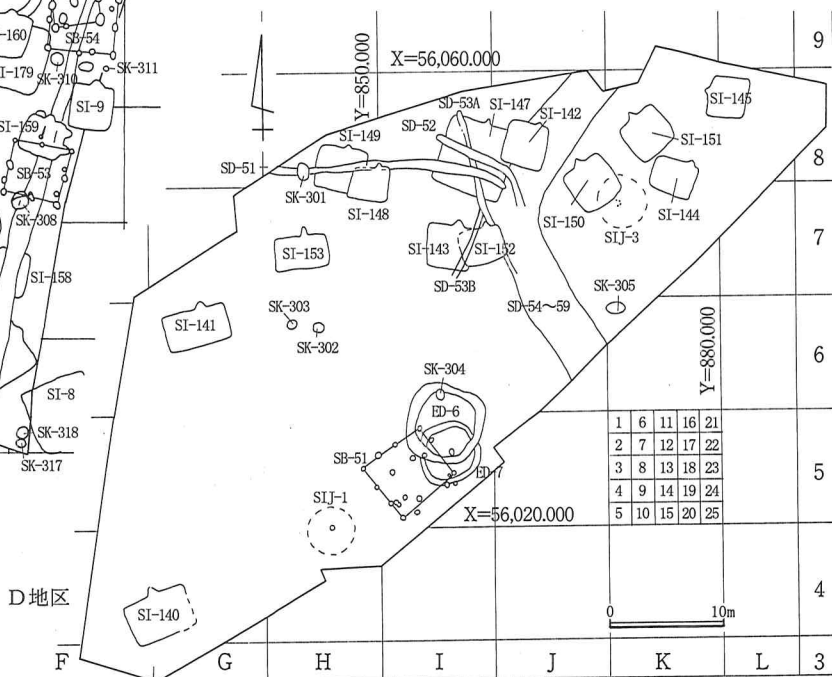
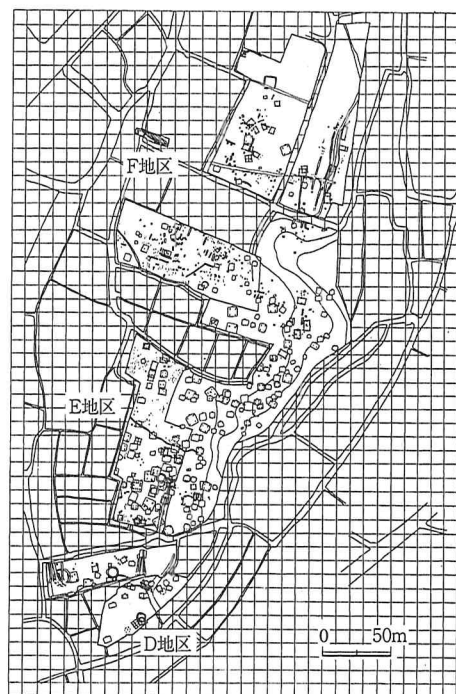
第1表 周辺の遺跡



第2図 遺跡全体図 (1:1500)



F 地区



第3图 調査区配置図 (1:600)

Ⅱ 遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

SIJ-1

遺構（第4図，図版2）

4 Hに位置し，北東35mにSIJ-3がある。床面のみの確認で，平面は東西4.1，南北4.55mの楕円形と推定される。床面はほぼ平ら。柱穴は確認されなかった。

住居の中央に平面が東西36×南北32cm，深さ5cmの楕円形の地床炉が確認された。

遺物（第33図）

1～7は無文の土器で，外面ヘラ削り。2・4は口唇部にキザミ目，3は口唇部に指頭圧痕あり。7は壺形の無文土器。2・4・6は雲母混入。8はキザミ列の下側に沈線を挟んで単節縄文。9・10は地文が単節縄文で，10は縦の沈線みられる。11は横方向の沈線文。12は無文の底部で，外面ヘラ削り，底部木葉痕。13は磨石で，全面が磨面で，長側縁2面に敲打痕，表裏に凹面あり。重量757g，安山岩製。

SIJ-2

遺構（第4図，図版2）

13Jに位置し，北側45mにSIJ-1がある。平面は東西4.1，南北4.1mの円形。壁はほぼ直立して立ち上がり，現存高5～12cm。床面はほぼ平ら。炉跡は確認されなかった。柱穴は竪穴内に認められず，竪穴外の南側に6口の小さな小穴が確認され，径19～66，深さ27～41cmの円ないし楕円形。本跡の出入り口に関係した施設と推察される。埋積土は褐色土の自然埋没と考えられる。

遺物（第33図，図版10）

1～3は口辺に縦長の貼瘤を起点に2条の隆起帯に単節縄文。1は体部に弧状の単節縄文区画帯とその下側にキザミ目列が沿う。4は口辺部に3条の隆起帯に単節縄文。5・6は波状口縁で，4個の貼瘤を起点に3条の隆起帯に単節縄文。7は2個の貼瘤を起点に3条の隆起帯に単節縄文と，その下側に横位の綾杉状の沈線。8は1条以上の隆起帯縄文（単節）の下側に斜め沈線。9は1列のキザミ目とその上側に横位の綾杉状の沈線。10は2列のキザミ目とその下側に斜めの沈線。11は口辺を巡る隆帯と外面全体に撚糸文。12は無文の口辺で，外面斜めヘラ削り。13は底部外面編目痕。14は土偶の脚の一部。15・16は打製石斧で，分銅型。15は重量132g，安山岩製。16は重量358g，フォルンフェルス製。17は磨石で，全面磨面。重量234g，安山岩製。

SIJ-3

遺構（第4図，図版2）

7 Kに位置し，南西側35mにSIJ-1がある。平面は炉跡を中心として出土遺物から東西・南北4m程の円形と考えられる。壁は認められず，床面（ほぼ平ら）のみ確認でき，柱穴は確認できなかった。

住居の中央に石囲い炉を確認し，平面は東西60×南北45，深さ12cmの楕円形の範囲に大小13個の川原石で「Uの字」に組まれていた。底面は被熱し，5cm程硬化していた。

遺物（第33図）

1は口辺に縦長の貼瘤を起点に2条の隆起帯に単節縄文，体部は弧状の単節縄文帯。2は体部上位に弧状の単節の縄文帯，下位は無文帯を挟んで単節の縄文。3・4は無文で，3は外面縦ヘラ磨き，内面ヘラナデ。4は体部・底部外面ヘラ磨き，内面の器面荒れる。3・4は胎土に粗砂粒混入。

SIJ-4

遺構（第4図，図版2）

18 Kに位置し，南西側45mにSIJ-2がある。平面は東西4.8，南北3.6mの楕円形と考えられる。壁は認められず，床面（ほぼ平ら）のみ確認できた。小穴は7口（P1～P7），径15～36cm，深さ18～29cmの円ないし楕円形が確認されたが，主柱穴は不明。

住居の中央南側に地床炉を確認し，平面は東西32×南北35cm，深さ2cm程の楕円形。

遺物（第33図，図版10）

1は「くの字」にひらいた口辺に一部突起がみられ，口唇部に押圧。無文の口辺下に結節を持つ単節縄文が体部下半までみられる。2は石錘で，一端に打ち欠きによる紐かけ部あり。重量162g，安山岩製。

SI-140

遺構（第5図，図版2）

4 Gに位置し，北側22mにSI-141がある。平面は東西5.7，南北4.1mの長方形。壁は外傾し立ち上がり，現存高5～20cm。柱穴，壁溝は認められなかった。床面はほぼ平ら。埋積土は上層が黒色土，下層が黒褐色土で，自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央に設けられていた。壁を幅110，奥行63cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は遺存しておらず，煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物（第34図，図版9）

1～6は須恵器。1～4（4は高台杯）は坏で，ロクロ整形。1・2は底部回転ヘラ削り。3は底部糸切り。4は底部回転ヘラ削り後付高台。

2・4は胎土に粗砂粒混入。5は蓋で、ロクロ整形。外面回転ヘラ削り。胎土に粗砂粒混入。6は壺で、ロクロ整形。底部ヘラ削り。

7～13は土師器の甕で、7～11は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。12・13は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデで、底部木葉痕。7・8・11～13は胎土に粗砂粒混入。

SI-141

遺構（第5図、図版2）

6 Gに位置し、北東側にSI-153が隣接する。平面は東西5.5、南北3.1mの長方形。壁は外傾し立ち上り、現存高22～28cm。床面はほぼ平ら。柱穴などは確認されなかった。埋積土は上下層とも黒色土の自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや東寄りに設けられていた。壁を推定幅106、奥行61cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅28、高さ25cmが遺存し、灰褐色粘土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっていると推定された。

遺物（第34図）

1～4は土師器。1・2は坏で、1は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り。2は底部外面ヘラ削り、内面黒色処理。3・4は甕で、口辺部内外面横ナデ。

5は灰釉陶器、6～11は須恵器。5は埴で、ロクロ整形、底部回転ヘラ削り後付高台。6は坏で、ロクロ整形、底部糸切り。7は蓋のつまみ。8～11は甕で、ロクロ整形。9は体部内面横ナデ、外面平行タタキ目、内面ヘラナデ。11は体部外面平行タタキ目、内面同心円の当て具痕。9・11の胎土に粗砂粒混入。

SI-142

遺構（第5図、図版2）

8 Jに位置し、SI-147を切っていた。平面は大部分が中・近世の溝と重複しており、東西推定3.3、南北3.9mの長方形と考えられる。壁は外傾し立ち上り、現存高さ7cm。床面はほぼ平らで、貼り床。柱穴は主柱穴を4口（P1～P4）径22～32cm、深さ10～30cmを確認した。埋積土は暗褐色土の自然埋没と考えられた。

カマドは北壁のほぼ中央にやや東寄りに設けられていた。壁を幅54、奥行32の三角形に切り込んで作られていた。袖は遺存していなかった。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物（第34図）

1～7は土師器。1は坏で、ロクロ整形。内面ヘラ磨き、内面黒色処理。底部糸切り後ヘラ削り。2は鉢で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。胎土に粗砂粒混入。3～6は甕で、3は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。4・5は口辺部内外面横ナデ。3・4・6は胎土に粗砂粒混入。7は台付甕で、脚部外面横ヘラナデ、内面ヘラナデ。

SI-143

遺構（第5図、図版2）

7 Iに位置し、SI-152に切られていた。平面は東西4、南北4.1mの方形。壁はほぼ垂直で、現存高16～51cm。床面はほぼ平らで、貼り床。柱穴は主柱穴4口（P1～P4）径27～38、深さ38～69cmを確認。P3・P4と西壁間に幅10、深さ10cm程の間仕切溝を確認した。埋積土は上層が黒褐色土、下層は褐色土が主体で、人為的埋没後自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央にやや東寄りに設けられていた。壁を幅70、奥行48cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅15～40、高さ28～40cmが遺存し、灰色粘土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物（第34図）

1・3～9は土師器。1は坏で、口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。4～7は甕で、3・4は口辺部内外面横ナデ、5は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ハケ目。6は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。7は外面ヘラ削り、内面ヘラナデで、底部木葉痕。8は台付甕で、脚部内外面横ナデ。9は鉢で、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。1・5～9は胎土に粗砂粒混入。

2は須恵器の坏で、ロクロ整形。

SI-144

遺構（第5図、図版2）

8 Kに位置し、北側にSI-151が隣接する。平面は東西4.1、南北2.9mの長方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高19～23cm。床面はほぼ平ら。柱穴など認められなかった。尚、西壁際の北寄りに173×90、高さ8cm程のベッド状の施設がみられた。埋積土は上層が黒色土、下層は褐色土が主体で、人為的埋没後自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の東端部に設けられていた。壁を幅75、奥行20cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は遺存しなかった。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物（第34図）

1～4は土師器。1・2は坏で、ロクロ整形。1は口辺部内外面横ナデ、体部外面器面荒れる。内面ヘラ磨き、内面黒色処理。2は内面ヘラ磨き、底部糸切り。3は小型壺で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。4は甕で、口辺部内外面横ナデ。胎土に粗砂粒混入。鉄製品は鉄鎌（第56図13）が出土。

SI-145

遺構 (第6図, 図版2)

8Lに位置し, 西側にSI-151が隣接する。平面は東西3.6, 南北3.7mの方形。壁はほぼ垂直に立ち上がり, 現存高21~50cm。壁下には北壁の一部を除き幅15, 深さ6cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで, 貼り床。南壁際に小穴(P1)を確認した。埋積土は上層が黒褐色土, 下層は褐色土で, 人為的埋没後自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央部に設けられていた。壁を幅65, 奥行45cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅24~33, 高さ20cm程が遺存し, 褐色土で作られていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物 (第30図)

1~8は土師器。1~4は坏で, 1~4は口辺部内外面横ナデ, 1・4は底部外面ヘラ削り。2は底部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き, 内面の器面荒れる。3は内面ヘラ磨き。5~7は甕で, 5・6は口辺部内外面横ナデ, 7は体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。5・7は胎土に粗砂粒混入。8は壺で, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 内面の器面荒れる。

SI-146欠番

SI-147

遺構 (第6図, 図版2)

8Iに位置し, SI-142・147に切られていた。平面は東西6.2, 南北6.3mの方形。壁はほぼ垂直に立ち上がり, 現存高12~30cm。南・西壁下には幅12, 深さ5cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで, 貼り床。柱穴は建て替えが行われており, 主柱穴11口を確認した。当初の主柱穴(P1~P4)が径20~25, 深さ推定48~64cm。次がP5・8・13・14, その次の主柱穴は(P5~7・P9)径22~50, 深さ60~推定70cmで, これらも建て替えが見られる。南壁際には小穴(P10)を確認。建て替え前の貯蔵穴は東西48×南北34, 深さ推定40cmの楕円形。建て替え後の貯蔵穴は東西48×南北32, 深さ25cmの楕円形。埋積土は黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央部に設けられていた。壁を幅70, 奥行70cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅22~46, 高さ21~35cmが遺存し, 灰褐色粘土で築かれ, 両袖の袖芯には自然石が使われていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物 (第35図)

1~13は土師器。1~9は坏で, 1・2・4・5は口辺部内外面および内面横ナデ, 底部外面ヘラ削り。3・6・7~9は口辺部内外面横ナデ, 内面ヘラ磨き, 底部外面ヘラ削り。2は内面, 8は内外面の器面荒れる。6・8・9は胎土に粗砂粒混入。1・3は内外面, 5は内面及び口辺部外面漆処理。10は鉢で, 口辺部内外面横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。胎土に粗砂粒混入。11~13は甕で, 11・12は口辺部内外面横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。13は体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。底部に二重の木葉痕。

SI-148

遺構 (第7図, 図版2)

7Hに位置し, SD-51に切れ, SI-149を切っていた。平面は東西3.6, 南北3.1mの長方形。壁はやや外傾して立ち上がり, 現存高21~26cm。壁溝は認められなかった。床面はほぼ平らで, 貼り床。南壁際に小穴(P1・P2)を確認した。埋積土は黒色土・黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央部やや東寄りに設けられていた。壁を幅65, 奥行45cm半円形に切り込んで作られていた。袖は遺存しなかった。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物 (第35図)

1~3・9は須恵器。1~3は坏で, ロクロ整形。3は底部ヘラ削りで, 胎土に粗砂粒混入。9は甕で, 体部外面平行タタキ目, 内面ナデ。焼成不良。

4~10は土師器。4・5は坏で, 4はロクロ整形, 内面ヘラ磨き, 底部ヘラ削り。5は口辺部内外面横ナデで, 外面ヘラ削り。4は内面黒色処理, 5は内面漆処理。6~8は甕で, 口辺部内外面横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。7は胎土に粗砂粒混入。

SI-149

遺構 (第7図, 図版2)

8Hに位置し, SD-51・SI-148に切られている。平面は東西4.3, 南北4.0mの方形。壁はやや外傾して立ち上がり, 現存高31~39cm。壁下には幅18, 深さ4cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで, 貼り床。主柱穴は認められず, 南壁際に小穴(P1)を確認した。埋積土は黒褐色土が主体の自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央部やや東寄りに設けられていた。壁を幅75, 奥行35cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅24~33, 高さ8~18cmが遺存し, 黄褐色土で築かれ, 左の袖芯に甕が使われていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物 (第35図)

1~14は土師器。1~9は坏で, 1・2~5・7は口辺部内外面および内面横ヘラナデ, 底部外面ヘラ削り。3・6・9は口辺部内外面横ナデ, 内面ヘラ磨き, 底部外面ヘラ削り。8は外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ヘラ磨き。1・2の内外面, 3の口辺部外面及び内面は漆処理。10・11は壺で, 口辺部内外面横ナデ, 体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 内面ナデ。11は底部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。12・13は甕で, 12は口辺部内外面横ナデ, 体部外面ハケ目, 内面ナデ。13は体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。底部木葉痕。11・13は胎土に粗砂粒混入。14は甕で, 底部外

面ヘラ削り、内面ヘラナデで、下端ヘラ削り。

SI-150

遺構（第7図、図版2）

7 Jに位置し、北東側にSI-151、北西側にSI-142と隣接する。平面は東西4.1、南北3.6mの不整形。壁はやや外傾して立ち上がり、現存高26~38cm。北壁の西側と東壁南側の壁下の一部には幅5、深さ3cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで、一部貼り床。南壁際に小穴1口（P1）を確認した。

カマドは北壁の中央部に設けられている。壁を幅68、奥行48cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅27~34、高さ14~21cmが遺存し、黒褐色土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっている。支脚として土師器甕が用いられていた。

遺物（第36図、図版7）

1~20は土師器。1~9は坏で、1~6・8・9は口辺部外面および内面横ナデ、底部外面ヘラ削り。7は口辺部内外面横ナデ、底部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。内面ヘラ磨き。1・4・6・9は内外面、2・5は口辺部外面、8の内面が漆処理。10~13は壺で、10は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、11は口辺部内外面横ナデ、12・13は体部・底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。14~17が甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、18~20は手づくね土器で、18は口辺部外面ハケ目、体部外面ヘラ削り、内面指頭圧痕。19・20は体部外面ハケ目。

21は須恵器の甕で、外面平行タタキ目、内面同心円当て具痕。

SI-151

遺構（第8図、図版2）

8 Kに位置し、南側にSI-144、南西側SI-150が隣接する。平面は東西4.0、南北3.5mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高30cm。壁溝は認められなかった。床面はほぼ平ら。小穴は5口（P1~P5）確認したが、主柱穴は不明。埋積土は上層が暗褐色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられた。

カマドは北壁の中央部に設けられていた。壁を幅50、奥行25cmの四角形に切り込んで作られていた。袖は幅10~32、高さ15~20cmが遺存し、褐色土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。掘方底面には左右各2口の小さな小穴が認められた。

遺物（第36図、図版8）

1~7は土師器。1は高坏で、坏部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ。2は壺で、内外面の器面荒れる。3~7は甕で、3は口辺部外面および内面横ナデ、体部内外面の器面荒れる。4~7は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。2・4・5・7は胎土に粗砂粒混入。

尚、図化し得なかったが、編み物石（棒状の川原石）が8本出土。

SI-152

遺構（第8図、図版2）

7 Iに位置し、北側にSI-147が隣接し、SD-53に切られ、SI-143を切る。平面は東西4.0、南北3.3mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高15~40cm。壁溝は認められなかった。床面はほぼ平らで、貼り床。主柱穴は不明で、南壁際に小穴（P1）を確認した。埋積土は上層が暗褐色土、下層が炭化材を含む黒褐色土。焼失家屋で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央部東寄りに設けられている。壁を幅67、奥行45cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅22~27、高さ24~27cmが遺存し、灰褐色粘土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物（第36図、図版9）

1・2・4・5は須恵器。1・2は坏で、ロクロ整形。1・2は底部ヘラ起こし。4は短頸壺で、ロクロ整形。外面に自然釉付着。5は甕で、体部内外面ナデ。

3・6~9は土師器。3は坏で、外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。6~9は甕（9は台付甕）で、6は口辺部内外面横ナデ。7は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。8は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。9は脚部内外面横ナデ。6は胎土に粗砂粒混入。

SI-153

遺構（第8図、図版3）

7 Hに位置し、北側にSI-148・149が隣接する。平面は東西4.8、南北3.3mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高56~62cm。北壁の西側から西壁北側にかけて壁下には幅17、深さ2cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで、貼り床。柱穴は主柱穴2口（P1・P2）径35~60、深さ25~42cmを確認した。南壁際に小穴（P1）を確認した。埋積土は上層が黒色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央部東寄りに設けられていた。壁を幅61、奥行78cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は幅33~40、高さ3~6cmが遺存し、灰黄褐色粘土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。

遺物（第37図、図版9）

1~3・7は須恵器。1・2は坏で、ロクロ整形。胎土に粗砂粒混入。1は底部手持ちヘラ削り、焼成後に線刻「人」。3は蓋で、ロクロ整形。外面回転ヘラ削り。7は伎瓶で、ロクロ整形。体部外面平行タタキ目、内面当て具痕をナデ消す。

4~6は土師器の甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。5・6は底部ヘラ削り。

SI-154

遺構 (第9図, 図版3)

13Jに位置し、SI-155に切られ、SI-156を切る。平面は東西3.2、南北3.7mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高52cm。壁溝は認められなかった。床面はほぼ平ら。小穴を7口(P1~P7)を確認したが、主柱穴は不明。埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央の東寄りに設けられていた。壁を幅50、奥行22cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅30~35、高さ30cmが遺存し、灰褐色土で作られていた。煙道は外傾して立ち上がっていた。支脚が遺存し、自然石に土師器坏が被せられていた。

遺物 (第37図)

1・2・4・6~8は須恵器、1・2・4は坏で、ロクロ整形。6・7は壺で、ロクロ整形。体部外面に自然釉付着。6の頸部は割れ口が擦られていた。8は甕で、体部外面平行文叩き目、内面当て具痕をナデ消す。

3・5・9~12は土師器。3・5は坏で、ロクロ整形、底部糸切り。9は鉢で、口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。10~12は甕で、10は口辺部内外面横ナデ、11は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。12は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

鉄製品は不明製品(第56図18, 図版10)が出土。

SI-155

遺構 (第9図, 図版3)

13Jに位置し、SI-154・156を切る。平面は東西3.5、南北4.4mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高35cm。床面はほぼ平らで、大部分が貼り床。壁溝、柱穴は認められなかった。埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは東壁のほぼ中央やや南寄りに設けられていた。壁を幅62、奥行25cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅25~30、高さ14~32cmが遺存し、暗褐色土で作られていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物 (第37図, 図版9)

1~5は土師器。1~5は坏(4は高台坏)で、ロクロ整形。1・2・5は内面ヘラ磨き。1・2・5は底部糸切り。1は内面の一部にカーボン付着。4は口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。外面カーボン付着、内面黒色処理。6・7は須恵器で、ロクロ整形。6は坏で、底部糸切り。7は甕で、胎土に粗砂粒混入。

鉄製品は不明製品(第56図22)が出土。

SI-156

遺構 (第10図, 図版3)

14Jに位置し、SI-154・155に切られる。平面は東西8.5、南北8.6mの方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高65cm。床面はほぼ平らで、貼り床。床下の壁際に溝状の掘り込みが確認された。柱穴は主柱穴4口(P1~P4)径30~90、深さ66~80cmを確認し、いずれの柱穴も建て替えの痕跡がみられた。また壁際や主柱穴間に小穴(P7~P17)を確認し、壁や間仕切に伴う補助柱穴と考えられる。貯蔵穴は2口(1・2号)確認された。1号は東西50×南北70、深さ70cmの方形、2号は東西70×南北80、深さ44cmの方形で、1号より2号が古い。埋積土は上層が黒色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

住居の中央やや北側の位置に炉跡を確認した。平面は東西55、南北60cmの楕円形の地床炉である。火床は床面より若干窪み、厚さ4cm程が赤化し、その下部約2cmが被熱し硬化していた。また火床からは10cm程の川原石が出土し、所謂枕石に使われたものと考えられる。

遺物 (第38図, 図版7・10)

1~45は土師器。1~4は埴で、1は口辺部内外面ハケ目、体部外面上位ハケ目、下位ヘラ削り後ハケ目、内面ヘラナデ後ヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。2は口辺部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。3は外面ヘラナデ後ヘラ磨き、内面ナデ。4は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラナデ。5・6は埴で、5は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ磨き、内面の器面荒れる。6は外面ヘラ磨きで、赤彩。内面ヘラナデ。7~10は高坏で、7は坏部外面クシ目後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。8は坏部内外面ヘラ磨き。9は坏部内外面ヘラ磨き。10は脚部内外面ヘラ磨き、内面横ナデ。11~15は器台で、11は坏部内外面ヘラ磨き、胎土に粗砂粒混入。12は坏部内外面ヘラ磨き、脚部外面縦ヘラ磨き、内面横ナデ。13は脚部外面ハケ目後縦ヘラ磨き、内面横ナデ。14は脚部外面ヘラ磨き、内面ナデ。15は脚部外面縦ヘラ磨き、内面横ナデ。16・17は手づくね土器で、体部内外面指ナデ。17は底部外面ヘラ削り。18~26は壺で、18は体部外面ヘラナデ、内面ヘラナデ、内面の器面荒れる。19は口辺部内外面横ハケ目、体部外面ハケ目、内面横ナデ。20は口辺部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。21は口辺部内外面横ナデで、赤彩。体部外面上位ハケ目後ヘラ磨き、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。22は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。23は体部外面上位横ナデ、下位ハケ目、内面ヘラナデ。24は口辺部外面上位横ナデ、下位ハケ目。内面上位ナデ、下位縦ナデ。25は口辺部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。26は口辺部内外面縦ヘラ磨き、内面の器面荒れる。27~31は甕(28~31は台付甕)で、27は口辺部内外面横ナデ、体部ハケ目、内面ヘラナデ。28は口辺部内外面横ナデ。29は内外面ナデ。30は外面縦ヘラ削り、内面ヘラナデ。31は体部内面ヘラナデ。脚部外面ハケ目、内面ナデ。

土製品は耳飾状土製品(第55図12, 図版10)が出土。

SI-157

遺構 (第9図, 図版3)

14Iに位置し、SI-189に切られる。平面は東西5、南北4.9mの方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高70cm。床面はほぼ平ら。壁下には幅

幅15～30、深さ3～7cm程の壁溝が設けられていた。柱穴は主柱穴を4口(P1～P4)径34～60、深さ48～87cmを確認し、いずれの柱穴にも建て替えが認められた。南壁際に小穴2口(P5・P6)を確認。埋積土は黒色土が主体で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央に設けられている。壁を幅88、奥行54cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅36～43、高さ10～16cmが遺存し、褐色粘土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物(第38・39図, 図版8)

1～22は土師器。1～12は坏で、口辺部内外面横ナデ。2・4・9～11は底部外面ヘラ削り、内面放射状ヘラ磨き。1・5～7は底部ヘラ削りで、内面ヘラナデ。3・8は底部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。12は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部外面に糸切り痕。2の内外面、4・11の内面と口辺部外面、6・7・10の内面が漆処理。13は高坏の脚部で中実、脚部外面ヘラ削り、内面ナデ。14～16は壺で、14は口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。15は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。16は底部木葉痕。17～22は甕で、17は口辺部内外面横ナデ。18・19は体部外面縦ヘラ削り、内面ヘラナデ。20～22は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部木葉痕。22は二重の木葉痕。

鉄製品は鉄鏃(第56図15)が出土。

SI-158

遺構(第10・11図, 図版3)

13Jに位置し、南側にSI-191が隣接し、SD-50に切られる。平面は東西3.4、南北3.9mの長方形。壁は外傾し立ち上がる。高さ18cm。床面はほぼ平ら。小穴を2口(P1・P2)確認したが、主柱穴は不明。炉跡などは認められなかった。埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物(第39図)

1～6は土師器。1は埴で、体部内外面ヘラナデ。2は埴で、内外面ハケ目で、両面赤彩。3・4は小型甕で、3は口辺部内外面横ナデ。4は内外面ハケ目。5・6は壺で、5は体部外面ハケ目後ヘラ磨き内面ハケ目。6は頸部外面に突帯が貼り付けられ、ハケ目後磨き、内面の器面荒れる。

石製品は砥石(第55図23)が出土。

SI-159

遺構(第10図, 図版3)

14Kに位置し、北東側にSI-9が隣接し、SB-53・SK-309と重複し、SD-50に切られる。平面は東西3.9、南北3.4mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がる。高さ49cm。床面はほぼ平らで、貼り床。小穴は2口(P1・P2)確認したが、主柱穴、壁溝は不明。また、床面の中央部に2ヶ所焼面が認められた。カマドは3ヶ所確認され、1号が新しく、2・3号が古い。埋積土は黒色土で自然埋没と考えられる。

(1号カマド)

東壁の北端部に設けられ、壁を幅42、奥行45cmの三角形に切り込んで作られた。袖は幅24～33、高さ20cm程が遺存し、黄褐色土で築かれていた。また、両袖の袖芯及び支脚には自然石が使われていた。煙道は外傾して立ち上がっている。また、カマド内より多数の土師器が出土した。

(2号カマド)

北壁の中央部に設けられ、壁を幅90、奥行45cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は遺存しなかった。煙道は外傾して立ち上がっている。

(3号カマド)

東壁の南寄りに設けられ、壁を幅90、奥行58cmの三角形に切り込んで作られていた。袖は遺存しなかった。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物(第39図, 図版9・10)

1～6・9・12～28は土師器。1～6・9は坏で、ロクロ整形。1は外面下位ヘラ削り、内面ヘラ磨き、底部ヘラ起こし。2は外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。3・4は内面ヘラ磨き、底部糸切り。5・6は内面ヘラ磨きで、5は底部糸切り。6は底部ヘラ起こし。9は内面ヘラ磨き。1・3～6は内面黒色処理。12～18・20～28(19は台付甕)は甕で、12～14・15・17は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。16は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ハケ目。18は体部外面ヘラ削り、内面横ナデで、底部外面ヘラ削り。19は口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ヘラ削り、底部外面ヘラ削り。20・24は口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ヘラ削り、内面ヘラナデ。21は口辺部内外面横ナデ、体部外面斜めヘラ削り、内面横ナデ。22・23は口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ヘラ削り、内面横ヘラナデ。25は体部外面上位横ヘラナデ、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ。26は体部外面上位縦ヘラ削り、下位横ヘラ削り、内面横ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。内外面カーボン付着。27は体部外面縦ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部外面ヘラ削り。28は体部外面横ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削りで、内外面カーボン付着。

7・8・10・11は須恵器。7・8は坏で、ロクロ整形。7は底部ヘラ削り。7は胎土に粗砂粒混入。10は甕で、10は体部外面平行タタキ目、内面ヘラナデ。11は壺で、ロクロ整形。外面自然釉付着。

鉄製品は鎌・鉄卒(第56図24・27・32, 図版10)、石製品は白玉・紡錘車・砥石(第55図16・19・20, 図版10)、土製品は土玉(第55図4, 図版10)が出土。

SI-160

遺構(第11図, 図版3)

15Jに位置し、SI-179とED-9を切る。平面は東西3.9、南北3.7mのほぼ長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高78cm。床面はほぼ平ら。小穴は2口(P1・P2)確認したが、主柱穴、壁溝は不明。埋積土は上層が黒色土、下層が黒褐色土主体で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央部に設けられていた。壁を幅63、奥行20cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅28～38、高さ21～28cm程が遺存し、灰褐

色土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物 (第40図, 図版8)

1~11は土師器。1~5は坏で, 1~5は口辺部内外面横ナデ。1・3・5は底部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。2は底部外面ヘラ削り, 内面放射状のヘラ磨き。4は底部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。1・2・4・5は内外面漆処理。6~11は甕で, 6・7・9は口辺部内外面横ナデ。7・9~11は体部外面縦ヘラ削り, 内面ヘラナデ。8は体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデで, 底部外面ヘラ削り。

SI-161

遺構 (第12図, 図版3)

16Jに位置し, SI-176とED-9を切る。平面は東西6.5, 南北5.5~6.2mの不整形。壁はやや外傾し立ち上がり, 現存高60cm。床面はほぼ平ら。主柱穴6口を確認した。建て替え前の主柱穴(P1・P2)は径50~54, 深さ65~70cm。建て替え後の主柱穴(P3~P6)は径30~46, 深さ60~82cm。2本柱から4本柱に建て替えている。南壁際には小穴(P7・P8)を確認した。埋積土は上・下層が黒色土主体で, 自然埋没と考えられる。カマドは旧カマドの痕跡(床面下)と新しいカマドを確認した。

新しいカマドは北壁の中央やや東側に設けられている。壁を幅100, 奥行76cmの三角形に切り込んで作られ, 袖は幅42~46, 高さ33~35cmが遺存し, 暗褐色土で築かれていた。煙道は外傾し立ち上がっている。旧カマドは北壁の中央東寄りに設けられていた。

遺物 (第40図, 図版9・10)

1~3・22~31は土師器。1・2は坏で, ロクロ整形。1は底部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。2は底部外面一方向のヘラ削り, 内面ヘラ磨き。体部外面に墨書。3は高台皿で, ロクロ整形。底部外面付高台, 内面ヘラ磨き。1~3の内面黒色処理。22~31は甕(31は台付甕)で, 22~29は口辺部内外面横ナデ。22・25・27~30は体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。29・30は底部木葉痕。31は脚部内外面横ナデ。

4~13・15~20は須恵器。4~11(11は高台坏)坏で, ロクロ整形。4・10は体部下位と底部ヘラ削り。4・7~9は底部糸切り。8にヘラ記号。11は底部回転ヘラ削り後付高台。12・13は蓋で, 12は外面回転ヘラ削り。15・16は壺で, ロクロ整形。15は外面に自然釉付着。17~20は甕で, 17・20はロクロ整形。19は体部外面平行タタキ目, 内面ナデ。20は体部外面平行タタキ目後ヘラナデ, 内面ナデ。

14は灰釉陶器の長頸壺で, ロクロ整形。内外面に施釉。

鉄製品は刀子・穂積具・雁又鎌・不明製品2点・鎌(第56図4・7・12・16・17・26, 図版10), 石製品は紡錘車・砥石(第55図11・22, 図版10), 土製品は紡錘車(第55図10)が出土。

SI-162

遺構 (第13図, 図版3)

17Iに位置し, 西側にSI-168, 北側にSI-176が隣接する。平面は東西2.7, 南北2.7mの方形。壁はやや外傾し立ち上がり, 現存高25cm。床面はほぼ平らで, 貼り床。柱穴は主柱穴2口(P1・P4), 径20, 深さ8~10cm。埋積土は上・下層が黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。炉跡などは認められなかった。

遺物 (第40図, 図版7)

1~3は土師器。1は台付甕で, 口辺から台部外面ハケ目, 内面上位ハケ目, 下位ヘラナデ, 脚部内面上位指ナデ, 下位ハケ目。2・3は甕で, 2は口辺部横ナデ。3は外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。

SI-163

遺構 (第13図, 図版3)

17Jに位置し, 北東側にSI-174が隣接する。平面は東西3.8, 南北3.1mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり, 現存高32cm。床面はほぼ平ら。西壁際に小穴1口(P1)を確認したが, 主柱穴, 壁溝は不明。埋積土は上層が黒色土, 下層が黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の東端部に設けられている。壁を幅90, 奥行53cmの三角形に切り込んで作られ, 袖は幅32~36, 高さ13cm程が遺存し, 黄褐色土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物 (第40図, 図版10)

1・6~8は土師器。1は坏で, ロクロ整形。体部外面下位ヘラ削り。底部糸切り。6~8は甕で, 6・7は外面ヘラ削り, 体部内面ナデ。7は底部外面ヘラ削りで, 胎土に粗砂粒混入。8は体部外面ヘラ削り, 内面ハケ目。

2~5は須恵器。2・3は坏で, ロクロ整形。2は体部内面の器面荒れる。4は盤で, ロクロ整形。5は甕で, 体部外面平行タタキ目, 内面同心円当て具痕。

鉄製品は刀子(第56図3), 土製品は土玉(第55図3・4, 図版10)が出土。

SI-164

遺構 (第13図, 図版3)

16Kに位置し, SI-165・178に切られる。平面は東西5.6, 南北6.4mの長方形。壁は外傾し立ち上がり, 現存高43cm。西壁下と南壁下の一部には幅15~27, 深さ6cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで, 貼り床。床下の西を除く三方の壁際に溝状の掘り込みを確認した。柱穴は主柱穴4口(P1~P4), 径48~83, 深さ33~77cmを確認し, いずれも建て替えが認められた。南壁際に小穴1(P5)を確認した。貯蔵穴は南西隅に設けられ, 径62cm, 深さ41cmの円形。埋積土は上・下層が黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。

住居の中央やや北寄りに炉跡を確認した。平面は東西70, 南北60cmの楕円形の地床炉である。火床は厚さ4cm程が赤化し, その下部約2cmが

被熱し硬化していた。

遺物（第41図，図版7）

1～19は土師器。1・2は埴で，1は口辺部から体部外面上位ハケ目，体部の下位縦ヘラ削り，内面上位ハケ目，下位ヘラナデ。2は口辺部外面ハケ目後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。3・4は埴で，3は口辺部内外面ハケ目後ヘラ磨き，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。4は口辺部外面ハケ目後縦ヘラ磨き，内面縦ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り。5・6は手づくね土器で，外面ナデ，内面指ナデ。6の底部外面ヘラ削り。7～10は高坏で，7は坏部外面上位縦ヘラ磨き，下位横ナデ，内面の器面荒れる。8は坏部内外面ヘラ磨き。9は脚部外面ハケ目後縦ヘラ磨き，内面横ヘラナデ。10は脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目。11・12は器台で，11は脚部外面縦ヘラ磨き，内面ヘラナデ。12は脚部外面縦ヘラ磨き，内面上位指ナデ，下位横ナデ。13・14は甕で，13は口辺部から体部外面ハケ目，内面上位と下位ハケ目，中位ヘラナデ。底部木葉痕。14は口辺部内外面横ナデ，頸部内外面ハケ目。体部外面ハケ目，内面ヘラナデ。15・16は台付甕で，15は口辺部内外面横ナデ，体部外面ハケ目，内面ヘラナデ。16は口辺部内外面横ナデ，体部外面ハケ目，内面ヘラナデ，脚部外面上位ハケ目，下位ヘラナデ。内面ヘラナデ。17・18は壺で，17は口辺部外面上位横ナデ，下位縦ハケ目。内面ハケ目。18は口辺部から体部外面ハケ目後ヘラ磨き，内面ハケ目。

石製品は砥石（第55図24），土製品は鏡形土製品（第55図13，図版10）が出土。

SI-165

遺構（第13図，図版3）

16Kに位置し，SI-178に切られる。平面は東西6.2，南北5.1mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり，現存高70cm。床面はほぼ平ら。支柱穴，壁溝は不明。南壁際には小穴1口（P1）を確認。埋積土は黄褐色土で，人為的埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや西寄りに設けられている。壁を幅83，奥行37cmの三角形に切り込んで作られ，袖は幅29～35，高さ20～22cm程が遺存し，黒褐色土で築かれていた。また，両袖に自然石が直立した状態で確認され，袖芯と考えられる。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物（第41図，図版10）

1・2・6～10は土師器。1・2は坏。ロクロ整形で，底部糸切り。1は内面ヘラ磨き。胎土に粗砂粒混入。3は甕で，外面ハケ目後ヘラ磨き。内面縦ヘラ磨き。4～6は甕で，4・5は口辺部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。6は体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデで，底部木葉痕。

7・8は須恵器。7は蓋で，ロクロ整形。8は甕で，体部外面平行タタキ目，内面同心円当て具痕。

SI-166

遺構（第15図，図版3）

14Hに位置し，北側にSI-167，南側にSI-157・189が隣接する。平面は東西5.6，南北6.2mの長方形。壁は外傾し立ち上がる。高さ37cm。床面はほぼ平らで，貼り床。床下に東西に延びる溝状の掘り込みが2か所認められた。柱穴・炉跡などは認められなかった。埋積土は黒褐色土で，自然埋没と考えられる。

遺物（第42図，図版7）

1～10は土師器。1は高坏で，坏部内外面ヘラ磨き。脚部外面上位横ヘラ磨き，内面横ナヘラナデ。2～4は器台で，2は坏部外面横ヘラナデ，内面ヘラナデ，脚部外面縦ヘラ磨き，内面ヘラナデ。3は口辺部内外面横ナデ，体部外面横ヘラナデ，内面ヘラ磨き。4は脚部外面縦ヘラ磨き，内面横ナデ，胎土に粗砂粒混入。5～7は甕で，5は口辺部外面ハケ目，内面横ヘラ磨き。6は口辺部外面ナデ，内面ハケ目。7は体部外面ハケ目後ヘラ磨き。内面ヘラナデ。

8・9は壺。8は体部外面ハケ目後ヘラ磨き。内面ヘラナデ。9は口辺部内外面横ヘラ磨き。

SI-167

遺構（第4図，図版3）

15Iに位置し，南側にSI-166が隣接し，SK-327～329を切り，SI-180に切られる。平面は東西7.6，南北7.5mの方形。壁はやや外傾し立ち上がり，現存高48cm。床面はほぼ平ら。柱穴は10口（P1～P10）を確認し，P1・3・6・8の4口，径66～105，深さ66～70cmが支柱穴と判断される。南壁際に土坑状のP11と小穴（P12）の2口を確認。P11は張り出しピットが壁内に設けられたもの，P12は梯子穴と推察される。貯蔵穴は北壁東カマド際に東西66×南北46，深さ32cmの隅丸長方形，その西に一辺40cmの方形で深さ44cmの2口を確認した。また，P1とP2の間，P1・P2と東壁の間，P6と南壁の間，P6～P8と西壁下の溝の間に幅20～30，深さ5～8cmの間仕切溝が設けられていた。埋積土は黒褐色土が主体で，自然埋没と考えられる。

カマドは北壁に新旧2基を確認した。

（旧カマド）

北壁ほぼ中央に設けられ，壁を幅102，奥行44cmの三角形に切り込んで作られている。煙道はほぼ垂直に立ち上がっている。

（新カマド）

北壁のやや西寄りに設けられ，壁を幅115，奥行48cmの三角形に切り込んで作られている。袖は幅47～51，高さ33～36cmが遺存し，灰色粘土で築かれていた。煙道はほぼ垂直に立ち上がっている。

遺物 (第42図, 図版8・10)

1~11, 13~22は土師器。1~10は坏で、口辺部内外面横ナデ、底部外面ヘラ削り。1は内面ヘラナデ、2~10は内面ヘラ磨き(2~5・9は内面放射状)。1は内面、3は内外面漆処理。7は外面の器面荒れ、砥石として使用した痕跡あり。内面摩滅。11は高坏で、内外面ヘラナデ。13は手づくね土器で、体部内面指ナデ。14は鉢で、口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ヘラ削り、内面ヘラナデ。15~18は甕で、15~17は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。18は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部木葉痕。19は壺で、19は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

12須恵器のハソウで、ロクロ整形。頸部外面クシ状工具による波状文を施し、体部外面にクシ状工具による縦の刺突文。体部に径1.2cmの円孔が穿たれる。底部外面にヘラ記号「=」。

鉄製品は鉄鏃(第56図6, 図版10), 石製品は砥石が2点(第55図26・30)出土。

SI-168

遺構 (第15図, 図版3)

17Hに位置し、東側にSI-162, 北東側にSI-169が隣接する。平面は東西5.0, 南北5.4mのほぼ方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高12cm。床面はほぼ平ら。小穴3口(P1~3)を確認。東壁際に82×110, 深さ16cmの長方形の掘り込みが認められたが床下の掘込みと考えられる。主柱穴、炉跡などは認められなかった。埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物 (第41図)

1~5は土師器。1は埴(?)で、体部外面ヘラ磨き、赤彩。内面ヘラナデ。2~4は甕。2は体部内外面ハケ目。3は体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。4は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

SI-169

遺構 (第16図, 図版4)

18Iに位置し、東側にSI-183, 南側にSI-162, 南西側にSI-168が隣接する。SB-62と重複し、切られていた。平面は東西5.8, 南北4.6mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高39cm。床面はほぼ平ら。小穴3口(P1~3)を確認したが、主柱穴は不明。貯蔵穴は北西隅の壁際で確認され、平面は口径106×74, 深さ55cmの楕円形。埋積土は上・下層ともに黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや西寄りに設けられている。壁を幅95, 奥行46cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅41~50, 高さ16~20cm程が遺存し、褐色土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物 (第49図, 図版10)

1・2は土師器。1は手づくね土器で、体部内外面ナデ、底部外面ヘラ削り。2は甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。

土製品は鏡形土製品、不明土製品(第55図14・15, 図版10)が出土。

SI-170

遺構 (第17図, 図版4)

17Kに位置し、南側にSI-165, 東側にSI-171・172が隣接し、SB-56に切られる。平面は東西6.1, 南北5.2mの長方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高19cm。床面はほぼ平ら。小穴2口(P1・P2)を確認したが、主柱穴は不明。炉跡などは認められなかった。埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物 (第42図)

1~8は土師器。1・2は埴で、1は口辺部から体部内外面ヘラ磨き。内外面赤彩。2は口辺部外面横ナデ、体部外面ハケ目後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。3は器台で、脚部外面縦ヘラナデ、内面横ナデ。4は手づくね土器で、内面指ナデ。5・6は甕で、5は口辺部内外面ハケ目。6は頸部外面ハケ目、内面ヘラナデ。7・8は台付甕で、7は口辺部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。8は体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。

SI-171

遺構 (第16図, 図版4)

17Lに位置し、西側にSI-170と隣接し、SI-172を切っている。平面は東西4.1, 南北3.5mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高52cm。床面はほぼ平らで、一部貼り床。小穴2口(P1・P2)を確認したが、主柱穴は不明。埋積土は上・下層ともに黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央西寄りに設けられ、壁を幅94, 奥行69cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅37~40, 高さ7~13cm程が遺存し、暗褐色土で築かれていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物 (第43図)

1~6は須恵器。1~4は坏で、ロクロ整形。1・2は底部糸切り。3は底部外面ヘラ起こしで、内面が擦られており、転用硯と考えられる。5・6は甕で、5は口辺部内外面ナデで、体部外面平行タタキ、内面当て具痕をナデ消す。6は体部外面平行タタキ目、内面無文当て具痕。

7~11は土師器。7~10は甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。11台付甕で、体部内面ヘラナデ。脚部内外面ヘラナデ。

鉄製品は刀子（第56図3）が出土。

SI-172欠番

SI-173

遺構（第17図，図版4）

18Kに位置し，北東側にSI-16，南東側にSI-171・172が隣接し，SD-20とSB-56に切られる。平面は東西5.9，南北6.5mの長方形。壁は外傾し立ち上がり，現存高23cm。床面はほぼ平ら。柱穴などは確認されなかった。炭化材が出土し，焼失家屋と考えられる。埋積土は褐色土で人為的埋没と考えられる。

住居の中央やや北側の位置に炉跡を確認した。平面は東西70，南北51cmの楕円形の地床炉で，火床は厚さ2cm程が赤化していた。

遺物（第43図，図版7・10）

1～15は土師器。1は埴で，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底部外面ヘラ削り。2は埴で，口辺部・体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ。3は高坏で，内外面ヘラ磨き。4は手づくね土器で，内面ナデ。5・6は小型甕で，5は内外面ヘラナデ。6は口辺部内外面横ヘラナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ。7・8は甕で，7は口辺内外面横ナデ，体部外面ハケ目，内面ヘラナデ。8は頸部・体部外面ハケ目，内面上位ハケ目，下位ハケ目。9～11は台付甕で，9・10は口辺内外面横ナデ。体部外面ハケ目，内面ヘラナデ。11は脚部外面ハケ目，内面ヘラナデ。12～15は壺で，12・13は内外面ヘラ磨き，赤彩。14は口辺部上位ヘラナデ，下位ヘラ磨き，内面ハケ目。15は口辺部内外面横ナデ，体部・底部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ハケ目。

鉄製品は鉄鏃（第56図11，図版10）が出土。

SI-174

遺構（第17図，図版4）

18Jに位置し，南東側にSI-170，南西側にSI-163が隣接し，SB-56Bに切られる。平面は東西3.5，南北2.9mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり，高さ70cm。床面はほぼ平らで，貼り床。南壁際に小穴1口（P1）を確認したが，主柱穴は不明。埋積土は上層が褐色土，中層が黒褐色土と黒色土，下層が黒褐色土で，人為的埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや東寄りに設けられ，壁を幅100，奥行30cm程の三角形に切り込んで作られ，袖は幅31～35，高さ30～34cm程が遺存し，灰褐色粘土で築かれていた。煙道はSB-56Bの柱掘方に切られていて不明。

遺物（第43図，図版10）

1～7・9～11は土師器。1～5は坏で，1・3・5は口辺部外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。2・4は口辺部内外面横ナデ，底部外面ヘラ削り。内面横ヘラナデ。2は内面と口辺部外面，4は内外面漆処理。6・7は埴で，口辺部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。9は手づくね土器で，内面指ナデ。10は甕で，口辺部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。

8は須恵器の蓋で，ロクロ整形。

土製品は土玉・勾玉2点（第55図2・6・7，図版10）が出土。

SI-175

遺構（第18図，図版4）

15Jに位置し，北東側にSI-160・179が隣接し，SB-52に切られる。平面は東西5.4，南北4.3mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり，現存高61cm。床面はほぼ平らで，一部貼り床。小穴3口（P1～P3）を確認したが，主柱穴は不明。埋積土は上層が黒色土，下層が暗褐色土で，自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや西寄りに設けられ，壁を幅49，奥行13cm程の三角形に切り込んで作られ，袖は幅37～41，高さ20～23cm程が遺存し，黄褐色土で築かれていた。煙道は外傾しつつ立ち上がる。

遺物（第43図）

1～8は土師器。1～3は坏で，口辺部内外面横ナデ，外面ヘラ削り。1・3は内面横ナデ，2は内面ハケ目後に放射状ヘラ磨き，底部外面糸切り。4は埴で，口辺部内外面横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面横ナデ。1・3は内外面，2・4は内面漆処理。5～7は壺で，口辺部内外面横ナデ，外面ヘラ削り，内面ヘラナデ。8は甕で，口辺部内外面横ナデ。

石製品は砥石（第55図31）が出土。

SI-176

遺構（第19図，図版4）

16Jに位置し，南西側にSI-167が隣接し，SI-161に切られる。平面は東西7.4，南北8.0mのほぼ方形。壁は外傾し立ち上がり，現存高61cm。壁下には南壁の一部を除き，幅12～36，深さ5cm程の壁溝が確認された。床面はほぼ平らで，貼り床。貼り床下に一段掘り込まれた部分があり，建て替え前の住居のプランと考えられる。また，東壁，南壁に幅30，深さ5cm程の間仕切り溝を確認した。主柱穴は8口確認し，建て替え前の主柱穴4口（P1～P4）径36～58，深さ44～56cmと，建て替え後の主柱穴4口（P5～P8）径32～36，深さ48～50cmである。貯蔵穴は南東隅の南壁際に2口確認され，建て替え前は東西70×南北68，深さ30cmの方形，建て替え後は東西78×南北74，深さ54cmの方形。埋積土は上層が黒色土，下層が黒褐色土で，自然埋没と考えられる。

住居の中央やや北寄りの位置に炉跡を確認した。平面は東西73×南北67cmの楕円形の地床炉。火床は厚さ3cm程が赤化し，その下部約2cmが

被熱し硬化していた。

遺物 (第44図, 図版7・10)

1～26は土師器。1は埴で、体部外面ハケ目後ヘラ磨き、内面ヘラナデ。2は埴で、体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ。3～5は手づくね土器で、内面指ナデ。6・7は高坏で、6～8は坏部内外面ヘラ磨き、7は内外面赤彩。8は脚部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ。9～11は器台で、9・10は口辺部内外面横ナデ。9は内外面ヘラ磨き。10は内外面ヘラナデ。11は脚部外面ヘラ磨き、内面横ハケ目。12は小型壺で、口辺部内外面横ナデ。13～16は甕で、13は口辺部・体部外面ハケ目、内面上位ハケ目、下位ヘラナデ。14は口辺部内外面横ヘラナデ、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。15は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。16は底部木葉痕、内面ヘラナデ。17～22は台付甕。17・18は口辺部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。19・20は脚部外面ハケ目、内面ヘラナデ。21・22は脚部外面ヘラ削り、内面ヘラナデで、22は底部内面ハケ目。23～26は壺で、23は内外面ハケ目後ヘラ磨き。24は内外面ナデ。25は口辺部外面ハケ目後縦ヘラ磨き、内面横ヘラ磨き。26は体部内外面ヘラナデ。

石製品は砥石2点(第55図25・29, 図版10)が出土。

SI-177

遺構 (第18・19図, 図版4)

19Jに位置し、北西側にSB-63が隣接し、SD-20に切られる。平面は東西5.2、南北4.6mの長方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高57cm。壁下には幅10～30、深さ7cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平ら。小穴は10口(P1～P10)が確認され、主柱穴は(P1・P2)の2口、径28～33、深さ15～30cm。埋積土は上・下層とも黒褐色土で、全体に焼土・炭化物粒を含み、焼失家屋で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや東側に設けられている。壁を幅91、奥行50cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅30～40、高さ17～35cmが遺存し、黄褐色粘土で築かれていた。両袖には凝灰岩の切り石が直立した状態で遺存した。火床は良く焼けていた。煙道は外傾しつつ立ち上がっており、土師器が施設されていた。旧カマドの痕跡がカマドの前方(床下)に確認された。

遺物 (第44・45図, 図版9・10)

1～24須恵器は。1～15(14は高台坏)は坏で、ロクロ整形。1～4・6・7は底部ヘラ起こし後、1～4・6はヘラ削り。9～13は底部糸切り。8は底部ヘラ記号、9～13は墨書「千万」。4は胎土に粗砂粒混入。14は底部外面ヘラ削り。15は底部ヘラ削り後付高台。16・17は蓋で、ロクロ整形。16は外面回転ヘラ削りで、ボタン状ツマミ、内面墨付着、転用硯か。胎土に粗砂粒混入。18は捏ね鉢で、ロクロ整形。底部全てに外面多数の刺突あり。外面に自然釉付着。19～22は壺で、ロクロ整形。19・21は同一個体で、21の外面に自然釉付着。22は底部ヘラ削り後付高台。高台の欠落痕を擦っている。外面にヘラ書き「万」。24・25は甕で、体部外面平行タタキ目、内面当具の後ナデ。26～29は土師器の甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

鉄製品は鉄釘(第56図21, 図版10)、石製品は砥石(第55図28)、屋瓦は3点(第56図34～36, 図版9)が出土。

SI-178

遺構 (第18図, 図版3)

16Kに位置し、SI-164・165を切る。平面は東西4.0、南北3.1mの長方形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。高さ74cm。床面はほぼ平ら。小穴は4口(P1～P4)が確認したが、主柱穴は不明。埋積土は上層が黒色土、中層が黒褐色土・下層が褐色土で、人為的埋没後自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央に設けられていた。壁を幅61、奥行29cm程の三角形に切り込んで作られ、袖は幅31～35、高さ33～35cmが遺存し、灰色粘土で築かれていた。煙道は外傾し立ち上がる。

遺物 (第45図)

1～7は土師器。1～5は坏で、口辺部内外面横ナデ。1は外面ヘラ削り、内面ナデ。2は外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後放射状のヘラ磨き。3・4は外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。5は外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。1は内外面、5は内面および口辺部外面漆処理。6・7は甕で、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。6は底部木葉痕。

SI-179

遺構 (第20図, 図版3)

15Kに位置し、南西側にSI-175が隣接し、SI-160、SB-52・54に切られる。平面は東西4.9～5.9、南北5～5.7mの不整形。壁は外傾し立ち上がり、現存高45cm。床面はほぼ平で、貼り床。柱穴は主柱穴3口(P1～P3)径45～58、深さ30～47cmを確認した。北西隅の主柱穴、炉跡はSI-160に切られていて確認できなかった。埋積土は上・下層とも黒色土で、床面上に炭化材が遺存し、焼失家屋で、自然埋没と考えられる。

遺物 (第45図, 図版7)

1～18は土師器。1は埴で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ磨き、内面器面荒れる。2～4は埴で、2は口辺部外面ハケ目後ヘラ磨き、内面の器面荒れる。体部外面ハケ目後縦ヘラ磨き。3は口辺部内外面横ヘラナデ後ヘラ磨き。4は口辺部内外面ヘラ磨き、赤彩。5は小型壺で、口辺部内外面横ナデ、体部内外面ナデ。底部外面ヘラ削り。6・7は手づくね土器で、内外面指ナデ。8・9は高坏で、8は坏部内外面ヘラ磨き。脚部外面縦ヘラ磨き、内面ヘラナデ。9は坏部内外面ヘラ磨き、脚部外面ヘラ磨き、内面横ヘラナデ。10は甕で、体部内外面ヘラナデ。11～13は甕で、口辺部内外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。14～17は台付甕で、14・15は、口辺部内外面横ナデ、体部・脚部外面ハケ目、内面ヘラナデ。16は体部内面ヘラナデ、脚部内外面ハケ目。17は体部内面ヘラナデ、脚部外面ハケ目、内面ヘラナデ。17は胎土に粗砂粒混入。18は壺で、体部内外面ハケ目後ヘラ磨き。

SI-180

遺構 (第20図, 図版4)

15Hに位置し, 南西側にSI-187と隣接し, SI-167を切る。平面は東西4.5, 南北3.7mの長方形。壁はやや外傾し立ち上がり, 現存高50cm。西辺の北寄り, 北辺の西寄りの壁下には壁溝が設けられ, 幅16, 深さ8cm程であった。床面はほぼ平らで, 一部貼り床。小穴は南壁際に1口(P1)を確認したが, 支柱穴は不明。埋積土は上層が黒色土, 下層が黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。

カマドは北壁やや東寄りに設けられていた。壁を幅90, 奥行55cmの三角形に切り込んで作られ, 袖は幅32~42, 高さ23~30cmが遺存し, 暗褐色土で築かれていた。煙道は外傾しつつ立ち上がる。

遺物 (第46図, 図版9・10)

1~4・8は須恵器。1~4は坏で, ロクロ整形。1は底部外面ヘラ起こし, ヘラ記号有り。4は胎土に粗砂粒混入。8は甕で, 内外面ヘラナデ。

5~7・9~11は土師器。5・6は坏で, 5は口辺部内外面横ナデ, 外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。6はロクロ整形。7は手づくね土器で, 口辺部内外面横ナデ, 体部外面横ヘラ削り, 内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。9は甕で, 口辺部内外面横ナデ, 外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。10は甕で, 口辺部内外面横ナデ, 体部・底部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。

石製品は砥石 (第55図27), 土製品は土玉 (第55図1, 図版10) が出土。

SI-181

遺構 (第21図, 図版4)

16Gに位置し, 東側にSI-180, 北東側にSI-182が隣接する。平面は大半が調査区外のため不明。現状で東西2.5, 南北4.9m。壁は外傾しつつ立ち上がる。高さ43cm。床面はほぼ平ら。柱穴は支柱穴1口(P1)径28, 深さ38cmを確認し, 建て替えが考えられる。調査区内には炉跡などは認められなかった。埋積土は上層が黒褐色土, 下層が褐色土で, 人為的埋没の後自然埋没と考えられる。

遺物 (第46図, 図版8)

1~5は土師器。1は坏で, 口辺部内外面横ナデ, 外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ。内外面漆処理。2・3甕で, 口辺部内外面横ナデ, 2は体部外面縦ヘラ磨き, 内面横ヘラ磨き。3は体部内外面縦ヘラ磨き, 外面下位にカーボン付着。4・5は甕で, 口辺部内外面横ナデ。5は体部内外面ヘラナデ。

鉄製品は不明鉄製品・鎌 (第55図20・25) が出土。

SI-182

遺構 (第21図, 図版4)

17Gに位置し, 東側にSI-168, 北東側にSI-183が隣接する。平面は西側部分が調査区外のため明瞭でないが, 現状での東西3.1, 南北は3.4m, 本来は一辺3.4m程の方形と推定される。壁は外傾し立ち上がり, 現存高48cm。壁下には幅15~20, 深さ8cm程の壁溝が設けられていた。床面はほぼ平らで, 一部貼り床。小穴は1口(P1)を確認し, 支柱穴は不明。カマドは北辺にあったと推察される。埋積土は上層が黒色土, 下層が黒褐色土で, 自然埋没と考えられる。

遺物 (第46図, 図版8)

1~3は土師器の甕で, 口辺部内外面横ナデ, 体部外面縦ヘラ削り, 内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。1・3の底部外面ヘラ削り。

SI-183

遺構 (第22図, 図版4)

18Hに位置し, 東側にSI-169, 北東側にSI-184が隣接する。平面は西側部分が調査区外のため不明。現状での東西4.2, 南北は5.3m。壁はやや外傾し立ち上がり, 現存高80cm。床面はほぼ平らで, 貼り床。柱穴は支柱穴3口(P1~P3)径33~40, 深さ33~57cmを確認した。埋積土は黒色土を主体とし, 自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央に設けられていた。壁を幅72, 奥行28cm程の半円形に切り込んで作られ, 袖は幅26~37, 高さ28~35cmが遺存し, 黄褐色粘土で築かれていた。煙道は外傾しつつ立ち上がる。カマドの東側には構築材と思われる粘土塊が遺存していた。

遺物 (第44図, 図版8)

1~7・9~15は土師器。1~7は坏で, 1~5・7は口辺部内外面横ナデ, 底部外面ヘラ削り。1・5内外面, 3は内面, 4は内面及び口辺部外面漆処理。2の胎土に粗砂粒混入。6は口辺部外面ヘラ磨き, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。9~15 (15は台付甕) で, 9~13は口辺部内外面横ナデ, 体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。14は底部木葉痕, 内面ヘラナデ。15は脚部外面上位ヘラ削り, 下位横ナデ。内面ヘラナデ。9・13は胎土に粗砂粒混入。14は底部木葉痕。

8は須恵器の蓋で, ロクロ整形。外面ヘラ削り。

SI-184

遺構 (第21図, 図版4)

19Hに位置し, 南西側にSI-183が隣接する。平面は西側部分が調査区外のため不明。現状で東西4.3, 南北は6.2m。壁は外傾し立ち上がり, 現存高45cm。床面はほぼ平らで, 貼り床。柱穴は支柱穴2口(P1・P2)径45~57, 深さ98~107cmを確認し, 南壁際に小穴2口(P3・P4)認められた。貯蔵穴は南東隅の壁際に設けられ, 平面は東西125×南北98, 深さ49cmの楕円形。床面近くに多量の炭化材が遺存していることから

焼失家屋と判断され、埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

住居の中央やや北側の位置に炉跡を確認した。平面は東西61、南北78cmの楕円形の地床炉である。火床は厚さ3cm程が赤化し、その下部約4cmが被熱し硬化していた。また火床からは18cm程の川原石が出土し、支脚（枕石）に使われたものと考えられる。

遺物（第47図、図版7）

1～10は土師器。1・2は埴で、口辺部内外面横ナデ。1は内外面の器面荒れる。2は体部外面ハケ後ヘラ磨き、内面ハケ目。1は内外面赤彩。3は鉢で、口辺部内外面横ナデ、体部内外面ハケ目、内面ハケ目後ヘラ磨き。4～7は手づくね土器で、内外面ナデ。8は高坏で、坏部外面ハケ目後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。9・10は甕（10は台付甕）で、9は口辺部内外面ハケ目。10は口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ハケ目、内面ヘラナデ。

SI-185

遺構（第22図、図版4）

21 Iに位置し、南西側19mにSI-184がある。平面は東西5.4、南北4.2mの長方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高43cm。床面はほぼ平らで、大半が貼り床。小穴は6口（P1～P6）を確認したが、支柱穴は不明。埋積土は上・下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁ほぼ中央部に設けられていた。壁を幅100、奥行61cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅35～38、高さ28～35cmが遺存し、黄褐色土で築かれていた。煙道は外傾しつつ立ち上がる。

遺物（第47図、図版9）

1・2・5・14～17は土師器。1・2・5は坏で、ロクロ整形。1・2は底部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。5は底部糸切り。14～17は甕（14は台付甕）。14は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。脚部内外面横ナデ。15～17は、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。16は底部木葉痕。17は底部外面ヘラ削り。

3・4・6～13は須恵器。3・4・6～9は坏（8・9は高台坏）で、ロクロ整形、底部糸切り。6に「山」の墨書あり。8・9は回転ヘラ削り後付高台。10は壺で、ロクロ整形、外面回転ヘラ削り。11～13は甕で、ロクロ整形。11は外面にヘラ記号あり。12は体部外面平行タキ目、内面当具の痕をナデ消す。13は体部外面平行タキ目の後横ナデ、内面同心円の当具痕。

石製品は砥石（第55図21）が出土。

SI-186

遺構（第23図、図版4）

24 Iに位置し、北側にSB-61・67、東側にSB-70が隣接する。平面は東西3.3、南北3.2mの方形。壁はほぼ垂直に立ち上がり、現存高さ56cm。床面はほぼ平らで、貼り床。小穴2口（P1・P2）を確認したが、支柱穴は不明。床面に炭化材が遺存しており、焼失家屋と判断される。埋積土は上層が黒色土、中層が黒褐色土、下層が褐色土で、人為的埋没の後自然埋没と考えられる。

カマドは北壁ほぼ中央部やや東寄りに設けられていた。壁を幅70、奥行33cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅22～24、高さ10～13cmが遺存し、黄色粘土で築かれていた。煙道は外傾し立ち上がる。

遺物（第47図、図版9）

1～5・7～11は土師器。1～5は坏で、口辺部内外面横ナデ。1は底部外面ヘラ削り、内面横ナデ。1・2は内外面漆処理。1は外面、2は内面の器面荒れる。3は外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面放射状のヘラ磨き。4は内外面ヘラ磨き。5は底部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。7は壺で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。底部木葉痕。8～11は甕で、8・9は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。10は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。8・10は底部木葉痕。

6は灰釉陶器の埴で、ロクロ整形、全面施釉。

SI-187

遺構（第23図、図版4）

24 Iに位置し、南側にSI-188、東側にSI-167が隣接する。平面は西側が調査区外で、現状で東西4.0、南北は4.2m、本来は一辺4.2mの方形と推定される。壁はほぼ垂直に立ち上がり、現存高56cm。床面はほぼ平ら。柱穴は支柱穴4口（P1～P4）径25～36、深さ40～66cmを確認し、南壁際に小穴（P5）を確認した。貯蔵穴は北東隅で確認され、平面は東西77×南北63、深さ45cmの楕円形。住居中央部の床面直上より多数の土器がまとまって出土している。埋積土は上・下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや西寄りに設けられていた。壁を幅90、奥行38cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅31～34、高さ13～22cmが遺存し、黄色粘土で築かれていた。煙道は掘方が直立するが、外傾して立ち上がる。火床面より細長の川原石が出土しており、支脚と考えられる。

遺物（第16図、図版8）

1～25は土師器。1～6は坏で、1～6は口辺部内外面横ナデ、底部外面ヘラ削りで、1～5は内面放射状のヘラ磨き。6は底部内面磨き。1・4は口辺部外面と内面漆処理。2は内外面の一部、5は外面の一部にカーボン付着。7は鉢で、口辺部内外面横ナデ、体部・底部外面ヘラ削り、内面横ナデ。8・9は甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ヘラ削り、内面横ナデ後磨き。10～13は高坏で、坏部の口辺内外面横ナデ、坏部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。脚部外面縦ヘラ削り、内面ヘラナデ。14・15は壺で、口辺部内外面横ナデ、体部・底部外面ヘラ削り、内面横ナデ。15は内面の器面荒れ、外面カーボン付着。16～23は甕で、16～19は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。20～23は口辺部内外面横ナデ、体部・底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。24は口辺部内外面横ナデ、体部外面縦ハケ目、内面横ハケ目。25は体部・底部外面

ヘラ削り、内面ハケ目。17は内外面の一部、23は外面にカーボン付着。21～25は粗砂粒混入。

SI-188

遺構（第24図，図版5）

14Gに位置し、北東側にSI-187、東側にSI-166が隣接する。平面は大半が調査区外のため不明。現状で東西2.4、南北は4.6m。壁は外傾し立ち上がり、現存高54cm。床面はほぼ平らで、貼り床。柱穴は主柱穴1口（P1）径56、深さ48cmを確認した。貯蔵穴は南東隅に設けられ、平面は径70、深さ62cmの円形で、周辺は一辺120cmの範囲で床面より一段低く掘り下げられていたがこれは床下の施設と思われる。埋積土は上・下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物（第49図，図版7）

1～14は土師器。1は埴で、1は口辺部内外面ハケ目後ヘラ磨き。2は塊か埴で、内外面ヘラ磨き。3は小型甕で、口辺部内外面ハケ目、体部外面ハケ目、内面ナデ。4～6は手づくね土器で、内外面ナデ。7は高坏で、坏部内外面ヘラ磨き。8は器台で、坏部内外面ヘラ磨き、脚部外面縦ヘラ磨き。内面ヘラナデ。9は甕で、口辺部内外面ハケ目。10～12は台付甕で、10は体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。11は外面縦ヘラ磨き、内面ヘラナデ。12は脚部外面ヘラナデ後ハケ目、内面ナデ。13・14は壺で、13は口辺部内外面横ナデ。14は外面縦ハケ目後縦ヘラ磨き、内面上位横ヘラ磨き、下位横ヘラナデ。

SI-189

遺構（第23図，図版）

14Hに位置し、北側にSI-166が隣接し、SI-157を切る。平面は東西3.8、南北3.3mの長方形。壁はやや外傾して立ち上がり、現存高30cm。床面はほぼ平ら。柱穴などは不明。埋積土は上層が黒色土、下層は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは北壁のほぼ中央部に設けられていた。壁を幅82、奥行29cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅28～34、高さ14～17cmが遺存し、黄褐色土で築かれていた。煙道は外傾し立ち上がる。

遺物（第49図，図版5）

1～3・5～7は土師器。1～3は坏で、1はロクロ整形で、内面ヘラ磨き。底部糸切り。2は口辺部内外面ヘラナデ、胎土に粗砂粒混入。3は外面横ヘラナデ、内面ヘラ磨きで、内面黒色処理。5～7は甕で、口辺部内外面横ナデ。5・7は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

4は須恵器の坏で、ロクロ整形。

土製品は紡錘車（第55図9）が出土。

SI-190

遺構（第21図，図版5）

12Iに位置し、東側にSI-191が隣接し、ED-10に切られる。平面は東西3.6、南北3.7mの方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高20cm。床面はほぼ平ら。小穴は4口（P1～P4）を確認したが、主柱穴は不明。埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

住居の中央やや西寄りの位置に跡跡を確認した。平面は東西41、南北34cmの楕円形の地床炉である。火床は厚さ2cm程が赤化し、その下部約4cmが被熱し硬化していた。

遺物（第49図）

1～6は土師器。1は塊で、体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ。2・3は塊か壺で、2は体部内外面ヘラナデ。3は体部内外面ヘラ磨き。4は器台で、脚部外面ヘラ磨きで、赤彩。内面ヘラナデ。5・6は壺。5は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラナデ、内面ナデ。口辺部内外面及び体部外面赤彩。6は体部外面ヘラ磨き、内面ハケ目。

SI-191

遺構（第25図，図版5）

12Jに位置し、東側にSI-190、北東側にSI-158が隣接し、SD-50に切られていた。平面は一辺6.9mの方形。壁はやや外傾し立ち上がり、現存高57cm。壁溝は幅5～35、深さ5～12cmで、カマド、貯蔵穴部を除き設けられていた。床面はほぼ平らで、貼り床。柱穴は主柱穴4口（P1～P4）径28～37、深さ20～46cmを確認した。貯蔵穴は北東隅に設けられ、平面は東西85×南北95、深さ45cmの楕円形。埋積土は上層が黒褐色土、下層が褐色土で、自然埋没と考えられる。

カマドは東壁のほぼ中央に設けられていた。壁を幅72、奥行26cmの三角形に切り込んで作られ、袖は幅42～51、高さ19cmが遺存し、灰白色粘土で築かれていた。煙道は外傾し立ち上がる。カマドの手前より土師器甕が4個体程まとまって出土。

遺物（第49・50図，図版8・10）

1～16は土師器。1～7は坏で、1～5は口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面放射状ヘラ磨き。6・7は口辺部内外面横ナデ後ヘラ磨き、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後ヘラ磨き。8は鉢で、口辺部内外面横ナデ、体部外面上位横ヘラ削り、下位縦ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。9は高坏で、脚部内外面ヘラ磨き。10は壺で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。11～16は甕で、口辺部内外面横ナデ。11～14は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。15・16は体部外面ヘラ削り、内面ハケ目。16・18は底部外面ヘラ削り。12～14は胎土に粗砂粒混入。

鉄製品は鎌が2点（第56図23・28）出土。

SI-192

遺構 (第24図, 図版5)

12Jに位置し、北側にSI-190、北東側にSI-191が隣接する。平面は南側の大部分が調査区外のため不明。規模は東西が5.2、南北が現状で2.1m。壁は外傾し立ち上がり、現存高11cm。床面はほぼ平ら。埋積土は黒色土で、自然埋没と考えられる。

遺物 (第50図, 図版7)

1～3は土師器。1は埴で、内外面ヘラナデ後ヘラ磨き、全面赤彩。2・3は壺で、2は外面ヘラナデ後ヘラ磨き、内面横ヘラナデ後ヘラ磨き。口辺部内面および体部外面赤彩。3は体部外面の赤彩、器面荒れる。内面ヘラナデ。

SI-193

遺構 (第26図, 図版5)

22Jに位置し、北側にSI-194、南側にSB-66が隣接する。平面は東西5.5、南北4.8mの長方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高54cm。壁溝は東壁は一部、他はほぼ全体に認められ、幅15～20、深さ5～10cm。床面はほぼ平らで、貼り床。小穴は6口(P1～P6)を確認し、支柱穴は2口(P1・P2)、径30～60、深さ51～60cmと考えられる。また、南壁のP3・P4、北壁寄りのP5・P6は補助柱もしくは2本柱から4本柱への建て替えの可能性もある。炭化材が床面に多数遺存したことから焼失家屋と判断され、埋積土は上層が黒色土、下層が褐色土で、人為的埋没の後自然埋没と考えられた。カマドは新旧2箇所を確認した。

(旧カマド)

東壁のやや南寄りに設けられ、壁を幅93、奥行66cmの半円形に切り込んで作られていたが、袖は切り取られて遺存しなかった。火床は良く焼けていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

(新カマド)

北壁のやや東寄りに設けられ、壁を幅95、奥行41cmの半円形に切り込んで作られている。袖は幅26～33、高さ13～17cmが遺存し、黄褐色土で築かれていた。火床は良く焼けていた。煙道は外傾して立ち上がっている。

遺物 (第50図, 図版9・10)

1～7・10～16は須恵器。1～7・10は坏(10は高台坏)で、ロクロ整形。1・3～5・7は底部ヘラ削り。5は底部外面にヘラ記号「=」。10は底部ヘラ削り後付高台。11は盤で、ロクロ整形。12～14は蓋で、ロクロ整形。14は外面ヘラ削り。15・16は甕で、ロクロ整形。16は体部外面平行タタキ目、内面当て具痕をナデ消す。

8・9・17～19は土師器。8・9は坏(9は高台付)で、ロクロ整形。8は内面ヘラ磨き。9は底部ヘラ削り後付高台。8・9は内面黒色処理。17～19は甕で、口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。17は外面の一部にカーボン付着。19の体部外面にヘラによる連続文様あり。

鉄製品は刀子2点・斧・鏃2点・釘・鏃先・門金具・鉄滓(第56図1・2・8・10・14・19・30・31・33, 図版10)、石製品は管玉(第55図17, 図版10)が出土。

SI-194

遺構 (第24図, 図版5)

23Kに位置し、南側にSI-193が隣接する。平面は東西5.0、南北4.9mの方形。壁は外傾し立ち上がり、現存高65cm。北壁の東側から東端にかけて、幅14～24、深さ3～5cmの壁溝を確認した。床面はほぼ平らで、貼り床。柱穴は支柱穴4口(P1～P4)径24～38、深さ51～54cmを確認した。埋積土は上層が黒褐色土、中層が褐色土と黒褐色土、下層が褐色土で、人為的埋没後の自然埋没と考えられる。

カマドは北壁の中央やや東寄りに設けられている。壁を幅75、奥行35cmの半円形に切り込んで作られ、袖は幅28～37、高さ13～20cmが遺存し、黄褐色粘土で築かれていた。煙道は外傾し立ち上がっている。

遺物 (第50図, 図版10)

1～8・10～12は土師器。1～6は坏で、口辺部内外面横ナデ、底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。1は内外面、4は内面漆処理。7・8は高坏で、7は内外面ヘラ磨きで、内面黒色処理。8は脚部内外面横ナデ。10～12は甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。

9は須恵器の甕で、外面平行タタキ目に横の沈線、内面同心円の当具痕。

石製品は勾玉(第55図18, 図版10)が出土。

2. 掘建柱建物跡

SB-51

遺構 (第27図, 図版5)

5Iに位置し、ED-6・7と重複し、本跡の約20m南西にSI-140が所在する。形状は梁行3間(5.5m)×桁行3間(6.0m)の総柱式の建物と考えられる。桁行方向はN-49°-Eを示す。柱間寸法は、梁行西側で北から1.8+1.9+1.8m、桁行は北側で西から1.9+2.0+2.1m。計14口を確認し、東辺・南辺は柱筋が不ぞろいである。柱掘方は径28～56cmの円形ないし楕円形で、深さ8～60cm。この内8口は掘方の底面に柱当りが認められた。

埋積土は褐色土・黒褐色土・黄褐色土で、ローム粒・塊を含んでいる。6口に柱痕跡が遺存し、他は柱抜き取り後の埋め戻しと考えられる。出土遺物はない。

SB-52

遺構(第28図, 図版5)

15Jに位置し、SI-175・179を切る。本跡の約7m北東にSB-54・55, 約5m東にSB-53が所在する。形状は桁行3間(7.6m)×梁行2間(4.8m)の南北に長い側柱式の建物で、南辺は3間(5.0m)になっていた。桁行方向はN-14°-Eを示す。柱間寸法は、桁行西側で北から2.2+3.3+2.1m, 梁行は北側で西から2.4+2.4m, 南側が西から1.5+2.0+1.5mで、計11口が確認できた。出土遺物は土師器の細片が出土したが、図示し得なかった。

SB-53

遺構(第27図, 図版5)

14Kに位置し、SI-159・SD-50と重複する。本跡の約5m西にSB-52, 約7m北にSB-54・55が所在する。形状は梁行2間(4.6m)×桁行2間(4.8m)のほぼ方形で、側柱式の建物。桁行方向はN-78°30'-Wを示す。柱間寸法は、梁行西側で北から2.4+2.2m, 桁行は北側で西から2.2+2.6mで、計8口を確認した。柱掘方は径36~60cmの円形ないし楕円形で、深さ48~80cm, この内4口の掘方底面に柱当りが認められた。

埋積土は黒褐色土・褐色土で、ローム粒を少量含んでいる。柱抜き取り後の埋め戻しと考えられる。

遺物(第51図)

1は須恵器の坏で、ロクロ整形。底部外面へラ削り。2は土師器の甕で、体部外面へラ削り、内面へラナデ。胎土に粗砂粒混入。

SB-54

遺構(第27図, 図版5)

15Kに位置し、西側にSI-160, 南側にSI-9が隣接し、SB-55と重複し、SI-179を切る。本跡の約7m南にSB-53, 約7m南西にSB-52が所在する。形状は梁行2間(5.5m)×桁行2間(5.5~5.7m)の方形の側柱式の建物。桁行方向はN-85°-Wを示す。柱間寸法は、梁行西側で北から2.8+2.5m, 桁行は北側で西から2.7+2.8mで、計8口を確認した。柱掘方は径40~90cmの楕円形で、深さ34~70cm, この内3口に掘方底面柱当りが認められた。

埋積土は黒褐色土・褐色土で、ローム粒を含んでいる。柱抜き取り後の自然埋没と考えられるが、P-10の下位に柱痕跡が遺存していた。

遺物(第51図)

3は土師器の坏。ロクロ整形で、内面黒色処理。

SB-55

遺構(第27図, 図版5)

15Kに位置し、SI-54と重複する。本跡の約5m西にSB-52, 約7m北にSB-54・55が所在する。形状は2×1間の総柱式で、正方形の建物で、一辺の長さは4.0m。桁行方向はN-10°-Wを示す。柱間寸法は、東西辺で1.9~2.0, 南北辺は4.0mで、計7口を確認した。柱掘方は径54~116cmの円形ないし不正楕円形で、深さ44~68cm, この内6口の掘方底面に柱当りが認められた。

埋積土は黒色土・黒褐色土で、ローム粒を含んでいる。柱抜き取り後に埋め戻されている。

遺物(第51図)

4・5は土師器。4は坏で、外面へラ削り、内面横ナデ。5は甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面へラ削り、内面へラナデ。胎土に粗砂粒混入。

SB-56A

遺構(第28図, 図版5)

17Kに位置し、SI-170・172・173を切る。本跡の約11m南にSB-55, 約17m西にSB-62が所在する。形状は桁行3間(9.0m)×梁行2間(5.6m)の東西棟ので総柱建物。桁行方向はN-70°-Eを示す。柱間寸法は、桁行北側で西から3.0+3.2+2.8m, 梁行は西側で北から2.6+3.0mで、計12口を確認した。柱掘方は径16~24cmの円形ないし楕円形で、深さ20~24cm(推定も含む)である。出土遺物は土師器の細片が出土したが、図示し得なかった。

SB-56B

遺構(第28図, 図版5)

17Kに位置し、SB-56A, SI-170と重複し、SI-174を切る。本跡の約20m北西にSB-62が所在する。形状は1×1間の方形建物。柱間は4.7~5.0mで、桁行方向はN-15°-Eを示す。計4口を確認した。柱掘方は西辺の2口は径36cmの円形だが、東辺の2口は径52~60cmの楕円形で、P-20には建て替えの様な重複痕も見られる。深さは共に約70cmである。

遺物(第51図)

6は須恵器の坏で、ロクロ整形。7は甕で、体部外面縦へラ削り、内面へラナデ。6・7の胎土に粗砂粒混入。

SB-57

遺構(第28図, 図版5)

16Hに位置し、本跡の約14m南東にSB-52, 約1.5m南にSI-180が所在する。形状は1×1間の正方形建物。柱間は2.0mで、桁行方向はN-

-15°-Eを示す。計4口を確認した。柱掘方は径24~36cmの円形ないし楕円形で、深さは40~50cm。

埋積土は黒褐色土で、ローム粒を含んでいる。柱抜き取り後に埋め戻されている。出土遺物はなし。

SB-58

遺構(第28図, 図版5)

12Iに位置し、ED-9、SI-190と重複する。本跡の約13m西にSB-59が所在する。形状は1×1間の正方形建物。柱間は1.5mで、南北軸はN-8°-Eを示す。計4口を確認した。柱掘方は径40~50cmの円形ないし楕円形で、深さは52~68cm。

遺物(第51図)

8・9は土師器の甕で、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。9は胎土に粗砂粒混入。

SB-59

遺構(第27図)

13G・Hに位置し、西側にSK-319が隣接する。本跡の約13m東にSB-58が所在する。形状は桁行2間(4.0m)×梁行2間(3.2m)の南北棟で、側柱式、桁行方向はN-7°-Eを示す。柱間寸法は、桁行西側で北から2.0+2.0m、梁行は北側で西から1.6+1.6mだが、南辺のみ真中の1口が欠けている。計7口を確認した。柱掘方は径30~50cmの円形ないし楕円形で、深さ32~48cmである。1口のみ掘方の底面に柱当たりが認められた。出土遺物はなし。

SB-60

遺構(第27図, 図版5)

23I・Jに位置し、東側にSI-194が隣接し、SB-64と重複する。本跡の約1m北にSB-69、約4m南にSB-65が所在する。形状は桁行2間(4.7~5m)×梁行2間(4.3~4.5m)で側柱式の正方形建物。柱間は2.2~2.4mで、南北軸はN-12°-Eを示す。計8口を確認したが、柱掘方は径28~54cmの楕円形ないし不正楕円形で、深さは14~28cm。掘方底面には1口のみ柱当たりが認められた。

埋積土は黒褐色土・褐色土・黄褐色土で、ローム粒を含んでいる。5口に柱痕跡が認められた。出土遺物はなし。

SB-61

遺構(第29図, 図版5)

25Iに位置し、南側にSI-186と隣接し、SB-67と重複する。本跡の約10m南東にSB-68、約9m南にSB-69が所在する。形状は桁行2間(4~4.1m)×梁行2間(4m)の方形建物。柱間は2.0mで、南北軸はN-9°-Eを示す。計8口を確認した。柱掘方は径44~54cmの楕円形で、深さは28~44cm。1口のみ掘方底面に柱当たりが認められた。

埋積土は黒褐色土・褐色土で、ローム粒を含んでいる。柱抜き取り後の自然埋没と思われるが、P-3・4・6の3口には柱痕跡らしき土層の遺存もみられる。

遺物(第51図)

10は土師器の坏で、ロクロ整形。内面カーボン付着。11は須恵器の坏で、ロクロ整形。

SB-62

遺構(第29図, 図版6)

18Iに位置し、SI-169と重複する。本跡の約8m北にSB-63が所在する。形状は2×2間の総柱式建物で、一辺の長さは2.9~3.0mのやや歪んだ方形である。南北軸は東辺においてN-13°-Eを示す。計9口を確認した。柱掘方は径16~32cmの円形で、深さ18~34cm。

遺物(第51図)

12・13は土師器の甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

SB-63

遺構(第29図, 図版6)

19I・20Iに位置し、SD-20と重複する。本跡の約8m南にSB-62が所在する。形状は2×2間の側柱式一辺の長さは4.0mの正方形建物。柱間は1.8~2.2mで、南辺のみ真中の1口が欠けている。南北軸は西辺においてN-6°-Eを示す。計7口を確認した。柱掘方は径28~70cmの円形ないし楕円形で、深さ16~32cm。出土遺物は土師器の細片が出土したが、図示し得なかった。

SB-64

遺構(第28図, 図版6)

23I・Jに位置し、東側にSI-193が隣接し、SB-60と重複する。本跡の約4m北にSB-69、約2m南にはSB-65が所在する。形状は1×2間で、一辺が4.0~4.2m方形建物。柱間は東西で1.8~2.3m、南北軸は東辺でN-15°-Eを示す。計6口を確認した。柱掘方は径32~38cmの楕円形で、深さ12~36cm。

埋積土は黒褐色土・褐色土で、ローム粒を含んでいる。P-1・2・4の3口には柱痕跡がみられた。出土遺物はなし。

SB-65

遺構(第28図, 図版6)

22I・Jに位置し、本跡の約2m北にSB-64、約6m南東にはSB-66が所在する。形状は1×2間の側柱式で、一辺が3.3~3.6m方形建物。柱間は東西で1.6~1.8m。南北軸は西辺でN-13°-Eを示す。計6口を確認した。柱掘方は径30~38cmの円形ないし楕円形で、深さ14~26cm。1

口のみ掘方底面に柱当りが認められた。

埋積土はローム粒の少ない黒褐色土とローム粒を多量に含む黄褐色土で、自然埋没と思われる。出土遺物はなし。

SB-66

遺構 (第29図, 図版6)

22J・Kに位置し、北側にSI-193が隣接する。本跡の約6m北西にSB-65、約19m北にSB-70が所在する。形状は桁行2間(5.0m)×梁行2間(3.8m)の東西棟である。桁行方向はN-82°-Wを示す。柱間寸法は、桁行北側で西から2.5+2.5m、梁行は西側で北から2.0+1.8mで、計9口を確認した。柱掘方は径22~44cmの円形ないし楕円形で、深さ12~44cm。P8を除く全ての掘方底面に柱当りが認められた。出土遺物は土師器の細片が出土したが、図示し得なかった。

SB-67

遺構 (第30図, 図版5)

25Iに位置し、SB-61と重複する。本跡の約10m南東にSB-68、約9m南にはSB-69が所在する。形状は2×2間の歪んだ総柱式の方形建物で、一辺が3.1~4.0mと全て異なる。柱間は南辺が2+2m、東辺は1.9+1.9m、西辺は1.6+1.6m。南北軸は西辺でN-17°-Eを示すが、歪みがひどく正確な所は定かではない。計9口を確認した。柱掘方は径22~36cmの円形ないし楕円形で、深さ8~14cm。出土遺物はなし。

SB-68

遺構 (第29図, 図版5)

24J・Kに位置し、SB-70と重複する。本跡の約4m南西にSB-69が所在する。北東側の一部が調査区外になり、全容は知り得無いが、現状では2×2間で一辺が5.0mの総柱式方形建物と推測される。柱間は2.0~3.0m。南北軸は西辺でN-8°-Eを示す。計7口を確認した。柱掘方は径28~68cmの円形ないし楕円形で、深さ16~40cm。1口のみ掘方の底面に柱当りが認められた。埋積土はローム粒の少ない黒褐色土・黒色土とローム粒の多い褐色土・黄褐色土に大別され、7口中4口の掘方には柱痕跡が認められる。

遺物 (第51図)

14・15は須恵器の甕で、14はロクロ整形。15は外面横の沈線に平行文タタキ目、内面同心円当具痕、。16は土師器の甕で、外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

SB-69

遺構 (第29図, 図版6)

24Jに位置し、本跡の約2m北東にSB-70、約1m南にSB-60が所在する。形状は桁行2間(5.6~6m)×梁行2間(4m)の南北棟である。桁行方向はN-16°-Eを示す。柱間寸法は、桁行西側で北から3.0+3.0m、梁行は北側で西から2.0+2.0mで、計8口を確認した。柱掘方は径45~65cmの円形ないし楕円形で、深さ20~42cm。4口の掘方底面に柱当りが認められた。

埋積土はローム粒の少ない黒色土とローム粒の多い褐色土・黄褐色土に大別される。8口中5口の掘方には柱痕跡が認められるが、他3口は埋め戻しと思われた。

遺物 (第51図)

17は土師器の鉢で、口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、体部内面ヘラナデ。

SB-70

遺構 (第30図, 図版6)

24J・Kに位置し、SB-68と重複する。本跡の約2m南西にSB-69、約10m北西にSB-67が所在する。形状は桁行2間(5.1m)×梁行2間(3.3m)の総柱式の東西棟である。桁行方向は南辺でN-87°-Wを示す。柱間寸法は、桁行南辺で西から2.1+3.0m、梁行は西辺で北から1.8+1.5mで、計9口を確認した。柱掘方は径22~38cmの円形ないし楕円形で、P6のみ径48cmとやや大きめの楕円形であった。深さは16~32cm。出土遺物はない。

3. 円形周溝遺構

ED-6

遺構 (第30図, 図版6)

5Iに位置し、SK-304、SB-51と重複し、ED-7を切る。周溝は平面が外径で、東西7.1、南北7.1mの不整形円形。溝は上幅66~127、底幅25~92cmで、深さ22~66cm。底面はほぼ平らであったが、西側はやや深く凹凸が著しい。

埋積土は上層が黒色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。出土遺物は細片が出土したが、図示し得なかった。

ED-7

遺構 (第30図, 図版6)

5Iに位置し、SB-51と重複し、ED-6に切られる。周溝は平面が外径で、東西5.7、南北5.6mの方形を帯びた円形。溝は上幅38~66、底幅20~44cmで、深さ20~33cm。底面はほぼ平ら。

埋積土は上層が黒褐色土、下層が褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物 (第51図)

18は土師器の坏で、口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面ナデ。

ED-8

遺構(第30図, 図版6)

15J・16Jに位置し、東側にSB-54、西側にSI-176が隣接し、SI-160・161に切られる。周溝は平面が外径で、東西6.8、南北6.7mの円形。溝は上幅60~86、底幅24~36cmで、深さ40~48cm。底面はほぼ平ら。

埋積土は上層が黒色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物(第51図)

19~21は土師器。19は坏で、口辺部内外面横ナデ、外面ヘラ削り、内面放射状ヘラ磨き。20は鉢で、口辺部内外面横ナデ。21は甕で、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。

ED-9

遺構(第30図, 図版6)

12Iに位置し、SB-58と重複し、SI-190を切る。周溝は平面が外径で、東西4.9、南北5.2mのほぼ楕円形。溝は上幅45~69、底幅19~43cmで、深さ5~19cm。底面はほぼ平ら。

埋積土は上層が黒色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。出土遺物はなし。

4. 土坑・井戸跡

遺構(第31図, 図版6)

SK-301~305はD地区、SK-306~340はE地区に所在し、計測値については以下の第2表に示した。

第2表 土坑一覧表

()は推定

番号	グリット	平面形	長軸×短軸	深さ	重複関係	出土遺物 その他
			cm	cm		
301	8H	楕円形	156×124	136	>SD-51	縄文土器片9点
302	6H	楕円形	100×84	20		土師器片1点
303	6H	楕円形	84×72	20		土師器片4点
304	5I	楕円形	96×68	32	ED-6	出土遺物なし
305	6K	楕円形	88×72	12		縄文土器片15点, 軽石片1点
306	17K	隅丸長方形	152×80	20	<SI-170	玉未製品1点
307	14K	隅丸長方形	170×100	104	<SK-308	縄文土器片1点
308	14K	不整楕円形	180×144	48	>SK-307	土師器片14点
309	14K	円形	88×88	20	<SI-159	出土遺物なし
310	15K	隅丸長方形	100×92	74		出土遺物なし
311	15K	楕円形	108×78	80	<SD-50	出土遺物なし
312A	欠番					
312B	15K	長方形	111×(85)	72	>SB-55	縄文土器片8点
313	17K	楕円形	100×94	28	>SI-172	出土遺物なし
314	19K	楕円形	150×136	36	>SIJ-4	縄文土器片2点
315	12J	円形	104×100	28		土師器片7点
316	12L	楕円形	100×88	20	SK-317	縄文土器片1点, 土師器片4点
317	12L	楕円形	84×72	14	SK-316	土師器片3点
318	14H	円形	76×72	20		出土遺物なし
319	13G	(円形)	176×-	204		土師器片10点
320	13G	隅丸長方形	(134)×80	38	SK-321	出土遺物なし
321	13G	隅丸長方形	136×(80)	32	SK-320	土師器片4点
322	13G	楕円形	134×90	40		土師器片1点
323	14I	楕円形	84×74	28		出土遺物なし
324	14H	楕円形	108×88	18		出土遺物なし
325	15H	円形	62×58	22		出土遺物なし
326	15H	円形	66×64	20		出土遺物なし
327	15I	円形	(92)×92	10	<SI-167	土師器片3点
328	15H	楕円形	(220)×148	32	<SI-167	出土遺物なし
329	15H	楕円形	(136)×90	20	<S-II67	炭化物少量出土
330	19L	隅丸長方形	170×(90)	40	SI-28	出土遺物なし, 壁面内湾する
331	24K	隅丸長方形	150×104	28	SB-2	土師器細片1点, 多量の焼土と炭化物少量遺存
332	19K	円形	104×102	200		土師器片2点
333	24L	円形	130×126	220		土師器片10点
334	24K	楕円形	100×92	20		出土遺物なし
335	24I	円形	84×84	100		土師器片4点
336	24K	円形	50×46	14		土師器片3点
337	23K	円形	74×74	16		出土遺物なし
338	24L	不整長方形	(120)×90	20		土師器片6点・須恵器片1点
339	23I	円形	72×68	6		出土遺物なし
340	23L	円形	68×66	12		土師器片17点

これらの時期は縄文時代がSK-305・306・307・314（後期）、古墳時代がSK-303・319・321（前期）、327・340（後期）、古代がSK-308・331・338と考えられる。また、SK-306・330は墓坑、SK-319・332・333は井戸跡、SK-331は火葬墓と推察される。

出土遺物は27点を図示し得た（第52図）。

1はSK-302出土の土師器の甕で、体部内外面ハケ目。胎土に粗砂粒混入。2・3はSK-303出土の土師器。2は壺で、体部外面ハケ目、内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。3は台付甕で、脚部外面縦のハケ目後ヘラミガキ。内面上位縦のナデ、下位横のハケ目。4はSK-306出土の粘板岩製（26g）玉飾りで、両面から穿孔し、未貫通。5～7はSK-308出土の土師器。5は高台付塚で、底部外面ナデ、付高台。内面ヘラ磨きで、内面黒色処理。6・7は甕で、6は口辺部内外面横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。7は体部外面ヘラ削り、内面横ナデ。6・7は胎土に粗砂粒混入。8はSK-312B出土の縄文土器（加曾利B式）。波状口辺で、口辺部内面一条の隆線と外面上位に二条のキザミ目がみられる隆線と下位に単節の縄文。9はSK-314出土の縄文土器（安行式？）で、体部内外面縦ヘラナデ。10はSK-315出土の土師器の甕で、内外面横ナデ。11～19はSK-319出土の土師器。11は塚で、口辺部内外面横ナデ、外面ハケ目、内面ヘラナデ。12は手づくね土器で、外面ハケ目、内面横ナデ。13～16は台付甕で、口辺部内外面横ナデ、体部外面ハケ目、内面横ナデ。15は体部外面ハケ目、内面ナデ。16は脚部外面の器面荒れ、内面ナデ。17は甕で、口辺部内外面横ハケ目。体部外面ハケ目で、カーボン付着。内面横ナデ。18は壺で、口辺部内外面横ハケ目。19はSK-321出土の土師器の台付甕で、口辺部内外面横ナデ。20はSK-322出土の土師器の台付甕で、底部内面ヘラナデ。脚部内外面ナデ。21・22はSK-338出土の須恵器と土師器。21は甕で、外面タタキ目、内面同心円の当て具痕。22は甕の底部で、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。23～27はSK-340の土師器。23～25は坏で、23・24は口辺部内外面横ナデ、底部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。23の内面及び口辺部外面に漆処理。25は底部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。26・27は甕。26は口辺部内外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。27は体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。胎土に粗砂粒混入。

5. 溝跡

今回の調査区D・E・F地区ではSD-20とSD-50からSD-70までを確認したが、SD-50～61は出土遺物や埋積土などから近世・近代のものと考えられる。そのため、中世と考えられるSD-20とSD-62～70を以下に記載した。

SD-20

遺構（第32図、図版6）

18L・18K・18J・19J・19I・20I・20Hにまたがって位置し、SI-173・177・SB-63を切り、東側はA地区に延びる。平面はほぼ東西方向に一部蛇行気味に展開する。東西両端共に調査区外に延びる。断面形は箱築研形で、上面幅32～80、底面幅10～52、深さ5～26cm。

埋積土は上層が黒褐色土、中層が黒色土、下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物（第53図、図版10）

1は須恵器の坏で、ロクロ整形、底部糸切り。3は非ロクロ系のカワラケ皿で、径9.3cm、12C末～13C前葉と推定。4・5は常滑系の炆器壺・甕の頸部で、ともに肩部に灰カブリ、13～14C代。

鉄製品は鎌・鎌（第56図9・29、図版10）が出土。

SD-62

遺構（第32図、図版1）

40I・41Iにまたがって位置し、SD-70に切られる。平面はほぼ南北方向にやや蛇行気味に展開する。南北の両端共に調査区外に延びる。断面形は箱築研形で、上面幅78～93、底面幅35～50、深さ18～23cm。

埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。出土遺物はなし。

SD-63

遺構（第32図、図版1）

40I・41Iにまたがって位置し、SD-64・65を切り、SD-66に切られる。平面は北西・南東方向にやや蛇行気味に展開する。両端共に調査区外に延びる。断面形は箱築研形で、上面幅40～65、底面幅12～30、深さ4～11cm。

埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。出土遺物はない。

SD-64

遺構（第32図、図版1）

40I・41Iにまたがって位置し、SD-63に切られ、SD-65・67を切る。平面は北西・南東方向に蛇行しつつ展開する。両端共に調査区外に延びる。断面形は箱築研形で、上面・底面幅は重複はげしく不明。深さ7～16cm。

埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。

遺物（第53図、図版10）

2は須恵器の壺で、ロクロ整形。低い付け高台で底部が突出する。8・9は常滑系の炆器壺・甕。8は体部下位で、外面は縦のヘラナデ、12C末～13C。9は底部内面全体に灰カブリ、外面に砂粒圧痕、13～14C。10は古瀬戸の瓶子、外面は灰釉を丁寧な刷毛塗りされ、13C代。

SD-65

遺構（第32図、図版1）

40 I・41 Iにまたがって位置し、SD-63・64に切られ、SD-67・68を切る。平面は北西・南東方向にSD-64と並行し、蛇行しつつ展開する。北西端は調査区外に延びる。南東側は調査区中央付近でSD-64に切られて消失。断面形は箱葉研形で、上面・底面幅は重複はげしく不明。深さ26～32cm。

埋積土は黒色土で、自然埋没と考えられる。

遺物（第53図）

6はロクロ系のカワラケ。

SD-66

遺構（第32図、図版1）

40 I・40 Jにまたがって位置し、SD-63・64・65と重複しこれらを切る。平面は北東・南西方向にほぼ直線的に展開する。両端共に調査区外に延びる。断面形は箱葉研形で、上面幅65～82、底面幅16～42、深さ14～26cm。

埋積土は黒色土が主体で、自然埋没と考えられる。出土遺物はない。

SD-67

遺構（第32図、図版1）

40 I・40 J・41 Jにまたがって位置し、SD-64・65に切られ、SD-68・69を切る。平面は南東・北方向に曲がりつつ展開する。両端共に調査区外に延びる。断面形は箱葉研形で、上面幅65～80、底面幅30～35、深さ41～55cm。

埋積土は上層が黒色土、下層が褐色土で、人為的埋没後自然埋没と考えられる。出土遺物はない。

SD-68

遺構（第32図、図版1）

40 I・40 Jにまたがって位置し、SD-65・67・69に切られる。平面は北西・南西方向にやや蛇行気味に展開する。両端共に調査区外に延びる。断面形は箱葉研形で、上面幅71～104、底面幅34～45、深さ40～46cm。

埋積土は上・下層が黒色土で、自然埋没と考えられる。

遺物（第53図）

7はロクロ系のカワラケ。

SD-69

遺構（第32図、図版1）

40 I・41 Iにまたがって位置し、SD-65・67に切られ、SD-68を切る。平面は北西・南東方向に展開する。北西側は調査区外に延びるが、南東側途中でSD-68と重複により消滅する。断面形は箱葉研形で、上面幅55～60、底面幅35～44、深さ15～20cm。

埋積土は黒褐色土で、自然埋没と考えられる。出土遺物はない。

SD-70

遺構（第32図、図版1）

40 I・41 Iにまたがって位置し、SD-62を切る。平面はおおむね南北方向に展開し、両端共に調査区外に延びる。断面形は箱葉研形で、上面幅34～40、底面幅16～24、深さ13～16cm。

埋積土は上下層が黒褐色土で、自然埋没と考えられる。出土遺物はない。

6. その他の遺物

住居跡や溝跡などから出土した土製品・石製品や鉄製品など、遺構に伴わない先土器から縄文時代、弥生時代、中・近世の遺物を以下に示した。
土製品、石製品（第55図，図版10）

1～5は土錘で，1～4は球形，5は棒状である。1～4は径12～17mm，重量1.6～3.2g，5は径14，長さ28mm，重量6.3g。1はSI-180，2はSI-174，3・4はSI-163，5はSI-159より出土。6・7は土製勾玉で，ともに一部欠損し，現存の長さ2.5～3.0cm，重量は2.7～4.7g，SI-174より出土。8～11は土製紡錘車，11以外は土器片の転用で，8・9は土師器，10は須恵器の坏底部片を使用する。8は径5.5mm，重量42.6g，他はいずれも断片。8はSI-159，9はSI-189，10はSI-161より出土。11は断面が丸みを帯びた逆台形と推定されるが，断片で詳細は不明。土師質で，表面は漆処理，SI-161出土。12は古墳時代前期のSI-156の床直より出土したが，形状から縄文時代の耳飾とも考えられる。径25，厚さ18，孔径7mm，重量9.2g，側面の中程が帯状に凹む。13・14は鏡形土製品。13は1/2と鈕部を欠損，径50mm，重量10.7g，全面を赤彩，古墳時代前期のSI-164より出土。14は37×40mmの不整形円形，一方の中央に鈕を表現して穿孔する。13に比べ粗雑な造りである。重量8.3g。15は不明土製品，径23×29mmの楕円形で厚さ6mm，表面に蕁状の圧痕がみられる。14・15はSI-169より出土。16は白玉，径12，厚さ2mm，重量0.7g，千枚岩製で，SI-163出土。17は管玉の一部で，径12，現存長6.5mm，滑石製で，重量1.9g，SI-193出土。18は勾玉，長さ39，厚さ10～12mm，一方向穿孔，重量12.5g，瑪瑙製で，SI-194出土。19は石製紡錘車，断面逆台形で，径50，厚さ22mm，重量68g，凝灰岩製で，表面はやや黒味を帯びる。SI-159出土。20～31は砥石，20～25，27～29は凝灰岩の断片，他は自然礫を利用する。凝灰岩の20～24，27～29は使い減りにより本来の中程で破損している。自然礫利用の26・30・31は長さ168～220，厚さ20～104mmと大振りである。完形に近い25は重量82g，26は重量825g，31は重量3.25kg。20はSI-159，21はSI-185，22はSI-161，23はSI-158，24はSI-164，25はSI-176，26はSI-167，27はSI-180，28はSI-177，29はSI-176，30はSI-167，31はSI-175より出土。

鉄製品・鉄滓・屋瓦（第56図，図版10）

1～6は刀子，1は長さ163，刃部長100mmで，他はいずれも破損品。1・2は背闊，3は両闊，4も背闊の可能性が高い。6は刃部と茎の境が不明瞭で，茎が長く，片刃の鎌の可能性もある。5は刃部片である。1・2はSI-193，3はSI-171，4はSI-161，5はSI-163，6はSI-167より出土。7は穂積具あるいは手鎌と呼ばれるもので，長さ95，幅18mmで，両端に目釘穴が設けられている。SI-161より出土。8は有袋鉄斧で，長さ86，幅36～43mm，装着部に木質が遺存。SI-193より出土。9～14は鉄鎌。9は茎を欠損し，現存長130，鎌身48mmと大型で，SD-20より出土，中世の所産と考えられる。10は篋被～茎を欠損し，現存長64mm，銅製の鍔があり，鍔の可能性もある。SI-193出土。11非常に短い茎を持ち，長さ41，鎌身長27mm。古墳前期のSI-173出土。12は雁又鎌で，鎌身の両端と茎の先端部を欠損し，現存長87mm，SI-161出土。13は鎌，14は鎌もしくは刀子の茎と考えられ，13・18はSI-144，14はSI-193出土。15～18，22は断片で用途不明，19・21は釘と考えられる。15はSI-157，16・17はSI-161，18はSI-154，19はSI-193，20はSI-181，21はSI-177，22はSI-155より出土。23～29は鎌である。23は刃部断片で，SI-191出土。24は刃部の先端を欠損し，現存長90mm，着柄部は端部の隅を5mm程折り曲げる。SI-159出土。25・27・28は刃部断片で，25はSI-181，27はSI-159，28はSI-191出土。26は刃部先端を欠損し，現存長90mm，着柄部は端部を10mm程直角に折り曲げる。SI-161出土。29は柄をもつもので，全長205mm，茎部には繩と推定される外径25mm程の円形の鉄環が附着する。SD-20より出土し，中世以降の可能性が高い。30は鋤もしくは鍬先で，長さ146，幅96～107mmのU字型，装着部は幅6～8，深さ8～9mmのV字形，SI-193出土。31は門金具と推定され，長さ95，幅40mmで本来はコの字形であったものが変形したと考えられる。SI-193出土。32・33は鉄滓で，32は206g，33は19.7g。32はSI-159，33はSI-193出土。

34～36は女瓦。内面に小札（模骨）痕，外面は格子タタキで，いずれも同一タタキ具によると見られ，水道山瓦窯産と推定される。SI-177出土。

縄文土器（第57図，図版10）

1～3は早期（1は野鳥式）。1は外面が斜位の区画内に微隆線が充填。内面は横位の条痕。2は外面縦の隆帯と半裁竹管による刺突。内面は横位の条痕。3は内外面ともに横位の条痕。2・3は胎土に繊維混入。4～8は中期（4・5は五領ケ台式，6は加曾利E1式）。4は横位の隆帯に単節の縄文，これに沿ってキザミ目あり。5は地文が単節の縄文。6は波状口辺に縦位の隆線（一部押圧）に横位の隆線で連結。8は重弧文状の沈線。9～11は後期（堀の内式）。9は無文の口辺部に横位に2本の隆帯にキザミ目がみられ，沈線で区画内に単節の縄文。10・11は磨り消し縄文によって文様が描出される。12～18は後期（加曾利B式）。12は小型壺で，横位の複数沈線に区画された中に単節縄文。13は沈線で区画された中に単節の縄文，縦位の沈線で区切る。下側に沿ってキザミ目あり。14は口唇部にキザミ目と斜位の沈線。15は縦位の沈線に横位の綾杉文状の沈線。16は斜位の沈線とその下側に沿ったキザミ目。17は横位の隆帯に指頭圧痕。18は横位の隆帯にキザミ目。19～28は後・晩期（19～24は安行式，25～28は大洞式）。19・20は縦位の隆帯に横位の隆帯（単節の縄文施文）が複数連結する。21は縦位の隆帯に横位の沈線が連結する。22は口辺部に単節の縄文。23は注口の一部で，貼瘤と沈線。24はクシ歯状工具による斜位の条線文。25・26は横位，27は雲形文状の隆線。28は網目状燃糸を施文。

弥生式土器（第56図，図版10）

29は中期後半，30は後期（二軒屋式）。29は地文が単節の縄文で，沈線によって方形区画の文様を描出。30はクシ目（7本）による横位の条線とその間に簾状文。

石器（第58図，図版10）

1はナイフ型石器，2は剥片石器。1は周辺に剥離を施す。珪質頁岩製，重量2g。2は調整痕が見られない剥片。安山岩製，重量20g。1

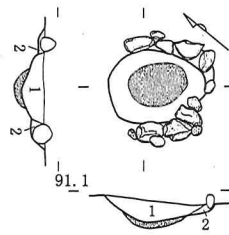
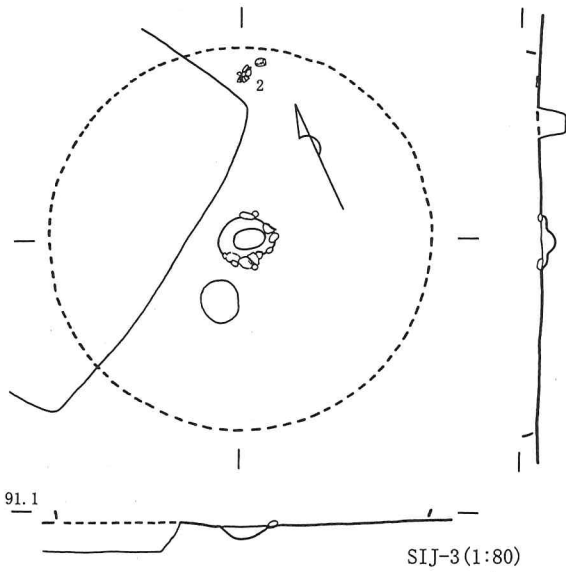
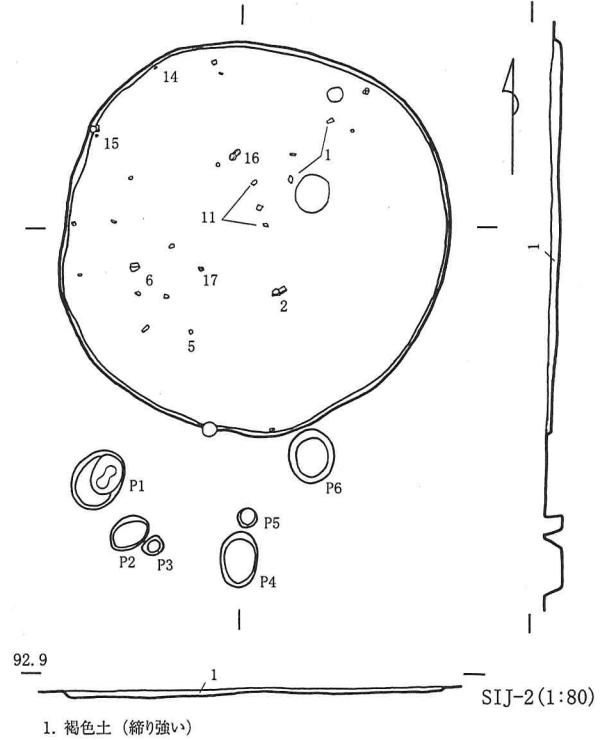
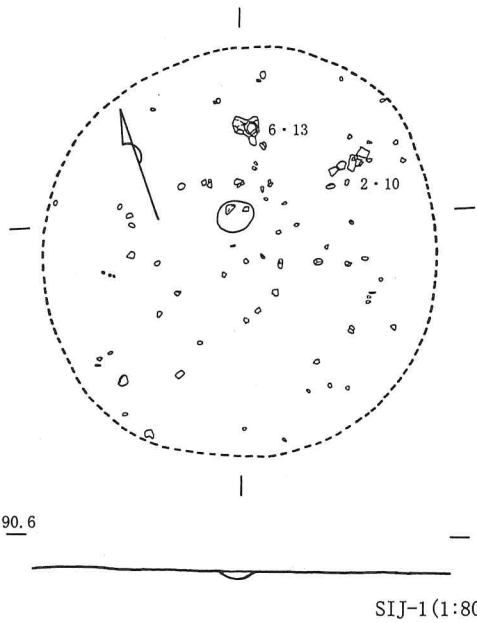
はE地区、2はSI-142より出土し、1・2はともに先土器時代のものと考えられる。3～8は石鏃。3は平基有茎型で先端と茎部を欠損し、重量1.4g。4は凸基有茎型で先端を欠損し、重量0.8g。5は凸基有茎型で、重量0.8g、6は凹基無茎型で、重量1.3g、7は平基無茎型で、重量1.2g。8は凹基無茎型で、一方の腸袂部欠損し、重量1.6g。3は玉髓、4は赤玉石、5～8はチャート製。3はSI-144、4はSI-185、5はSI-180、6はSI-9、7はSI-175、8はSI-193より出土。9～12は分銅型の打製石斧で、12は1/2程を欠損する。9は19Jグリットより出土、重量74g、安山岩製。10は7Jグリットより出土、重量133g、ホルンフェルス製。11はSI-143より出土、重量192g、ホルンフェルス製。12はED-6より出土、重量70g、安山岩製。13は磨製石斧の刃部断片で、SI-171より出土、重量18g、砂岩製。14・15は磨石で、全面が磨面。14はSI-192より出土、重量238g、安山岩製。15は5Iグリットより出土、重量204g、安山岩製。16は石皿の断片で、両面を使用、D地区より出土、重量751g、安山岩製。3～16は縄文時代の後期を中心としたものと考えられる。

中・近世から近代遺物（第54図、図版10）

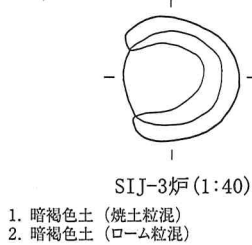
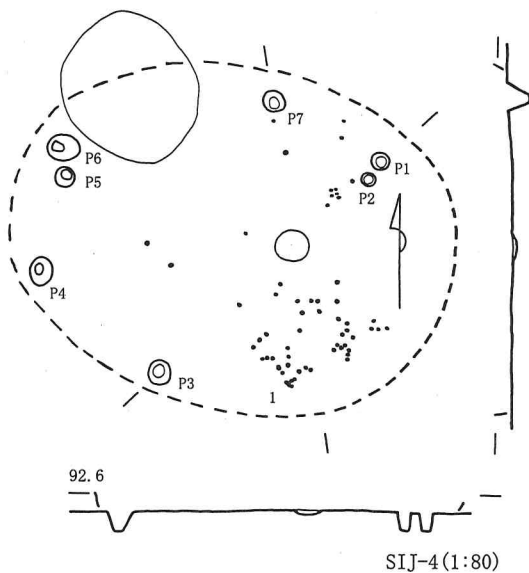
1～7は埴。1・7は肥前佐佐見系の磁器、外面に染付18C後半。2～6は陶器で、3・5・6は備前系、2・4は瀬戸・美濃系、17C末～18C前半。8は瀬戸・美濃系の陶器皿で、灰釉・銅青釉掛けわけ、17C代。9は瀬戸・美濃系の陶器、尾呂窯の折縁鉢で、内面に鉄絵、17C前半。10・11は炆器摺鉢で、10は常滑系、11は堺・明石系17～18C。12は瀬戸・美濃系の陶器摺鉢で、内外面に銹釉、17C。13は炆器の三筋壺、全体に黒色で灰かぶり。常滑系、12C末か。14～16は在地系の土製品で、14・15は内耳土器（ほうろく）、16は甕。14は外面にカーボン付着、15は体部下端に耳の痕跡あり。17は明の永楽通宝、重量1g、初鑄は1408年。18は鉛製の弾丸で、径11.4mm、重量8.4g。19は機銃の薬莖、全長99mm、径12.7～8mm程度の弾丸用、重量55g、底面に「LC-43」の刻印。1・7・11・15・16はSD-53、2はSD-51、3はSD-54、4はSD-55、5・13はSD-51、6はSD-55、8はSD-55、9・10はSD-50、12は24Iグリット、14はSD-50、17は6Jグリット、18はF地区、19はE地区より出土。

参 考 文 献

- 大金直亮・橋本澄朗・川原由典他『井頭』1975 下野古代文化研究会
高橋一夫「製鉄遺跡と鉄製農具」『考古学研究』87 1976 考古学研究会 後に『古代東国の考古学的研究』2003 六一書房に収録
岩上照朗・石橋知明『宇都宮市瑞穂野団地遺跡』1978 宇都宮市瑞穂野土地区画整理組合・宇都宮市教育委員会
木村 等『辻の内遺跡』1981 栃木県教育委員会
前澤輝政他『多功南原遺跡』1986 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
後藤信祐他『花の木町遺跡』1987 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
梁木 誠・大塚雅之他『前田遺跡』1991 宇都宮市教育委員会
今平利幸「栃木県における古墳時代前期の堅穴」『栃木県考古学会誌』第13集 1991 栃木県考古学会
芹澤清八・阿部 茂『辻の内遺跡・柿の内遺跡』1992 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
山口耕一『多功南原遺跡』1993 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
橋本澄朗「間仕切住居に関する覚書」『栃木県立博物館研究紀要』第12号 1995 栃木県立博物館
初山孝行他『寺野東遺跡（歴史時代編）』1996 栃木県教育委員会・小山市教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
今平利幸『城南3丁目遺跡』1996 宇都宮市教育委員会
栃木県教育委員会『栃木県埋蔵文化財地図』1997
宇都宮市教育委員会『宇都宮市遺跡地図改訂版』1997
平川 南『墨書土器の研究』261～275頁 2000 吉川弘文館
大嶽浩良他『うつのみやの空襲—平和への願いと犠牲者への鎮魂の意をこめて』2001 宇都宮市教育委員会
水野順敏・柏崎広伸『みずまの台遺跡群』2008 宇都宮市教育委員会



- SI-142 カマド
1. 黄褐色土
 2. 赤褐色土 (焼土粒・塊少量混)
 3. 黄褐色土
 4. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混)
 5. 黒色土 (ローム粒・塊混)



- SI-143
1. 黒色土
 2. 黒褐色土
 3. 黄褐色土
 4. 褐色土
 5. 暗褐色土 (粘土粒混)
 6. 灰褐色土 (粘土主体)
 7. 黒褐色土
 8. 黒褐色土 (締め強い)

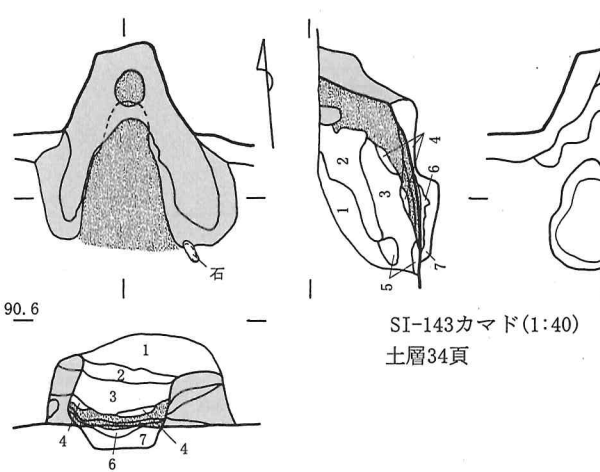
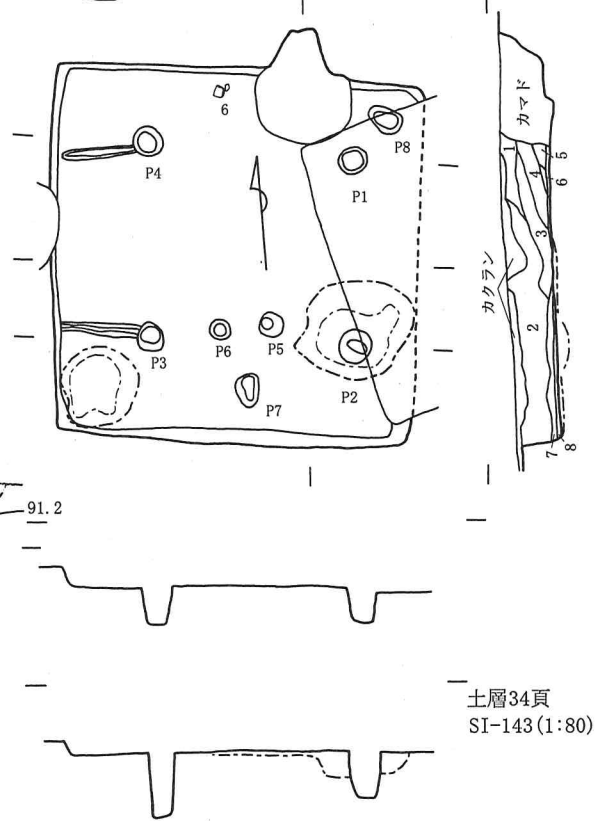
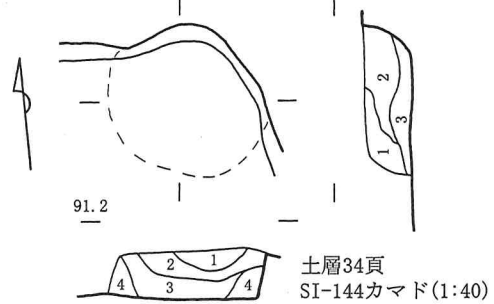
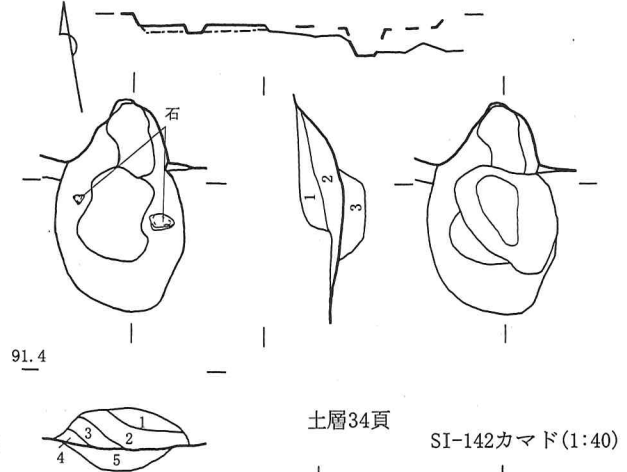
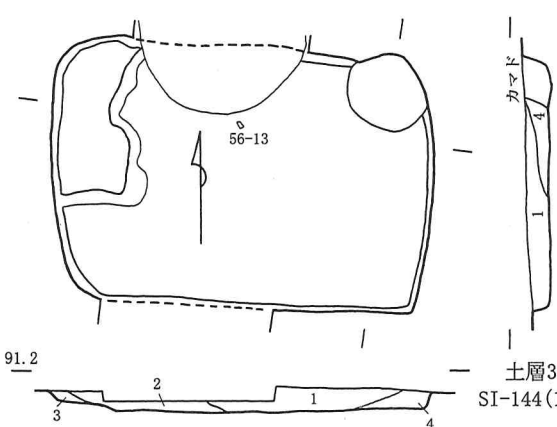
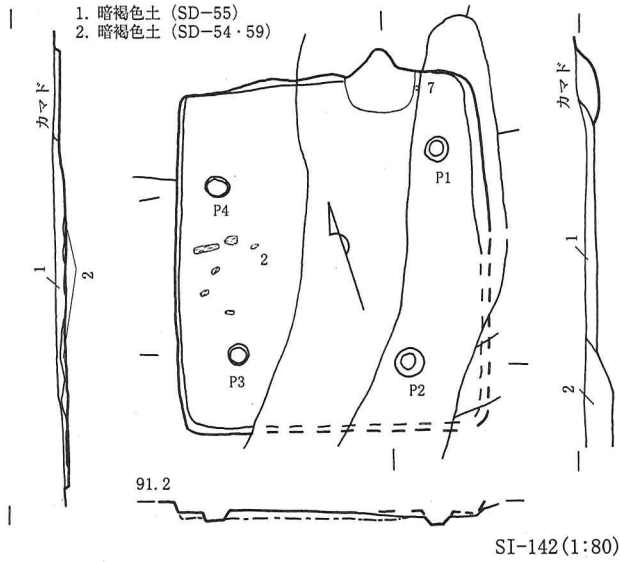
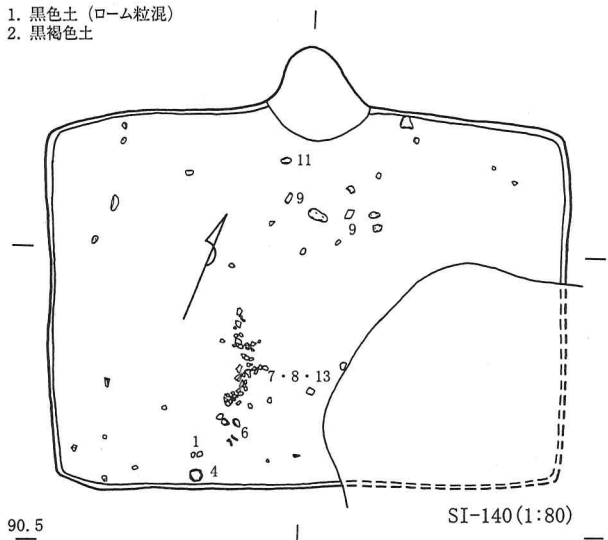
- SI-143 カマド
1. 黒褐色土 (ローム・粘土粒・塊少量混)
 2. 黒褐色土 (1よりローム粒多)
 3. 黒褐色土 (2に焼土粒・塊少量混)
 4. 粘土塊
 5. ローム塊
 6. 灰層
 7. 黒褐色土 (ローム粒混)

- SI-144
1. 黒色土
 2. 褐色土 (ローム粒・塊混)
 3. 黄褐色土 (ローム粒・塊主体)
 4. 黒褐色土 (焼土粒混)

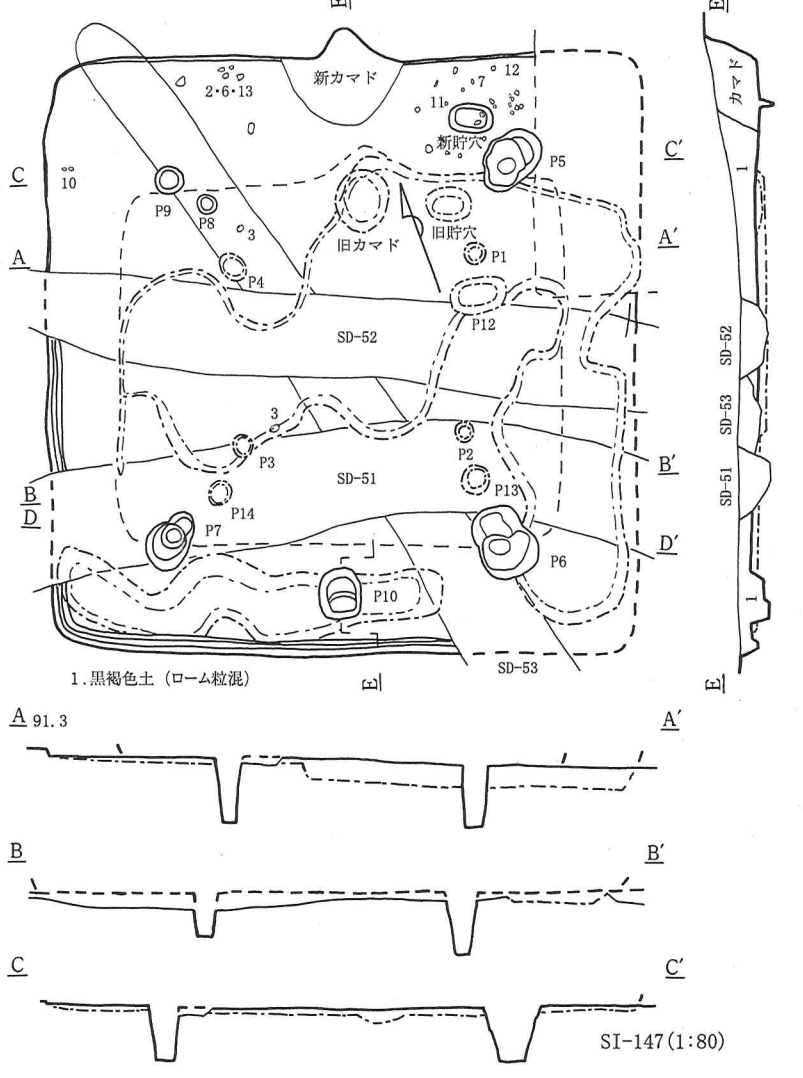
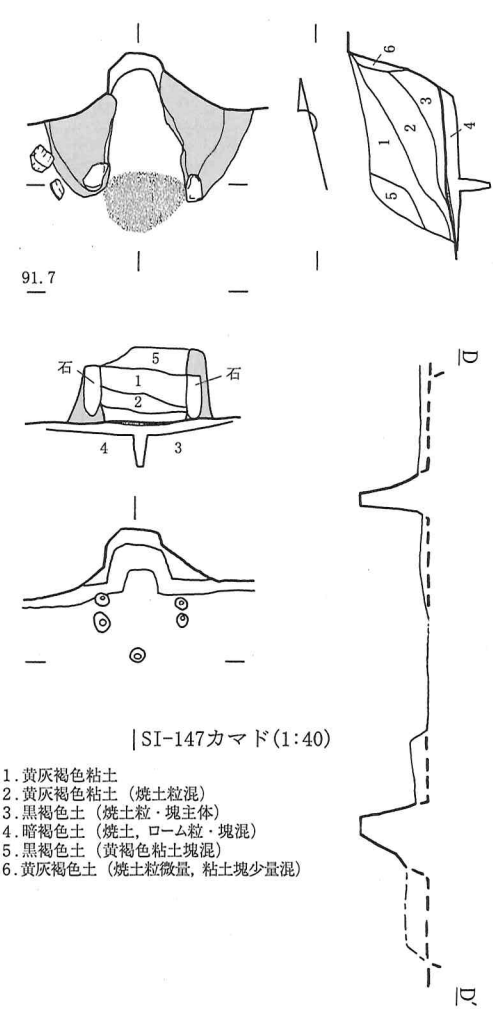
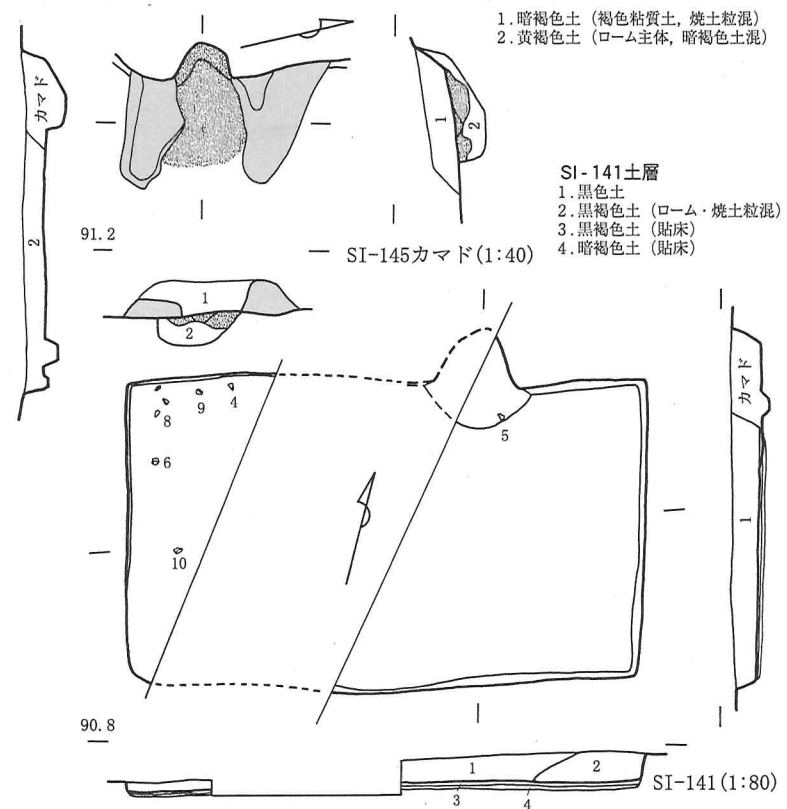
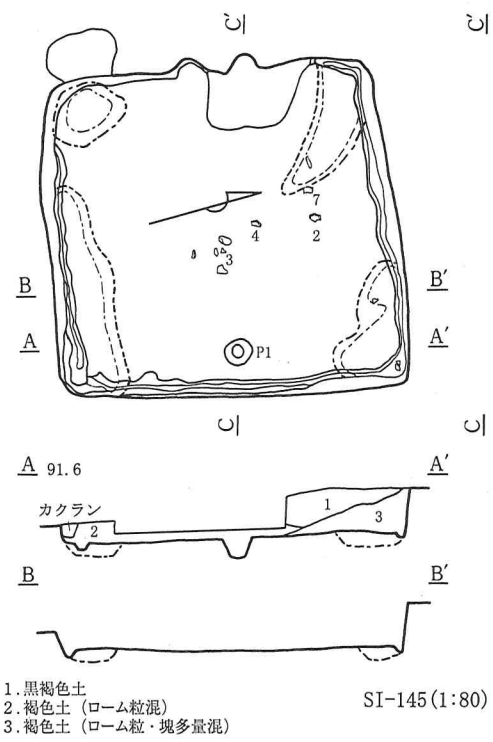
- SI-144 カマド
1. 黒色土 (焼土粒混, 炭化物粒微量混)
 2. 黒色土 (焼土粒少, 炭化物・ローム粒微量混)
 3. 黒色土 (焼土粒少, ローム粒微量混)
 4. 黒褐色土 (ローム粒微量混)

第4図 竪穴住居跡(1) SIJ-1~4

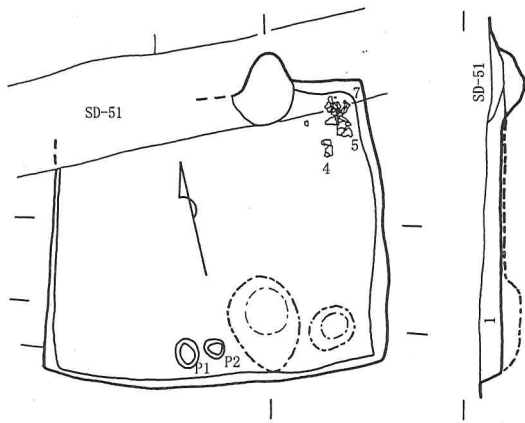
- 1. 黒色土 (ローム粒混)
- 2. 黒褐色土



第5図 竪穴住居跡 (2) SI-140・142~144

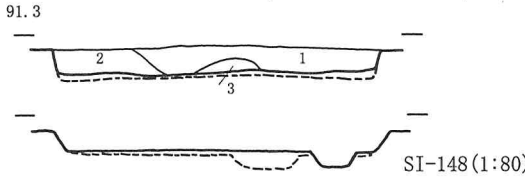
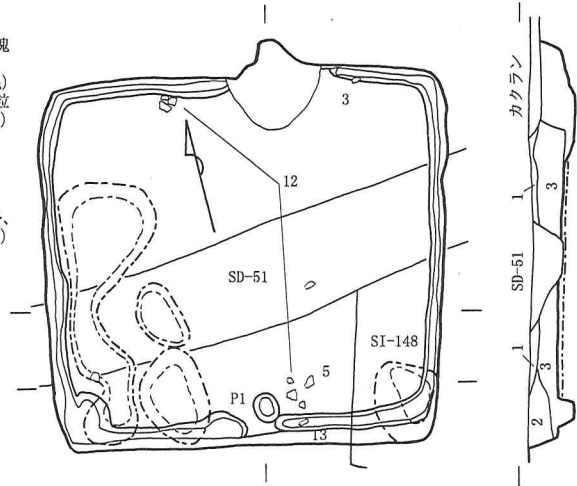


第6図 竪穴住居跡 (3) SI-141・145・147

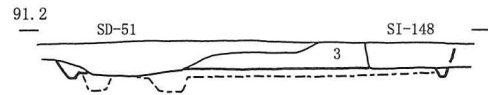


- SI-148
 1. 黒色土 (ローム粒・塊多, 焼土粒少量混)
 2. 黒褐色土 (ローム粒混)
 3. 黒褐色土 (ローム粒少量・焼土粒多量混)

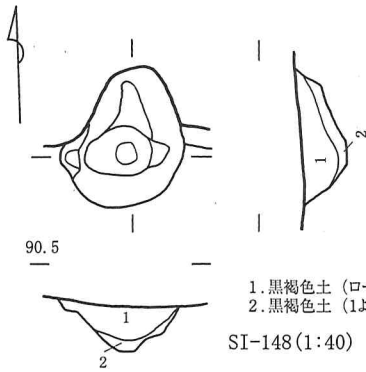
- SI-149
 1. 黒色土
 2. 黒褐色土
 3. 黒褐色土 (ローム粒多, 焼土・炭化物少量混)



SI-148 (1:80)

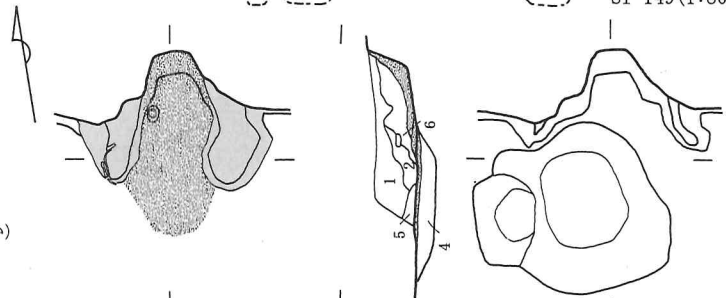


SI-149 (1:80)



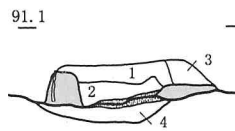
1. 黒褐色土 (ローム粒・塊, 焼土粒混)
 2. 黒褐色土 (1よりローム・焼土が少ない)

SI-148 (1:40)



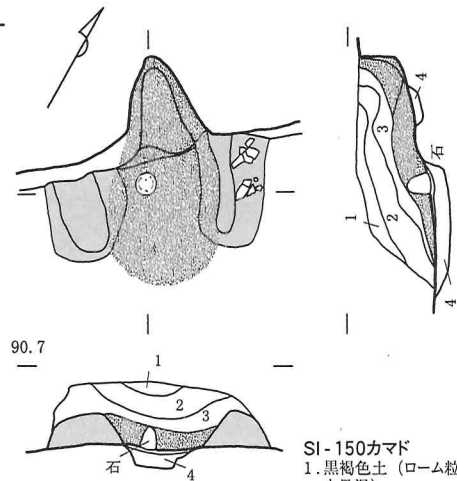
SI-149カマド (1:40)

- SI-150
 1. 黒色土
 2. 黒褐色土 (ローム粒混)
 3. 黒褐色土 (ローム粒・焼土粒混)
 4. 暗褐色土 (ローム粒・塊多量混)
 5. 暗褐色土 (ローム塊少量混)



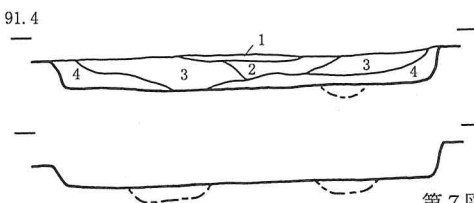
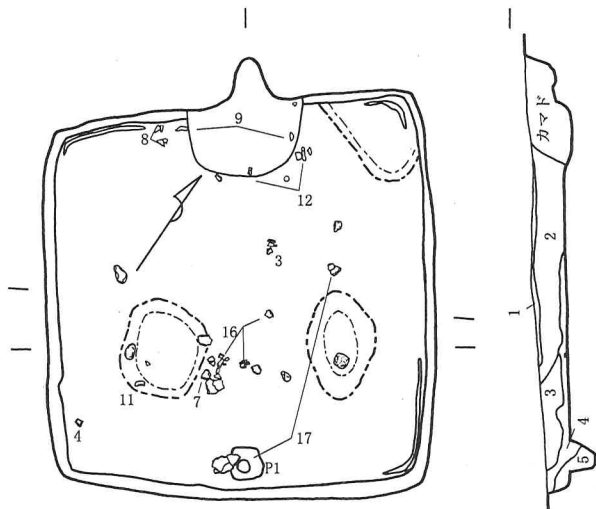
SI-150 (1:80)

- SI-149カマド
 1. 黒褐色土 (ローム粒混)
 2. 黒褐色土 (ローム粒多量, 焼土・粘土粒少量混)
 3. 黒褐色土 (ローム粒多量, 焼土粒微量混)
 4. 黒褐色土 (ローム粒・塊多量, 焼土・炭化物粒少量混)
 5. 暗褐色土 (黄褐色土と黒褐色土の混合)
 6. 灰褐色土 (黒褐色土多量, ローム・焼土粒少量混)

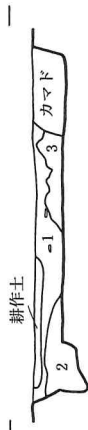
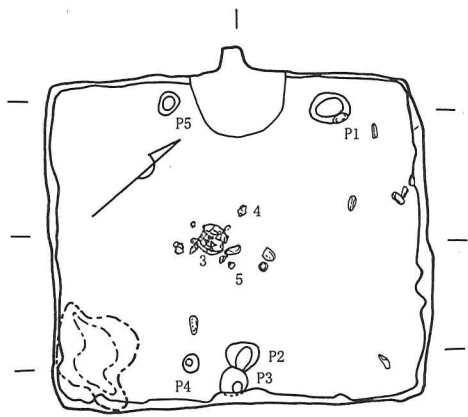


- SI-150カマド
 1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
 2. 暗褐色土 (ローム・粘土・焼土粒少量混)
 3. 暗褐色土 (2より焼土粒・塊多く混)
 4. 褐色土 (ロームと暗褐色土の混合)

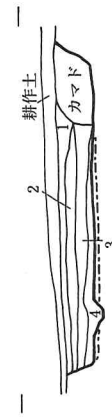
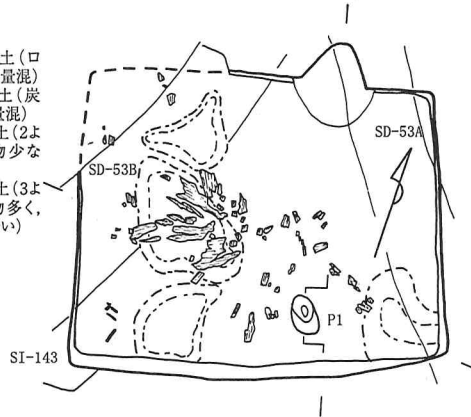
SI-150カマド (1:40)



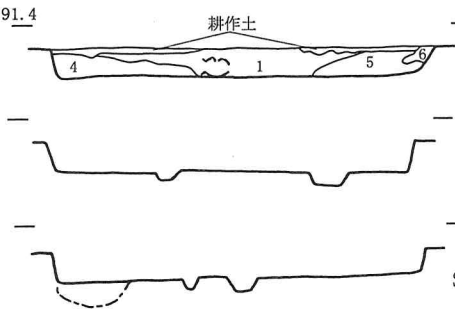
第7図 竪穴住居跡 (4) SI-148~150



1. 暗褐色土 (ローム粒多量混)
2. 黒褐色土 (炭化物多量混)
3. 黒褐色土 (2より炭化物少ない)
4. 黒褐色土 (3より炭化物多く, 2より少ない)



91.4

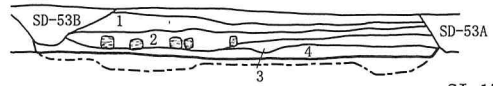


SI-151

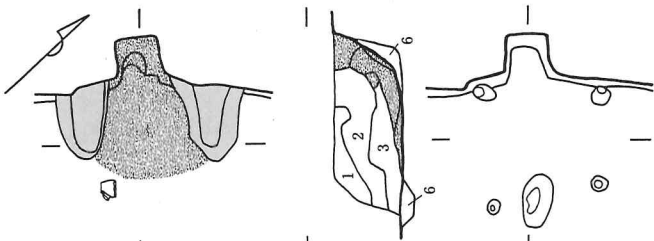
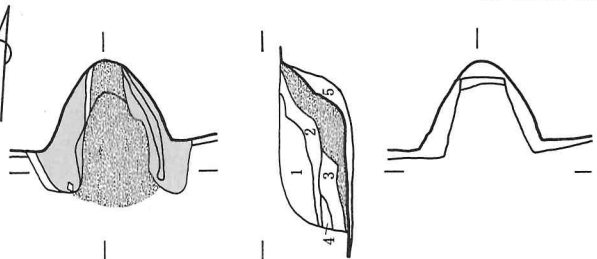
1. 暗褐色土
2. 黒褐色土 (ローム粒混)
3. 黒褐色土 (ローム粒多量, 焼土粒少量混)
4. 暗褐色土 (ローム粒多, 塊少量混)
5. 褐色土 (ローム粒主体)
6. ローム塊

SI-151 (1:80)

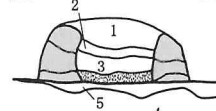
91.2



SI-152 (1:80)

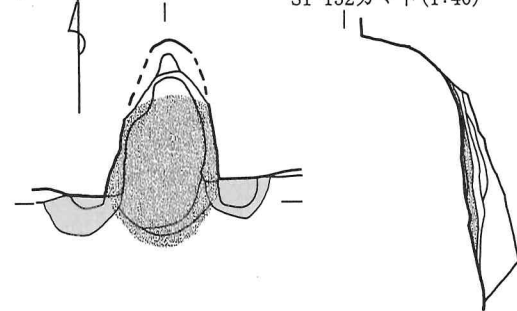


90.9

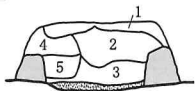


1. 暗褐色土 (粘土・焼土粒混)
2. 黒褐色土 (灰褐色粘土・焼土粒混)
3. 暗褐色土 (粘土粒少量, 焼土粒混)
4. 暗黄灰色土 (粘土粒混)
5. 黒色土 (ローム粒・塊多量混)

SI-152カマド (1:40)

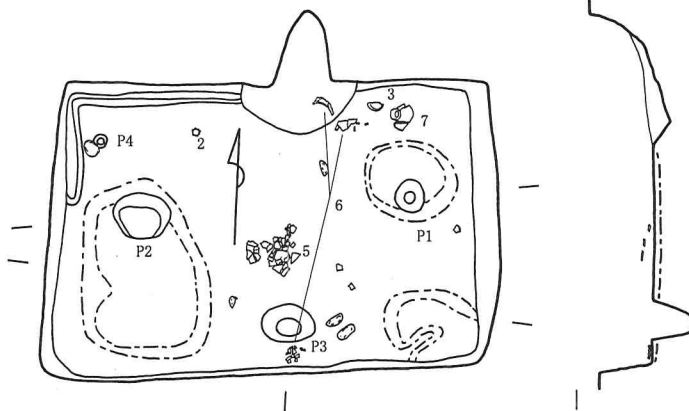


90.8



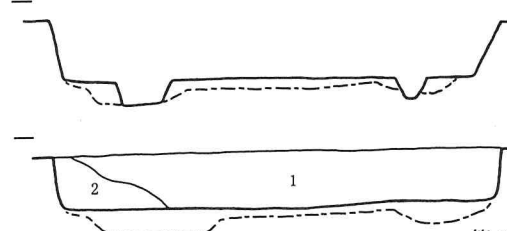
SI-151カマド (1:40)

1. 黒褐色土
2. 暗黄褐色土 (ロームと粘土の混合)
3. 黒褐色土 (ローム・焼土・粘土粒混)
4. 灰褐色土 (ローム粒・塊, 焼土粒混)
5. 褐色土 (ローム粒主体, 焼土・粘土粒混)
6. 暗黄褐色土 (ローム主体, 黒褐色土, 粘土粒混)



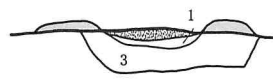
91.2

1. 黒色土
2. 黒褐色土 (ローム粒多量, 塊, 焼土, 炭化物粒混)

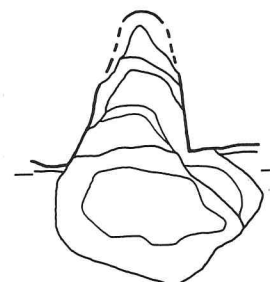


SI-153 (1:80)

91.1

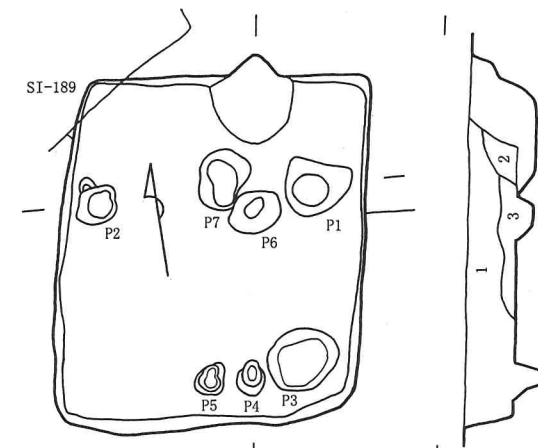


1. 灰褐色土 (焼土粒混)
2. 黒褐色土 (ローム粒・塊多量混)



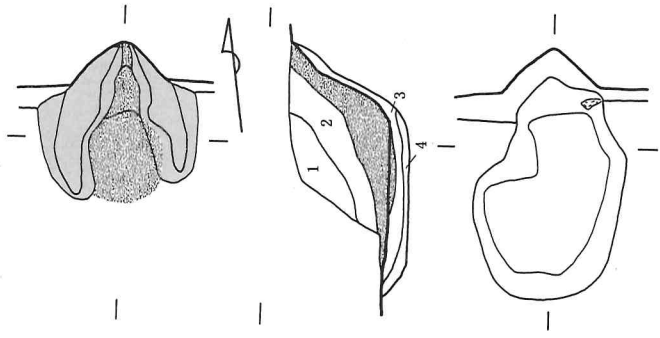
SI-153 (1:40)

第8図 竪穴住居跡 (5) SI-151~153



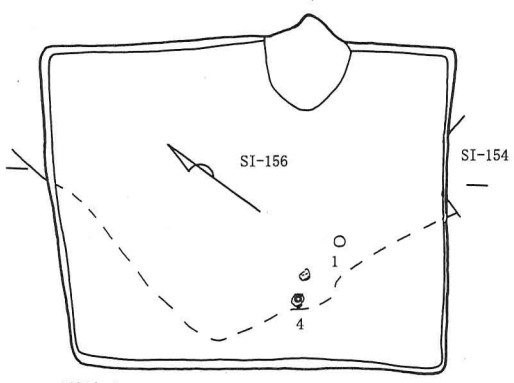
- 1. 黒褐色土
- 2. 暗褐色土 (粘土粒多量混)
- 3. 黒褐色土 (粘土粒少量混)

SI-154 (1:80)



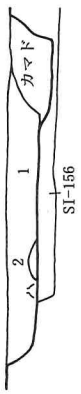
SI-154カマド(1:40)

- 1. 暗褐色土 (ローム粒混)
- 2. 黄灰褐色土 (粘土粒, 焼土粒混)
- 3. 黒色土 (焼土・粘土・ローム粒混)
- 4. 黒褐色土 (ローム粒混)

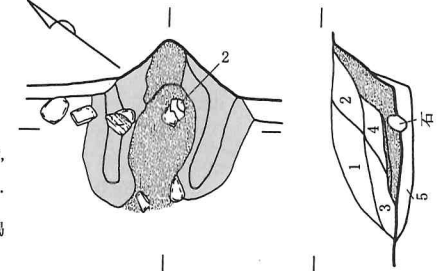


- 1. 黒褐色土
- 2. 灰褐色粘土

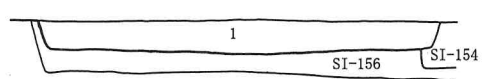
SI-155 (1:80)



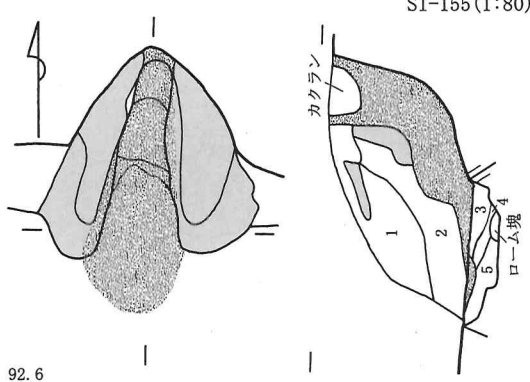
- 1. 黒褐色土
- 2. 黒褐色土 (焼土粒少量混)
- 3. 灰褐色土 (灰白色粘土粒多量, 焼土少量混)
- 4. 暗灰褐色土 (灰白色粘土粒・塊多量, ローム粒少量混)
- 5. 暗褐色土 (ローム主体, 黒褐色土混)



SI-155カマド(1:40)

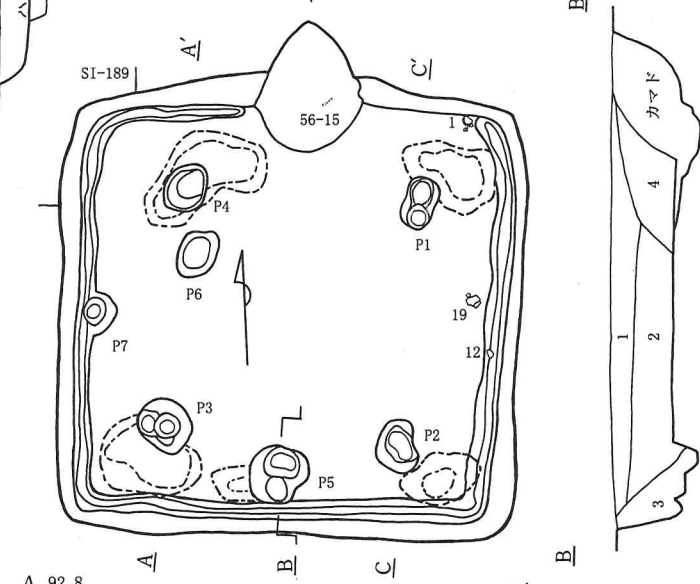


- 1. 黒褐色土
- 2. 灰褐色粘土

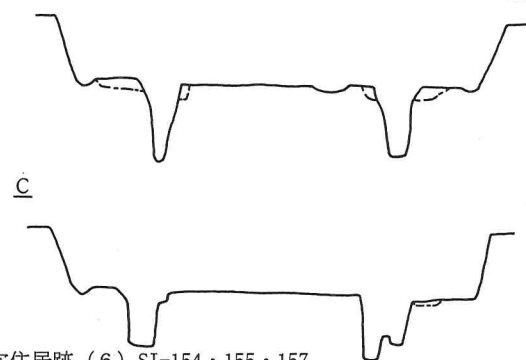


- 1. 暗褐色土 (ローム粒多量混)
- 2. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
- 3. 黒色土 (ローム粒・塊, 焼土粒混)
- 4. 暗赤褐色土 (焼土粒多量, ローム粒, 粘土粒混)
- 5. 黒色土 (炭化物粒主体, ローム粒, 塊多量混)

SI-157カマド(1:40)



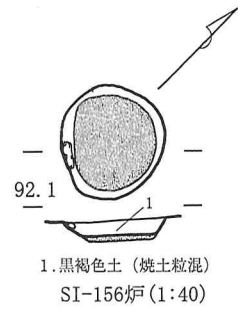
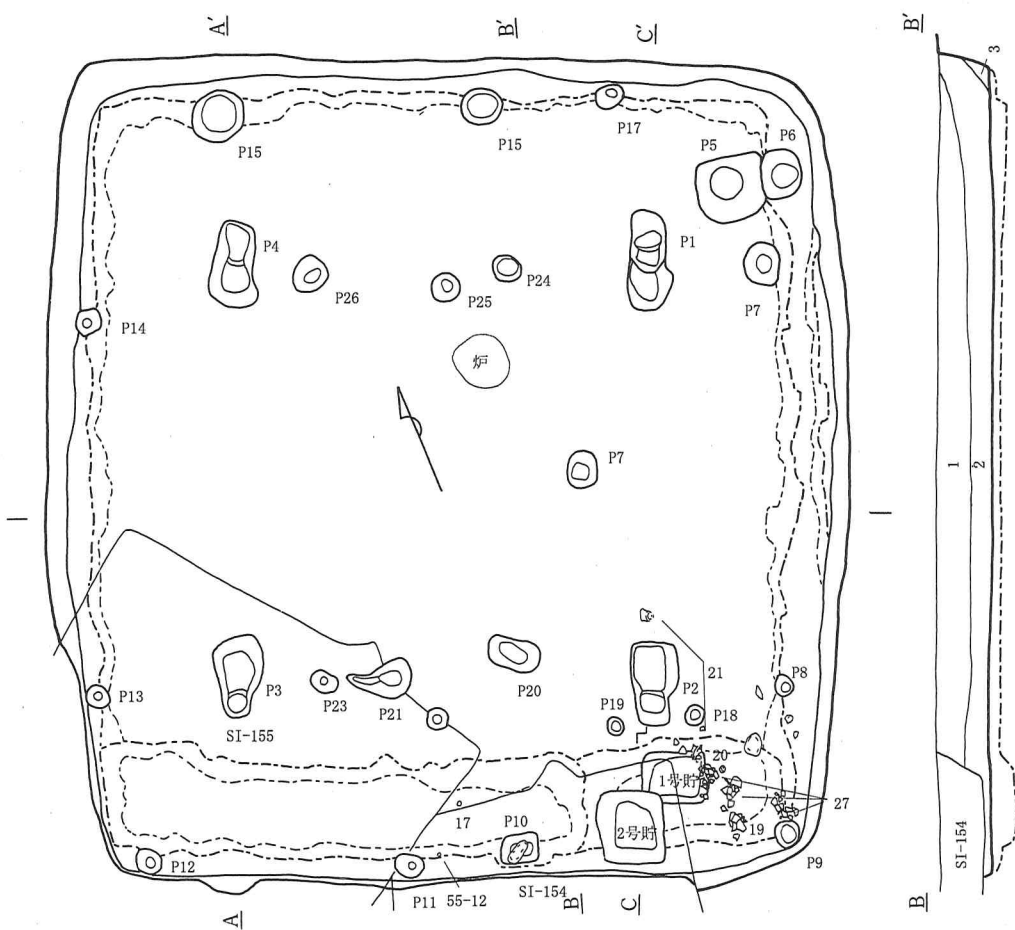
A 92.8



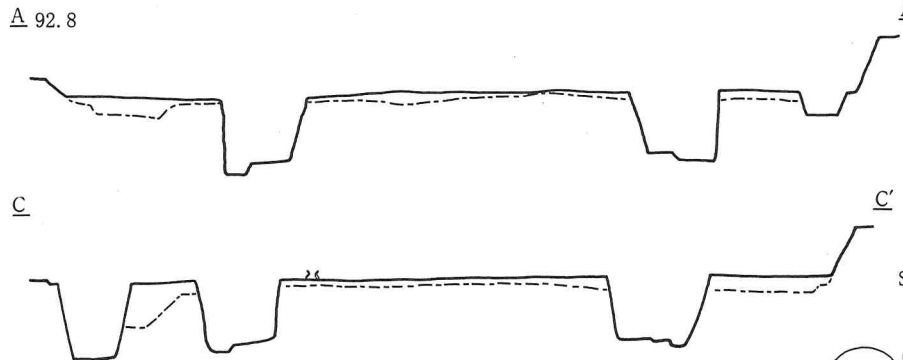
- 1. 黒色土
- 2. 黒色土 (ローム粒混)
- 3. 黒色土 (ローム粒・塊混)
- 4. 黒褐色土 (焼土粒混)

SI-157 (1:80)

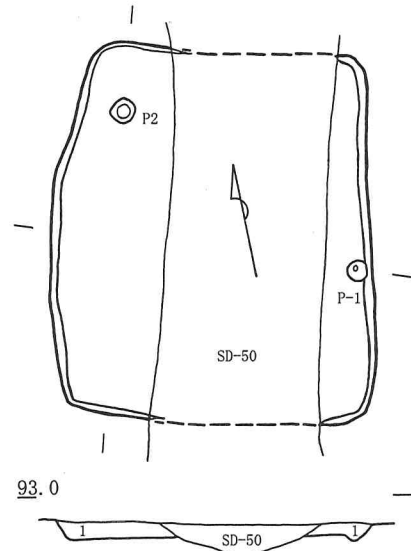
第9図 竪穴住居跡 (6) SI-154・155・157



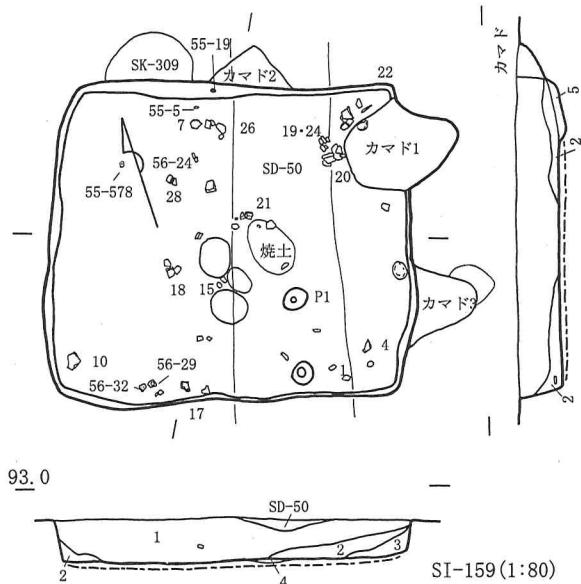
- SI-156
 1. 黒褐色土 (焼土粒混)
 2. 黒褐色土 (ローム粒・塊混)
 3. 暗褐色土 (ローム粒・塊多量混)
- SI-159カマド2
 1. 黒褐色土
 2. 黒褐色土 (焼土粒少量混)
 3. 黄褐色土 (ローム粒主体, 黒褐色土混)
 4. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混)
 5. 暗褐色土 (ローム粒多量, 焼土粒少量混)



- SI-156(1:80)
 1. 黒色土
 2. 黒色土 (ローム粒混)
 3. 黒色土 (ローム粒・炭化物粒混)
 4. 焼土
 5. 黒褐色土 (ローム粒・塊, 粘土粒混)

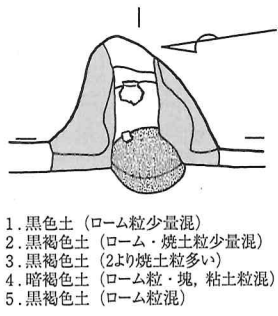


- SI-158(1:80)
 1. 黒褐色土 (ローム粒混)

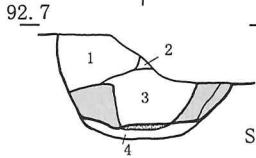


- SI-159(1:80)

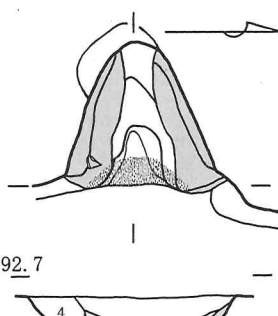
第10図 竪穴住居跡 (7) SI-156・158・159



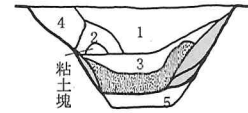
1. 黒色土 (ローム粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
3. 黒褐色土 (2より焼土粒多い)
4. 暗褐色土 (ローム粒・塊, 粘土粒混)
5. 黒褐色土 (ローム粒混)



SI-159カマド1(1:40)

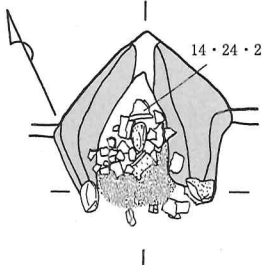


92.7

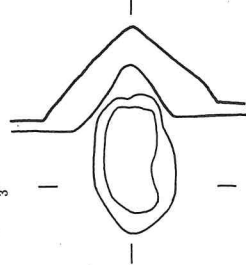
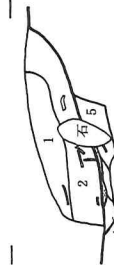
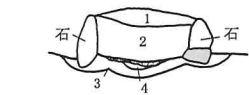


SI-159カマド3(1:40)

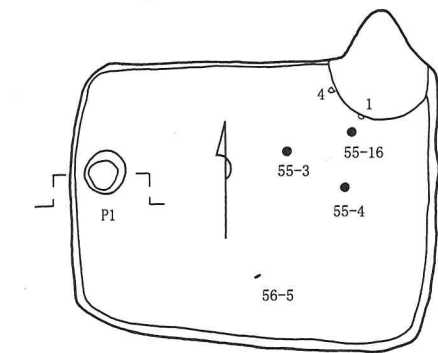
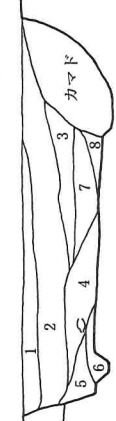
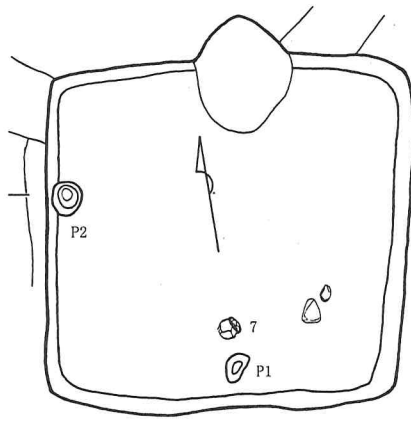
1. 黒色土 (焼土粒少量混)
2. 暗褐色土 (ローム粒多量, 焼土粒少量混)
3. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混)
4. 黒褐色土
5. 暗褐色土 (ローム粒・塊主体, 黒褐色土混)
6. 黄褐色土 (ローム主体, 焼土粒少量混)



92.7

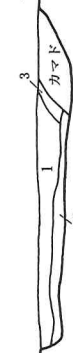


土層40頁
SI-159カマド2(1:40)



93.0

1. 黒色土 (ローム・粘土粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム・粘土粒混)
3. 黒褐色土 (焼土・炭化物粒混)

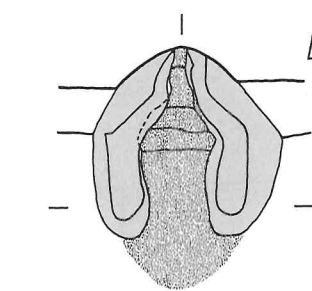


SI-163(1:80)

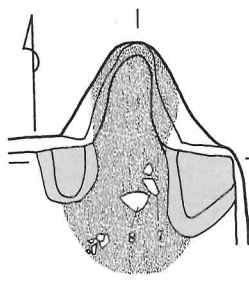
93.0



SI-160(1:80)



92.7

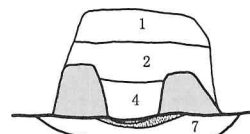


92.7



SI-163カマド(1:40)

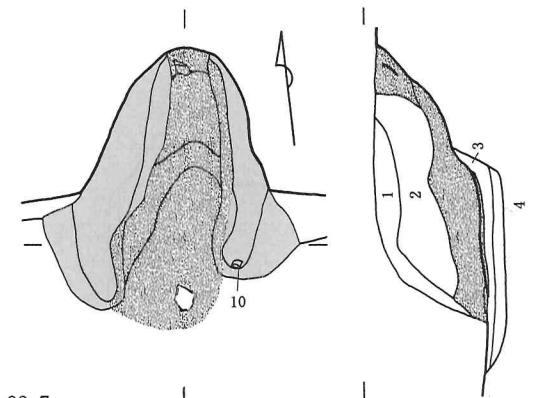
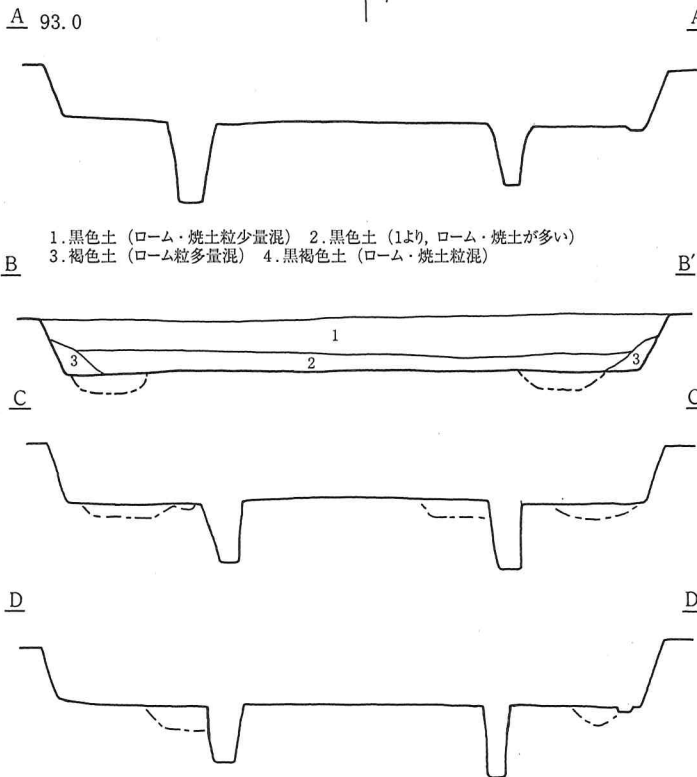
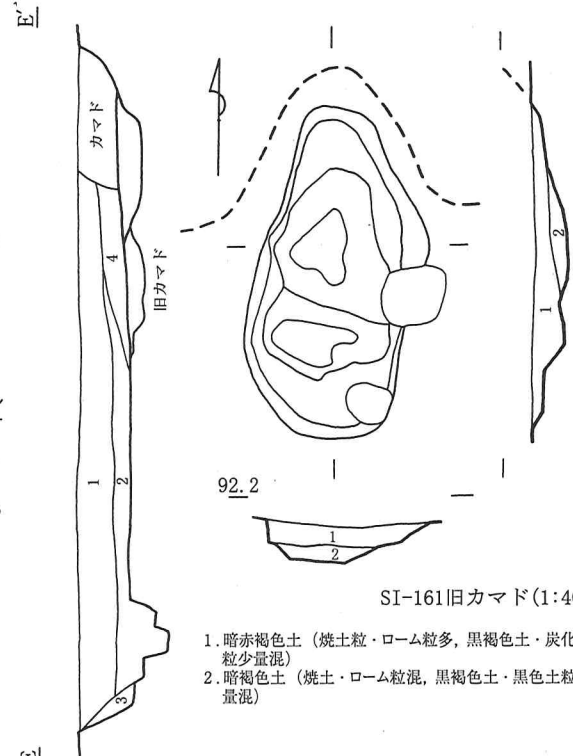
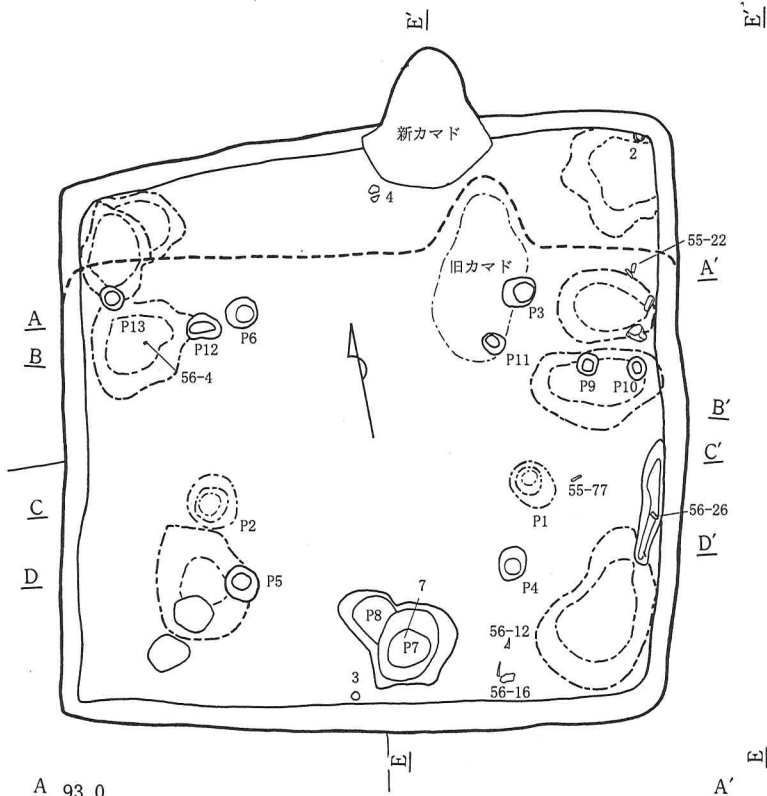
1. 黒褐色土 (焼土・炭化物粒微量混)
2. 暗褐色土 (焼土粒少量・粘土粒微量混)



土層42頁
SI-160カマド(1:40)

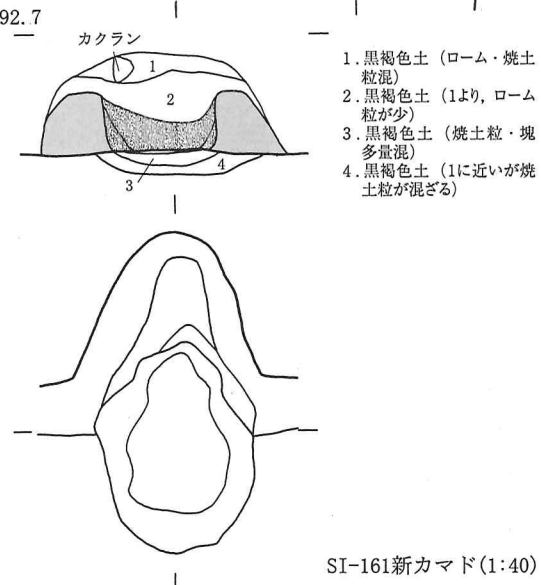
- SI-160
1. 黒色土 (ローム粒少量混)
2. 黒色土 (1よりローム粒やや多い)
3. 黒褐色土 (粘土・焼土)
4. 黒褐色土 (ローム粒多量混)
5. 黒色土
6. 黒褐色土
7. 黒褐色土 (粘土粒混)
8. 黒褐色土 (粘土・焼土粒少量混)

第11図 竪穴住居跡(8) SI-159カ・160・163

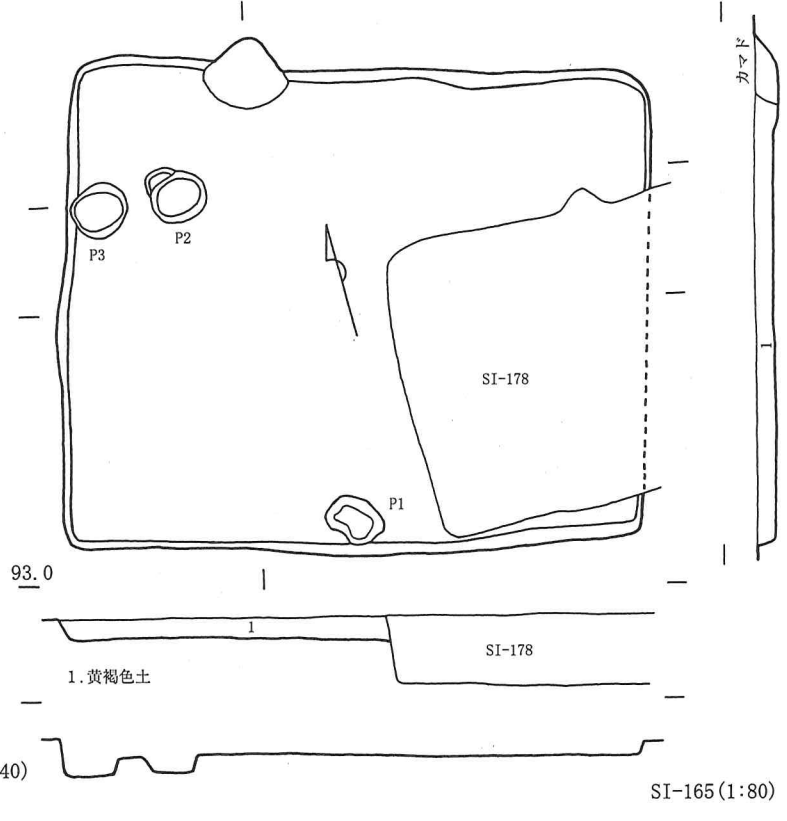
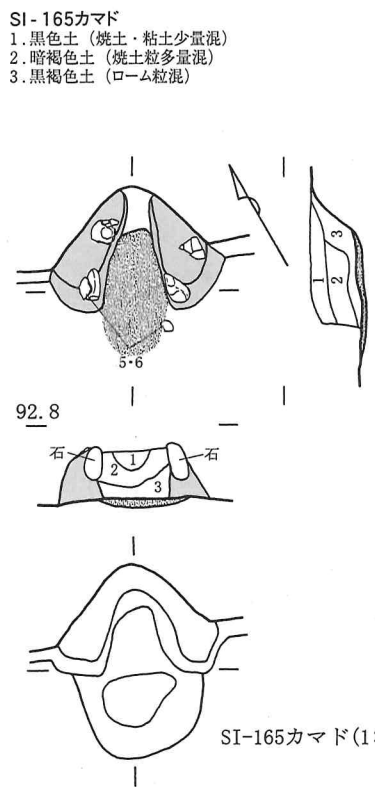
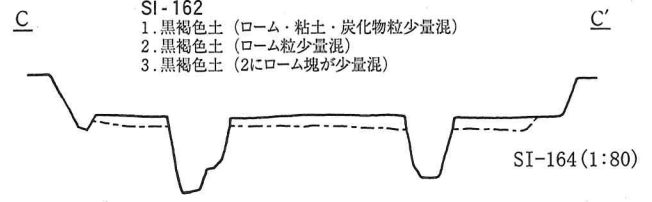
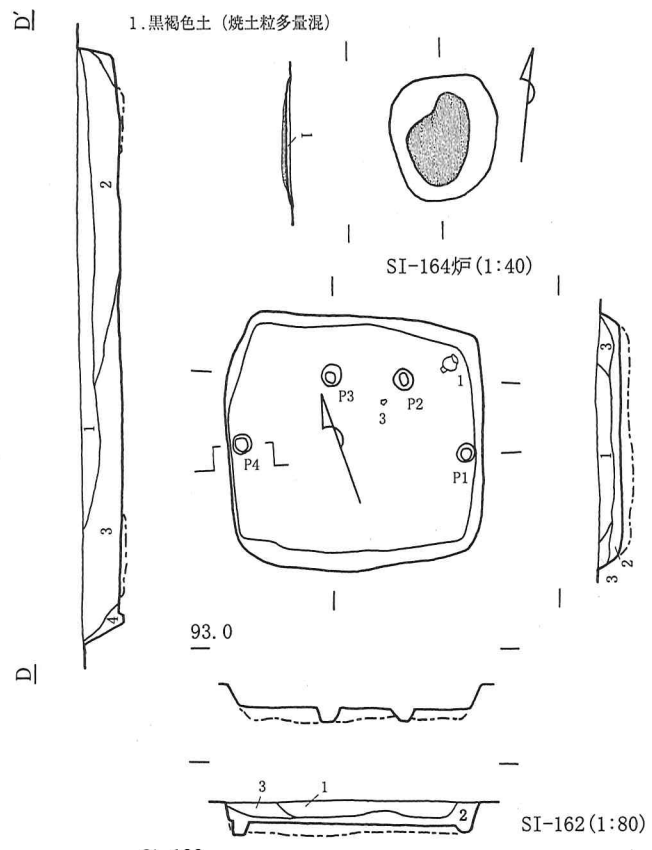
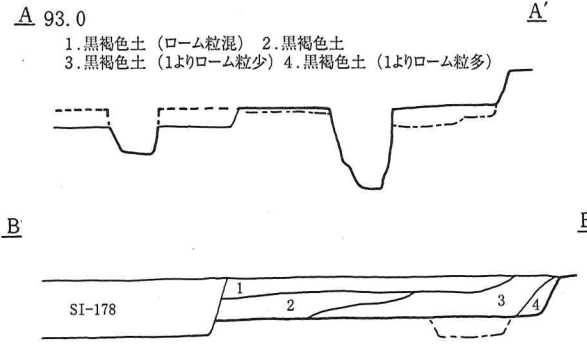
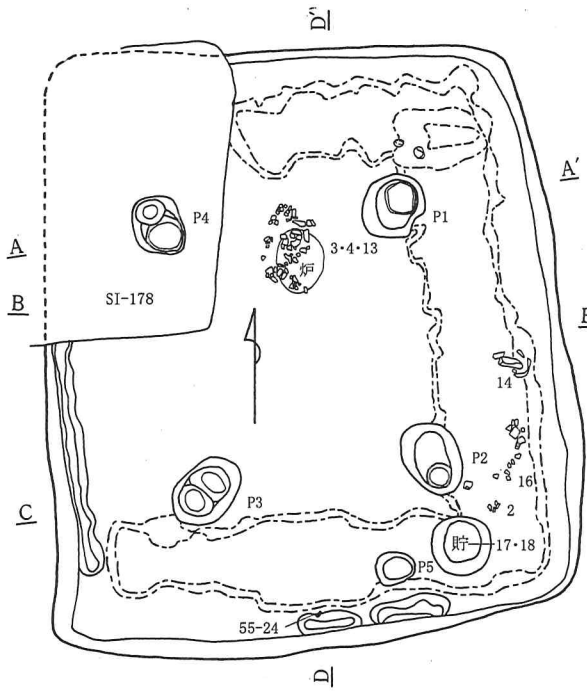


- SI-160カマド
1. 黒色土 (ローム・粘土粒混)
 2. 黒褐色土 (ローム粒・塊, 粘土粒・塊の混合土に焼土粒, 炭化物粒混)
 3. 暗赤褐色土 (焼土粒少量, 粘土粒多量混)
 4. 黒色土 (焼土・粘土・炭化物粒混)
 5. 黒色土 (焼土粒少量, 粘土粒多量混)
 6. 黒褐色土 (ローム粒多量混)
 7. 暗褐色土 (ローム粒・塊主体, 黒色土, 焼土, 炭化物混)
 8. 暗褐色土 (7より焼土がやや多い)
 9. 黒色土 (ローム・焼土・粘土粒少量混)

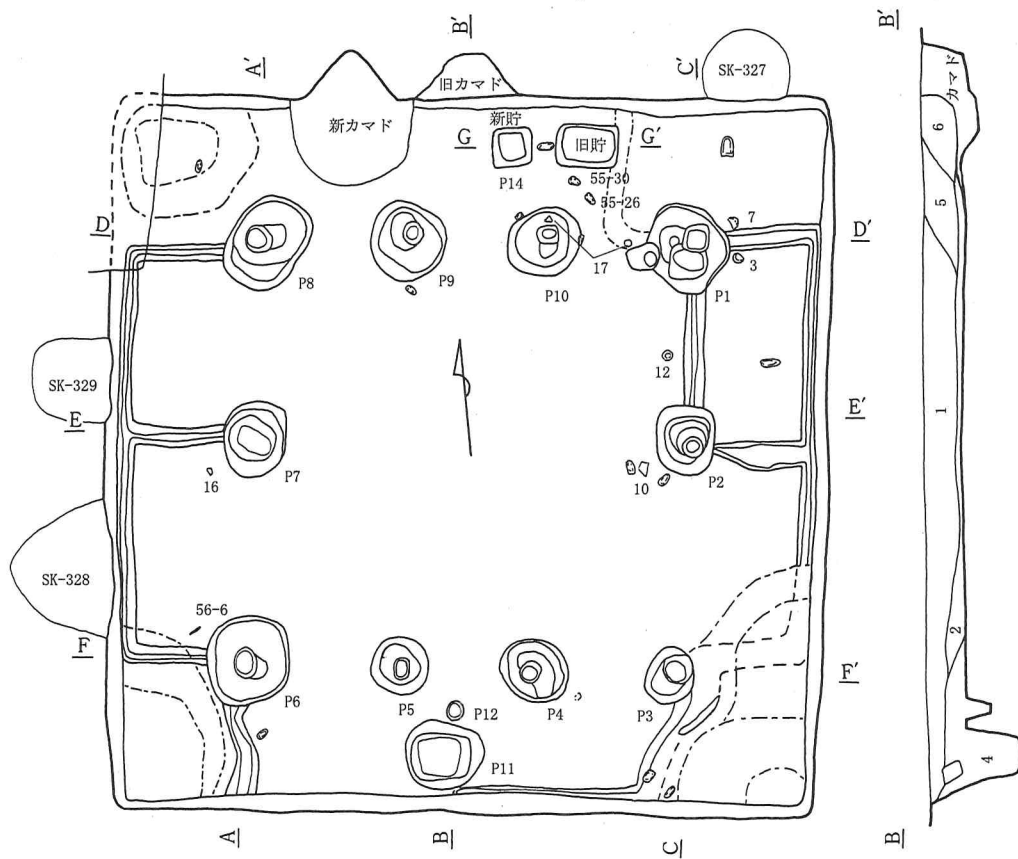
SI-161(1:80)



第12図 竪穴住居跡 (9) SI-161



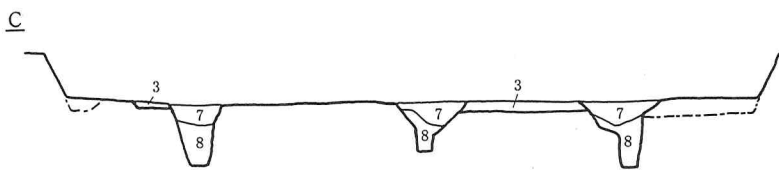
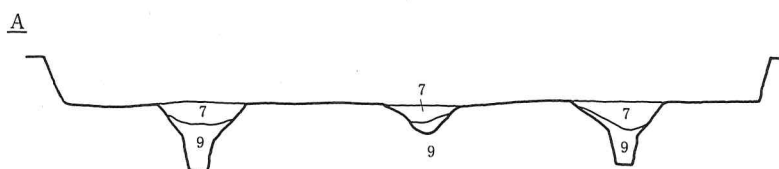
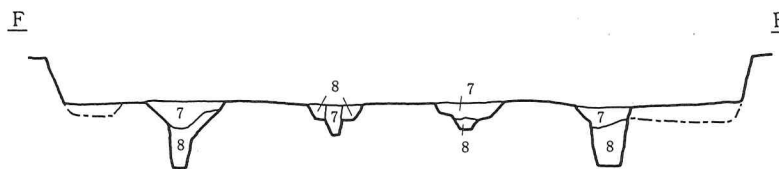
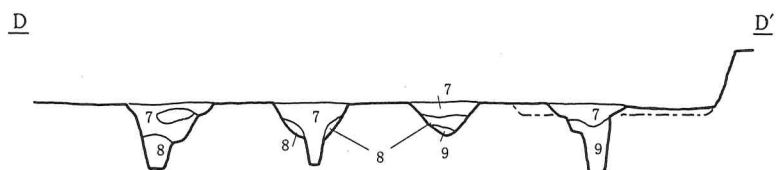
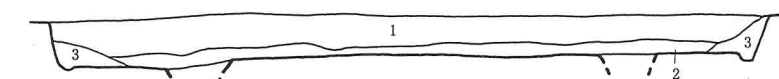
第13図 竪穴住居跡 (10) SI-162・164・165



SI-167旧カマド

1. 暗黒色土 (粘土粒混)
2. 暗灰褐色土 (粘土粒少量混)
3. 灰褐色土 (ローム粒多量, 焼土・粘土粒混)
4. 暗褐色土 (ローム・焼土粒混)
5. 灰黄褐色土 (ローム粒・塊多量, 焼土粒少量混)
6. 灰褐色土 (ローム塊多量, 粘土粒少量混)
7. 黒褐色土 (ローム粒・塊少量混)
8. 暗褐色土 (4より焼土粒少ない)

E 90.2



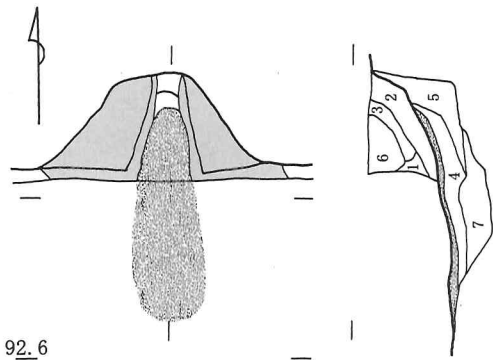
1. 黒褐色土 (ローム・粘土粒少量混)
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土 (ローム粒多混)
4. 褐色土 (ローム粒少量混)
5. 黒褐色土 (粘土粒少量混)
6. 黒褐色土 (5より粘土粒多い)
7. 黒褐色土 (2と同じ)
8. 黄褐色土 (ローム粒・塊多量混)
9. 黄褐色土 (8よりローム塊少)

SI-167新カマド

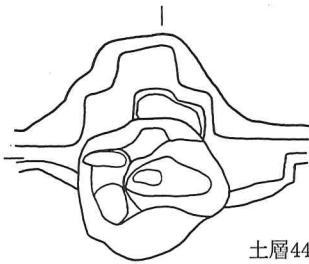
1. 暗褐色土 (ローム・粘土粒少量混)
2. 灰白色土 (ローム粒混, 粘土質)
3. 灰白色土 (2よりローム少, 粘土粒混)
4. 暗黄褐色土 (ローム・粘土粒混)
5. 暗褐色土 (ローム・粘土粒混, 焼土粒少量混)
6. 暗黄灰色土 (粘土粒・塊を主体, ローム粒混)
7. 暗灰褐色土 (ローム粒・粘土・焼土粒混)
8. 黒褐色土 (黄褐色土・粘土粒混)

SI-167(1:80)

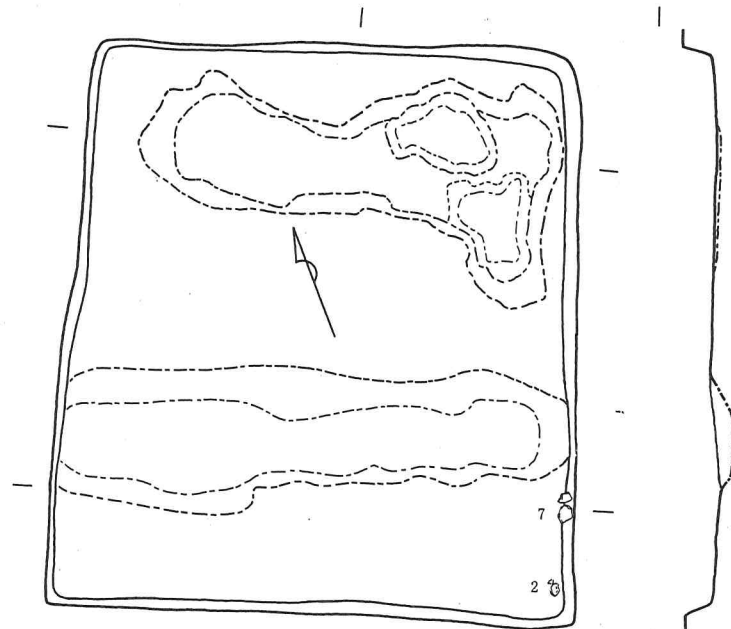
第14図 竪穴住居跡 (11) SI-167



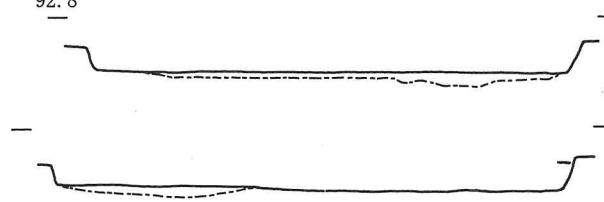
92.6



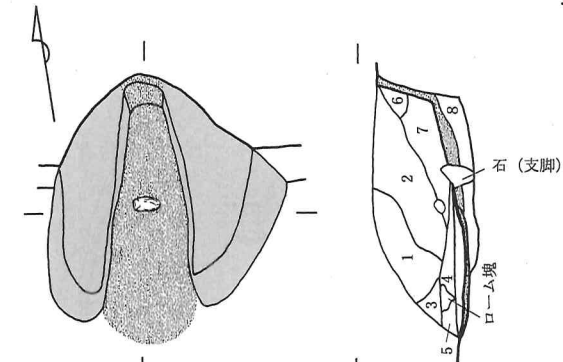
土層44頁
SI-167旧カマド(1:40)



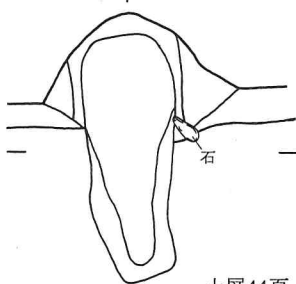
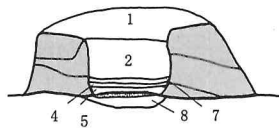
92.8



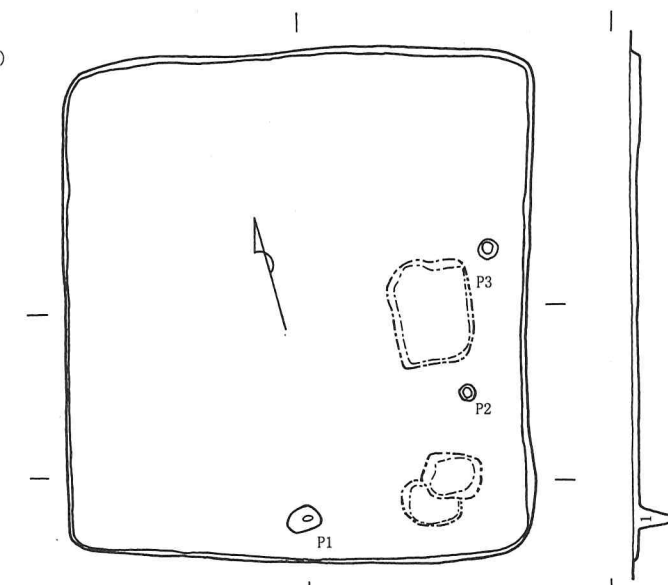
SI-166(1:80)



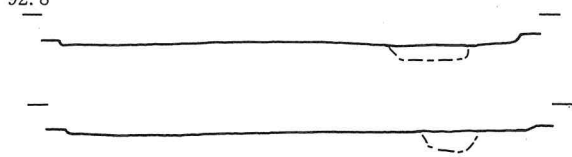
92.6



土層44頁
SI-167新カマド(1:40)



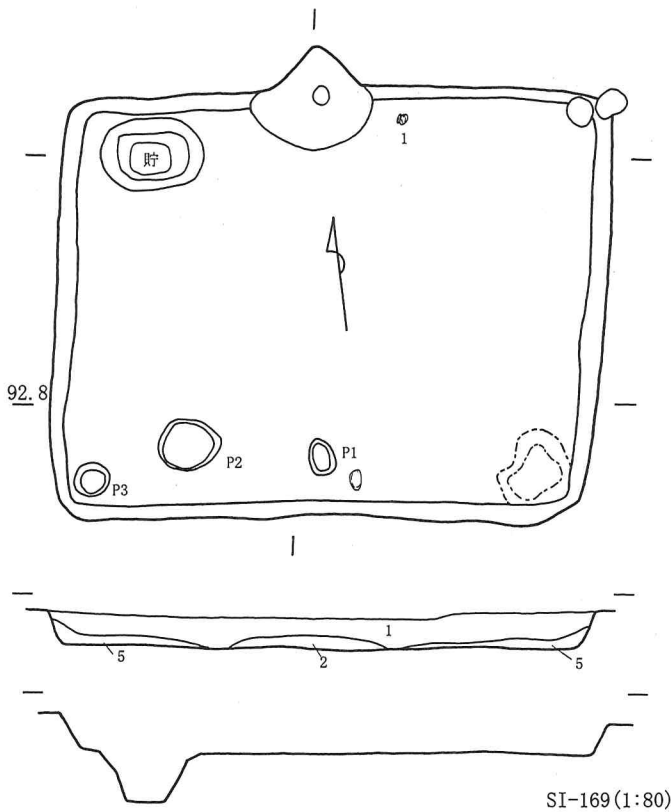
92.8



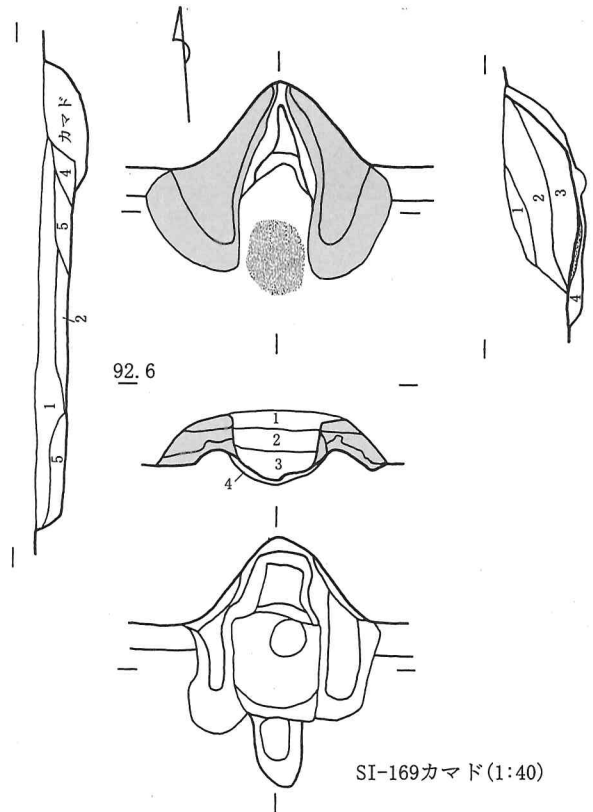
1. 黒褐色土(ローム粒・塊微量混)

SI-168(1:80)

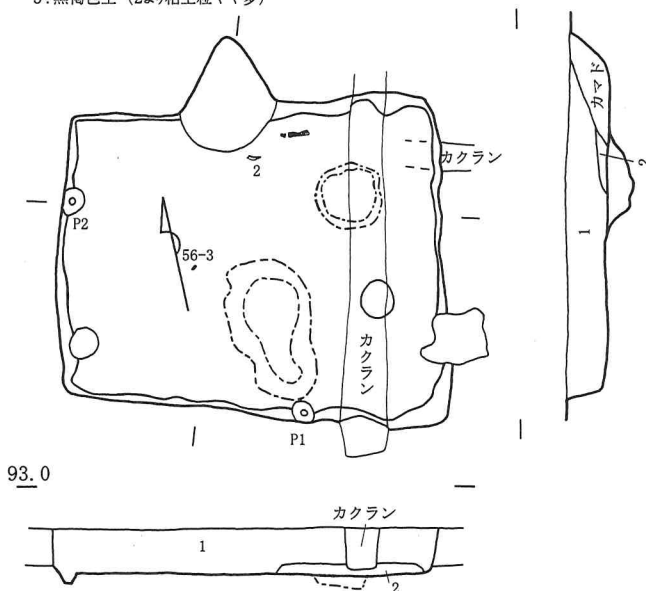
第15図 竪穴住居跡(12) SI-167カ・166・168



1. 黒褐色土
2. 黒褐色土 (ローム・粘土粒少量混)
3. 灰褐色土 (粘土粒主体, 黒褐色土少量混)
4. 灰褐色土 (3より粘土粒やや多)
5. 黒褐色土 (2より粘土粒やや多)



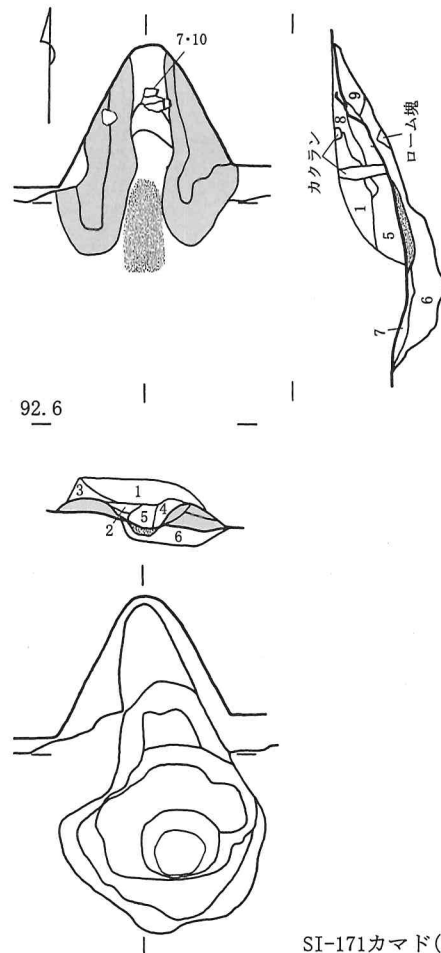
1. 暗褐色土 (粘土粒少量混)
2. 暗灰褐色土 (ローム・粘土粒混)
3. 暗灰褐色土 (焼土粒・塊, 粘土粒少量混)
4. 褐色土 (ローム・塊多量混)



1. 黒褐色土 (ローム粒混)
2. 黒褐色土 (1に焼土粒微量混)

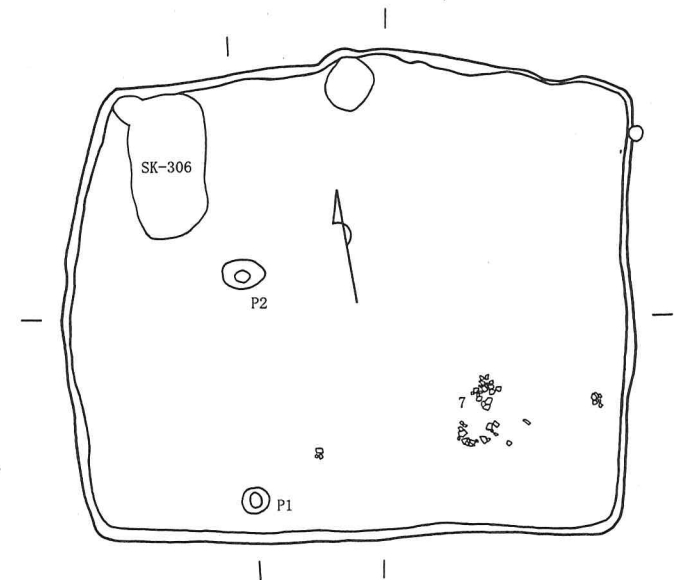
SI-171カマド

1. 黒色土 (ローム・焼土・粘土粒混)
2. 黒色土 (粘土粒混)
3. 暗黄褐色土 (ローム粒多量混)
4. 暗黒褐色土 (粘土粒多, 焼土粒少量混)
5. 灰褐色土 (粘土粒主体, 褐色土・焼土・ローム粒少量混)
6. 黒褐色土 (ローム粒少, 粘土・焼土粒多量混)
7. 黒色土 (ローム・焼土粒混)
8. 黒褐色土 (焼土粒多, 粘土粒少量混)
9. 黒褐色土 (ローム・粘土粒少量混)



SI-171カマド(1:40)

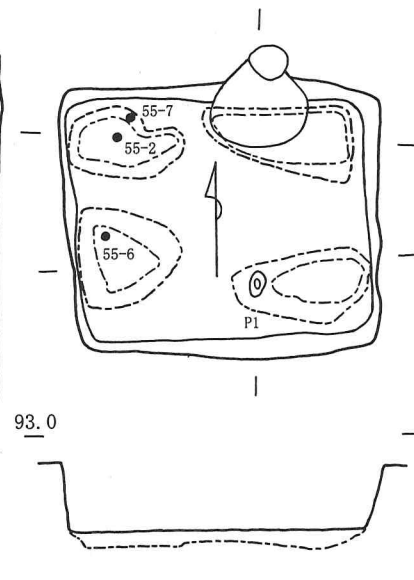
第16図 竪穴住居跡 (13) SI-169・171



92.8

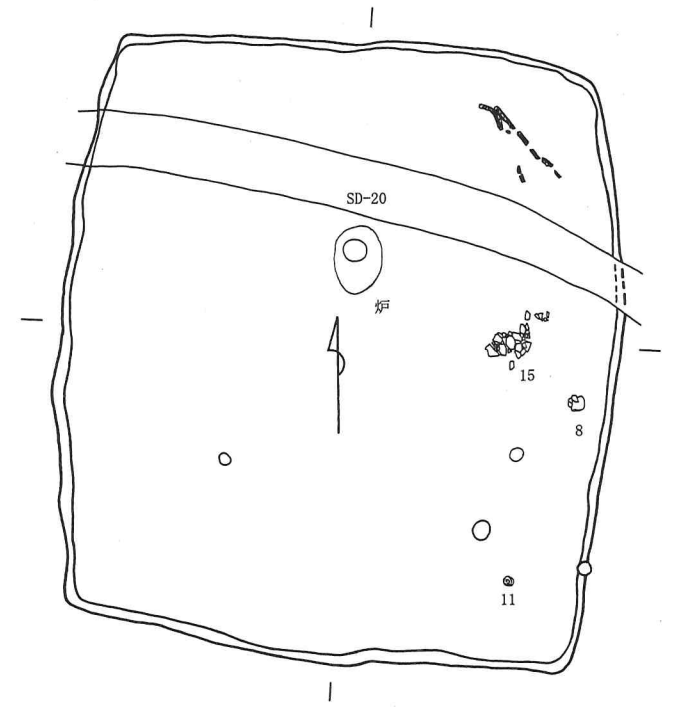
1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)

SI-170(1:80)



93.0

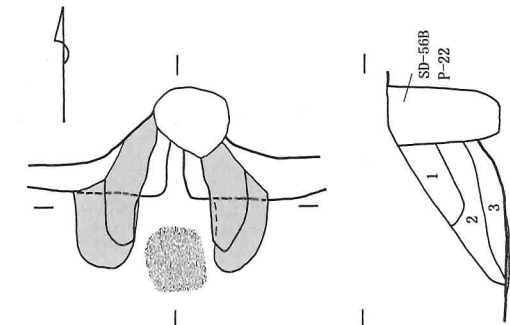
SI-174(1:80)



92.8

1. 褐色土 (ローム粒少量混)

SI-173(1:80)



92.7

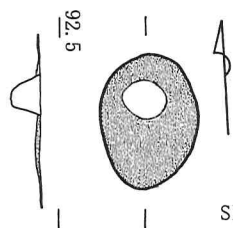
SI-174カマド(1:40)

SI-174

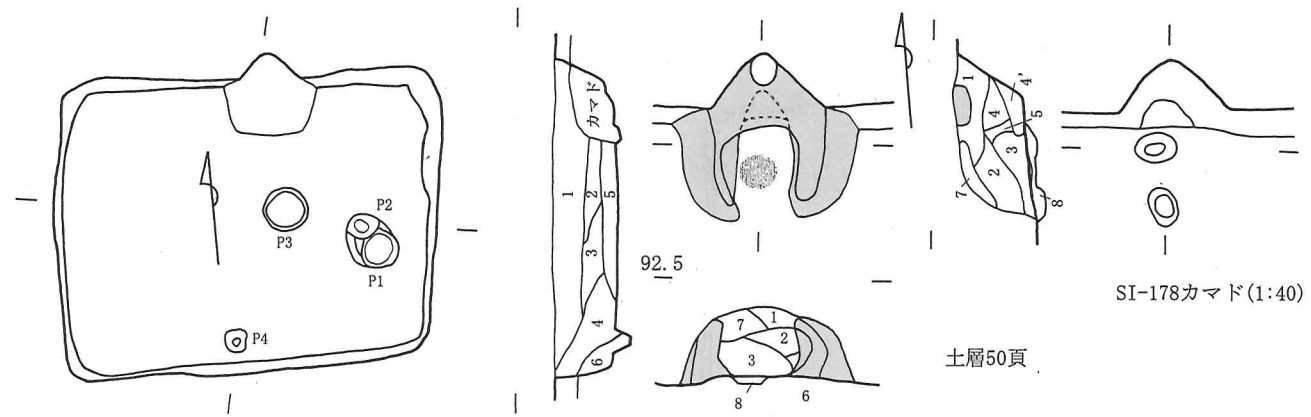
- 1. 褐色土 (ローム粒・塊多量混)
- 2. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
- 3. 黒色土 (ローム粒少量混)
- 4. 黒褐色土 (粘土粒混)
- 5. 黒色土 (2よりローム粒やや多)

SI-174カマド

- 1. 黒褐色土
- 2. 灰褐色土 (粒土粒少量混)
- 3. 暗灰褐色土 (灰色粒土粒, ローム粒少量混)

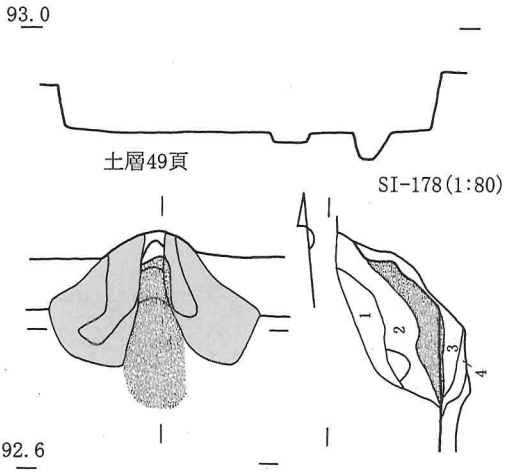


SI-173炉(1:40)



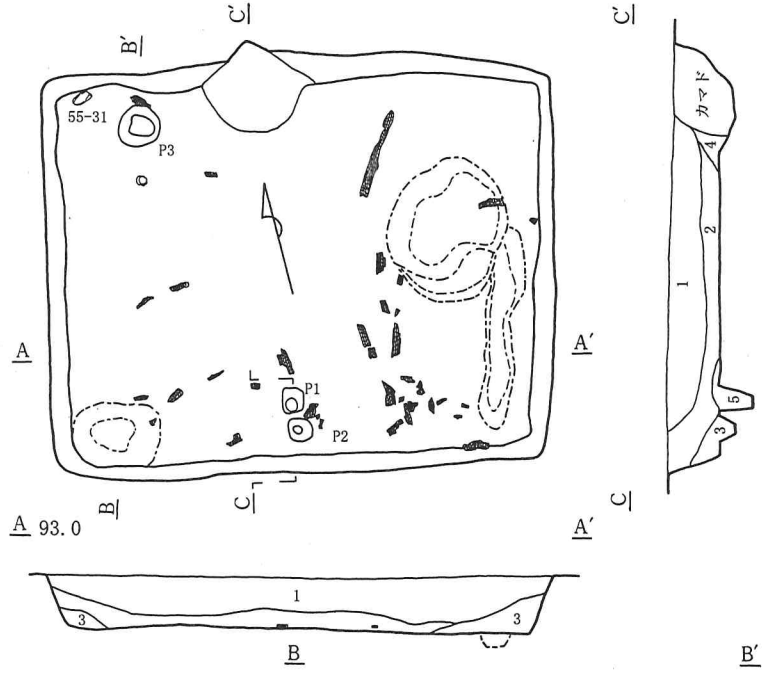
SI-178カマド(1:40)

土層50頁



SI-178(1:80)

92.6



A 93.0 B C A' C'

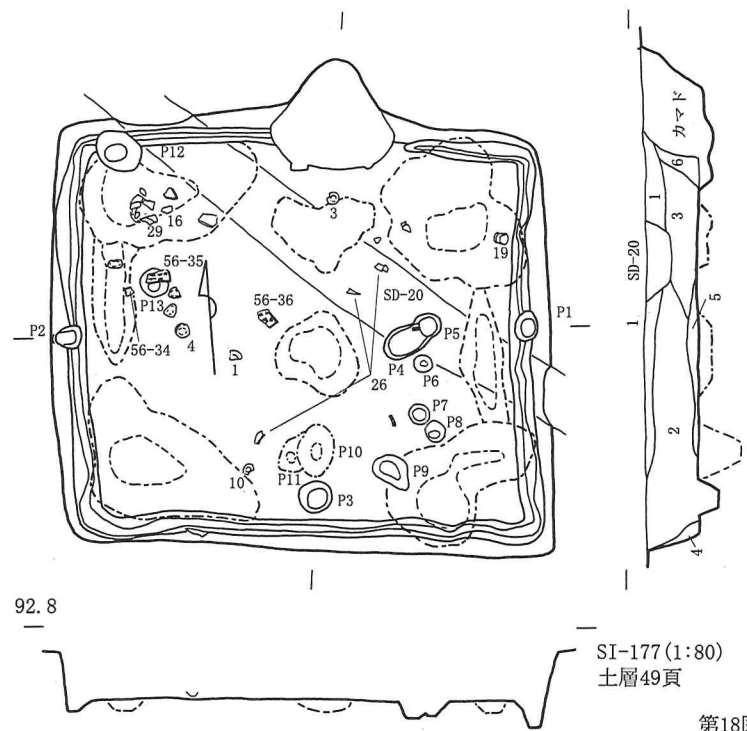
B

B'

- 1. 黒褐色土 (焼土粒混, ローム粒多量混)
- 2. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混, 炭化物粒少量混)
- 3. 黒褐色土 (ローム・焼土・炭化物粒少量混)
- 4. 黒褐色土 (ローム粒・塊混)

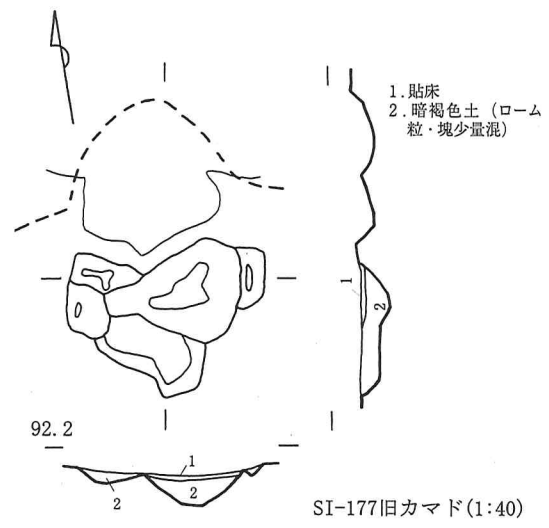
SI-175カマド(1:40)

土層49頁 SI-175(1:80)



SI-177(1:80)
土層49頁

92.8

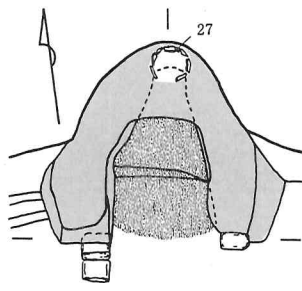


SI-177旧カマド(1:40)

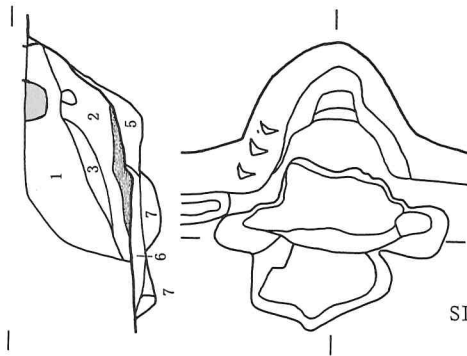
92.2

- 1. 貼床
- 2. 暗褐色土 (ローム粒・塊少量混)

第18図 竪穴住居跡 (15) SI-175・177・178

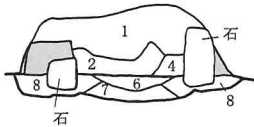


92.70



SI-177新カマド(1:40)

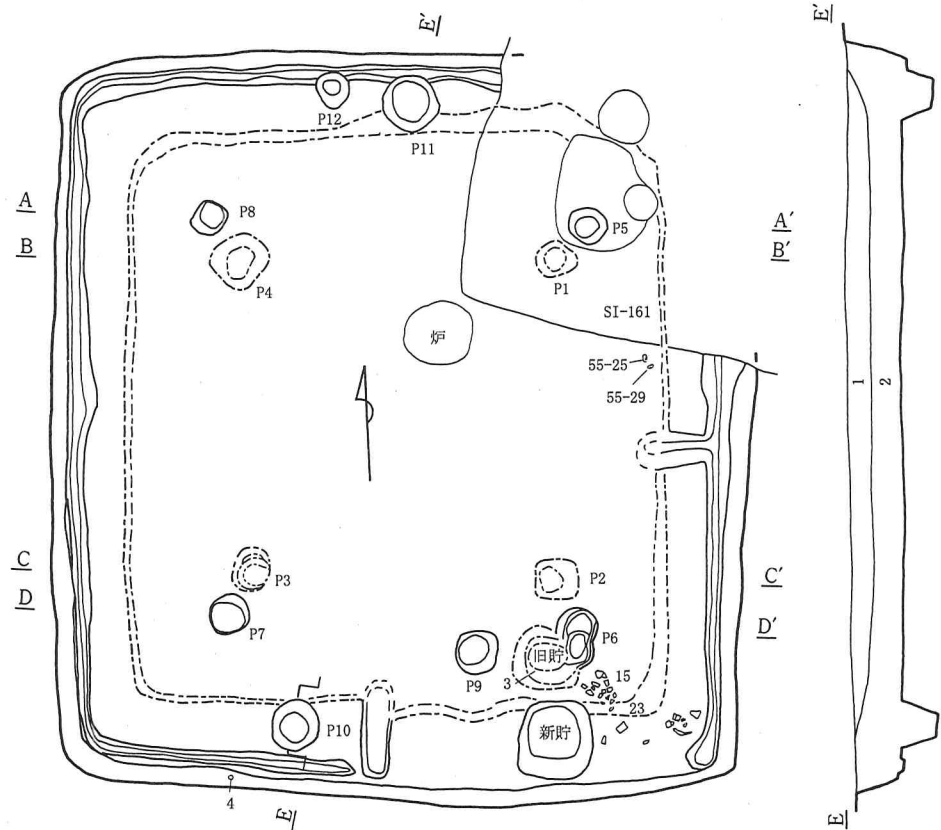
1. 暗褐色土 (粘土粒混)
2. 暗褐色土 (粘土粒多, 焼土粒少量混)
3. 暗褐色土 (1より粘土粒やや多)
4. 暗褐色土 (焼土・粘土粒多量混)
5. 暗褐色土 (焼土粒, 粘土塊少量混)
6. 暗褐色土 (焼土塊多量混)
7. 黄褐色土 (ローム粒・塊主体)
8. 暗褐色土 (ローム塊少量混)



92.0

SI-176炉(1:40)

1. 黒褐色土 (ローム粒・焼土粒混)



SI-176(1:80)

SI - 177

1. 黒褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混)
3. 褐色土 (ローム粒多量混)
4. 黒褐色土 (ローム粒混)
5. 褐色土 (焼土粒多, 炭化物粒少量混)
6. 黄褐色土 (ローム粒・炭化物粒少, 焼土粒多量混)

SI - 178

1. 黒色土 (ローム粒5%混)
2. 黒色土 (ローム粒10%混)
3. 黒褐色土 (ローム粒15%混)
4. 黒褐色土 (ローム粒・塊多量混)
5. 褐色土 (ローム粒多量混)
6. 黄褐色土 (ローム粒主体)

SI - 175

1. 黒色土 (ローム少量混)
2. 暗褐色土 (ローム粒・塊多量, 炭化物粒少量混)
3. 暗褐色土 (ローム粒混)
4. 褐色土 (ローム粒多量, 焼土粒・炭化物粒少量混)
5. 黒褐色土 (ローム粒・塊, 焼土粒混, 炭化物粒少量混)

A 93.0

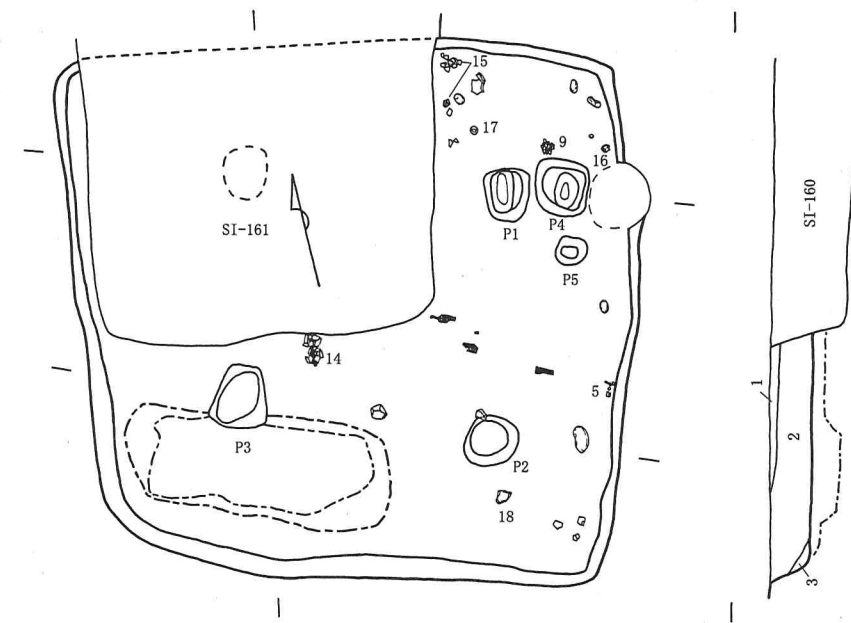
1. 黒色土 (ローム・粘土粒多量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒多, 粘土粒少量混)

B

C

D

第19図 竪穴住居跡 (16) SI-177カ・176



SI-178カマド

1. 黒褐色土 (ローム・粘土粒少量, 焼土微量混)
2. 暗褐色土 (粘土粒多, 焼土粒微量混)
3. 暗褐色土 (焼土粒20%, 粘土粒10%, 灰多量混)
4. 灰黄色土 (粘土・ローム粒多, 黒色土・焼土少量混)
- 4'. 4に近いが灰, 炭化物少量混
5. 黒褐色土 (粘土粒多, 焼土・黒色土粒混)
6. にぶい黄褐色土 (ローム主体, 焼土・黒褐色土粒少量混)
7. 黄褐色粘土 (柳築材の崩れ)
8. 黒褐色土 (カーボン主体) と焼土粒・塊の混合土 (粘土粒混)

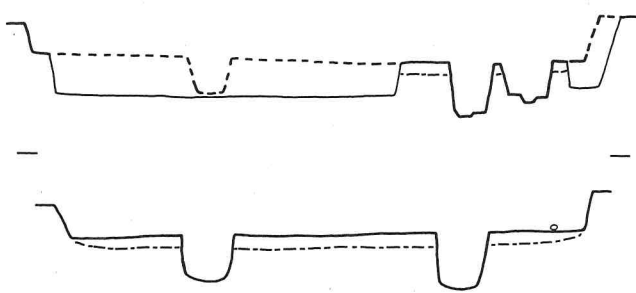
SI-179

1. 黒色土
2. 黒色土 (ローム粒少量混)
3. 暗褐色土 (ローム粒・塊混)

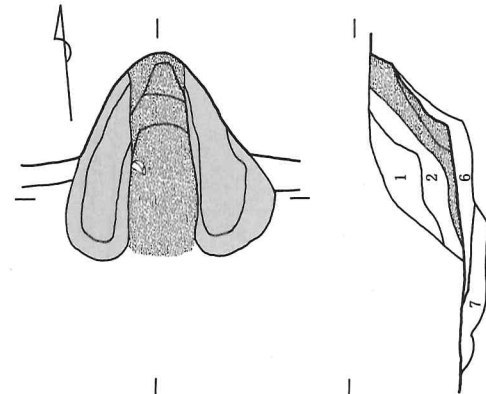
SI-180カマド

1. 暗褐色土 (粘土粒・塊混)
2. 暗褐色土 (黒色土塊, 焼土粒・塊混)
3. 赤褐色土 (焼土主体, 暗褐色土, 灰混)
4. 灰褐色粘土 (落下天井か)
5. 黄灰色粘土と暗褐色土の混合土
6. 暗赤褐色土 (焼土主体, 落下天井か)
7. 黒褐色土 (ローム粒・塊混)

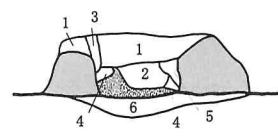
93.0



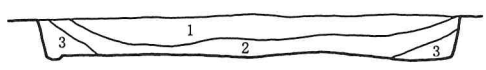
SI-179 (1:80)



92.6

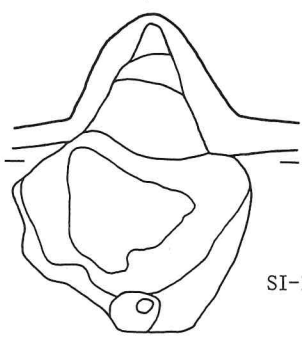


93.0



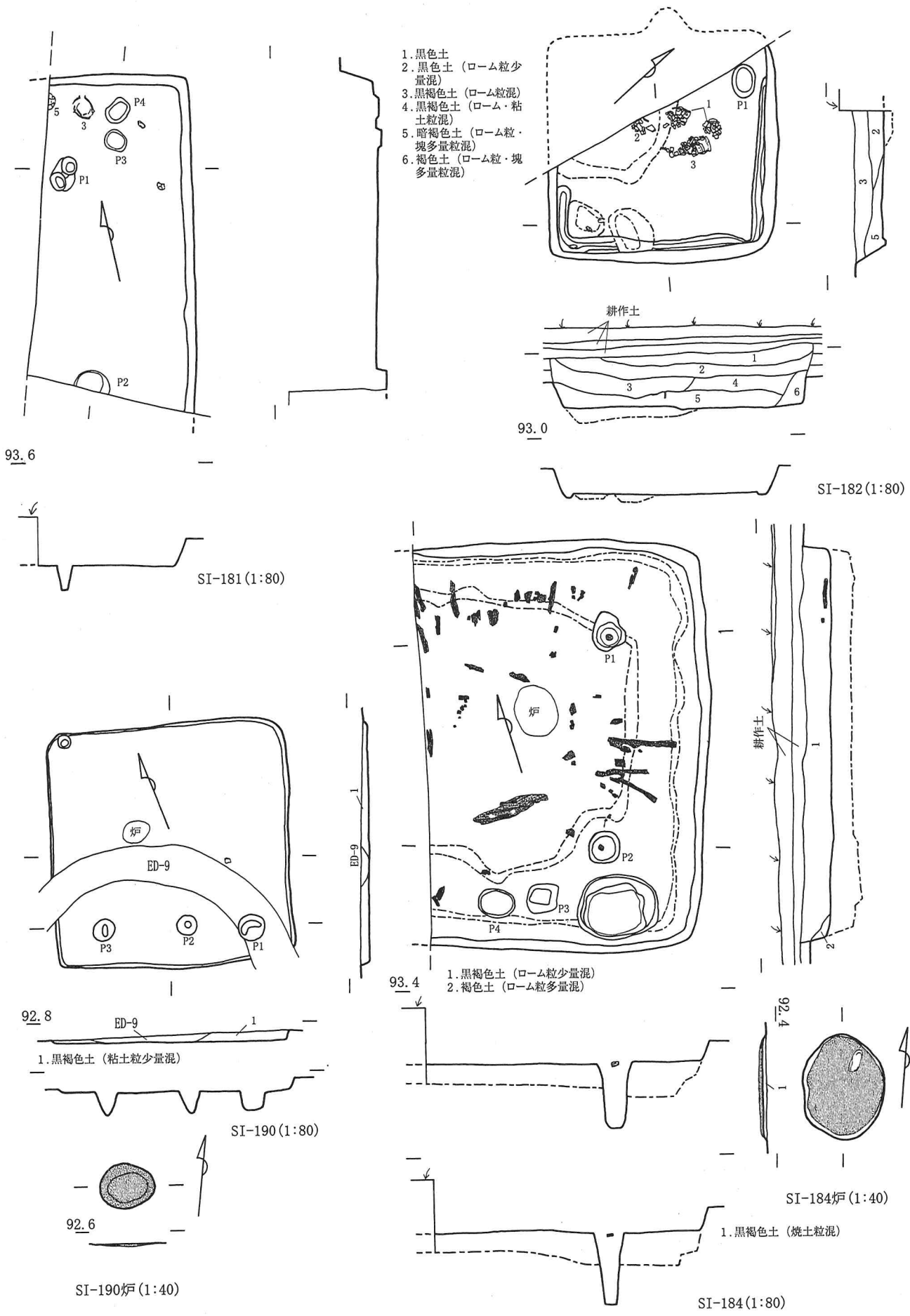
1. 黒色土 (ローム・焼土粒少量混)
2. 黒色土 (ローム粒混)
3. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
4. 黒褐色土 (焼土・ローム粒混)
5. 褐色土 (ローム粒多, 焼土粒少量混)

SI-180 (1:80)

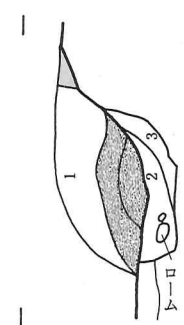
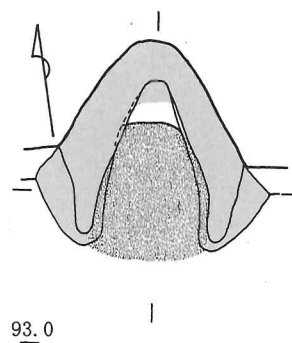
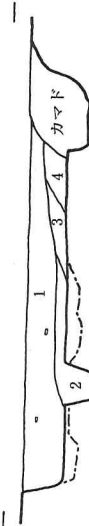
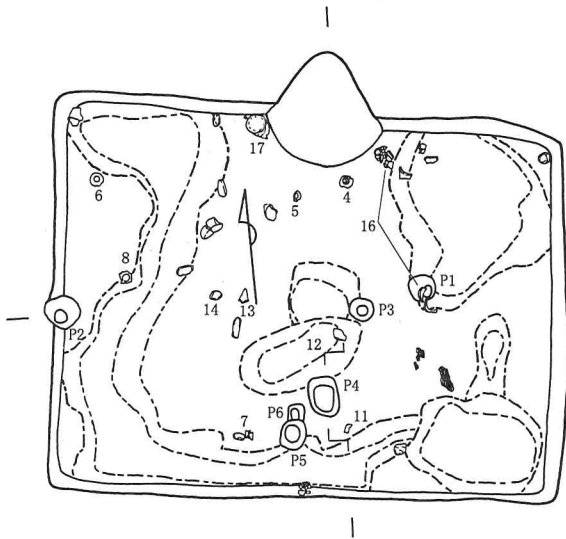


SI-180カマド (1:40)

第20図 竪穴住居跡 (17) SI-179・180



第21図 竪穴住居跡 (18) SI-181・182・184・190

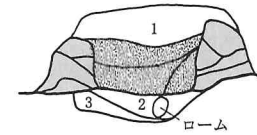


93.0

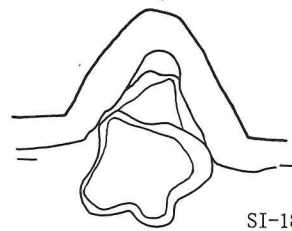


- 1. 黒褐色土 (焼土粒微量, ローム粒混)
- 2. 黒褐色土 (ローム粒混)
- 3. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混)
- 4. 褐色土 (粘土粒少量混)

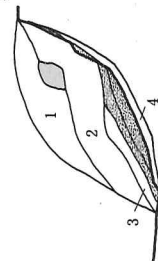
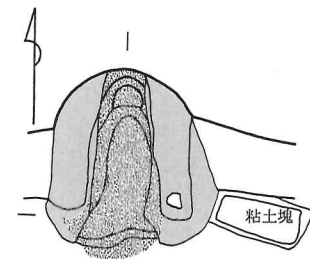
SI-185(1:80)



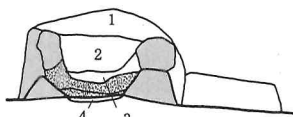
- 1. 暗褐色土 (ローム粒・焼土塊多量混)
- 2. 黄褐色土 (焼土粒, ローム塊混)
- 3. 黄褐色土 (焼土粒少量混)



SI-185カマド(1:40)

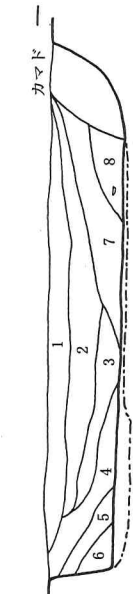
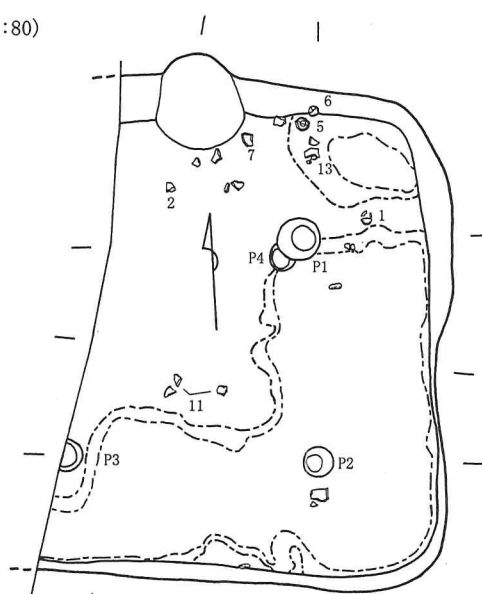


92.7



- 1. 黄灰色土 (暗褐色土, 焼土粒混)
- 2. 1より焼土やや多
- 3. 2より焼土多
- 4. 暗褐色土 (ローム粒・塊混)

SI-183カマド(1:40)

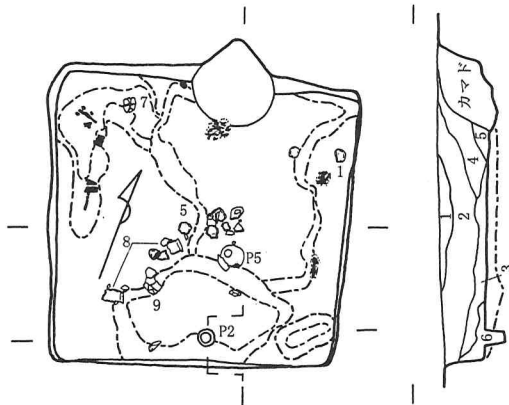


92.8

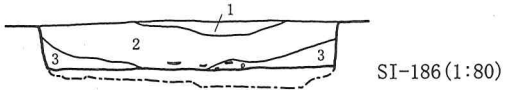


- 1. 黒色土 (ローム粒少量混)
- 2. 黒色土 (ローム・炭化物粒少量混)
- 3. 黒色土 (ローム粒多, 炭化物粒少量混)
- 4. 褐色土 (ローム粒・塊多量混)
- 5. 暗褐色土 (ローム粒・塊混)
- 6. 黒色土 (ローム塊微量混)
- 7. 暗赤褐色土 (焼土粒・塊多量混)
- 8. 赤褐色土 (焼土粒・塊主体)

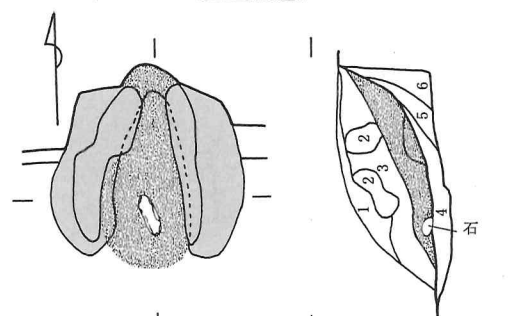
SI-183(1:80)



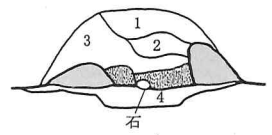
93.4



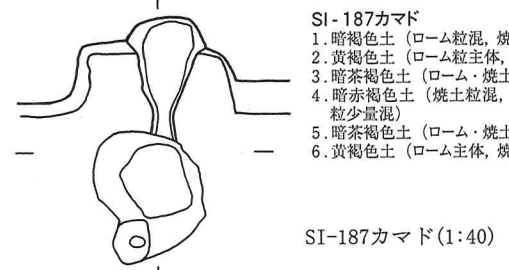
SI-186 (1:80)



92.6

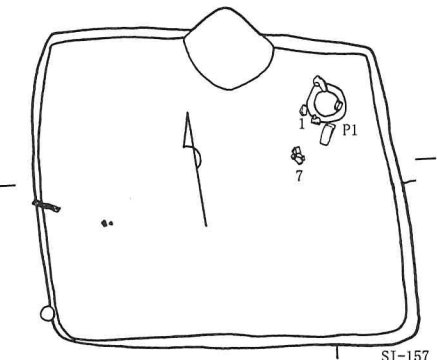


- SI-186
1. 黒色土 (ローム粒少量混)
 2. 黒褐色土 (ローム粒多量混)
 3. 褐色土 (ローム粒・塊少量混)
 4. 黒褐色土 (粘土・ローム粒少量混)
 5. 灰褐色土 (粘土粒多量混)
 6. 褐色土



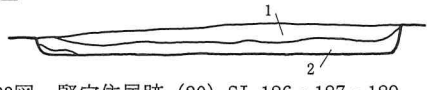
- SI-187カマド
1. 暗褐色土 (ローム粒混, 焼土粒少量混)
 2. 黄褐色土 (ローム粒主体, 焼土粒微量含)
 3. 暗茶褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
 4. 暗赤褐色土 (焼土粒混, ローム・炭化物粒少量混)
 5. 暗茶褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
 6. 黄褐色土 (ローム主体, 焼土粒少量混)

SI-187カマド (1:40)

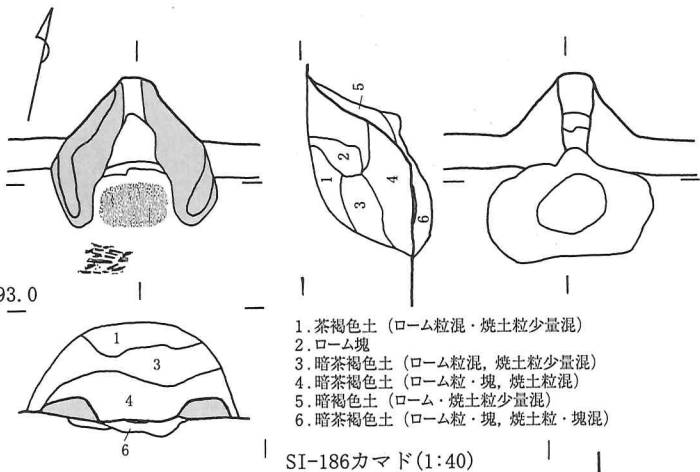


SI-157

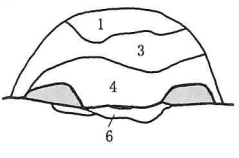
92.8



第23図 竪穴住居跡 (20) SI-186・187・189

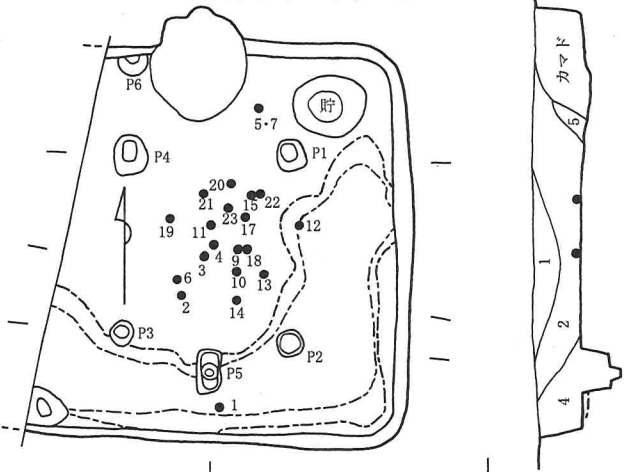


93.0

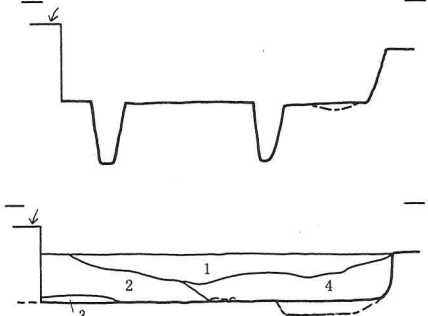


1. 茶褐色土 (ローム粒混・焼土粒少量混)
2. ローム塊
3. 暗茶褐色土 (ローム粒混, 焼土粒少量混)
4. 暗茶褐色土 (ローム粒・塊, 焼土粒混)
5. 暗褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
6. 暗茶褐色土 (ローム粒・塊, 焼土粒・塊混)

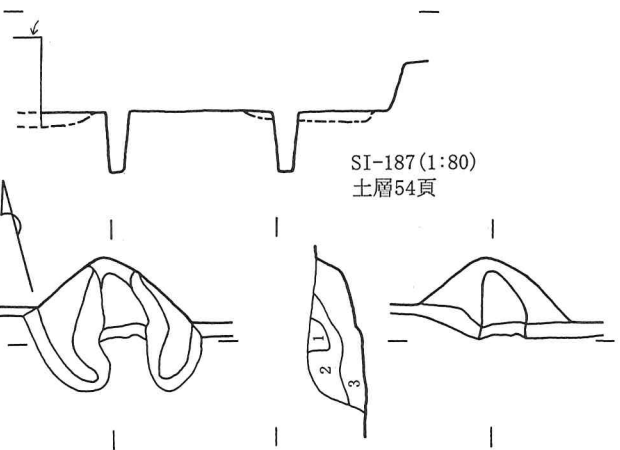
SI-186カマド (1:40)



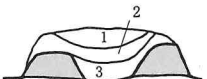
93.0



SI-187 (1:80)
土層54頁



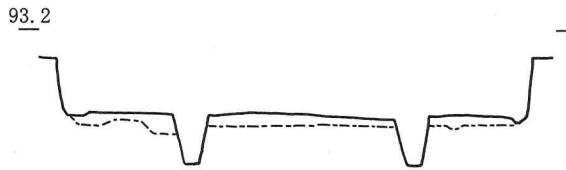
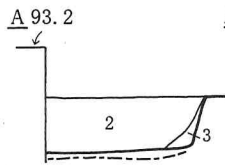
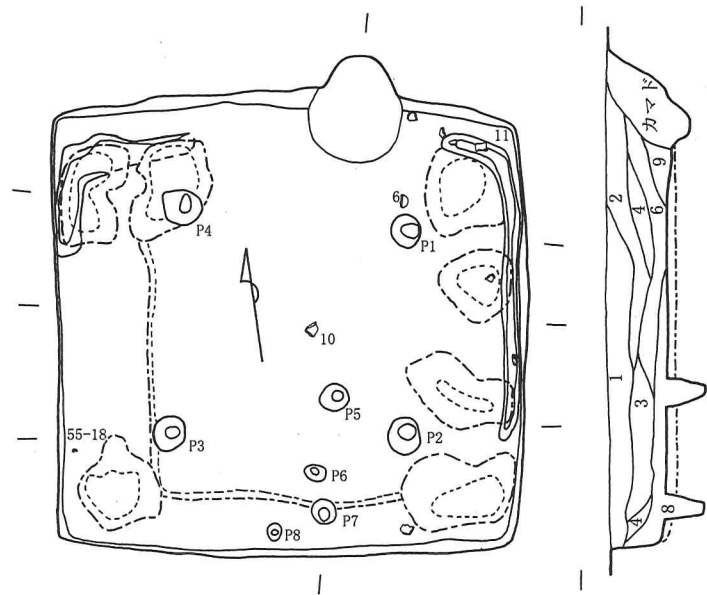
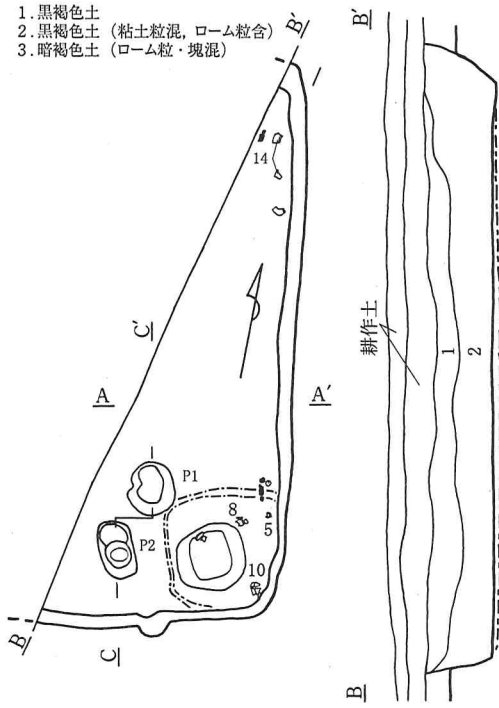
92.6



SI-189 (1:80)
土層55頁

SI-189カマド (1:40)
土層55頁

- 1. 黒褐色土
- 2. 黒褐色土 (粘土粒混, ローム粒含)
- 3. 暗褐色土 (ローム粒・塊混)

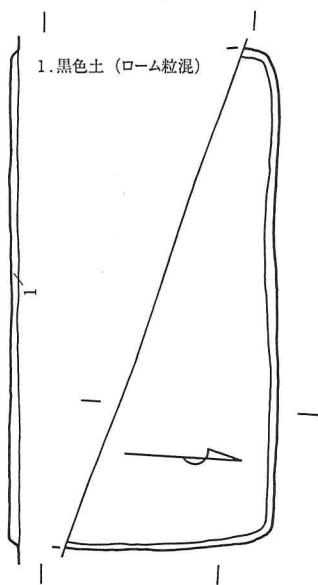


SI-187

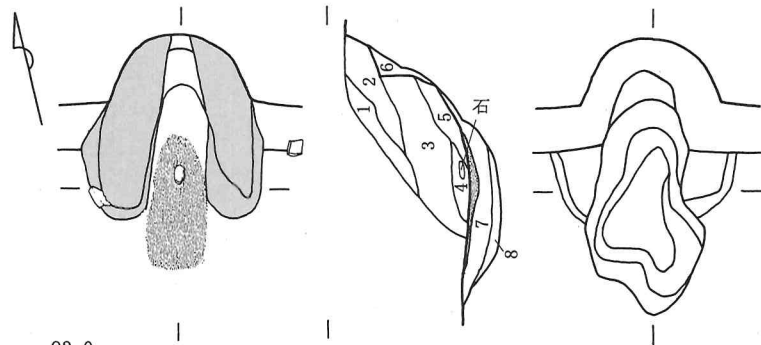
- 1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
- 2. 黒褐色土 (ローム粒混)
- 3. 暗褐色土 (ローム粒少量混)
- 4. 暗褐色土 (ローム粒混)
- 5. 褐色土 (ローム・焼土粒少量混)

SI-188 (1:80)

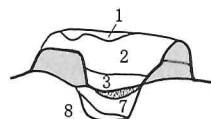
SI-194 (1:80)



SI-192 (1:80)



93.0



SI-194カマド (1:40)

- 1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
- 2. 赤褐色土 (ローム主体, 焼土粒10%混, 赤化する)
- 3. 黄色土 (ローム主体, 焼土粒混)
- 4. 褐色土 (焼土粒少, ローム粒多量混)
- 5. 灰褐色土 (灰主体)
- 6. 黄褐色土 (表面赤化)
- 7. 黒褐色土 (ローム・焼土・粘土少量粒混)
- 8. 褐色土 (粘土粒混)

SI-194

- 1. 黒褐色土 (ローム粒混, 焼土粒少量混)
- 2. 褐色土 (ローム粒少量混)
- 3. 黒褐色土 (ローム粒混)
- 4. 黒色土 (ローム粒少量混)
- 5. 黒褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
- 6. 褐色土 (ローム粒混・焼土粒少量混)
- 7. 褐色土 (ローム粒・塊混)
- 8. 褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
- 9. 赤褐色土 (カマドの崩れ)

第24図 竪穴住居跡 (21) SI-188・192・194

SI-189

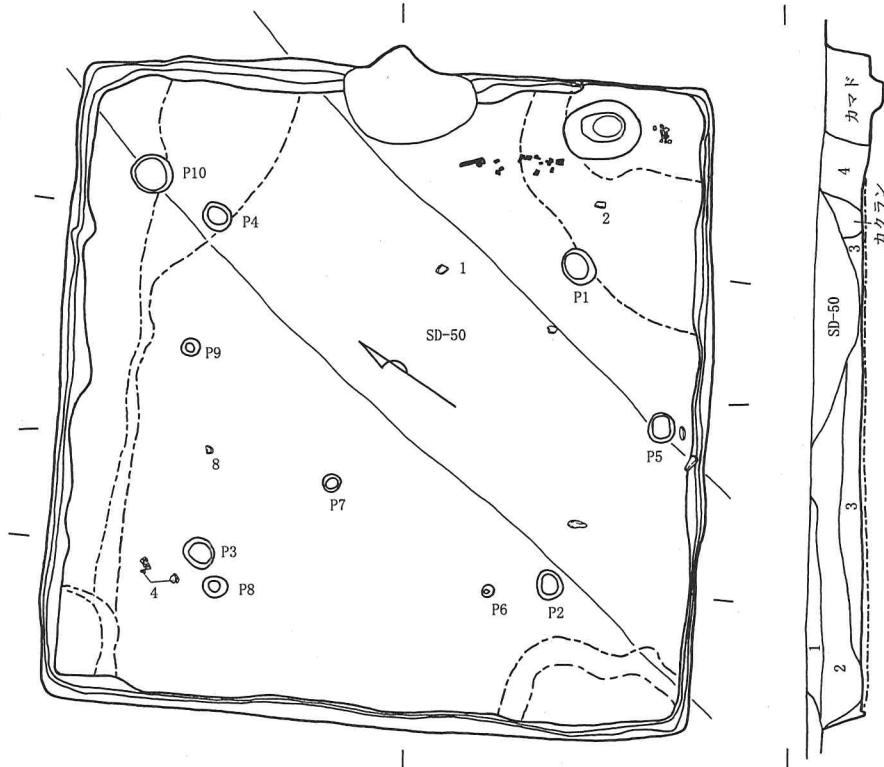
1. 黒色土 (焼土・粘土粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒・塊少量混)
3. 黒色土 (焼土粒少量混)
4. 黒褐色土 (焼土粒少量混)

SI-189カマド

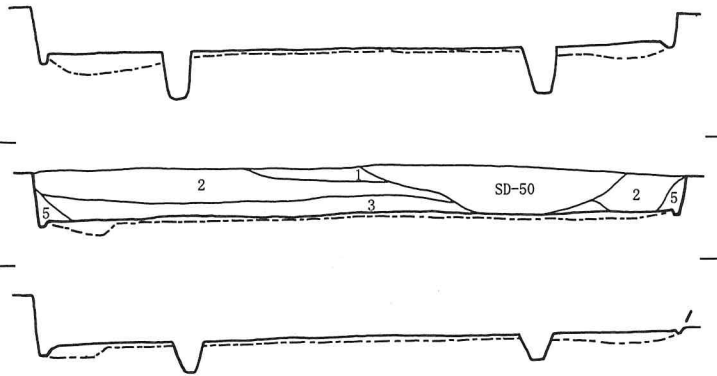
1. 黄褐色土 (ローム粒・焼土粒25%混)
2. 褐色土 (ローム粒・焼土粒10%混)
3. 褐色土 (ローム粒・焼土粒5%混)
4. 褐色土 (ローム粒・焼土粒7%混)

SI-191

1. 黒褐色土 (ローム・粘土粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒混, 炭化物粒少量混)
3. 褐色土 (ローム粒多量混)
4. 灰褐色土 (ローム・焼土粒混)
5. 褐色土 (ローム粒混, 塊含)



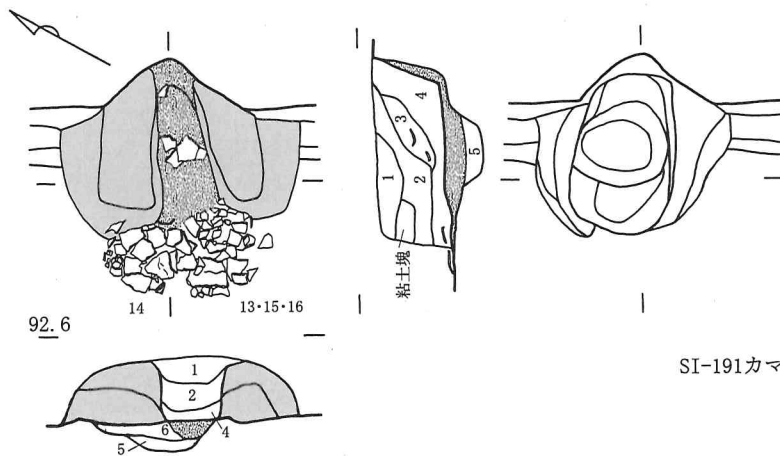
93.0



SI-191 (1:80)

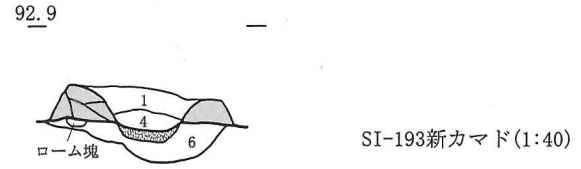
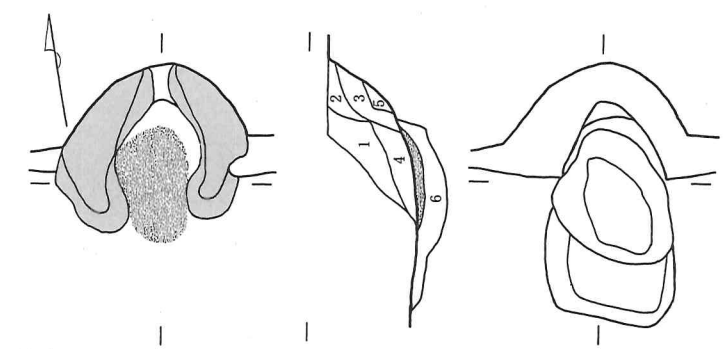
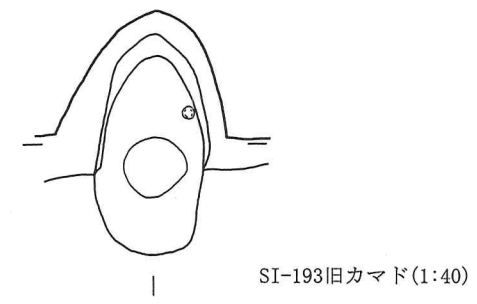
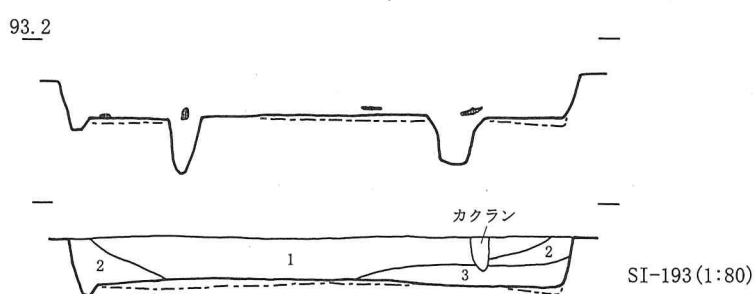
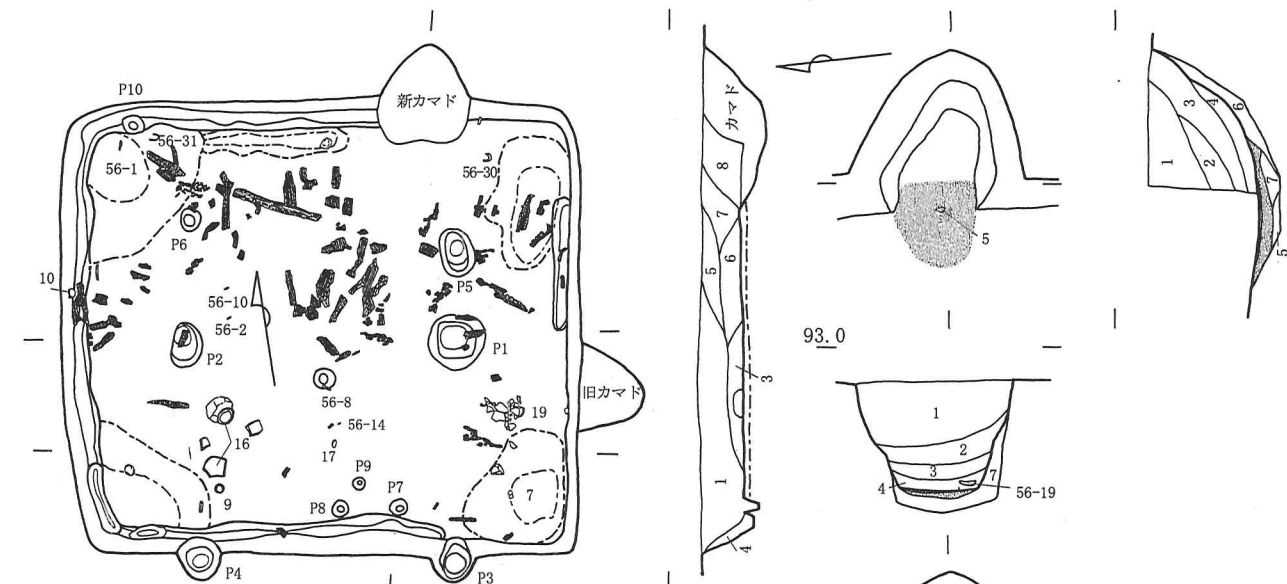
SI-191カマド

1. 黒褐色土 (粘土粒混, 焼土粒少量混)
2. 灰褐色土 (粘土粒多, 焼土粒少量混)
3. 赤褐色土 (粘土・焼土粒多量混)
4. 暗灰褐色土 (粘土・焼土粒混)
5. 灰褐色土 (粘土・ローム粒混, 焼土粒混)
6. 暗褐色土 (ローム・粘土・焼土粒少量混)



SI-191カマド (1:40)

第25図 竪穴住居跡 (22) SI-191

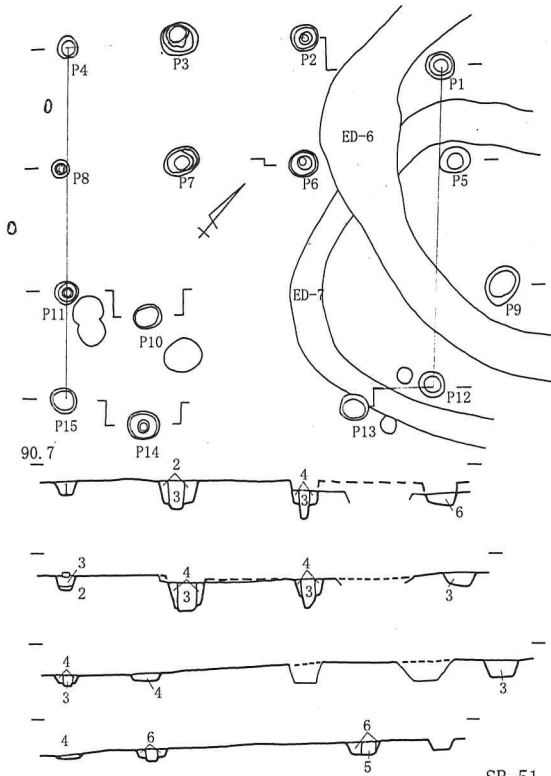


- SI - 193
1. 黒色土 (ローム・焼土粒少量混)
 2. 黒色土 (ローム・焼土粒混)
 3. 褐色土 (焼土粒混, ローム粒多量混)
 4. 黒褐色土
 5. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混)
 6. 暗褐色土 (ローム・焼土粒少量混)
 7. 褐色土 (ローム・焼土粒混)
 8. 褐色土 (ローム・焼土粒少量混)

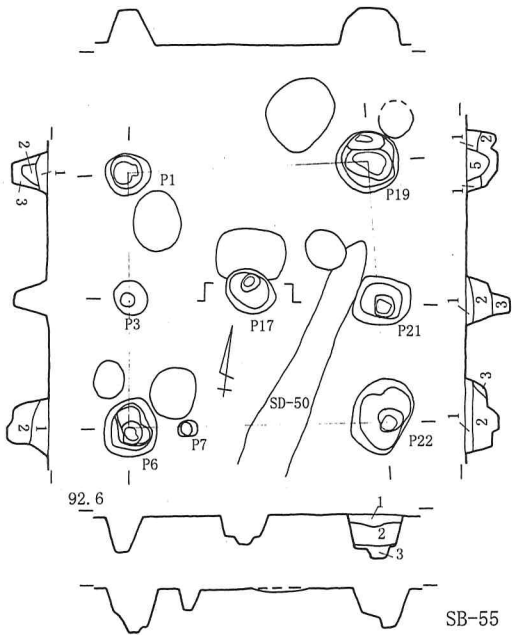
- SI - 193旧カマド
1. 暗黄褐色土 (ローム粒混, 焼土粒少量混)
 2. 黄褐色土 (ローム粒主体, 焼土粒少量混)
 3. 黄褐色土 (ローム粒主体, 焼土粒混)
 4. 2に同じ
 5. 黄褐色土 (ローム粒・塊主体)

- SI - 193新カマド
1. 褐色土 (焼土粒少量混)
 2. 赤褐色土 (焼土粒多量混)
 3. 褐色土 (焼土・粘土粒少量, 灰多量混)
 4. 3より灰の混じりが少ない
 5. 黄褐色土 (ローム粒多量混)
 6. 黄褐色土 (ローム・焼土粒少量混)

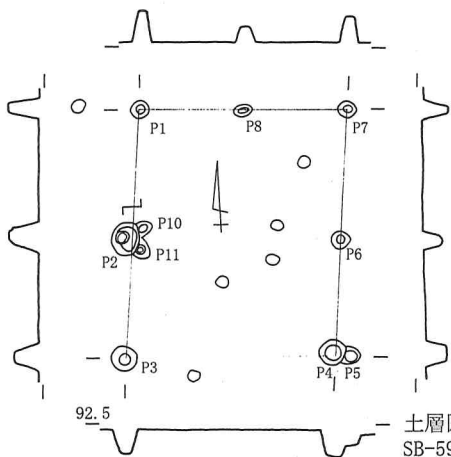
第26図 竪穴住居跡 (23) SI-193



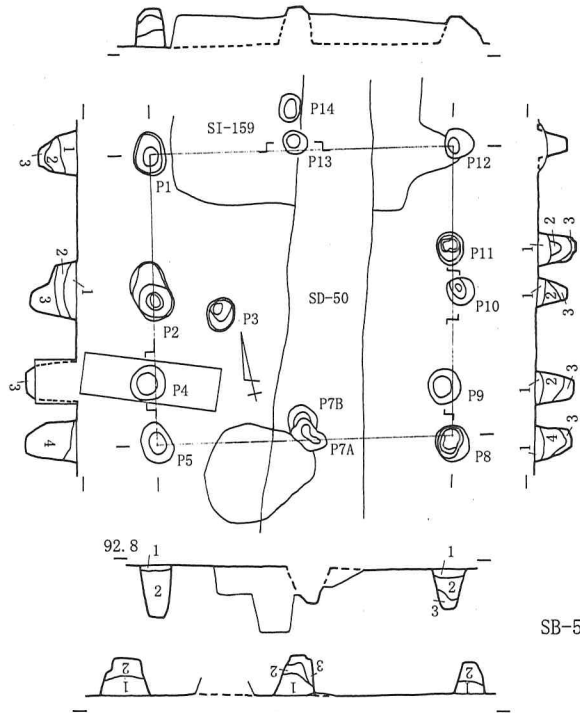
SB-51



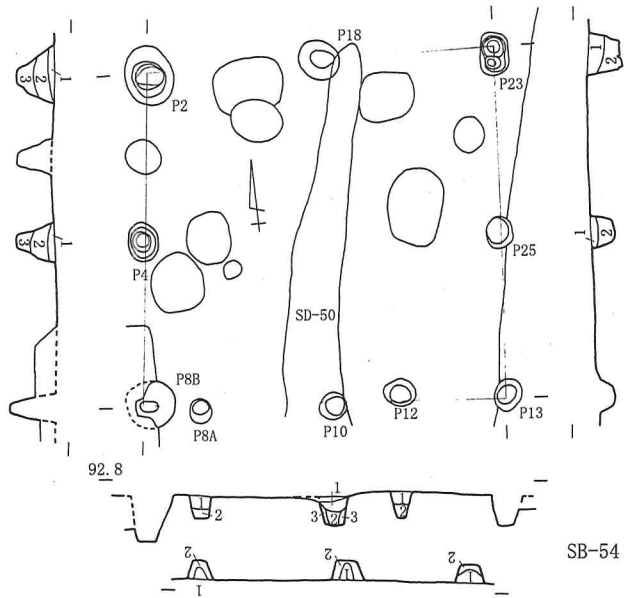
SB-55



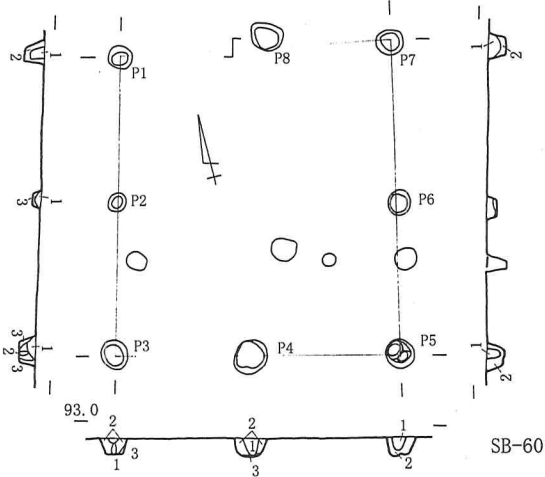
92.5 土層図版10の次頁
SB-59



SB-53

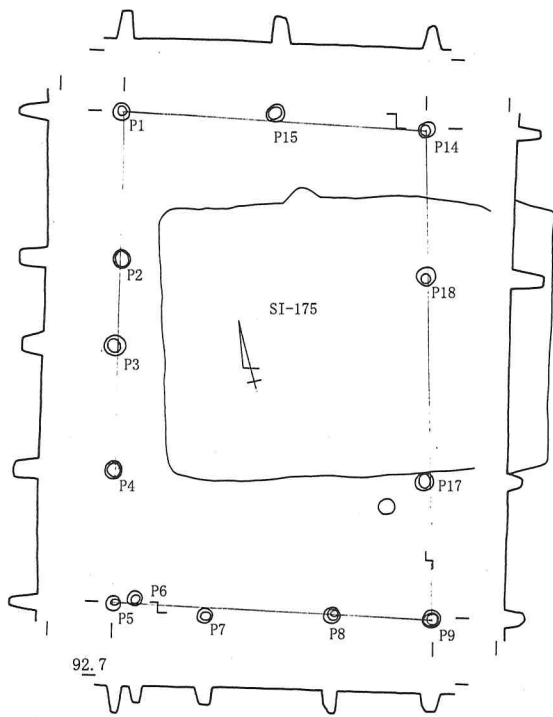


SB-54

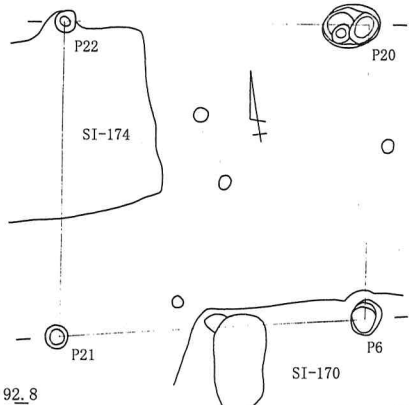
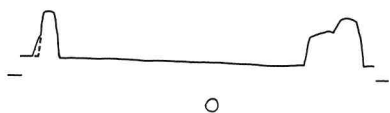


SB-60

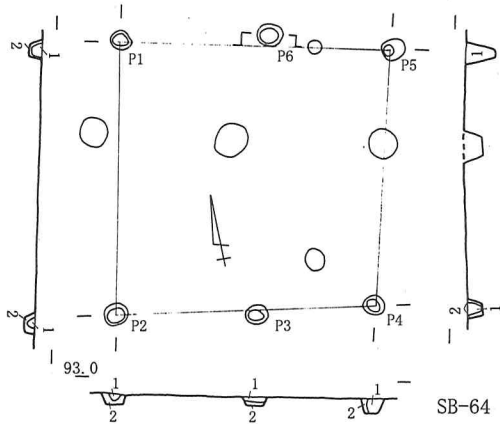
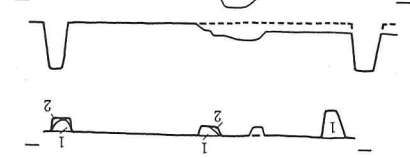
第27図 掘立柱建物跡 (1) SB-51・53~55・59・60



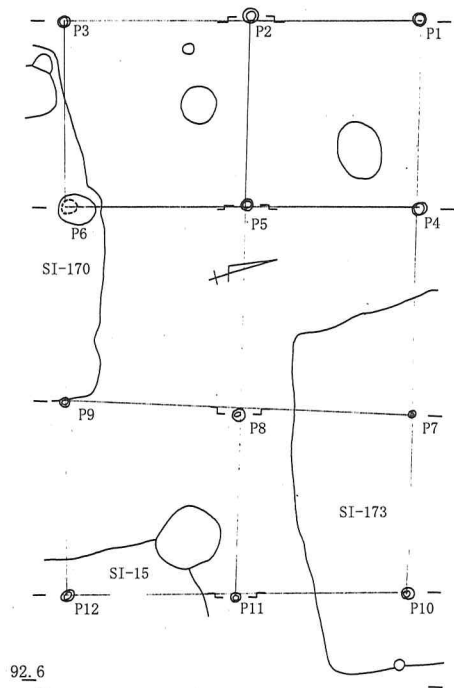
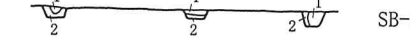
SB-52



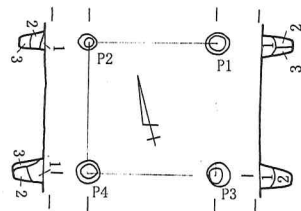
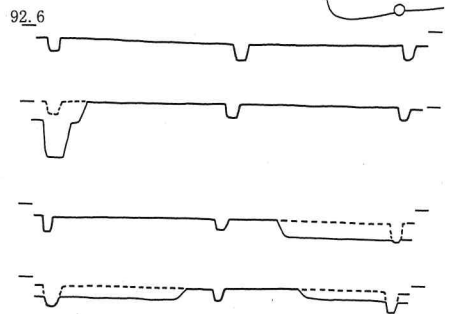
SB-56B



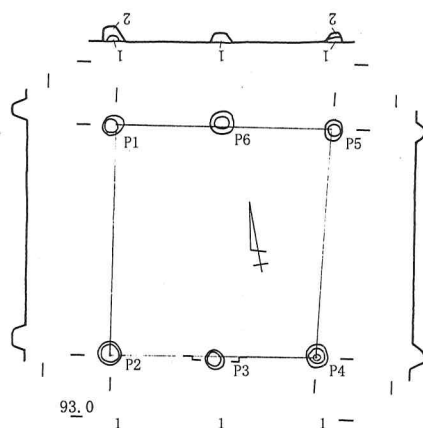
SB-64



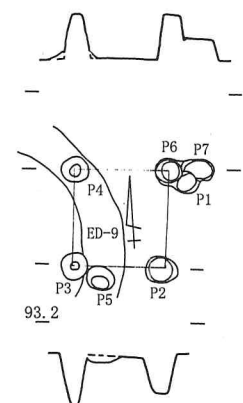
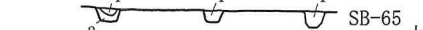
SB-56A



SB-57



SB-65

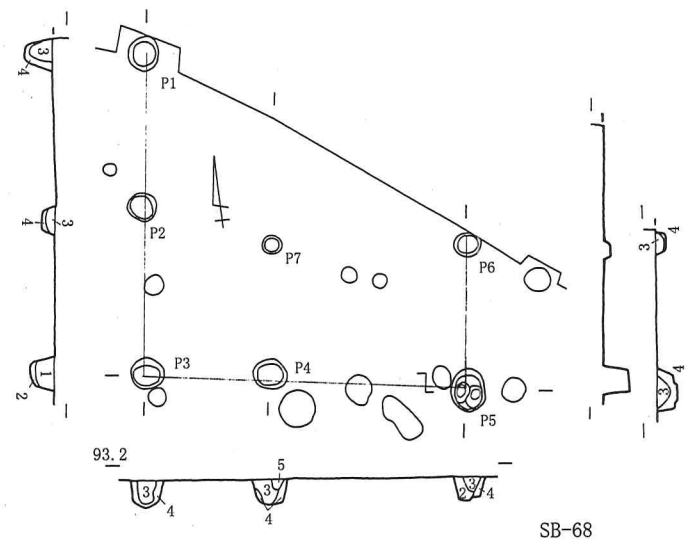
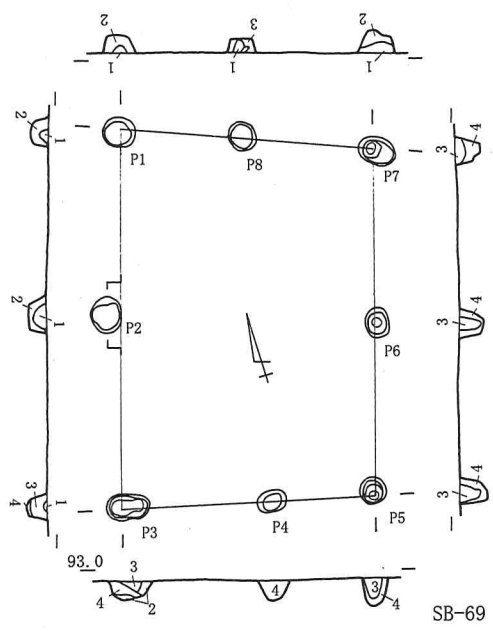
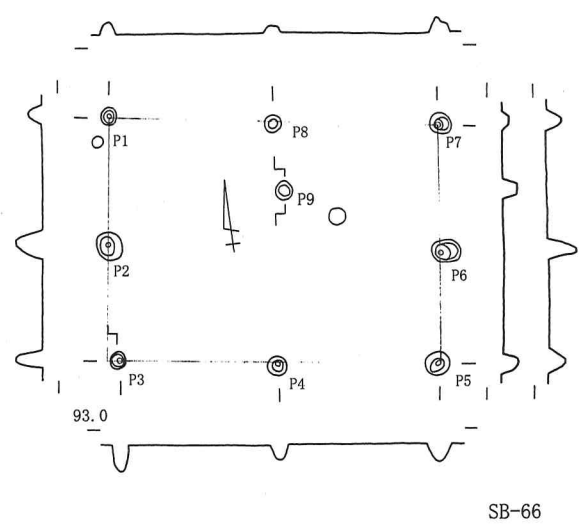
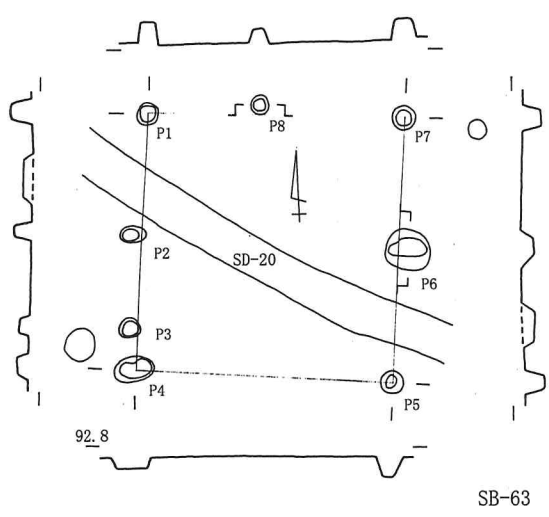
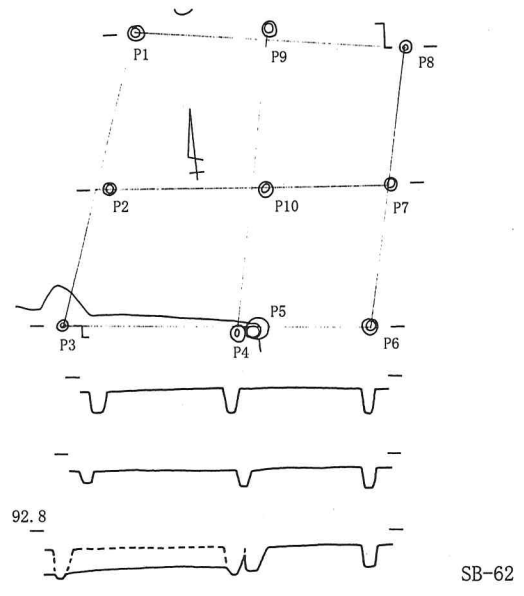
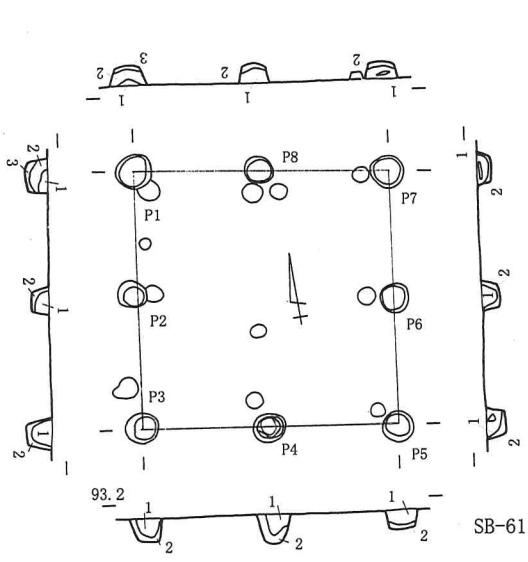


SB-58

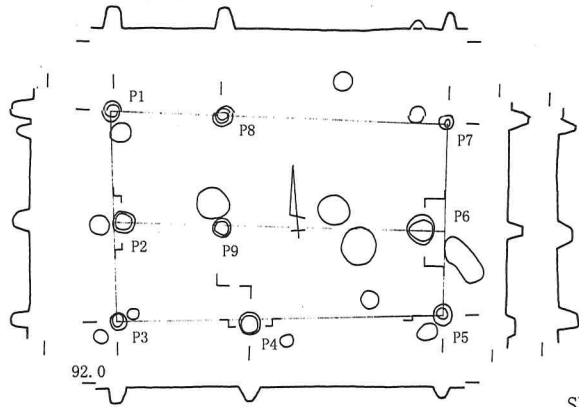
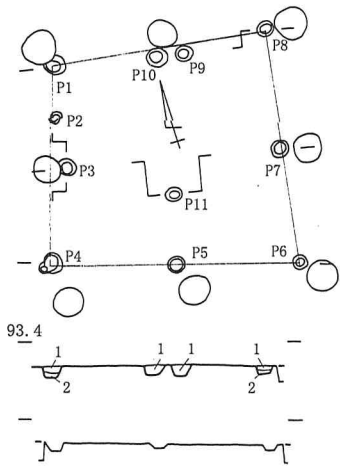


土層図版10の次頁

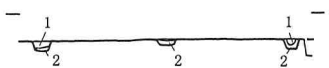
第28図 掘立柱建物跡 (2) SB-52・56A・56B・57・58・64・65



土層図版10の次頁
 第29図 掘立柱建物跡 (3) SB-61~63・66・68・69

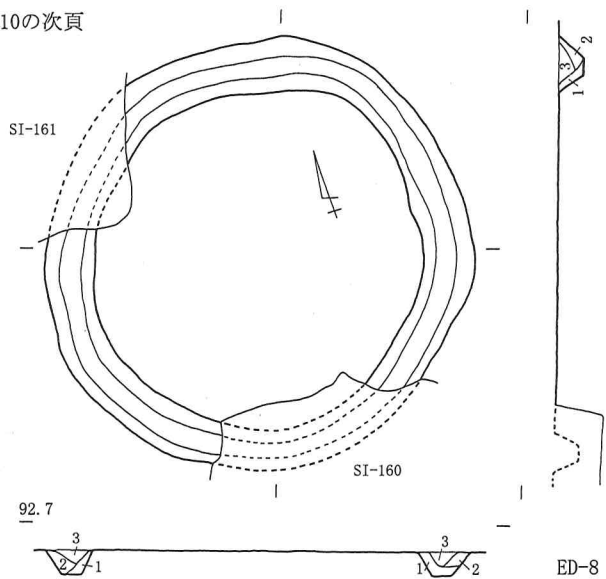
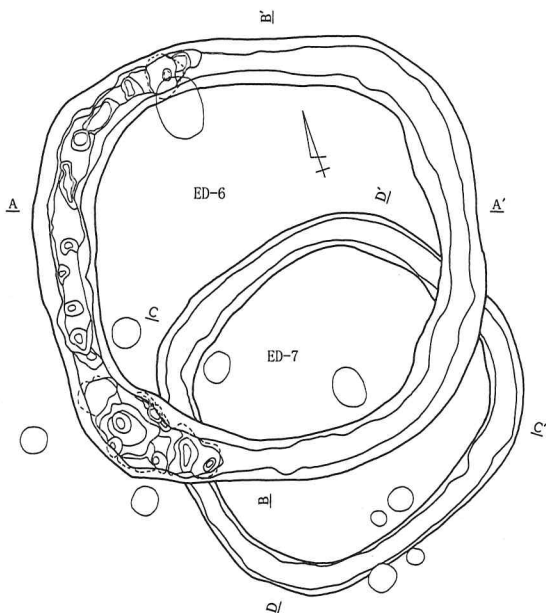


SB-70

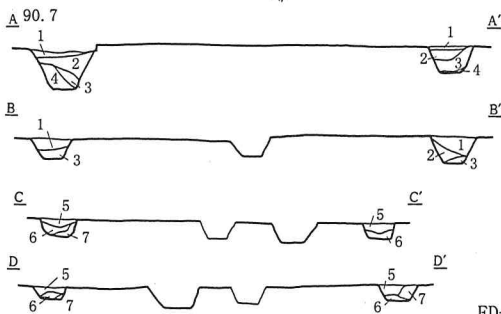


SB-67

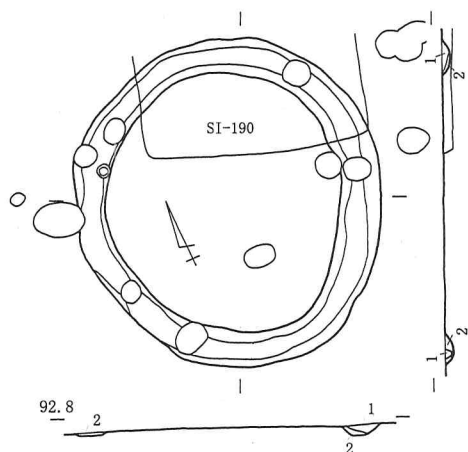
土層図版10の次頁



ED-8



ED-6・7



ED-9

ED-6・7

1. 黒色土 (ローム粒微量混)
2. 黒色土 (ローム粒少, 塊微量混)
3. 黒色土 (ローム粒少量混)
4. 黒褐色土 (ローム粒・塊混)
5. 黒褐色土 (白色土粒少量混)
6. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
7. 褐色土 (ローム粒多量混)

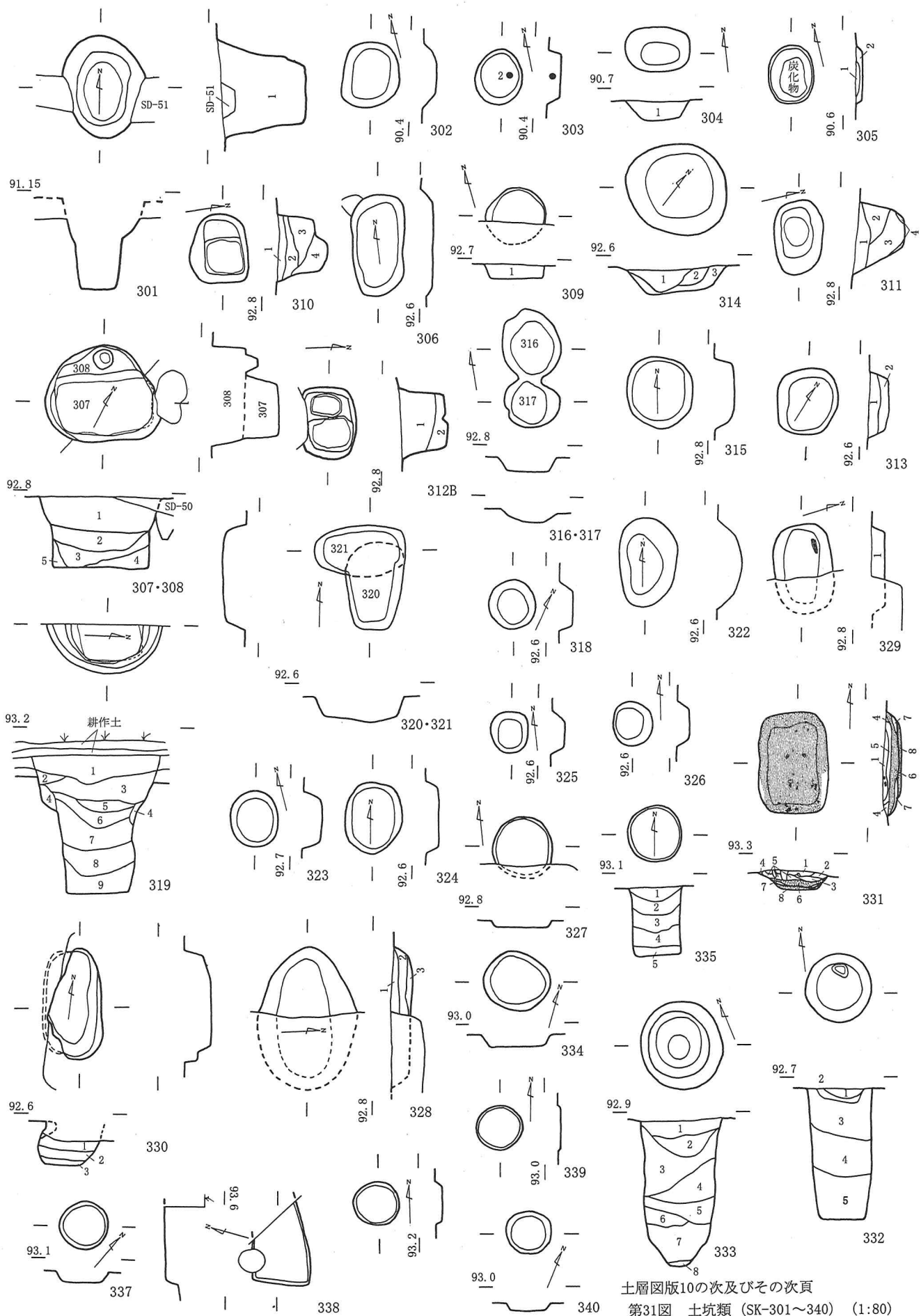
ED-8

1. 黒褐色土 (ローム粒混, 塊微量含)
2. 黒褐色土 (ローム粒混)
3. 黒色土 (ローム粒微量混)

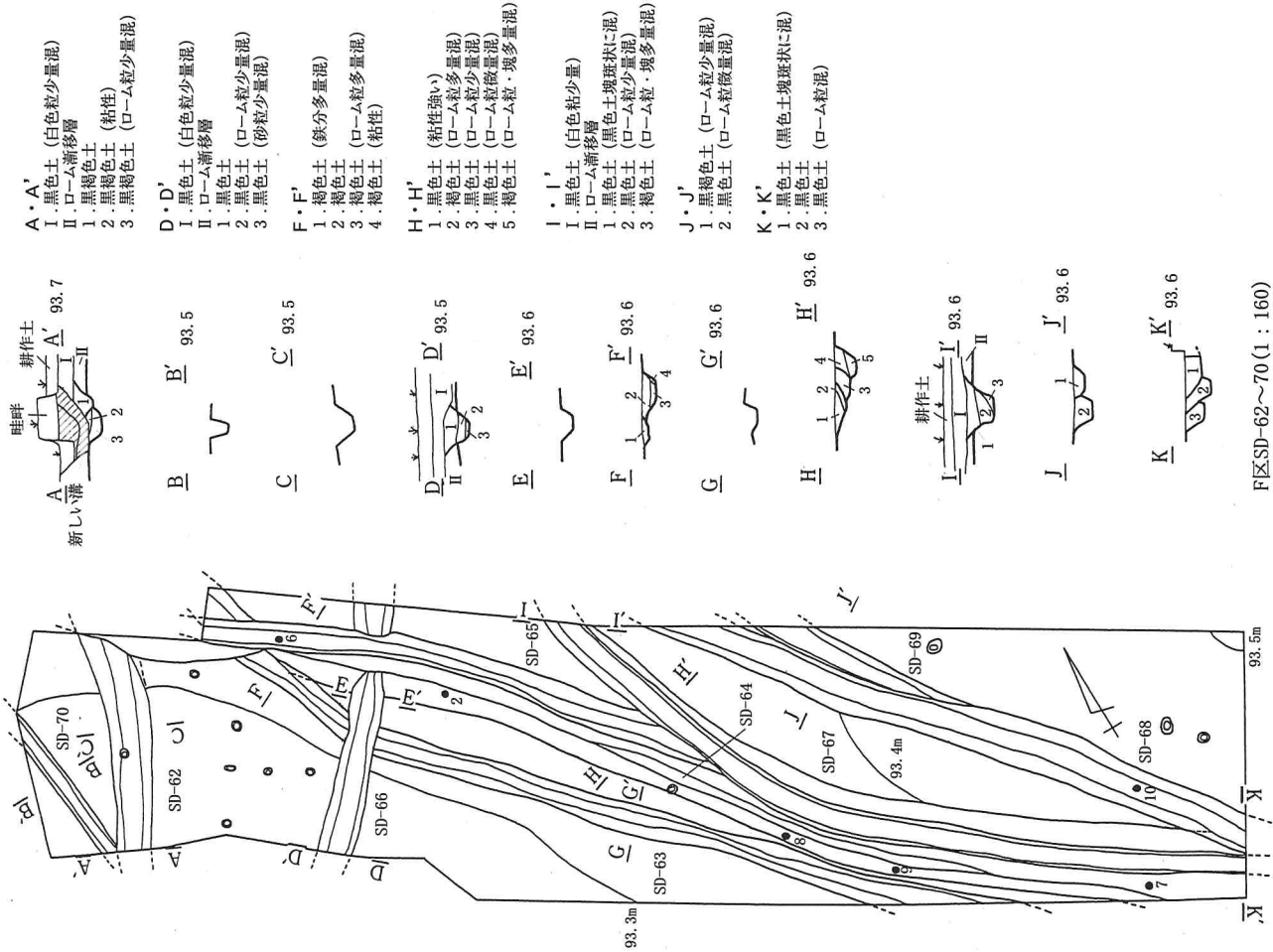
ED-9

1. 黒色土 (ローム粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒微量混)

第30図 掘立柱建物跡 (4), 円形周溝遺構 SB-67・70・ED-6~9



土層図版10の次及びその次頁
第31図 土坑類 (SK-301~340) (1:80)



- A·A'**
 I. 黒色土 (白色粒少量混)
 II. ローム漸移層
 1. 黒褐色土 (粘性)
 2. 黒褐色土 (ローム粒少量混)

- D·D'**
 I. 黒色土 (白色粒少量混)
 II. ローム漸移層
 1. 黒色土 (ローム粒少量混)
 2. 黒色土 (ローム粒少量混)
 3. 黒色土 (砂粒少量混)

- F·F'**
 1. 褐色土 (鉄分少量混)
 2. 褐色土 (ローム粒少量混)
 3. 褐色土 (ローム粒少量混)
 4. 褐色土 (粘性)

- H·H'**
 1. 黒色土 (粘性強い)
 2. 褐色土 (ローム粒少量混)
 3. 黒色土 (ローム粒少量混)
 4. 黒色土 (ローム粒少量混)
 5. 褐色土 (ローム粒・塊少量混)

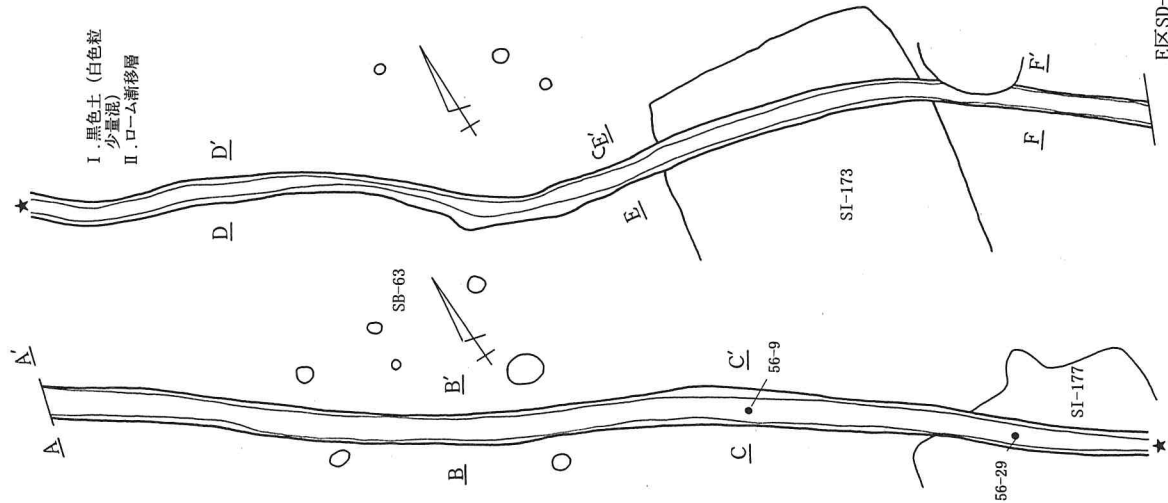
- I·I'**
 I. 黒色土 (白色粒少量混)
 II. ローム漸移層
 1. 黒色土 (黒色土塊斑状に混)
 2. 黒色土 (ローム粒少量混)
 3. 褐色土 (ローム粒・塊少量混)

- J·J'**
 1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
 2. 黒色土 (ローム粒少量混)

- K·K'**
 1. 黒色土 (黒色土塊斑状に混)
 2. 黒色土 (ローム粒少量混)
 3. 黒色土 (ローム粒少量混)

- A**
 耕作土
 I. 黒色土 (白色粒少量混)
 II. ローム漸移層
 1. 黒褐色土 (ローム塊少量混)
 2. 黒色土 (白色粒少量混)
 3. 黒褐色土 (白色粒少量混, ローム粒微量混)
 4. 黒褐色土 (ローム粒微量混)

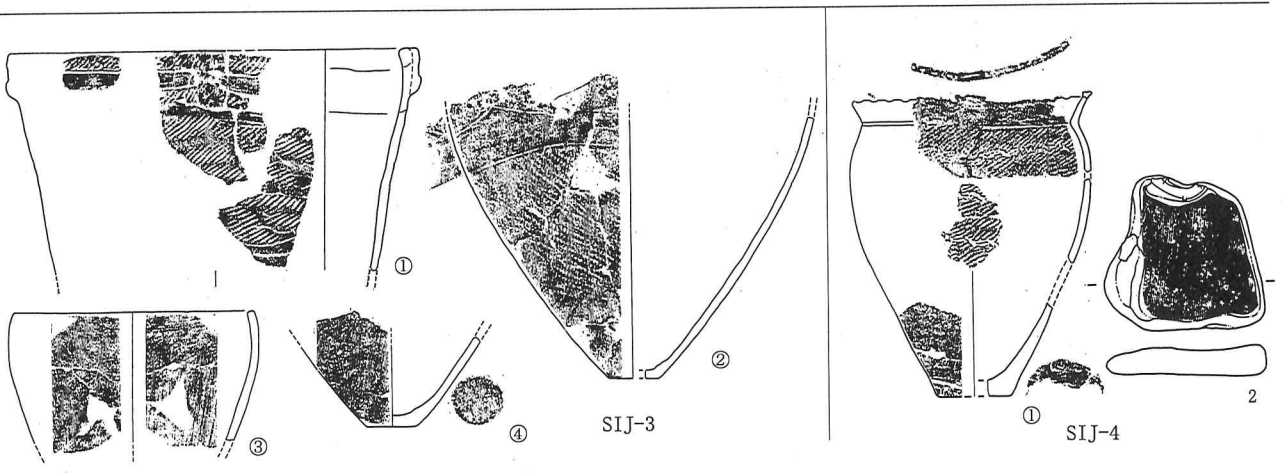
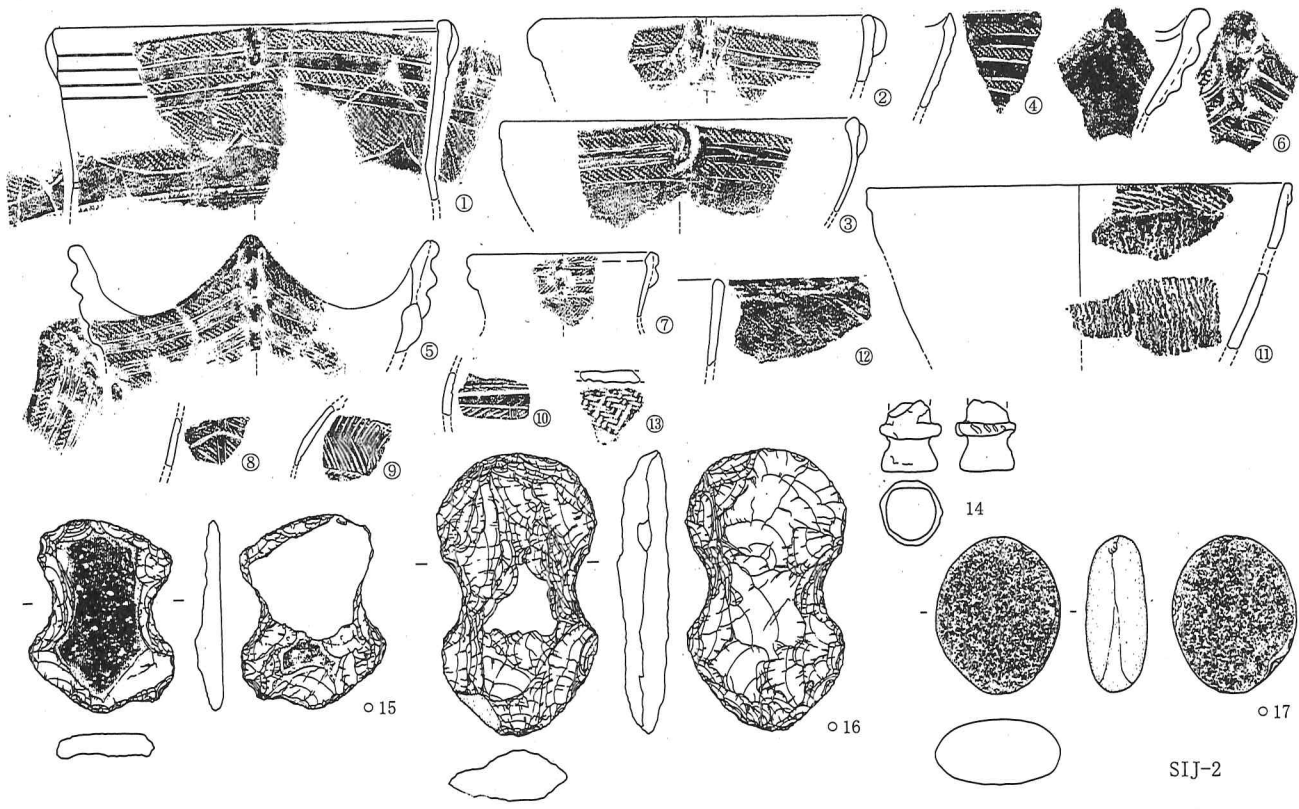
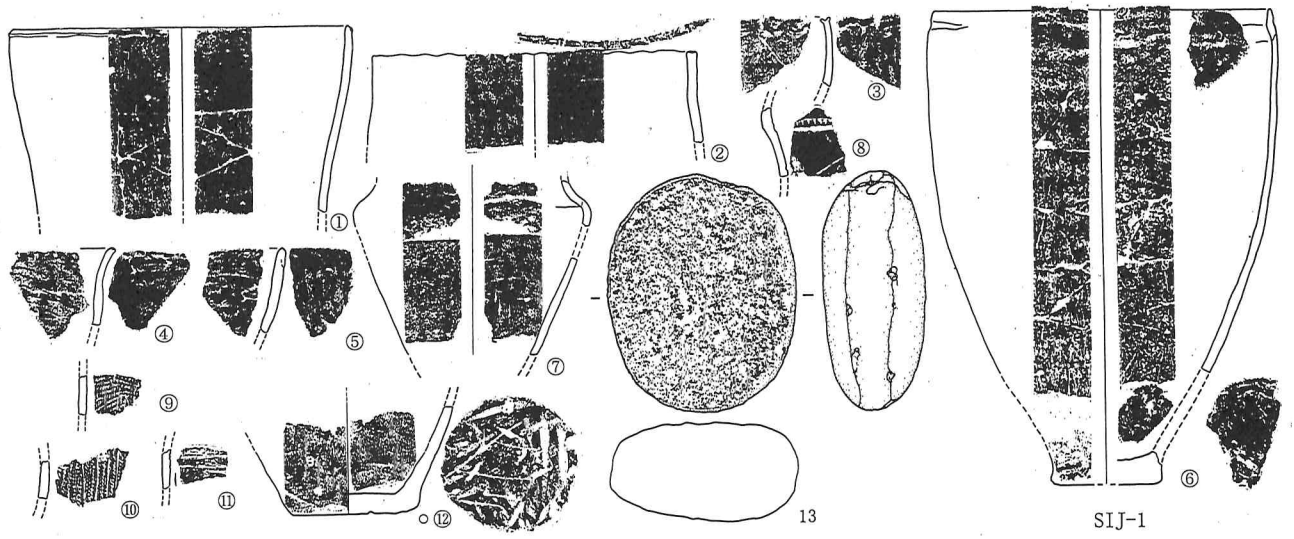
- B** 93.0
B' 93.0
C 93.0
C' 93.0
D 93.0
D' 93.0
E 93.0
E' 93.0
F 93.0
F' 93.0



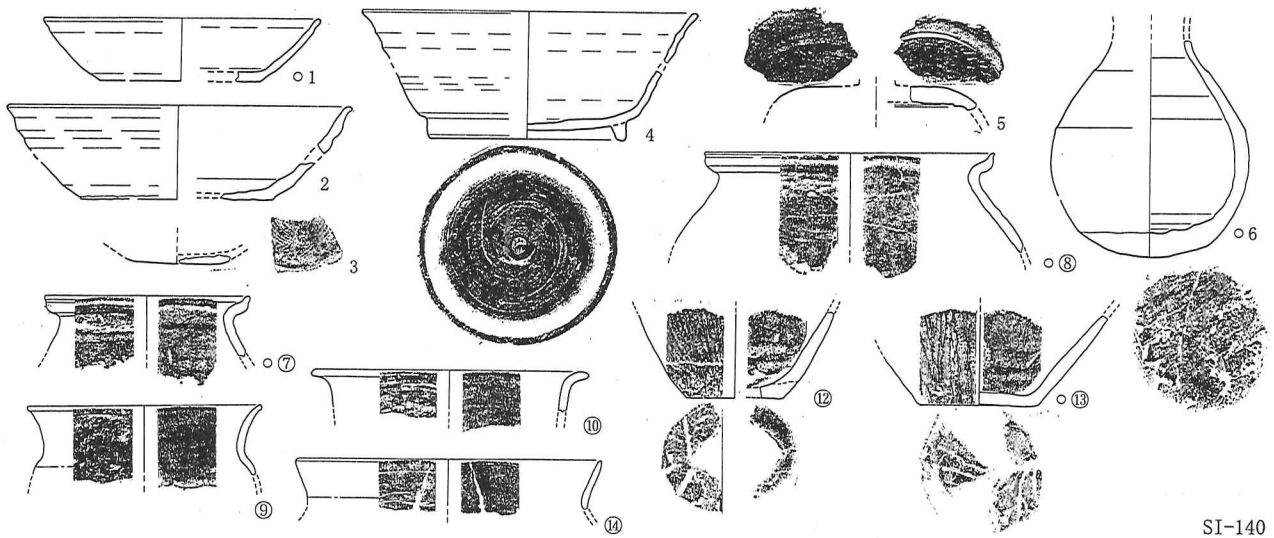
F区SD-62~70 (1:160)

E区SD-20 (1:160)

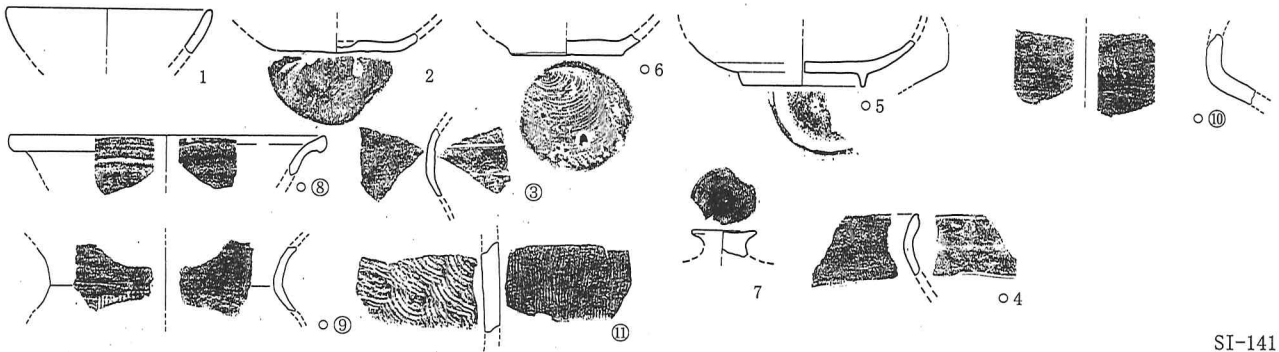
第32図 溝跡SD-20・62~70



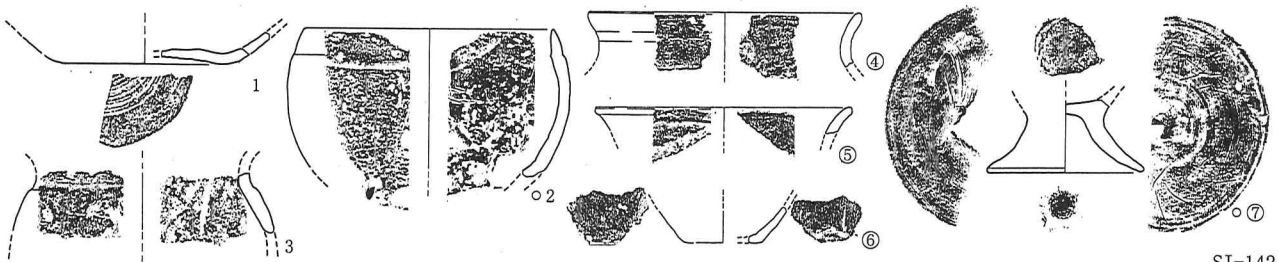
第33图 竖穴住居跡出土土器・石器 (1) SIJ-1~4



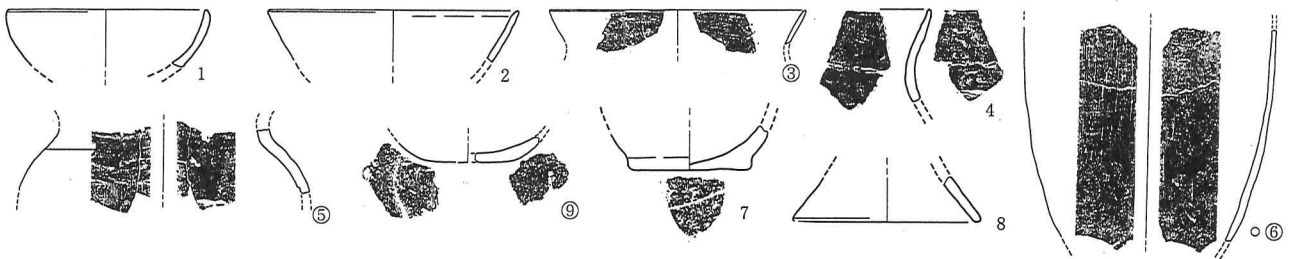
SI-140



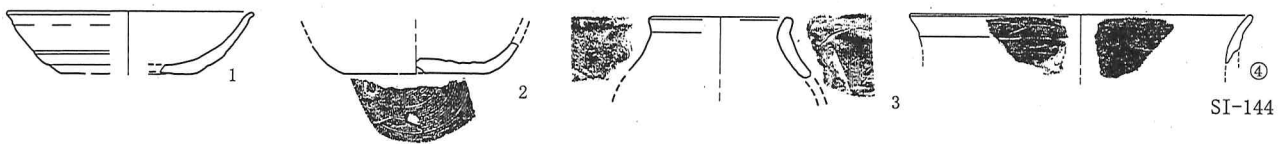
SI-141



SI-142

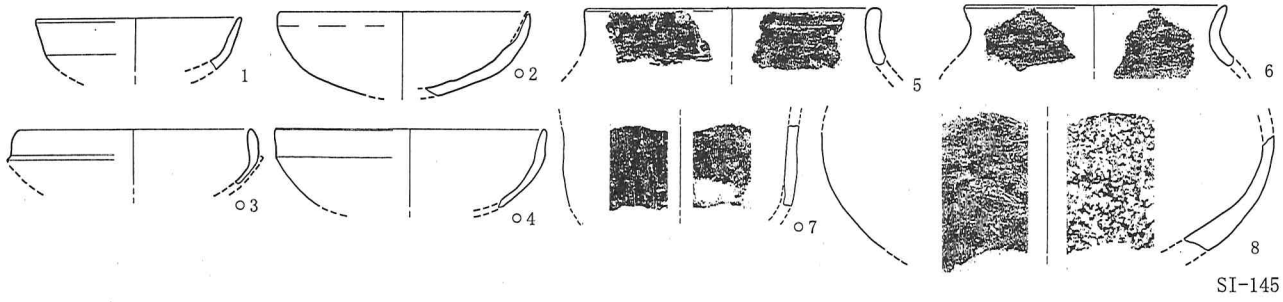


SI-143

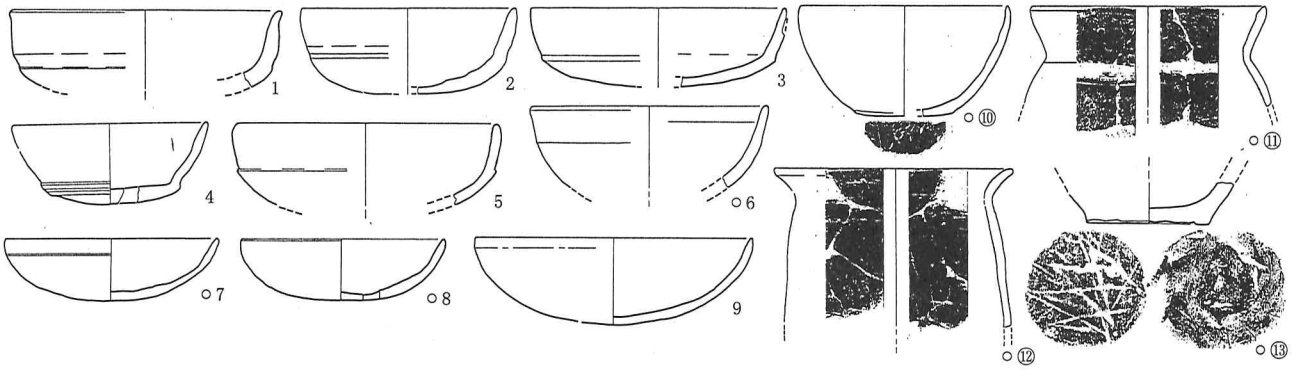


SI-144

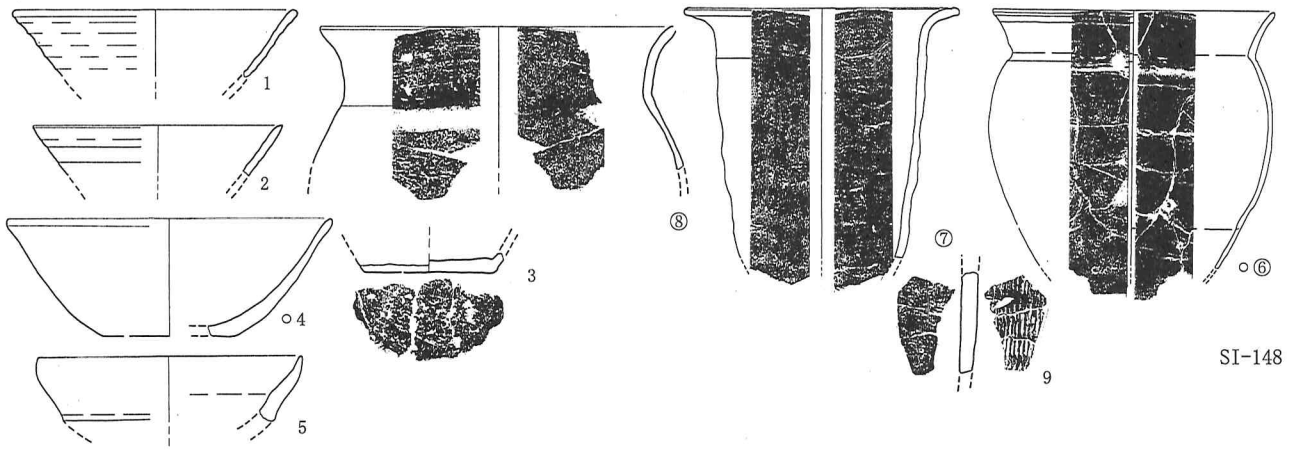
第34图 竖穴住居跡出土土器 (2) SI-140~144



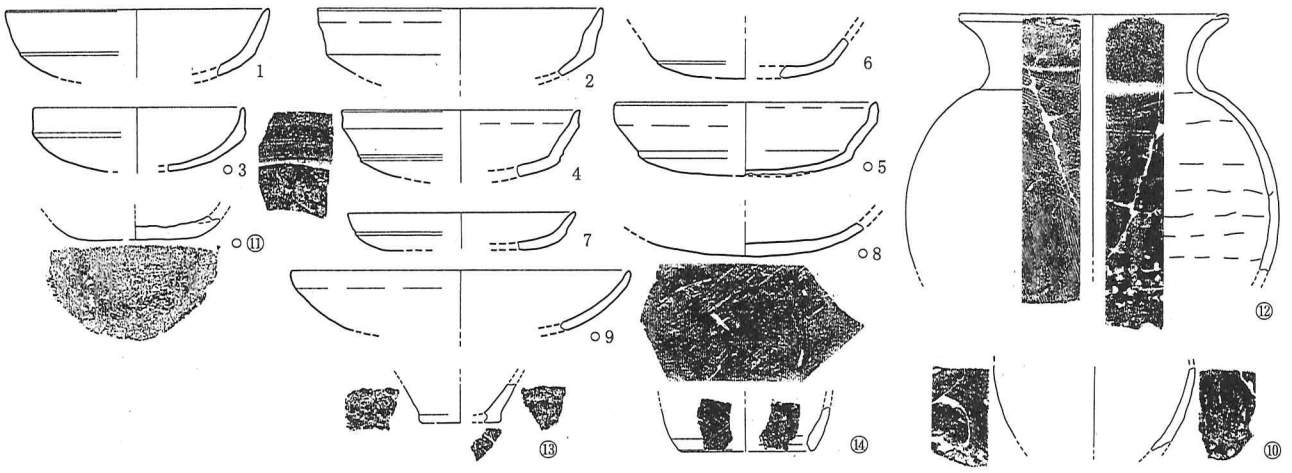
SI-145



SI-147

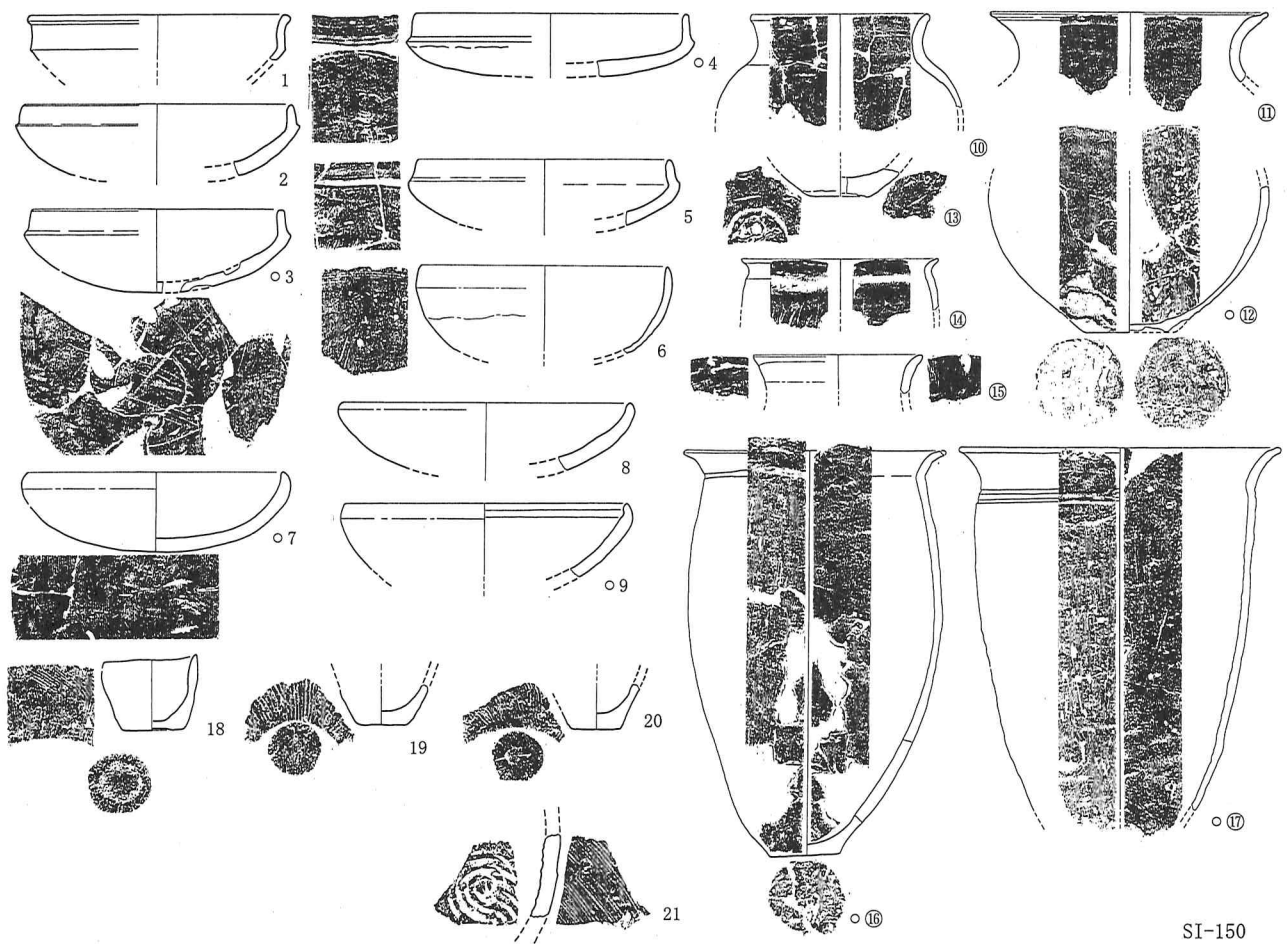


SI-148

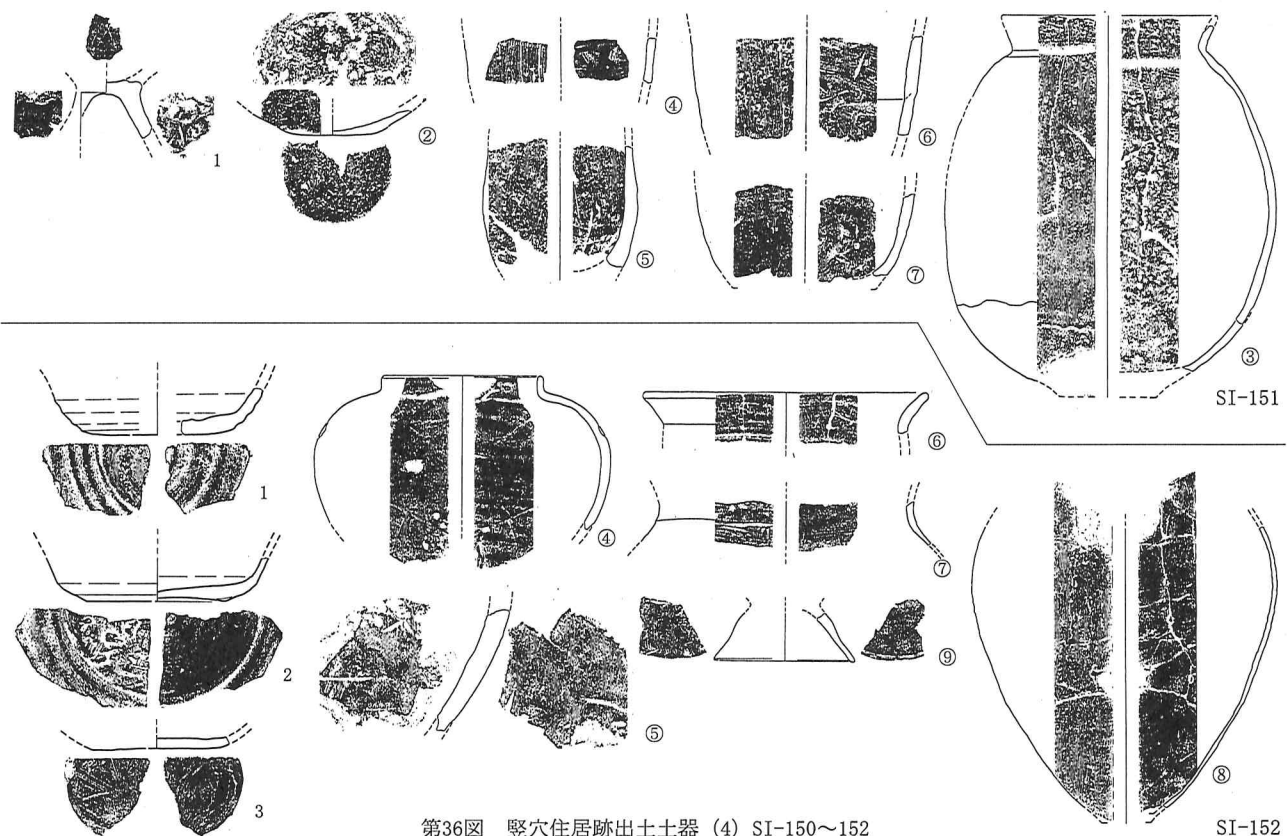


SI-149

第35図 竪穴住居跡出土土器 (3) SI-145~149



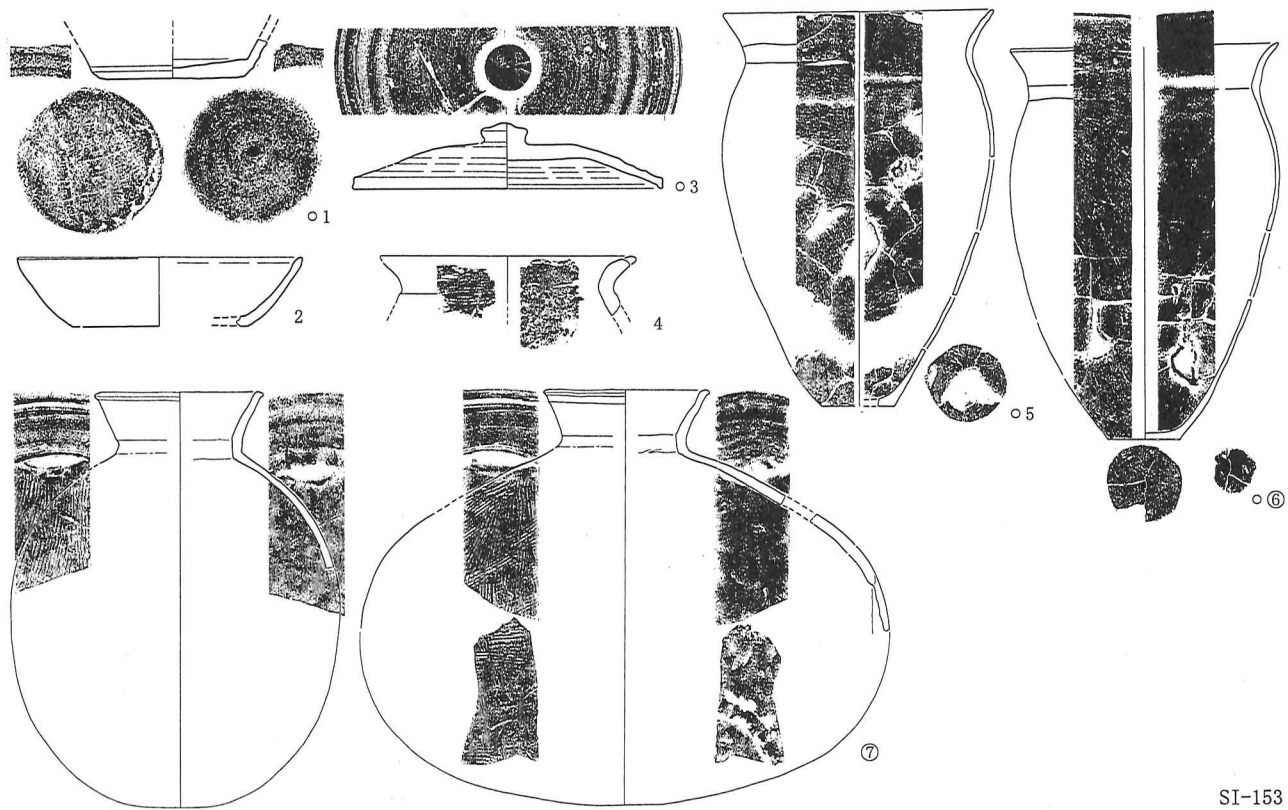
SI-150



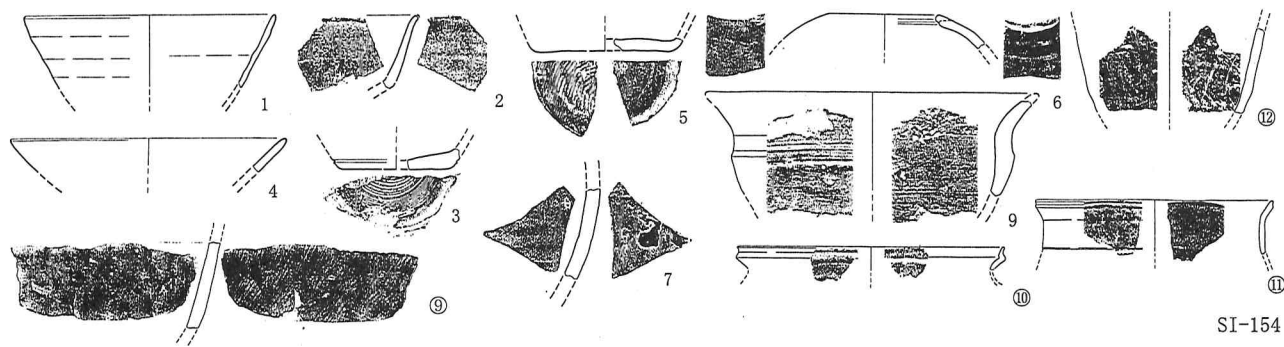
SI-151

SI-152

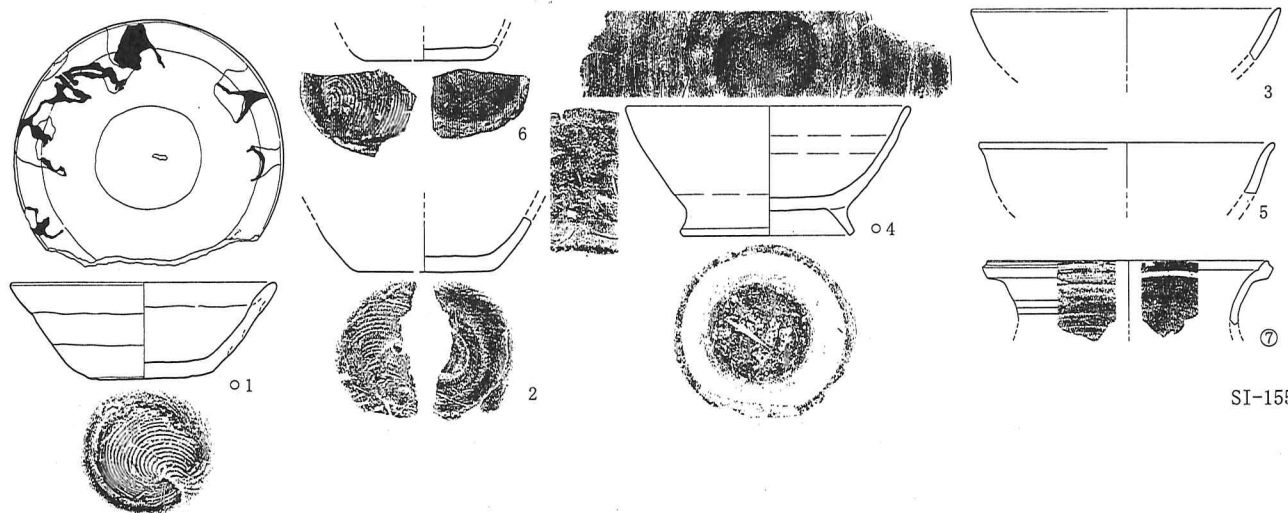
第36図 竪穴住居跡出土土器 (4) SI-150~152



SI-153

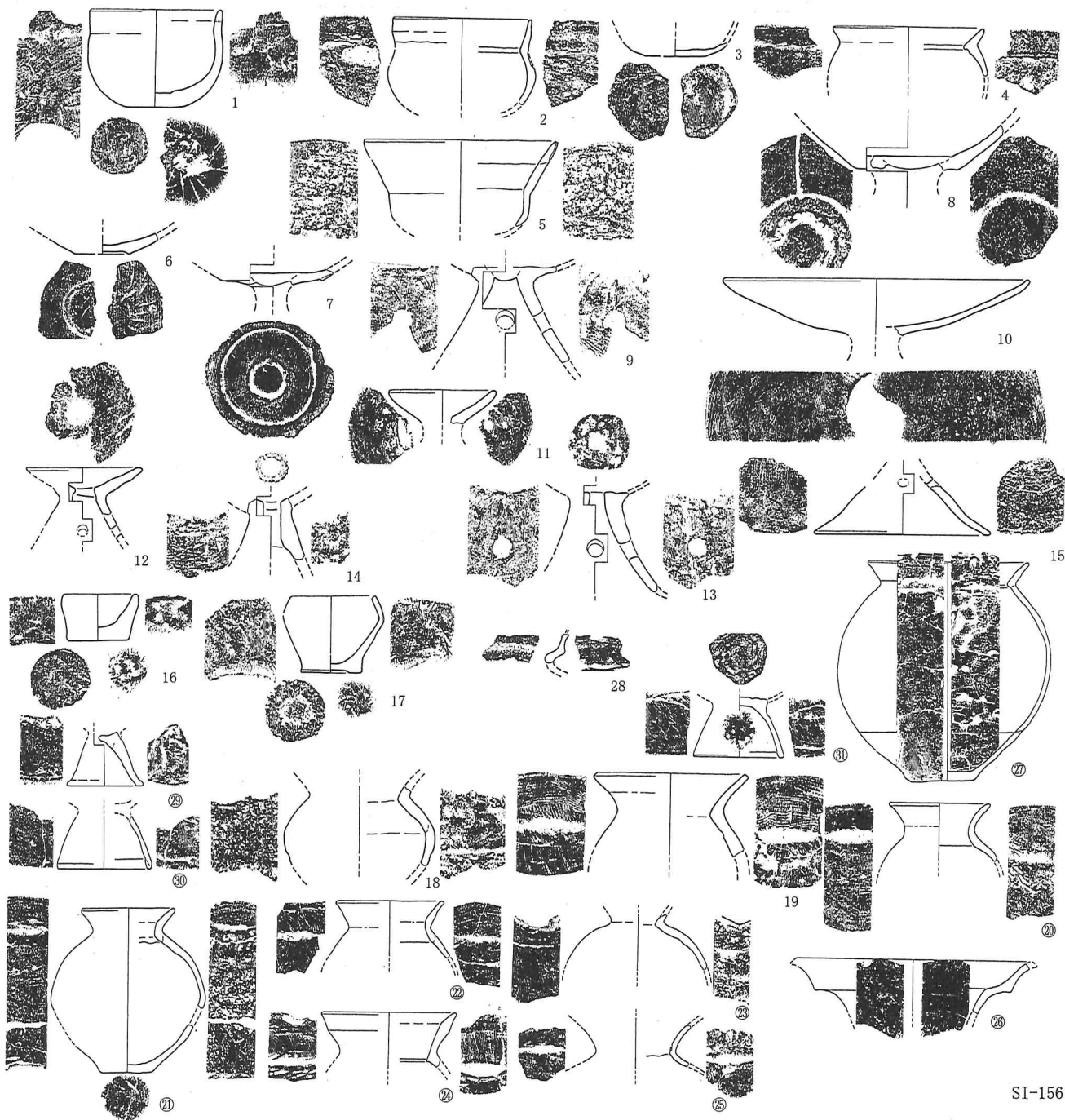


SI-154

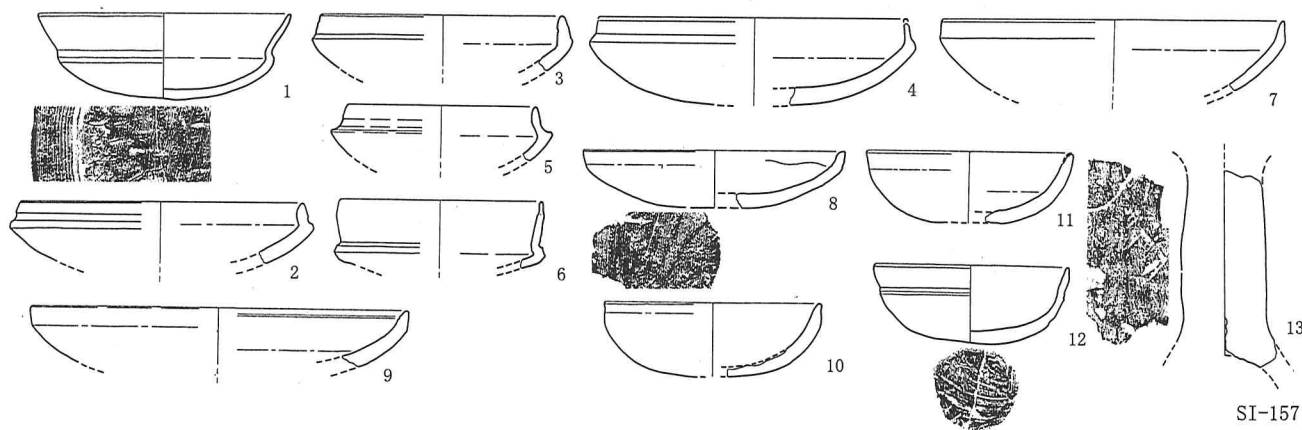


SI-155

第37図 竪穴住居跡出土土器 (5) SI-153~155

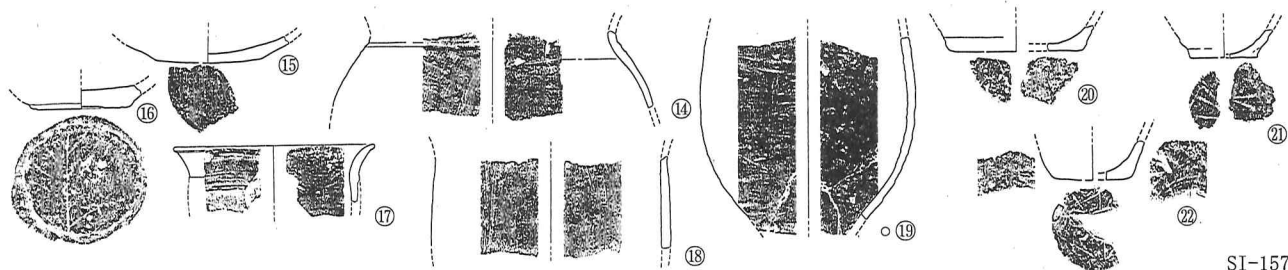


SI-156

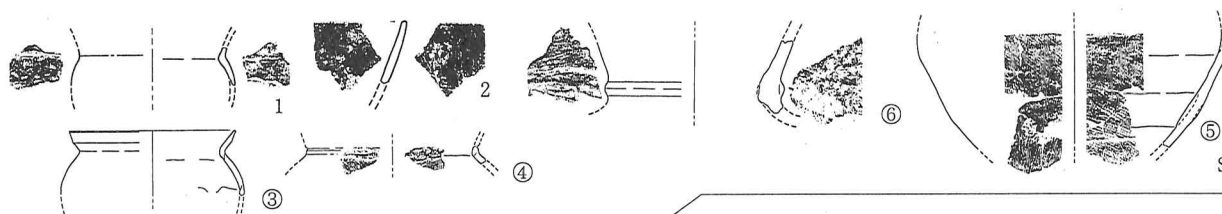


SI-157

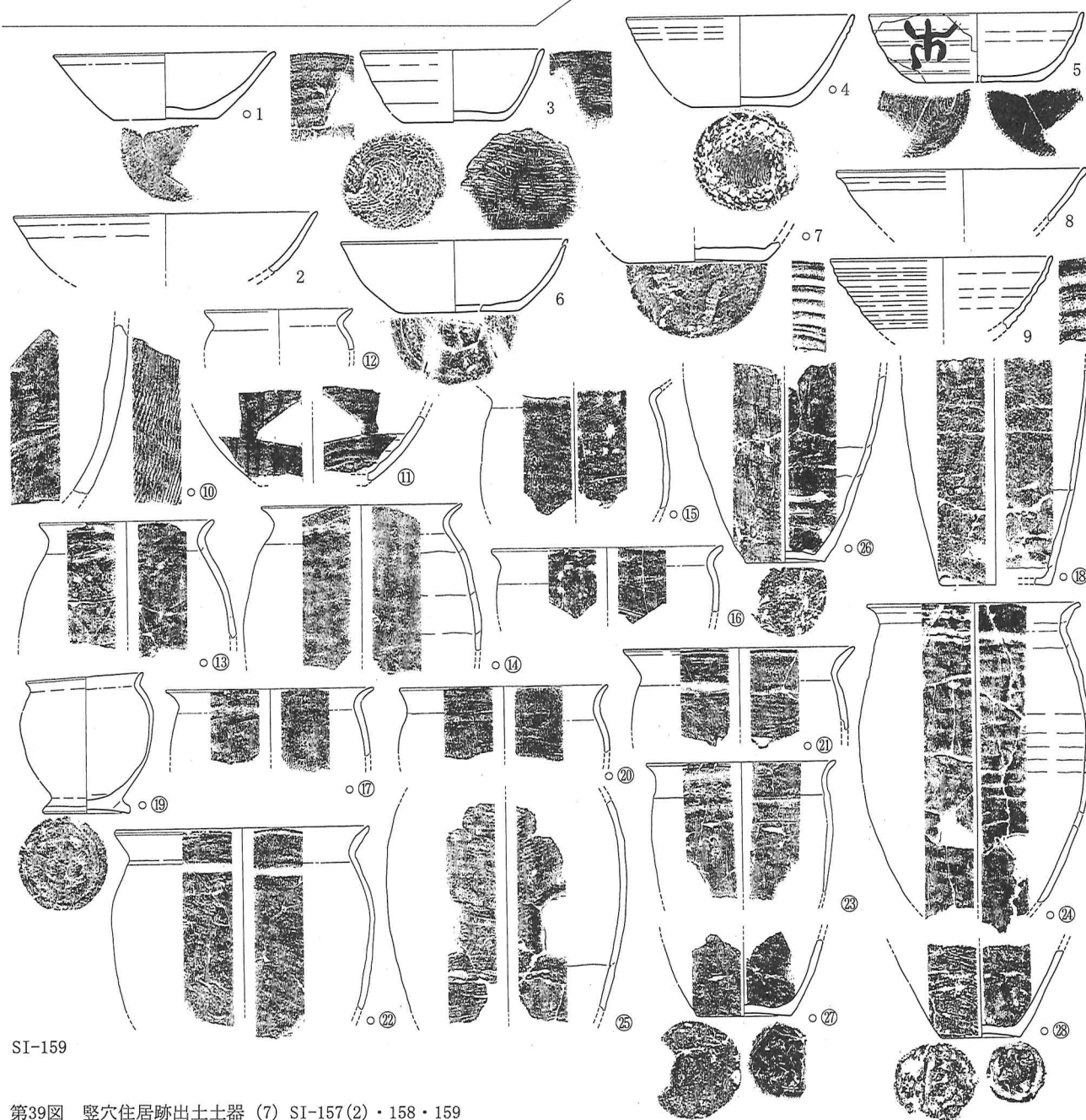
第38图 竖穴住居跡出土土器 (6) SI-156・157(1)



SI-157

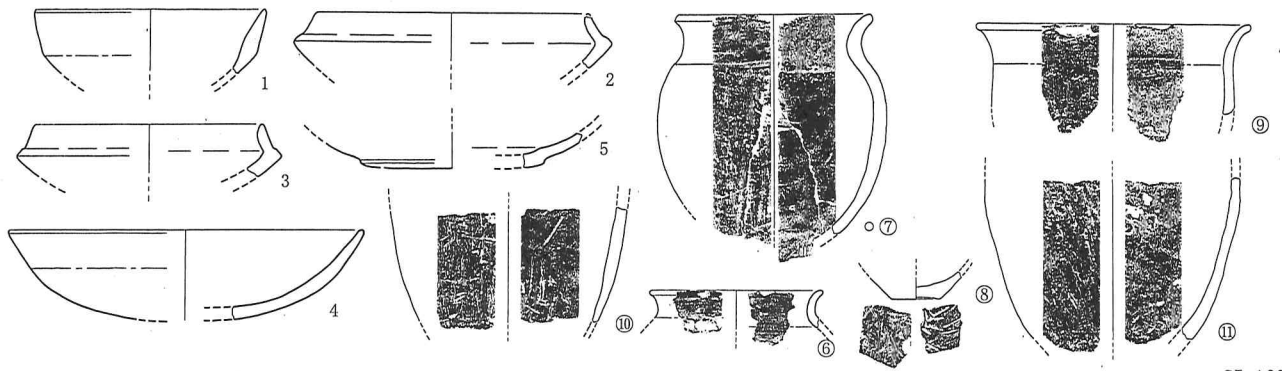


SI-158

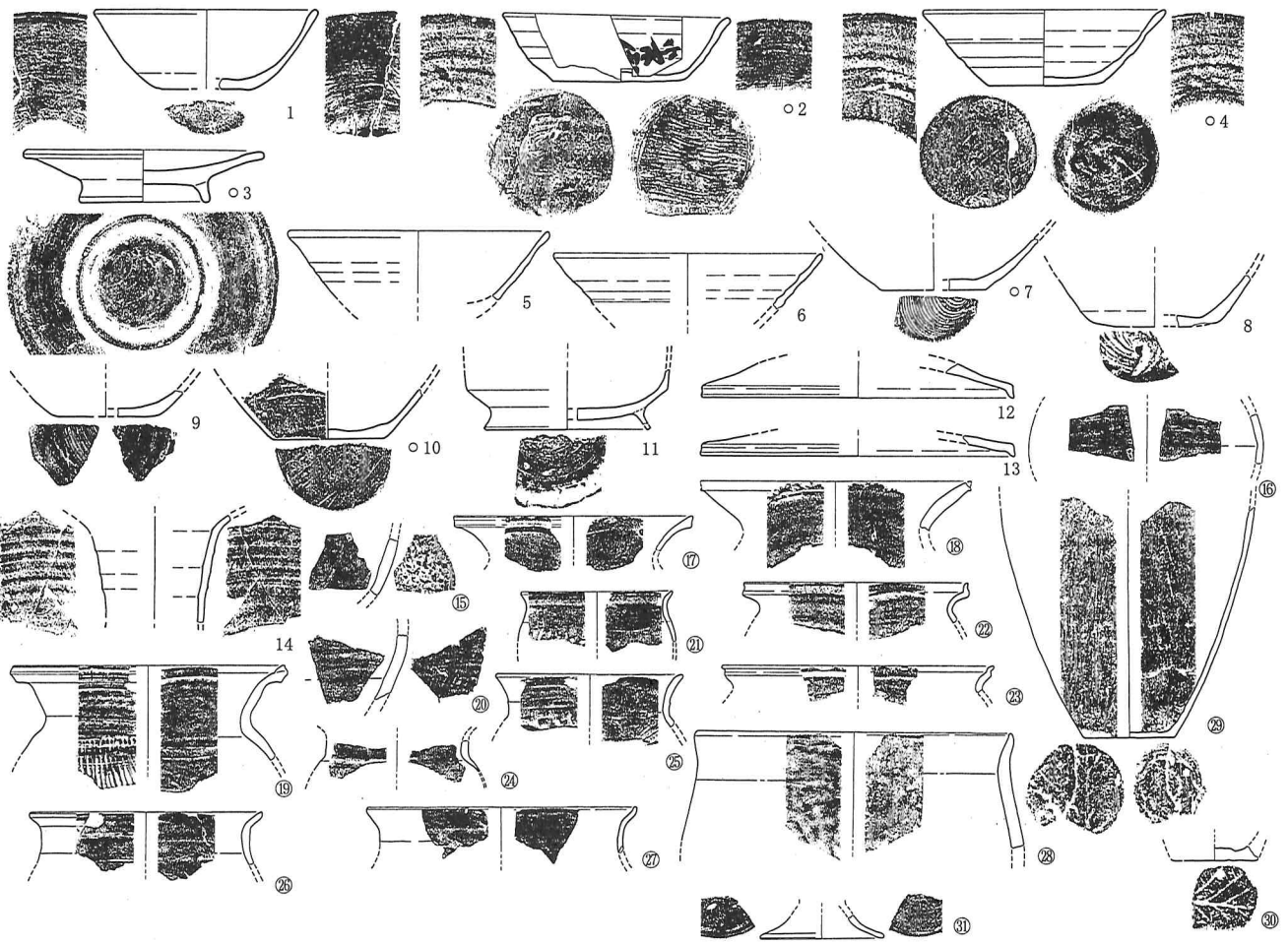


SI-159

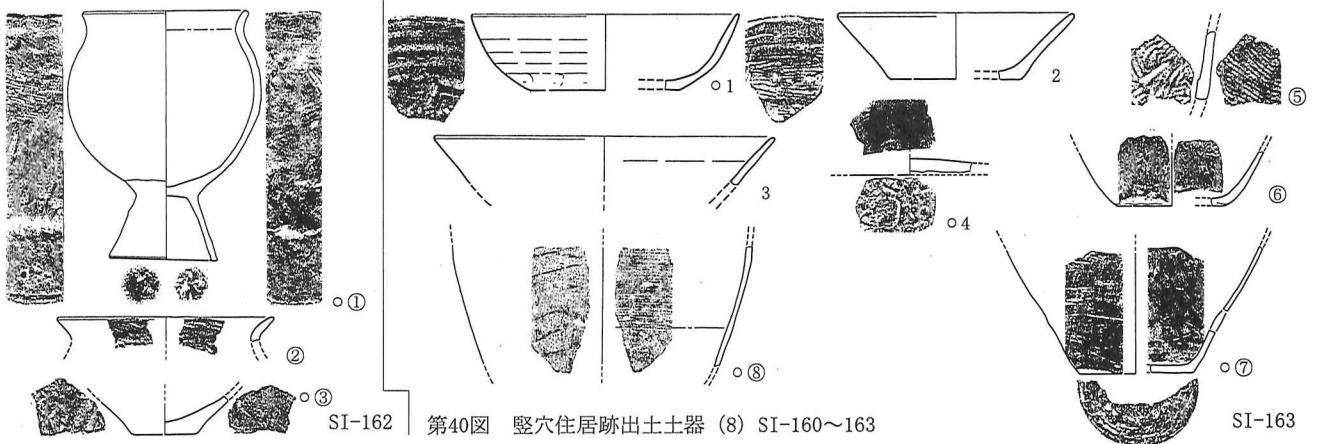
第39図 竪穴住居跡出土土器 (7) SI-157(2)・158・159



SI-160



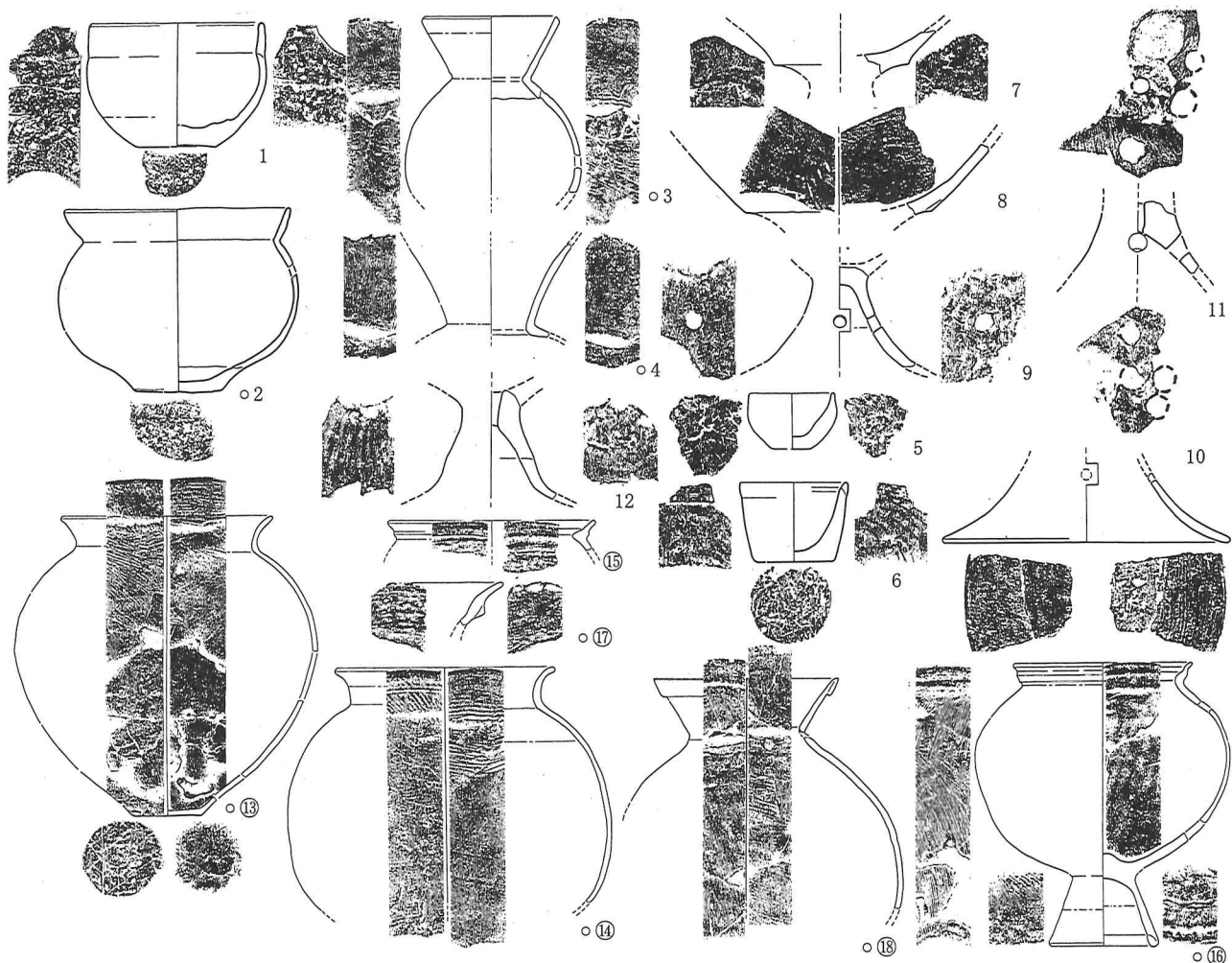
SI-161



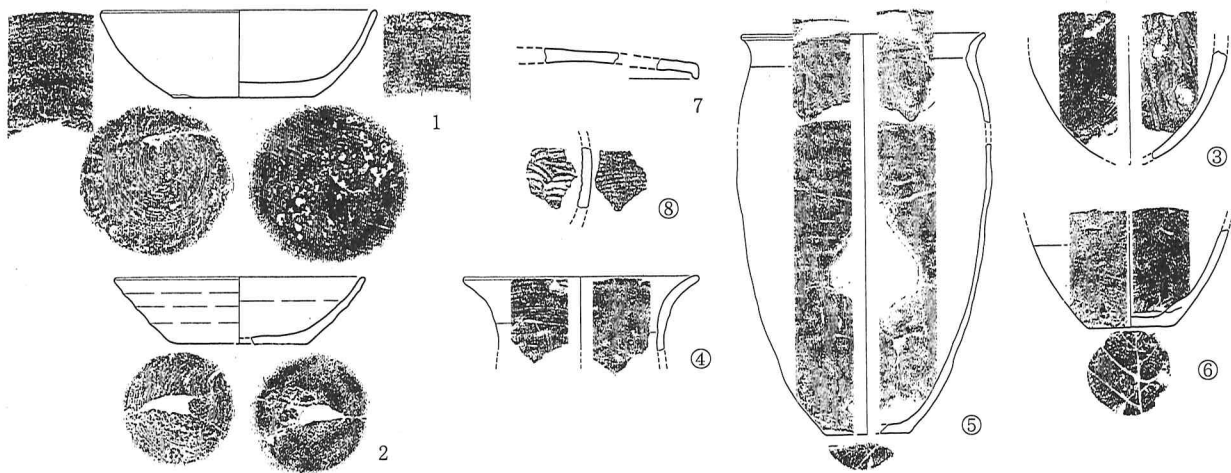
SI-162

第40图 竖穴住居跡出土土器 (8) SI-160~163

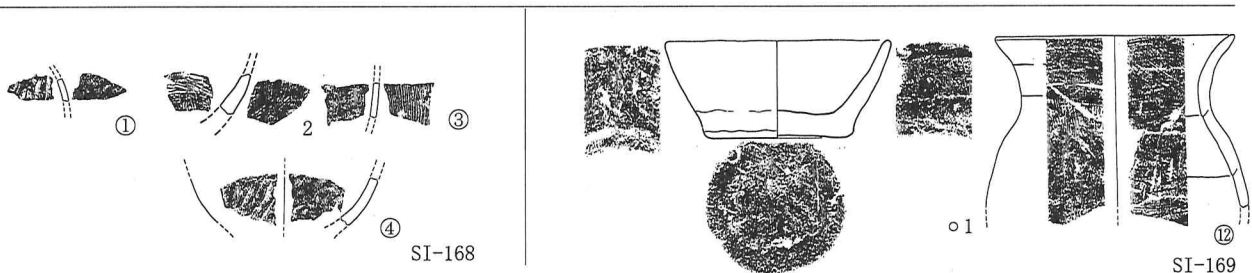
SI-163



SI-164



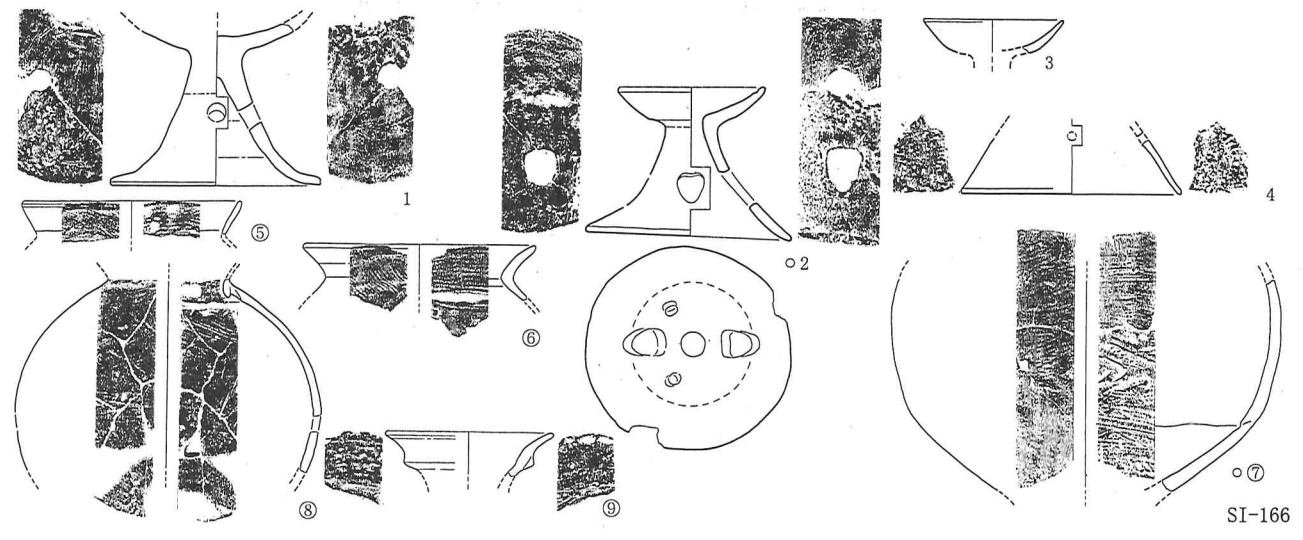
SI-165



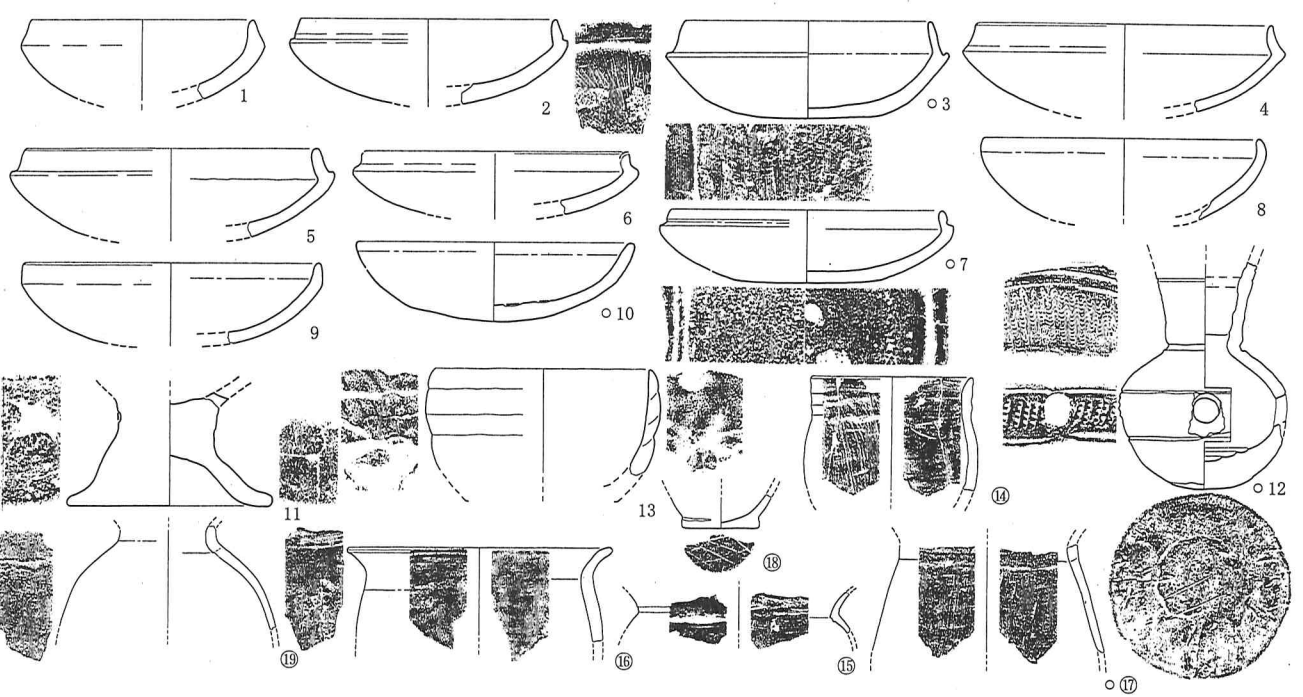
SI-168

SI-169

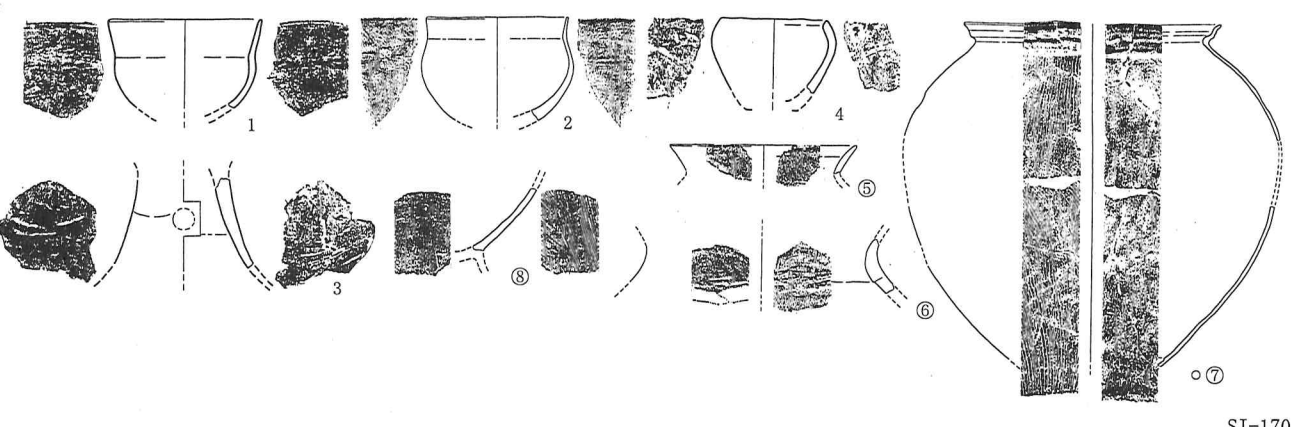
第41图 竖穴住居跡出土土器 (9) SI-164・165・168・169



SI-166

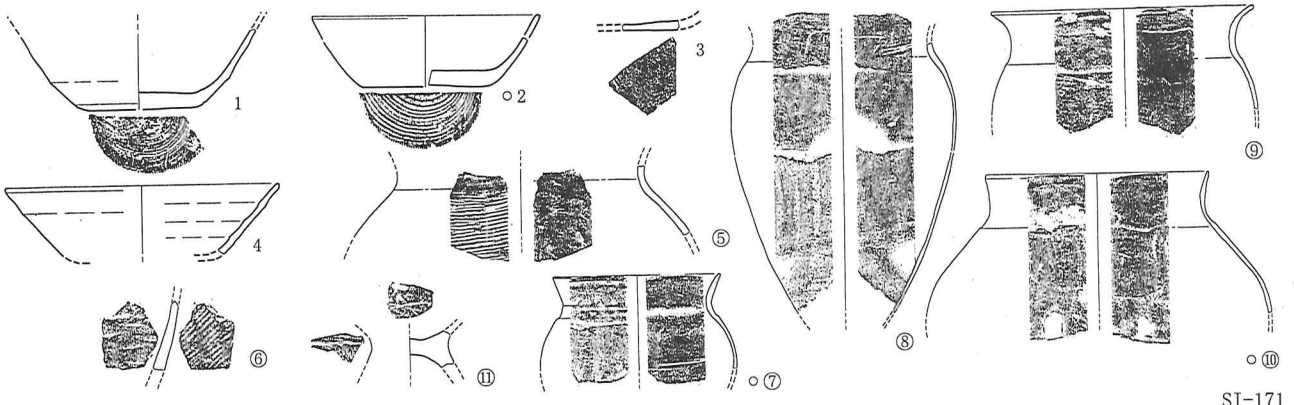


SI-167

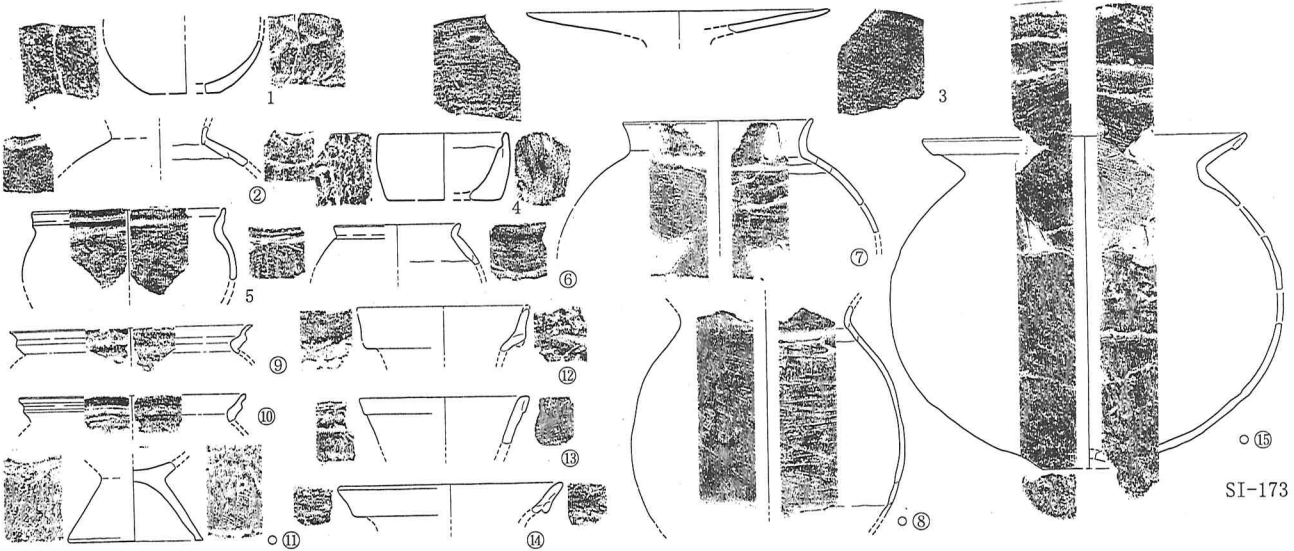


SI-170

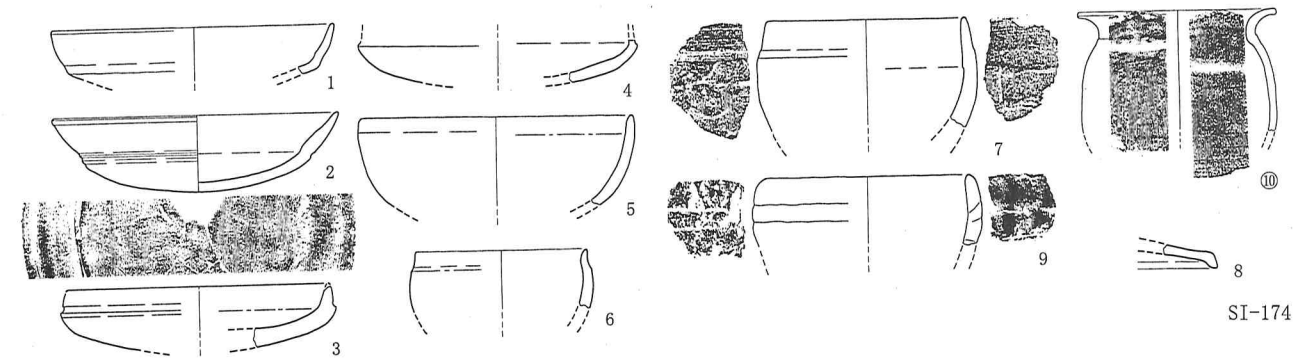
第42图 竖穴住居跡出土土器 (10) SI-166・167・170



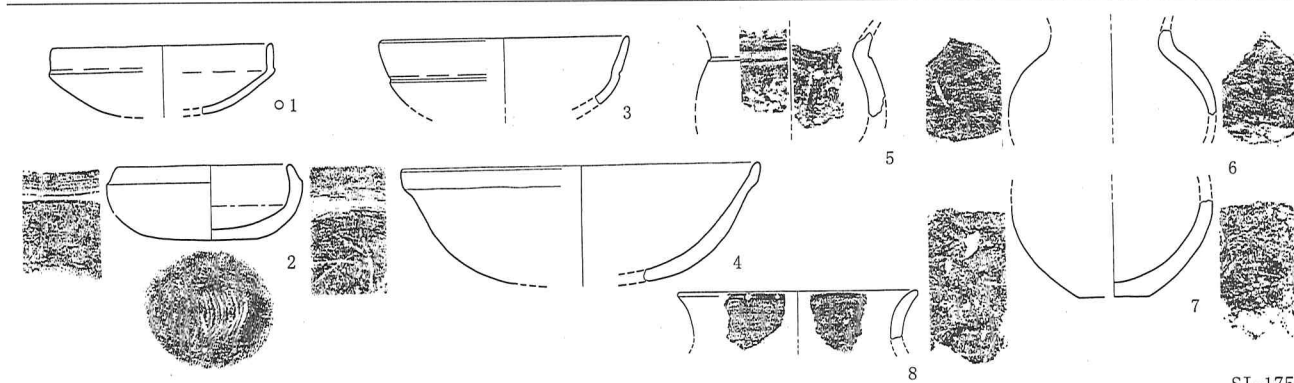
SI-171



SI-173

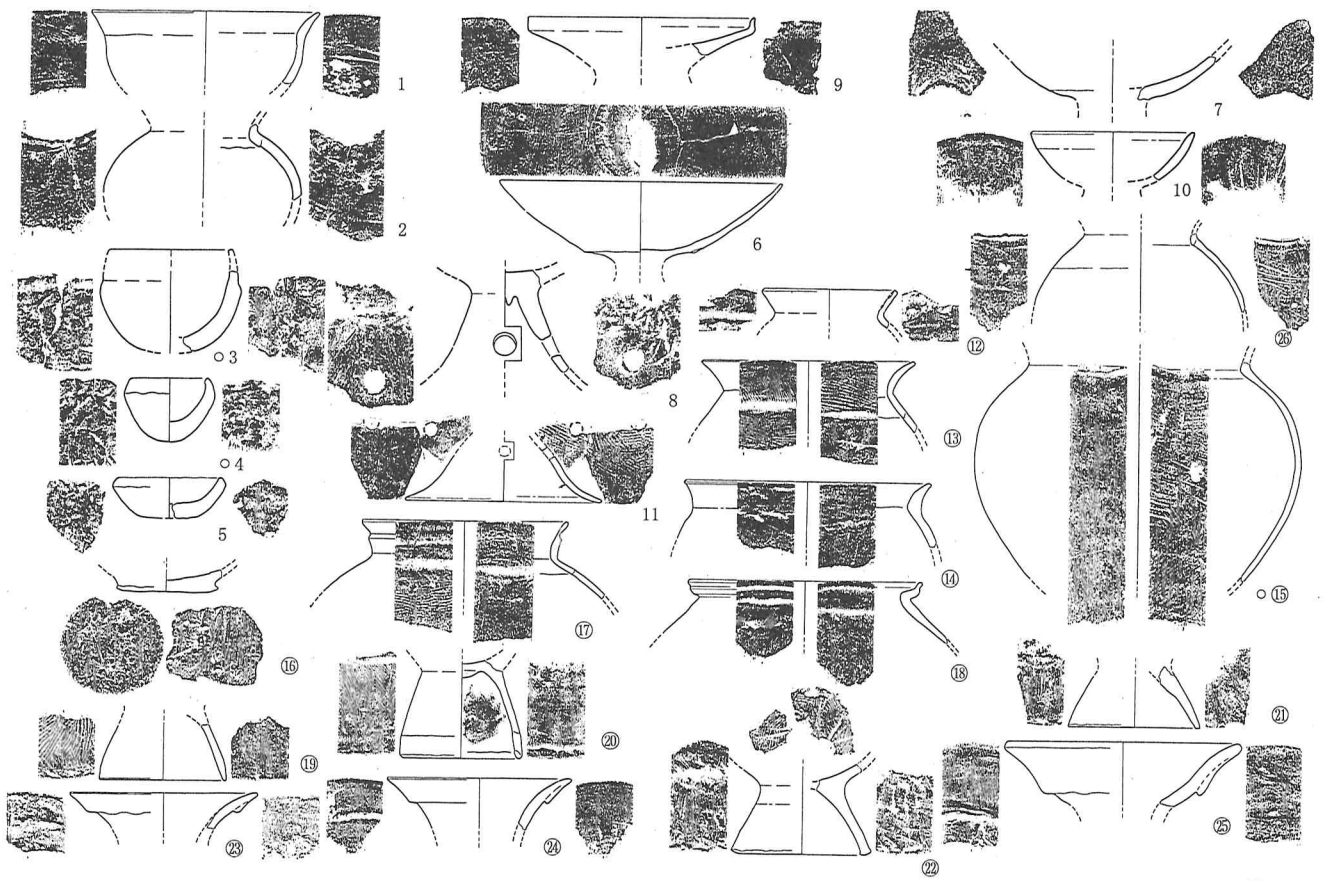


SI-174

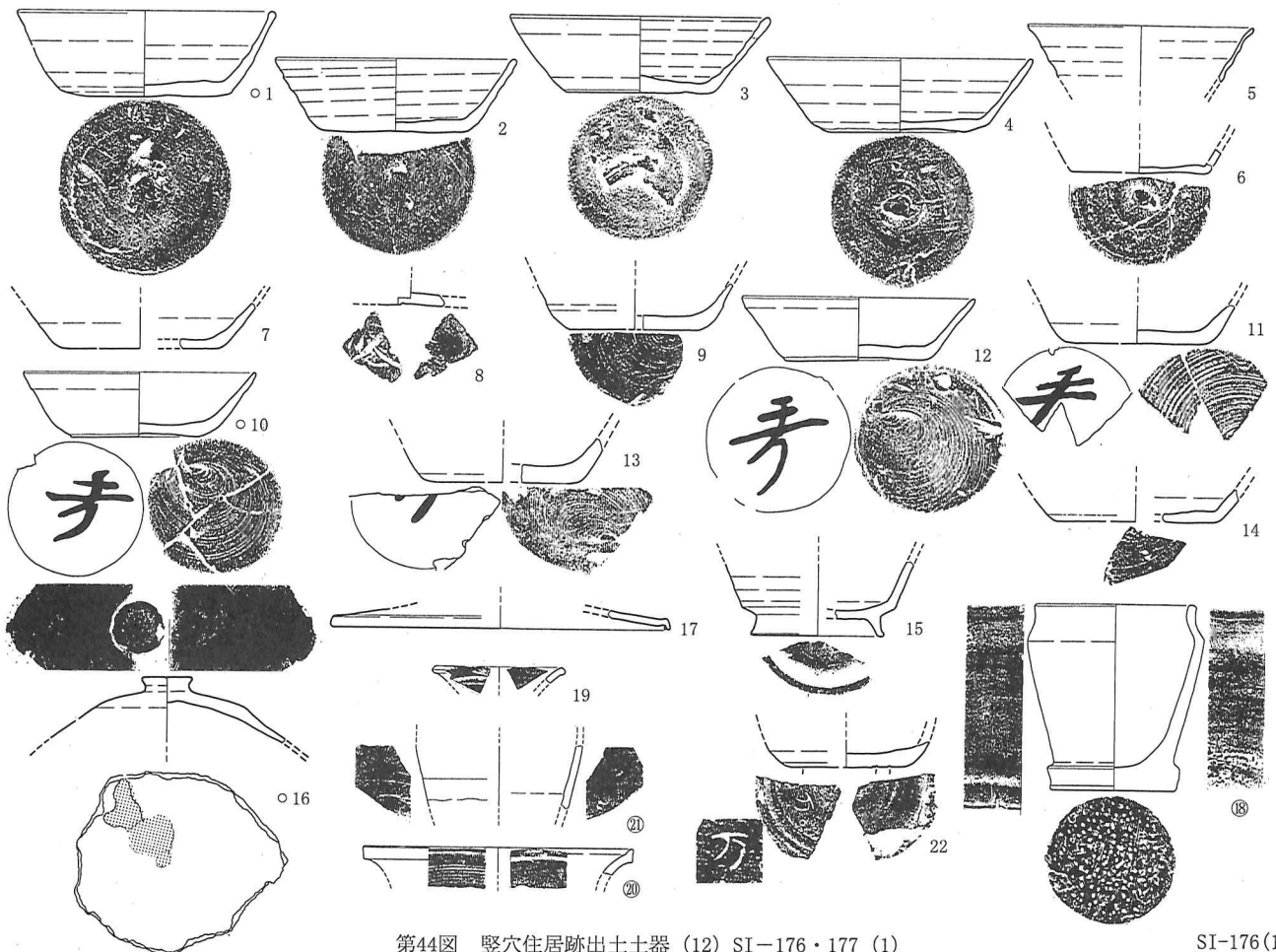


SI-175

第43図 竪穴住居跡出土土器 (11) SI-171・173~175

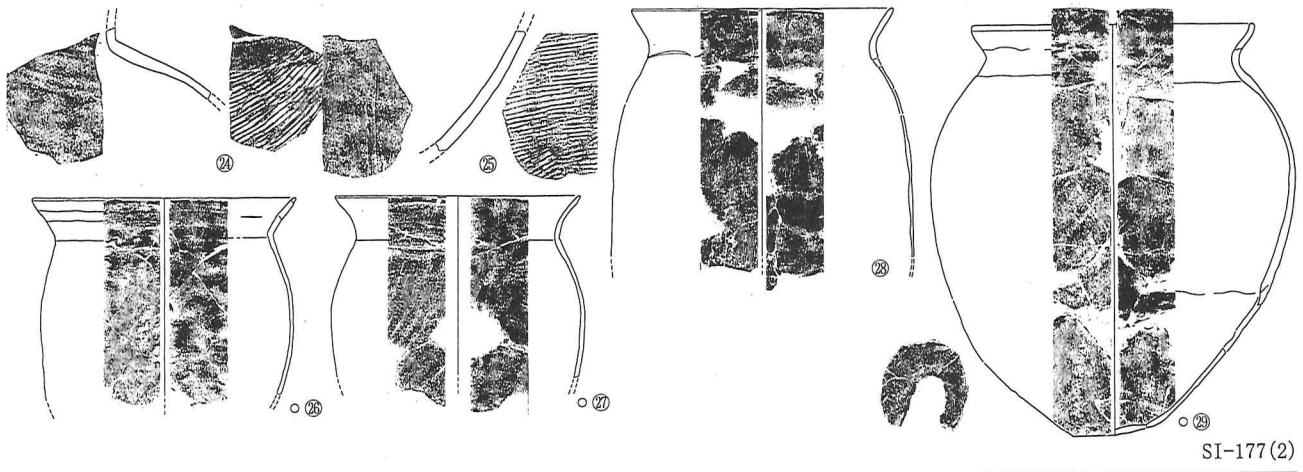


SI-176

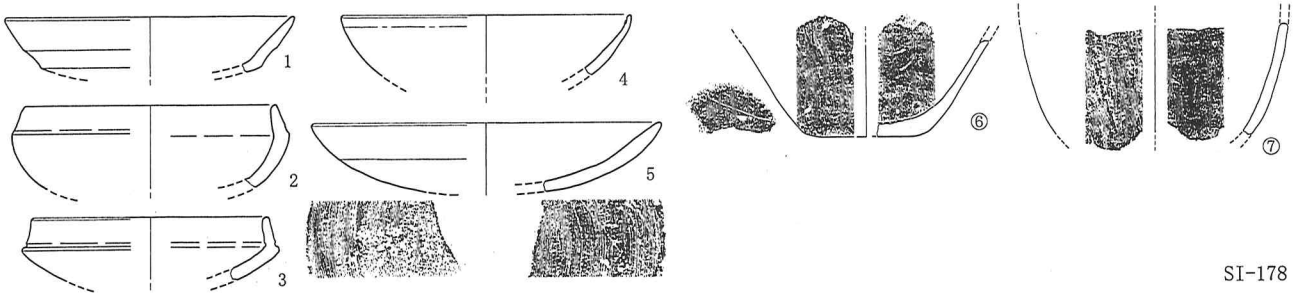


第44图 竖穴住居跡出土土器 (12) SI-176・177 (1)

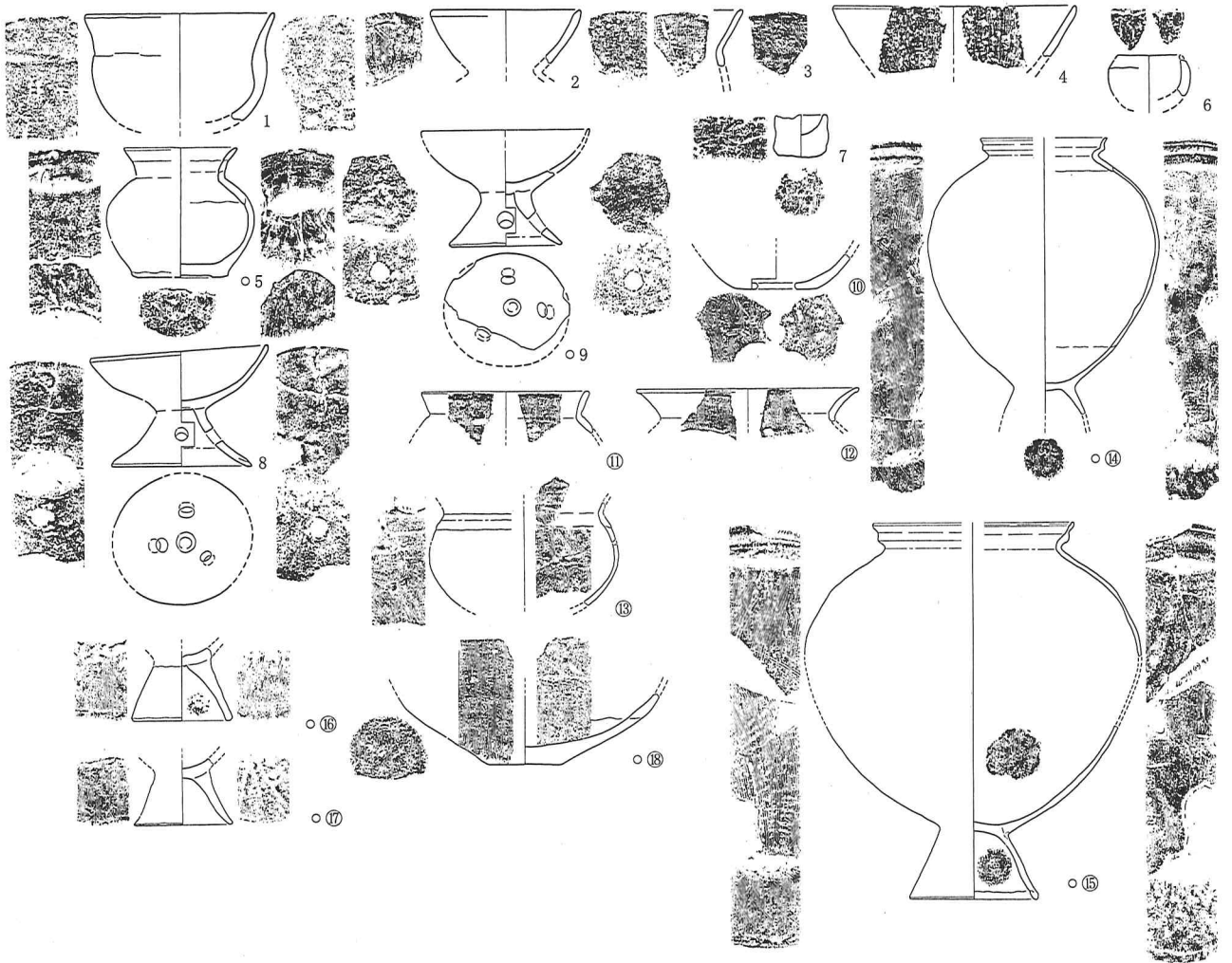
SI-176(1)



SI-177(2)

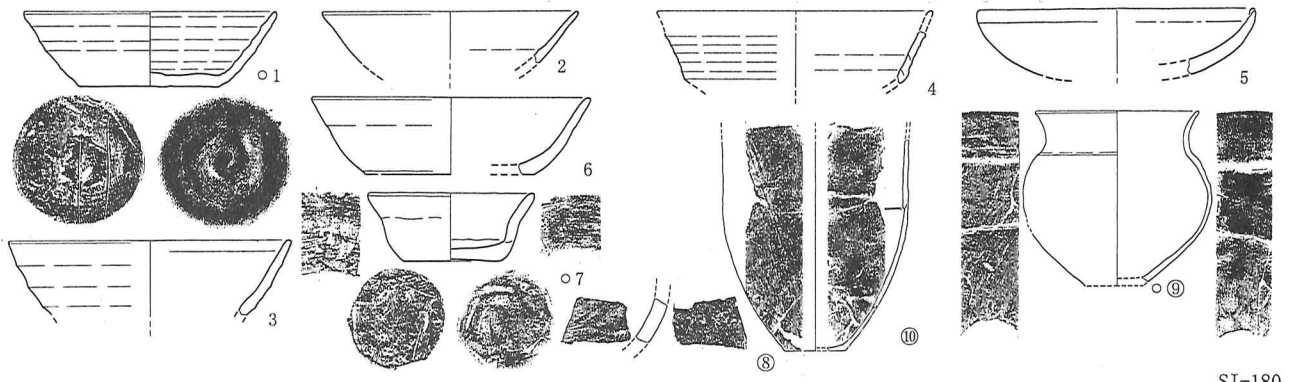


SI-178

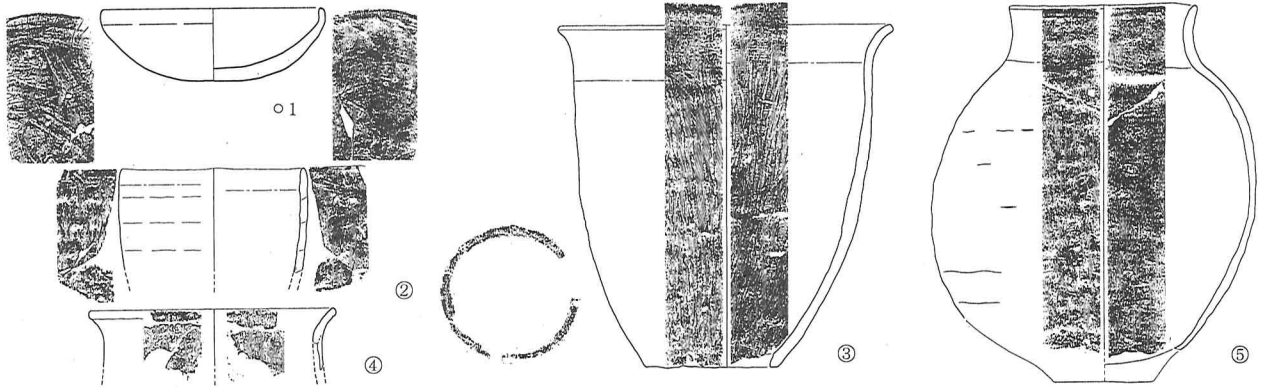


第45图 竖穴住居跡出土土器 (13) SI-177(2) · 178 · 179

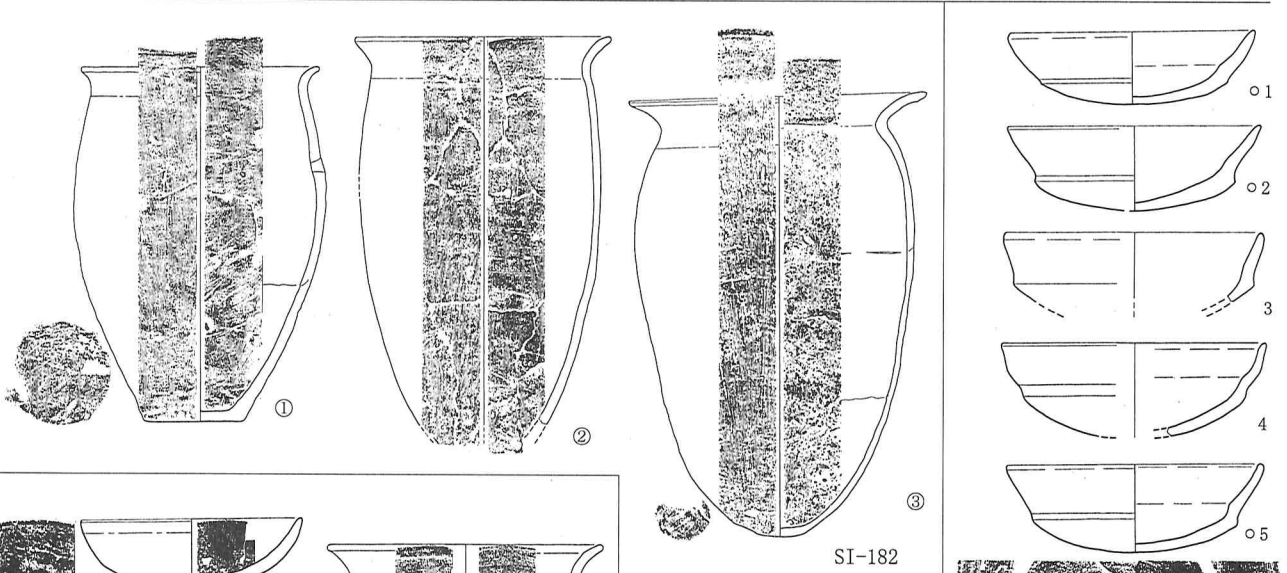
SI-179



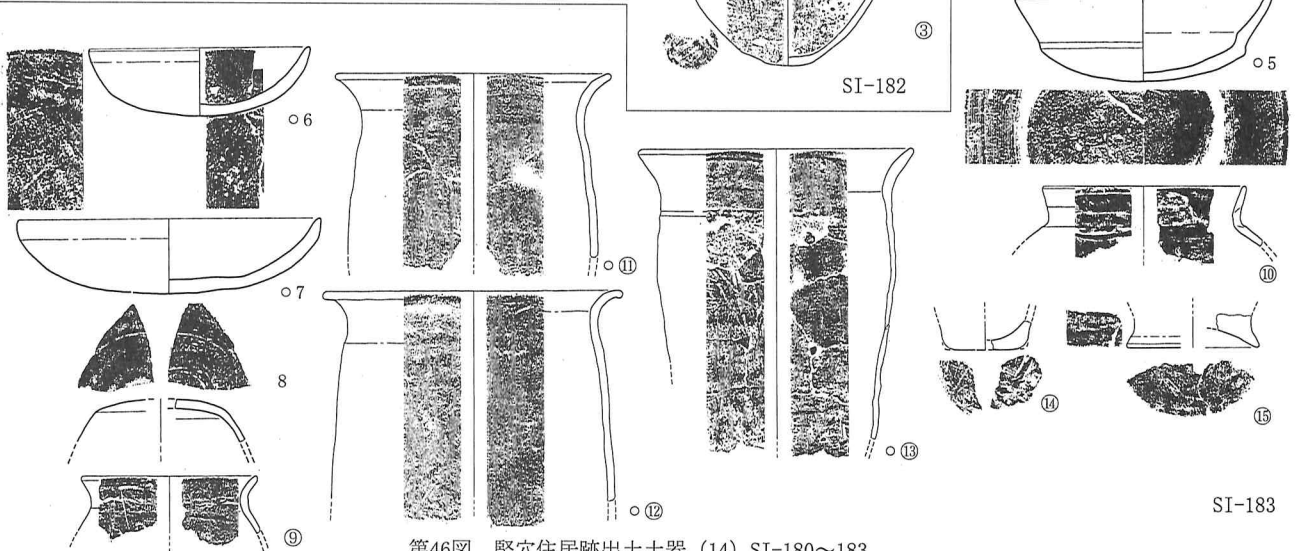
SI-180



SI-181

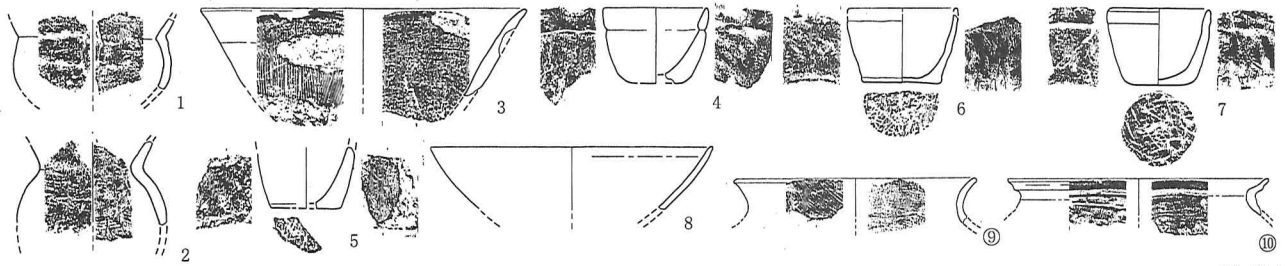


SI-182

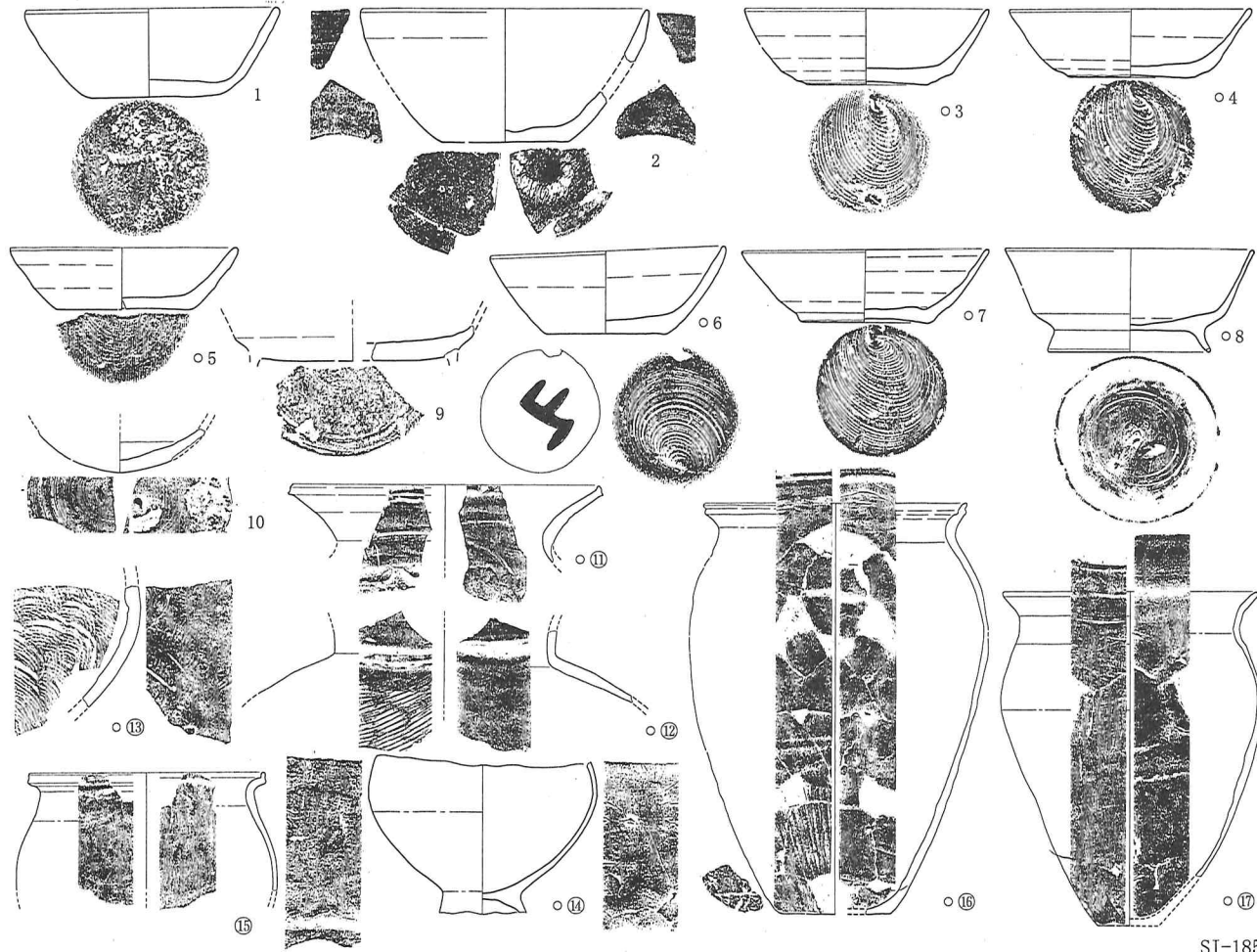


SI-183

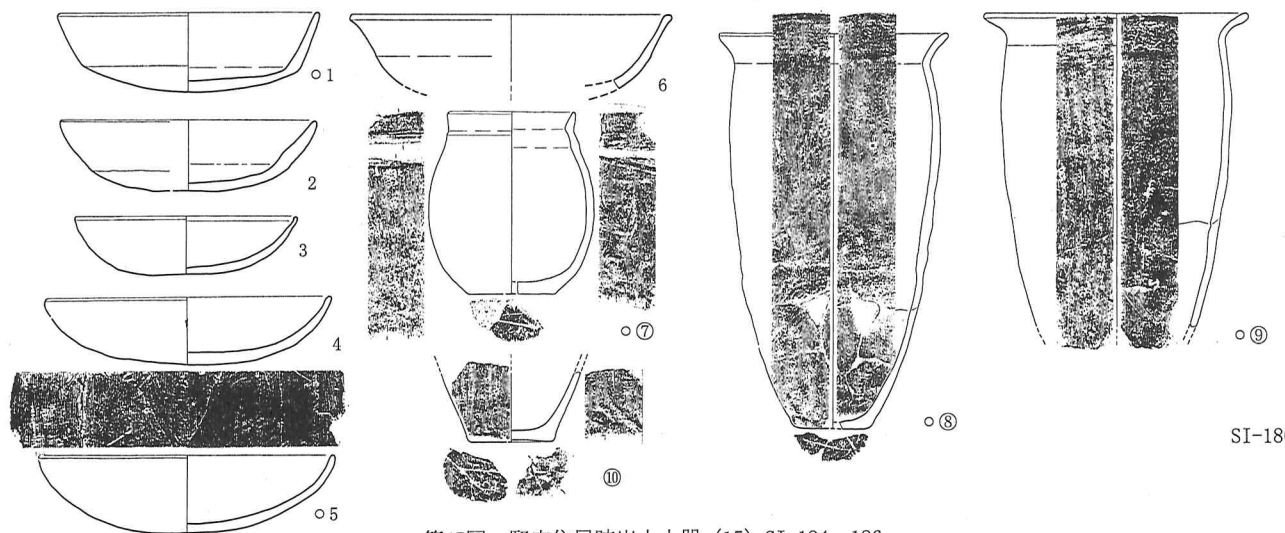
第46图 竖穴住居跡出土土器 (14) SI-180~183



SI-184

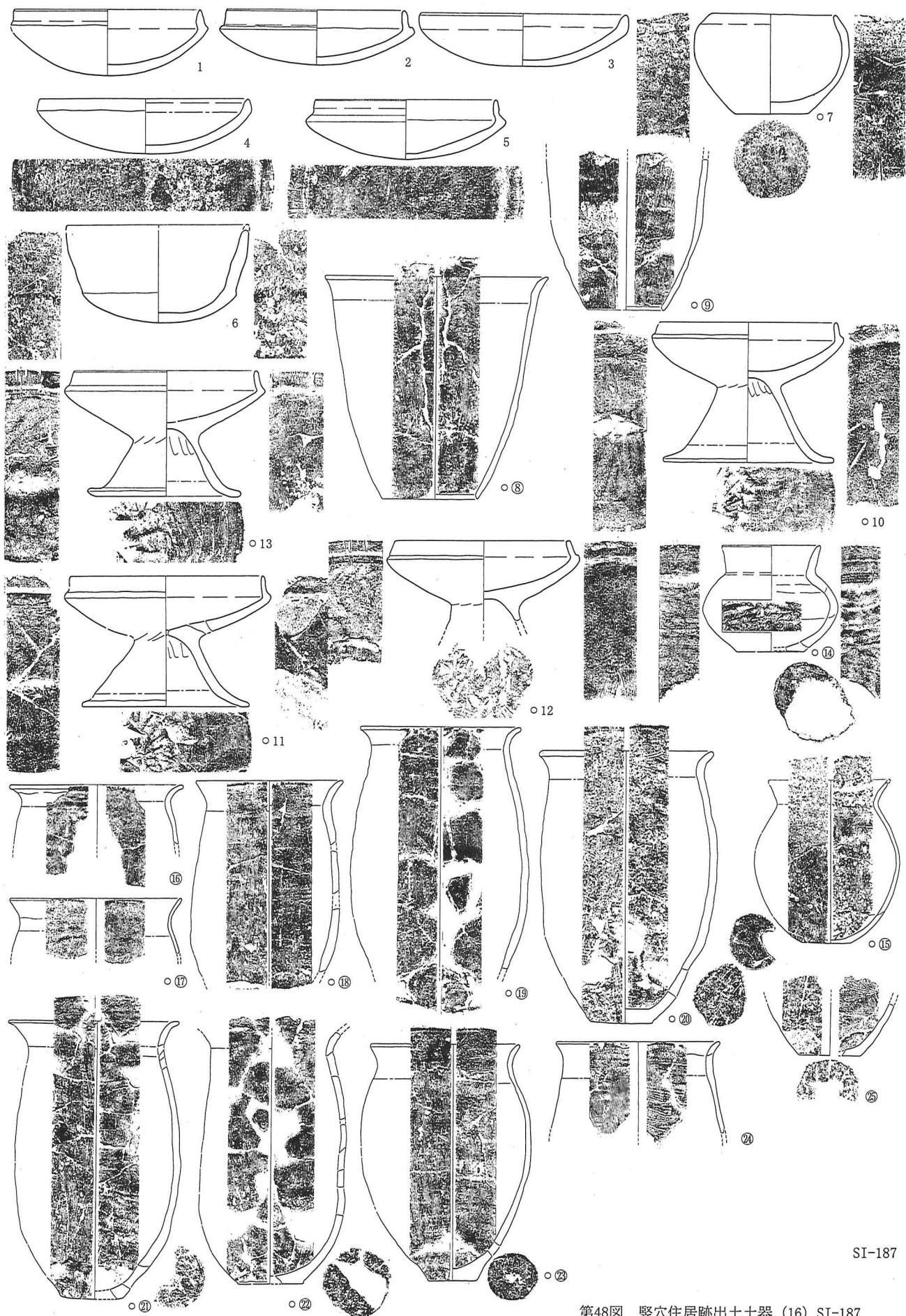


SI-185



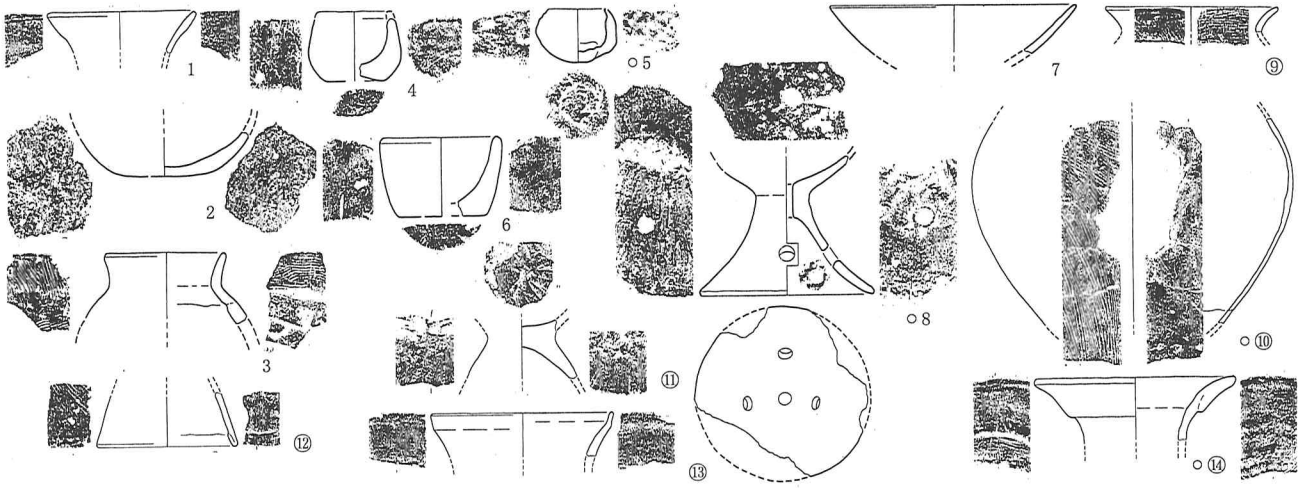
SI-186

第47图 竖穴住居跡出土土器 (15) SI-184~186

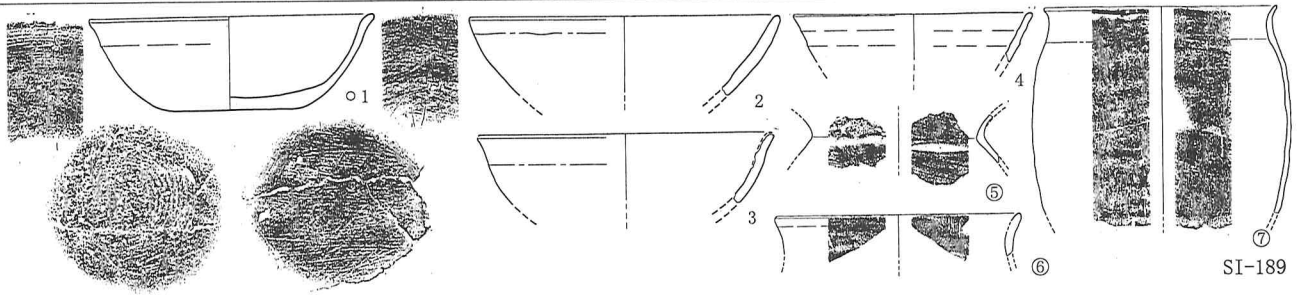


SI-187

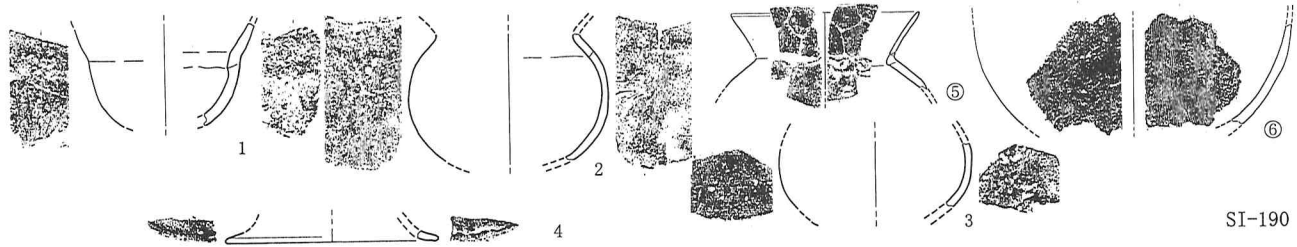
第48图 竖穴住居跡出土土器 (16) SI-187



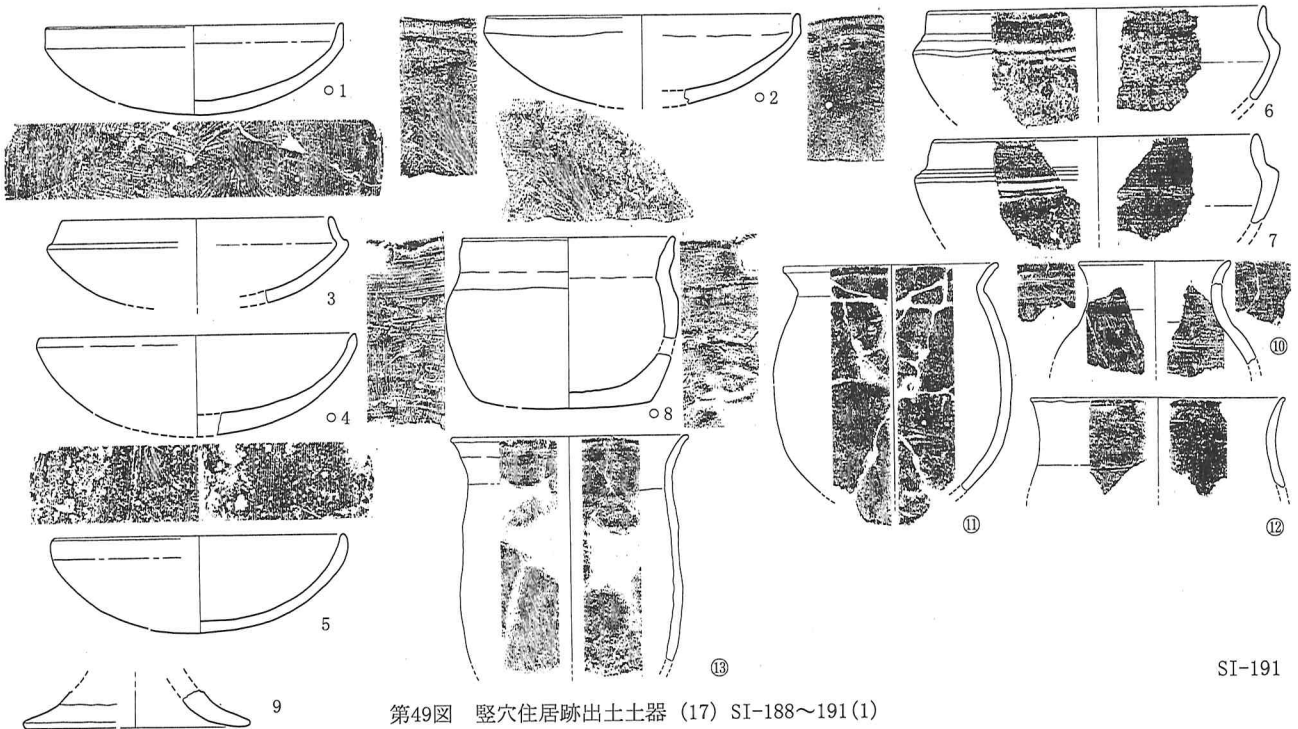
SI-188



SI-189

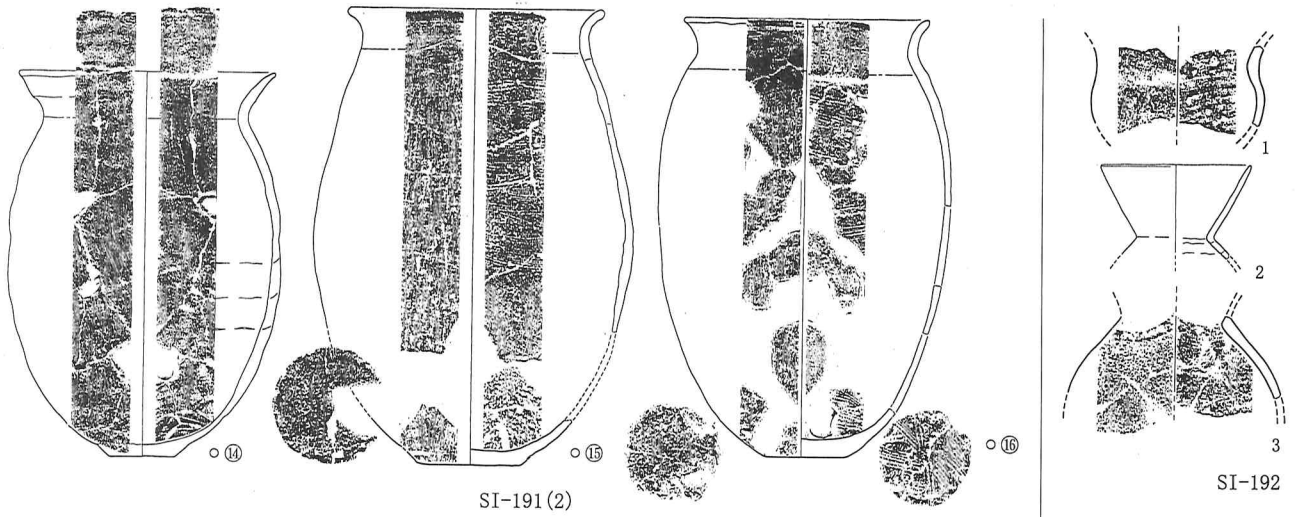


SI-190



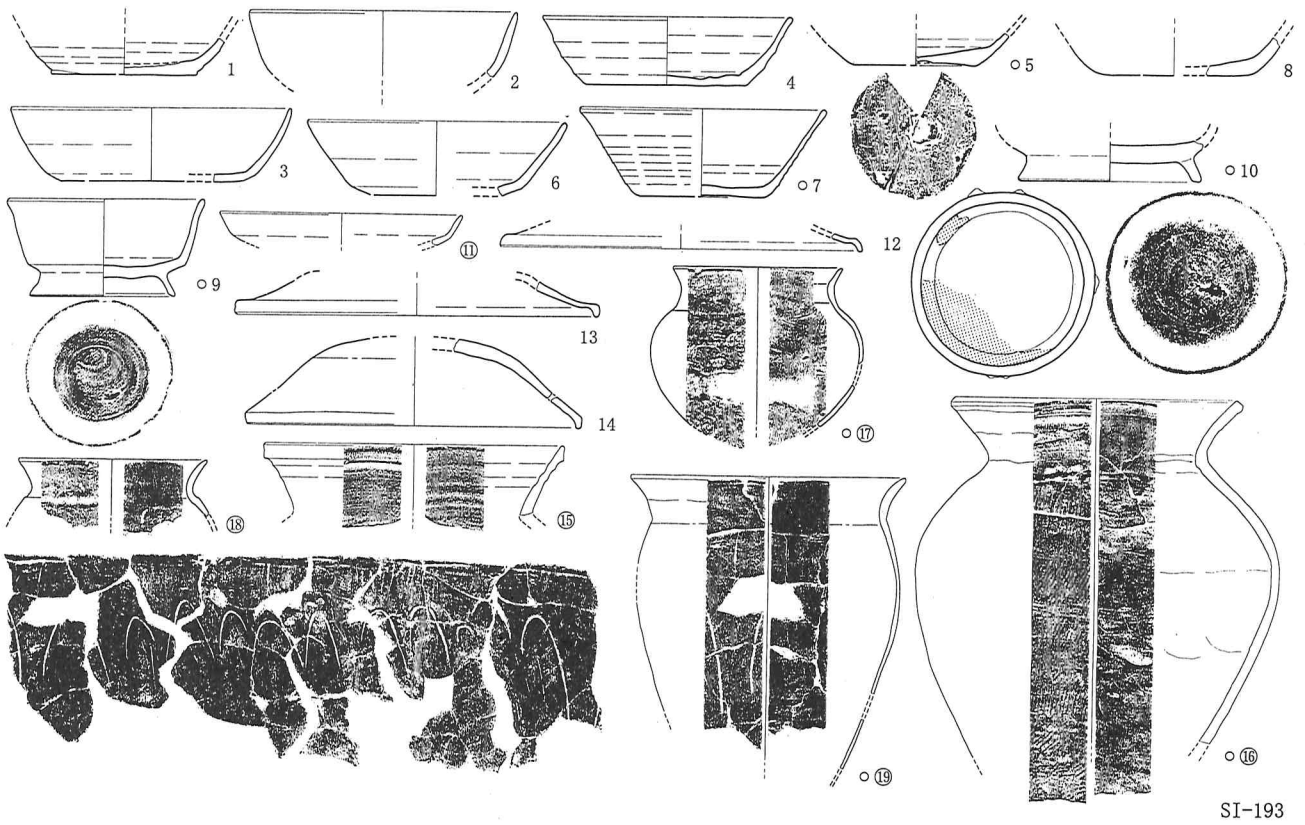
SI-191

第49图 竖穴住居跡出土土器 (17) SI-188~191(1)

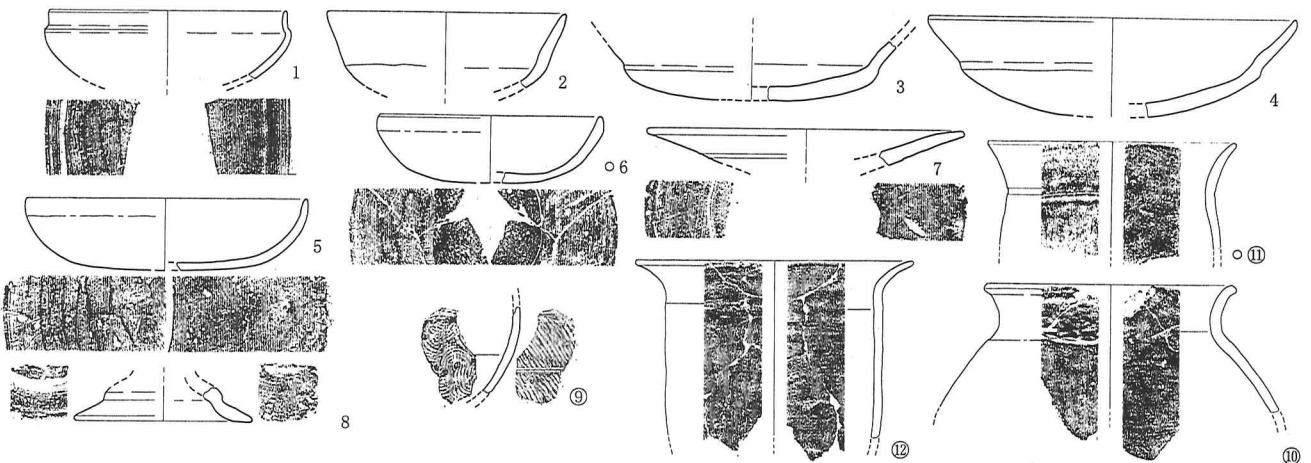


SI-191(2)

SI-192

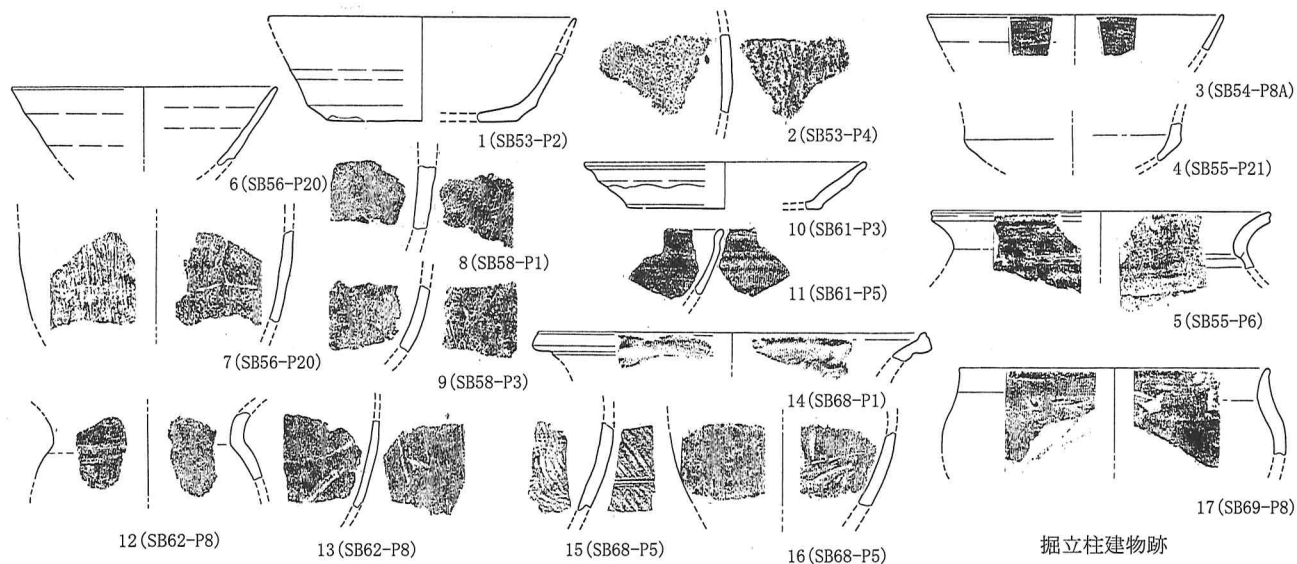


SI-193

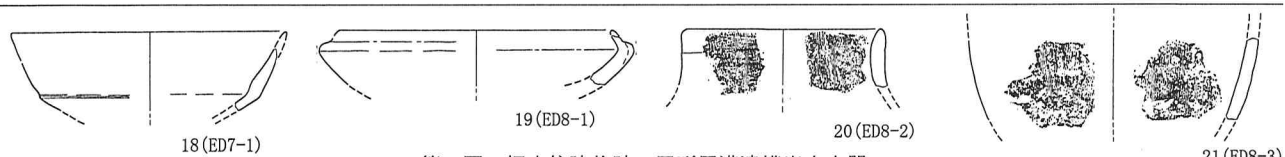


SI-194

第50图 竖穴住居跡出土土器 (18) SI-191(2)~194

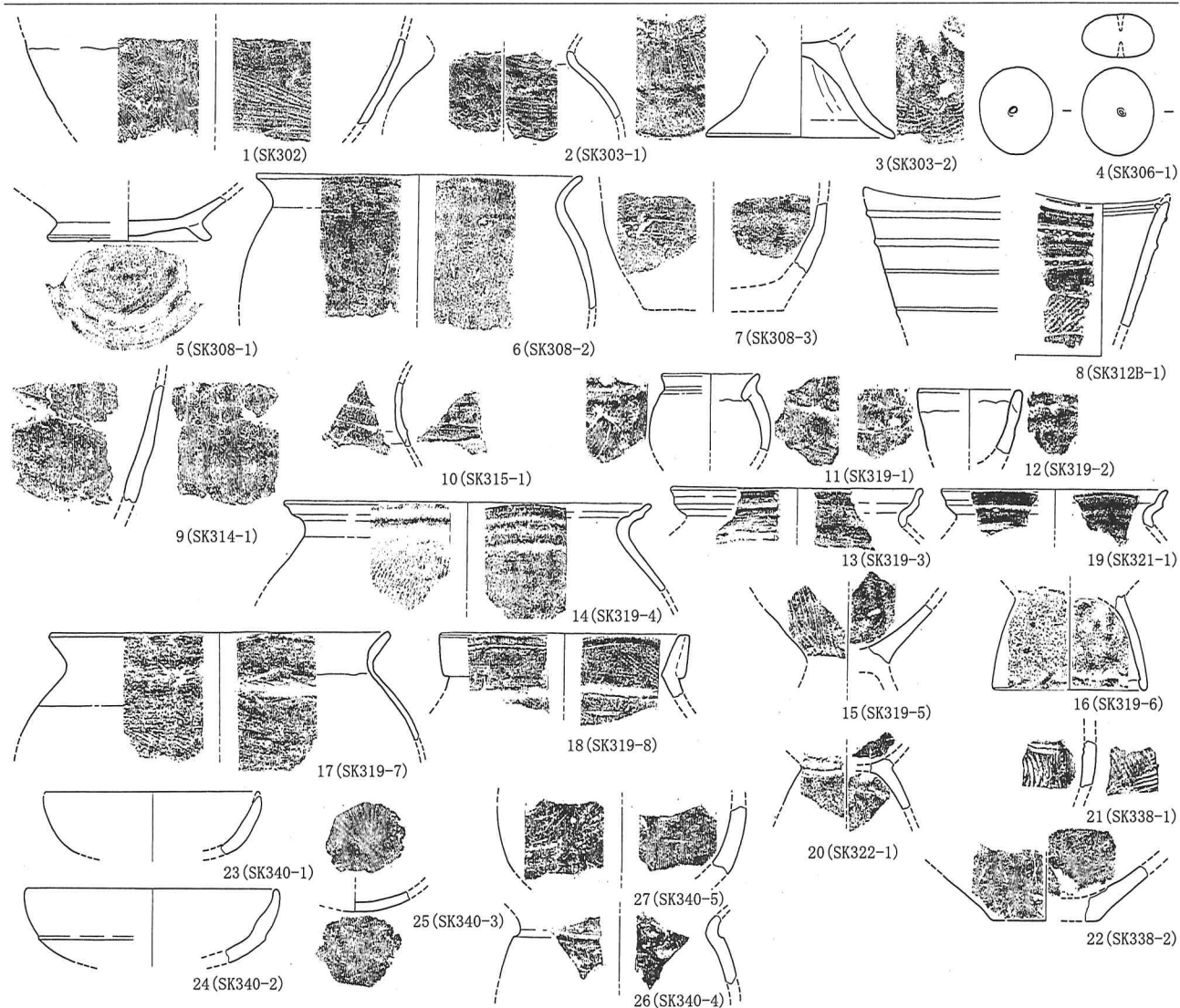


掘立柱建物跡

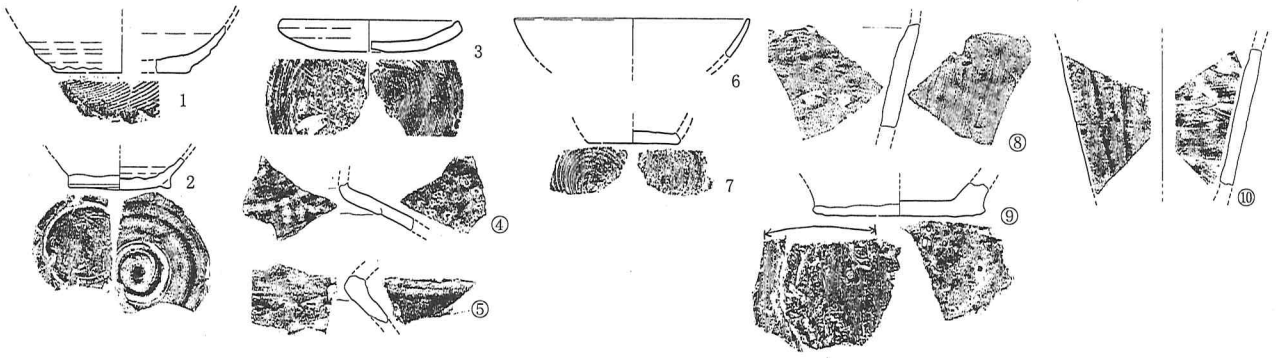


第51図 掘立柱建物跡，円形周溝遺構出土土器

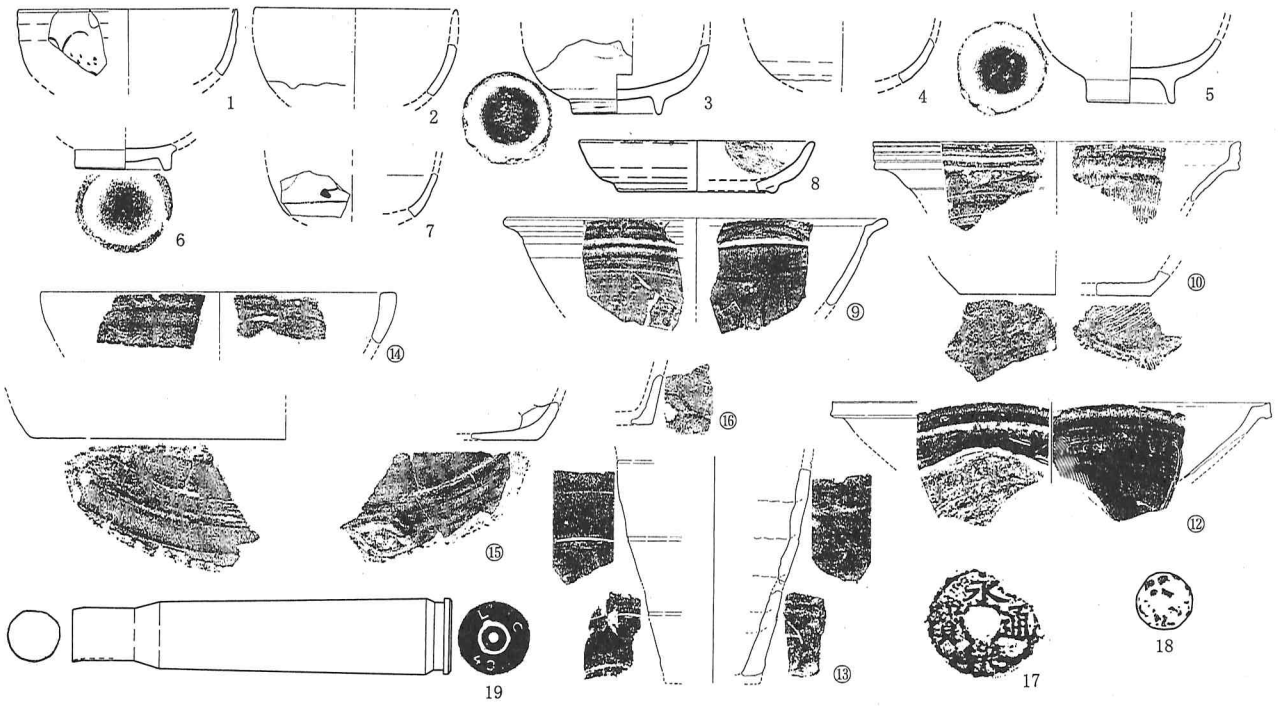
円形周溝遺構



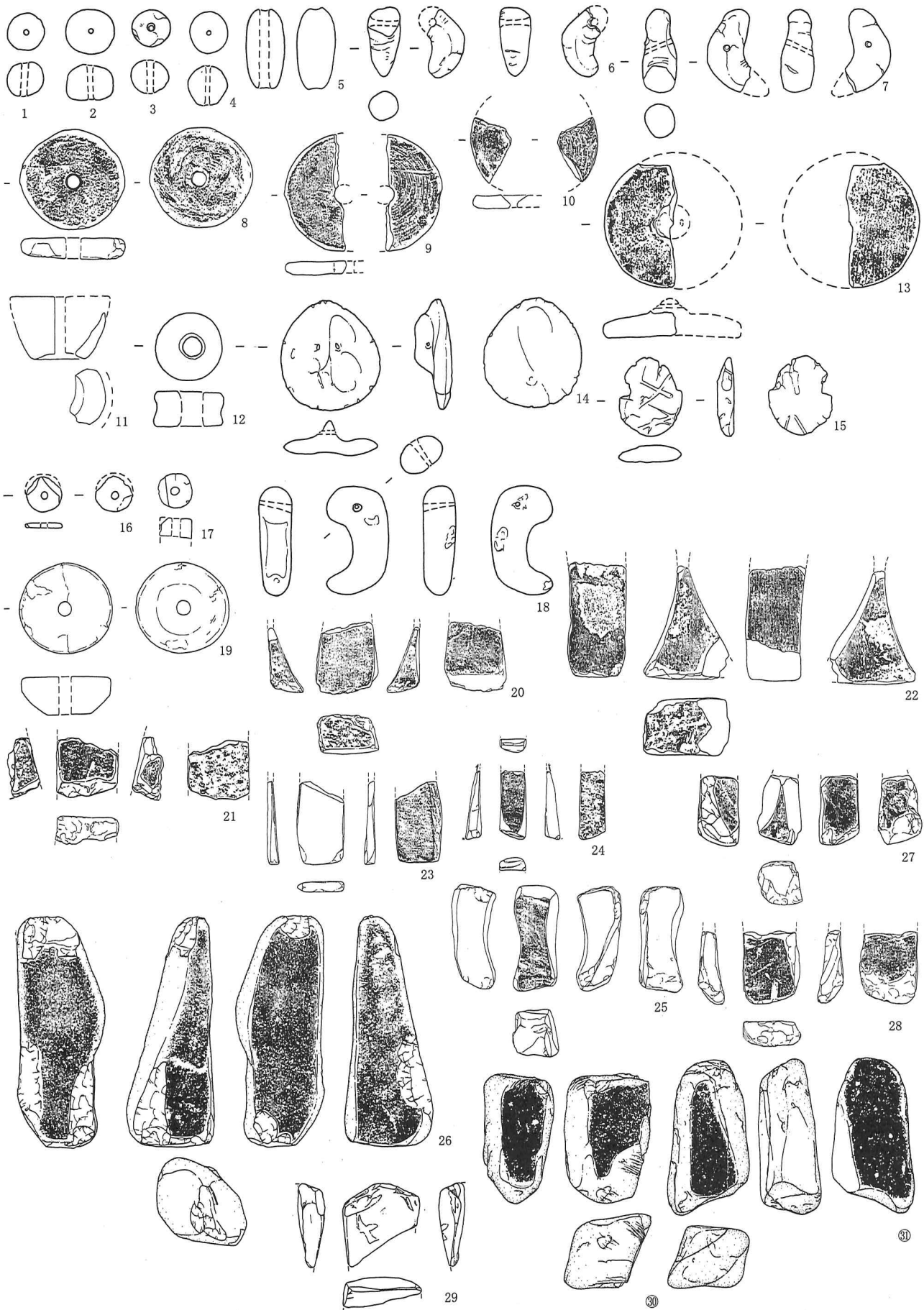
第52図 土坑類出土遺物



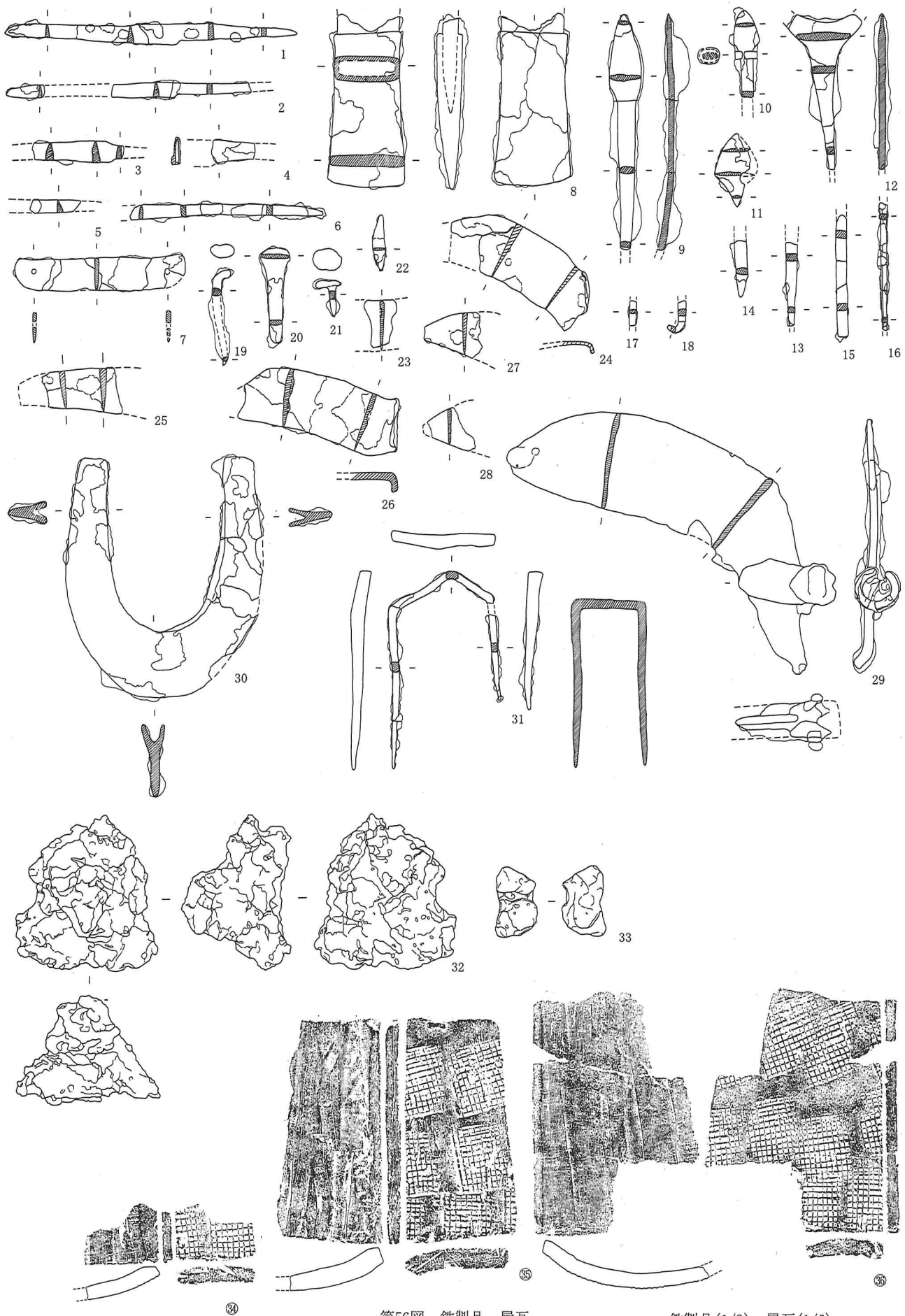
第53図 溝跡出土遺物 1~3・6・7 (1/4), 4・5・8~10 (1/6)



第54図 遺構外出土中世以降遺物 1~8 (1/4), 9~16 (1/6), 17・18 (2/3), 19 (1/2)

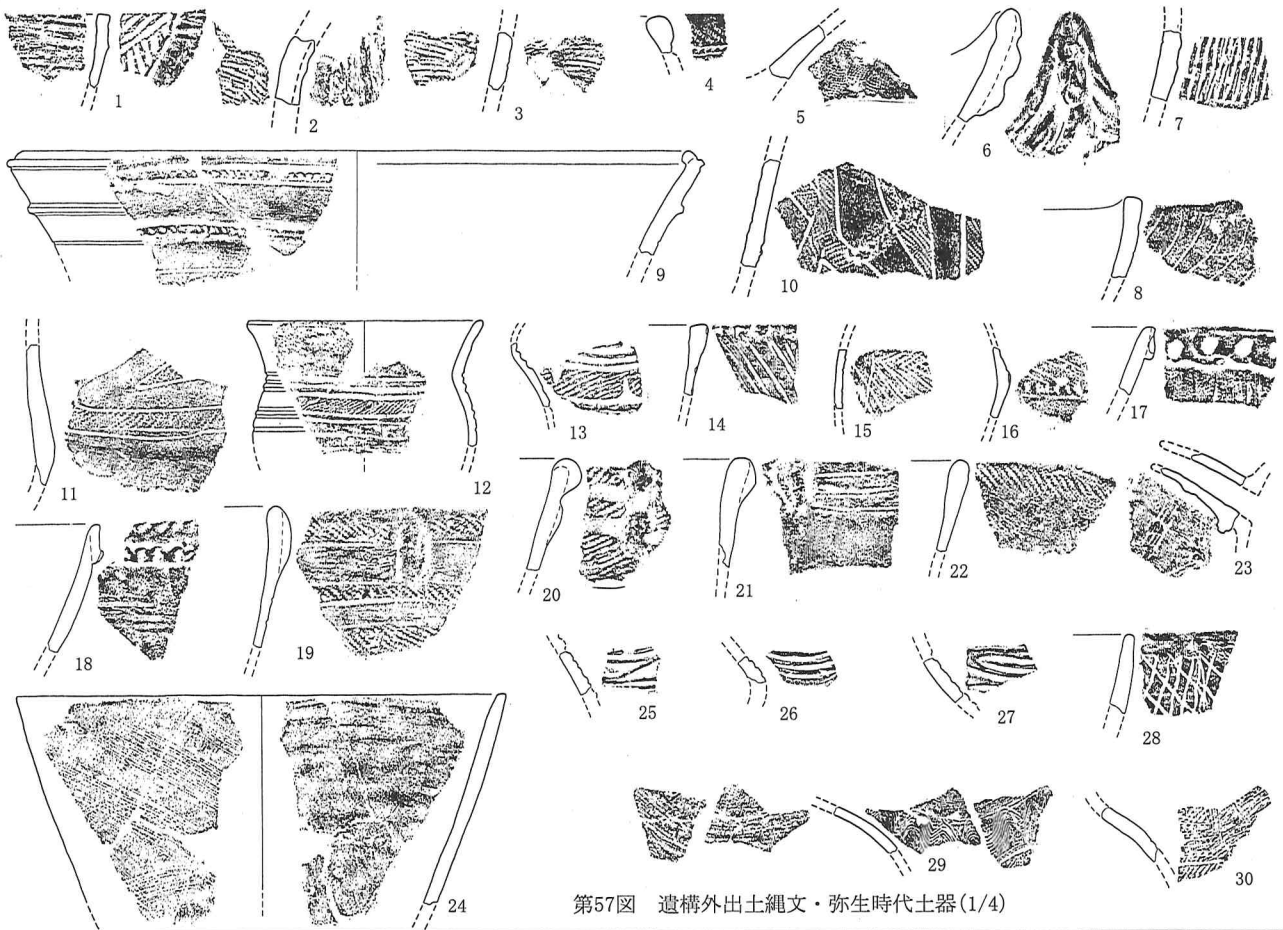


第55图 土製品, 石製品 1~19(1/2), 20~29(1/3), ⑩·⑪(1/6),

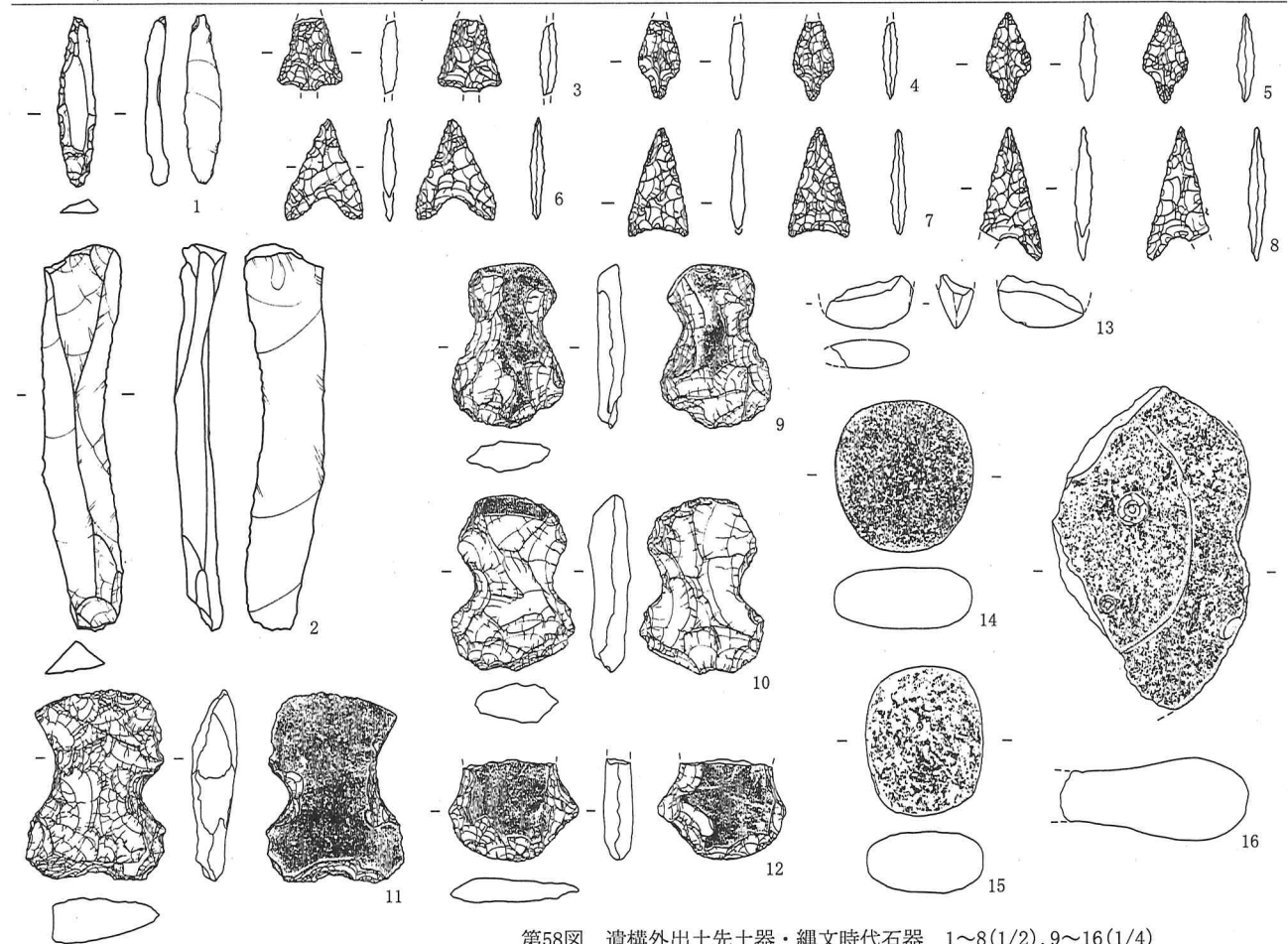


第56図 鉄製品, 屋瓦

鉄製品(1/3), 屋瓦(1/6)



第57図 遺構外出土縄文・弥生時代土器(1/4)



第58図 遺構外出土先土器・縄文時代石器 1~8(1/2), 9~16(1/4)

Ⅲ まとめ

1. 土地利用の変遷

これまで3次にわたり約4万㎡以上を調査し、縄文時代から中・近世に至る各時代の遺構を確認した。また、出土遺物も先土器時代、縄文時代(早・中～晩期)、弥生時代(中・後期)、古墳時代(前・後期)、奈良・平安時代～中・近世、近代にわたるものが出土している。

これまでに調査した遺構は、住居跡が縄文時代4軒、古墳時代約120軒、奈良・平安時代約70軒で、古墳時代後期の円墳1基、古代の掘立柱建物跡30数棟の他、中・近世の掘立柱建物跡、井戸跡、方形竪穴、溝跡、土坑、時期不明の円形周溝遺構などがある。しかし、調査したのは、地形より推定される遺跡全体の約2分の1程であり、本来はこれに倍する数の遺構が存在すると推察される。

今次調査では、約1万㎡の調査区より、竪穴住居跡53軒、掘立柱建物跡21棟、土坑(井戸跡3基を含む)40基、円形周溝遺構4基、溝跡21条などを確認した。これらの調査成果に過去の成果を加味し、当地における土地利用変遷を概観する。

先土器時代 今次調査では古代の竪穴住居跡より第58図に示した如き石器類の出土があり、この頃より当地の利用が始まった。

縄文時代 今次調査では遺構としては中期初頭(五領ケ台式)1、後期末葉(安行式)3軒、計4軒の竪穴住居跡と土坑4基が確認された。五領ケ台式期の住居跡の確認は貴重な成果と言えよう。また、遺物としては、全体を通じて早期(野鳥式)、中期(加曾利E1式)、後・晩期(堀の内式、加曾利B式、安行式、大洞式)の土器、石器類などが出土している。したがって、大規模な集落は形成されなかったものの当地が長期間にわたって利用されていたことが知られる。

弥生時代 該期の遺構は調査区内では確認されなかったが、中期(野沢式?)、後期(二軒屋式)の土器片が数点出土した。この時代にも何らかの土地利用があったと推察される。

古墳時代 前期には集落が形成され、今次調査では14軒の住居跡が確認された。過去の成果を加えると総数42軒となり、現在知られる該期の集落としては市内で最大級の規模であろう。集落は遺跡(調査区)全体の中程から南側にかけて所在している。竪穴住居跡は小がSI-162の7.3㎡、大はSI-156の73.1㎡と大小様々である。平面形は方形を基調とし、主柱穴は4本のものが多いが、小型の住居跡では主柱穴が明確で無く、炉跡の認められないものがあつた。遺物は土器類が主体であるが、最大規模のSI-156より耳飾状土製品、SI-164から鏡形土製品、SI-173からは鉄鏃が出土しており、過去の調査では勾玉・管玉なども出土している。

尚、西方約350mの花の木町遺跡でもこの時期の集落跡が調査されているが、本遺跡の集落の盛期よりやや後出(一部平行か?)であり、集落の分散・移転の可能性も推察される。また、本集落に伴う墓域については確認できなかった。

中期には遺構・遺物ともまったく認められず、この時期は空白といわざるを得ない。

後期に至ると再び集落が形成され、平安時代まで連綿と続く。該期の住居跡は今次調査で16軒、過去の成果を加えると80軒程となる。集落は遺跡(調査区)全体に広がりを見せるが、北寄りには住居の分布の密度が疎になる。住居跡の規模は小がSI-174の10.2㎡、大がSI-167の57㎡と様々である。平面形は方形を基調とし、主柱穴は4本のものが主体を占めるが、小規模な住居跡では明確ではなく、大型のSI-167では補助柱穴を含め計10本の柱穴が認められた(後述)。カマドはいずれも東もしくは北壁に施設されていた。出土遺物は土師器を主体とし、少量の須恵器(ハソウ・甕)、鉄製品、石製品が見られ、過去には金銅製耳環の出土した住居跡(SI-57)もある。北方に隣接する辻の内(現在は西の内)遺跡にも該期の大規模な集落跡が所在する。

尚、第1次調査では調査区の南西部で後期前葉の径12m程の円墳が1基確認されている。この古墳は大部分が中世以降の溝溝に切られており、西側は開発区域外となる為、古墳の詳細やこれ以外の古墳の有無については明確にし難い。

奈良・平安時代 今次調査では23軒、過去の成果を加えると総数70軒の住居跡を確認した。この時期の集落も遺跡全体に広がりを見せるが、やはり北寄りには住居跡の分布が疎になる。竪穴住居跡は小がSI-186の10.6㎡、大はSI-161の38㎡と大小様々であるが全体に小振りになる。平面形は方形と長方形があり、方形のものが多い。主柱穴は4本のものが多いが、2本柱から4本柱にしたものや主柱穴の明確でないものも多くなる。カマドは北もしくは東に施設されていた。出土遺物は土師器、須恵器の他、鉄製品(鋏先・斧・刀子・鏃・鎌・釘)、石製品(紡錘車・砥石)、屋瓦、灰釉陶器などがある。また、SI-177では須恵器杯の底部に「千万」と墨書されたものが2点、その一部と推定されるものが3点の他、須恵器高台杯(壺?)の底部に「万」とヘラ書きされたものが見られた(後述)。尚、火災住居の奈良時代のSI-193では多量の土器類とともに、鋤・鋏先、斧、刀子など多くの鉄製品が遺存し、当時の家財道具のあり方を知るうえで興味深い(後述)。前述の辻の内遺跡では該期の集落跡とともに、四面廂の三方に孫廂をもつ大型の掘立柱建物跡が確認されている。孫廂の無い南側には近接してもう1棟の建物跡があり、出土遺物からも仏堂的性格が想定されている。しかし、本遺跡の掘立柱建物跡はいずれも1×1～2×3間程度と一般集落に良く見られる規模のものであつた。

中・近世 該期の遺構としては、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡などがみられ、第2次調査区では方形竪穴も確認されている。遺物は中国青磁や国産陶器(瀬戸・美濃系)・炆器(常滑系)、土器(カワラケ)、銭貨(永楽通宝)などが出土した。建物跡と井戸跡から集落跡と見ることが可能であるが、多数の土坑が存在することから墓所・塋域の可能性も否めないが、出土遺物などからはいずれも決し難い。該期の遺構は北方の辻の内(現西の内、星の宮神社北)遺跡、その北方の柿の内(現下砥上下の内)遺跡でも多数確認されているが、今次調査区では12世紀末～13世紀前葉の遺物が出土し注目される。また、中世遺物は14C代まで、近世は17～18Cで、15・16C代が空白となる。

尚、埋蔵文化財としても良いのかとの疑問もあるが、第2次世界大戦中に米軍機より発射されたと考えられる機銃弾の薬莖が調査区内より出土した。戦後半世紀以上を経て風化しつつある昭和20年夏のあの忌しい記憶を思い起こさせる1点である。

2. 特色ある遺構・遺物

以上の調査成果の中で特色ある遺構・遺物について以下に略記する。

A. 多数の柱穴をもつ住居跡

E地区の中央に確認されたSI-167は、一辺約7.5～7.6mの方形で、北壁に新・旧2基のカマドが認められ、床面より10本の柱穴が確認された。本跡は古墳時代後期7世紀代のもので、集落内では最も大きい部類に属する。竪穴の北と南に各4本、東・西の両者の中間に各1本の計10本の柱穴が整然と配置され、確認当初は規模・形状ともに差異が見られず、いずれも同程度の柱穴と考えられた。しかし、調査の進捗に伴い、四隅の4本が深さ70cm、他は30～50cmと深さが明確に異なり、4本の主柱穴と補助柱穴と判断した。また、第59図に示した如く、東西の壁溝から各柱穴に向かって間仕切溝（各隅の壁溝は見落としか？）が延びており、間仕切に伴う施設と推察する。かつて調査した立野遺跡A地区の一辺12m程の竪穴住居跡でも主柱穴は4本であり、上屋を支えるだけあれば4本柱で充分であったのではなかろうか。本跡のようにあえて多数の柱穴を設けたのは上屋構造との関係よりは間仕切に起因すると考えられる。第1次調査区のSI-26・85なども該期の一辺7mを超える大型の住居跡で、4本の主柱の他に補助柱穴、間仕切溝が設けられていた。この2軒も北壁にカマドが設けられ、本跡と同様に東・西の壁溝から主柱穴及び補助柱穴に向かって間仕切溝が延びる。この2軒と比較すると、間仕切溝を伴わない本跡の南・北壁沿いの各2本の補助柱穴の存在理由が疑問となる。本県の間仕切住居に関する橋本澄朗氏の論考によれば、本遺跡の所在する県中央部それも田川及び姿川流域がまさにこの種の住居跡の集中地域とされる。また、氏が検討資料として取り上げた、南東約6kmに所在する砂田A遺跡の15・20号住居跡と比較し疑問は氷解した。第59図に示すように、15号から20号、そして本跡へと時期の変遷とともに南壁中央の所謂「張出ピット」が徐々に竪穴内に移動し、間仕切住居の設計プランがより整然となる。砂田20号では間仕切溝のみで補助柱が存在しなかった部分（A～D）にもそれが設けられた結果と判断される。逆にこれ程整備しながらも間仕切溝が認められなかった点に疑問を残す。

B. 火災住居と家財道具

E地区の北寄りで確認したSI-193は平面がほぼ方形で、火災に遭遇し、家財を持ち出せなかったのか当時としては貴重品の鉄製の道具が多数遺存した。その内訳は、刀子2、鉄鎌2、鋏・鋤先1、鉄斧1、門金具1、釘1、鉄滓1などである。また、SI-161も火災住居で、6点程の鉄製品が出土しており、その内訳は刀子1、雁又鎌1、不明2（鎌？）、鎌1、手鎌（穂摘具）1で、この他には砥石1、土製紡錘車2点なども見られた。竪穴の規模を見ると、SI-193は5.5×4.8mの長方形、SI-161は一辺6.5mの方形で、当時の住居としてはSI-193は一般的、SI-161はやや大振りである。しかし、出土遺物を見ると、大振りの住居の161は比較的一般的な器種構成であるのに対し、193は鋏・鋤先や鉄斧などの農・工具を所持しており注目される。管見にふれた県内の出土例を見ると、市内の前田遺跡では古墳時代後期～平安時代の住居跡160軒、掘立柱建物跡約100棟が調査され、鋤先の出土は断片が3点である。同じく市内の辻の内遺跡は、古墳時代34軒、奈良・平安時代68軒の約100軒の住居跡、仏堂と推定される四面廂の三方に孫廂をもつ大型の掘立柱建物跡などが調査され、ここでは鋤先と鉄斧が各1点出土している。またこれも市内の瑞穂野田地遺跡は3地区で、40軒程の住居跡が調査され、東地区で鋏・鋤先が1点出土した。この遺跡は調査面積は少ないが、本来は30万㎡に及ぶ大規模集落跡と推定される。市域の南に隣接する上三川町多功南原遺跡は数次の調査により460軒もの住居跡が調査され、数百点の及ぶ各種の金属製品が出土しているもの、鋏・鋤先は僅かに2点、鉄斧も4点程である。さらに、真岡市井頭遺跡でも151軒の住居跡が調査され、鋏・鋤先の出土は1点で、小山市寺野東遺跡でも歴史時代の住居跡が90軒ほど調査されたが、鋏・鋤先は1点であった。

このように、各遺跡とも100軒近い住居跡の調査でも1～2例程の出土であり、本遺跡の出土状況と矛盾しない。出土住居の規模は出土状態の関係から検討を要するが、前記の例を単純に比較すると、前田遺跡の約9㎡～多功南原遺跡の44.2㎡とまちまちであり、25㎡以下が5軒、25㎡以上が4軒となる。したがって、当時としては非常に貴重な存在と考えられる鋏・鋤先を出土した住居も竪穴の規模だけでは必ずしも集落内における優位性を示していない。

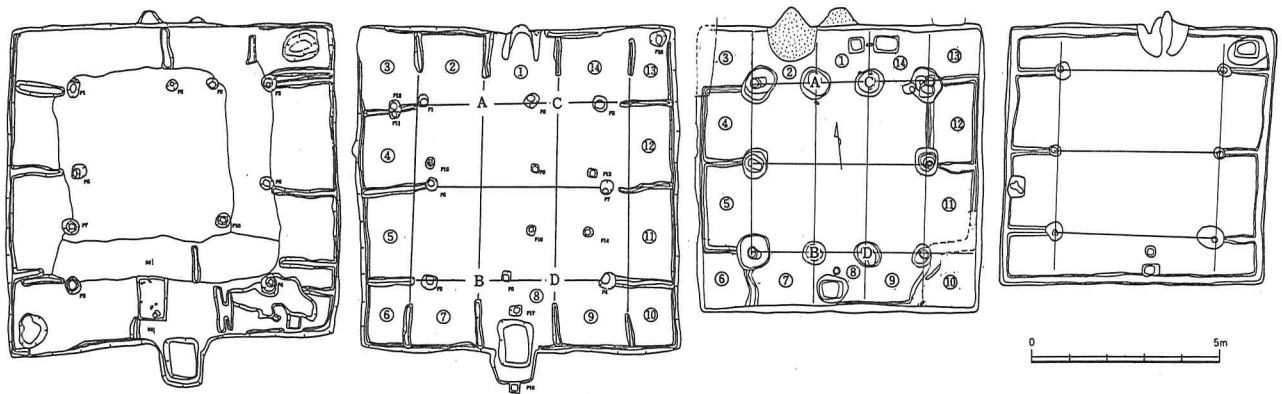
C. 墨書土器

墨書土器等の文字資料は少なく、出土は4軒より計8点である。このうち、SI-177からは「千万」の合わせ文字と判読できるものが2点、その一部と推定されるものが3点で、同一文字の記されたものが計5点見られた。いずれも須恵器坯の底部外面に記されていた。これらの坯は製作手法や質感が酷似しており、同時に入手したものに同一人物の手で記されたと推察される。さらに、須恵器高台杯（壺？）の底部外面に焼成前に「万」と印されたものも1点出土している。墨書のある坯類とは焼成・質感が異なる。通常のヘラ記号であれば、底部の中央に目立つように大きく印されるのに対し、本資料は外縁の高台寄りに1cm四方程と小さく、意識的に記された文字と判断される。「千万」の墨書と「万」のヘラ書き文字の関係については明確にし得無いものの、偶然の一致とは考え難い。なお、この住居跡は火災住居で、土師器甕、須恵器坯などのほかの須恵器捏鉢、女瓦、砥石、釘状の鉄製品、須恵器蓋転用の墨皿（硯）などが出土している。

これ以外の墨書土器としては、鉄製品が多数出土したSI-161より「米カ□」、石製・土製紡錘車、鎌2点が出土したSI-159より「出（木の篆書体カ）」、SI-185より「山」などがある。

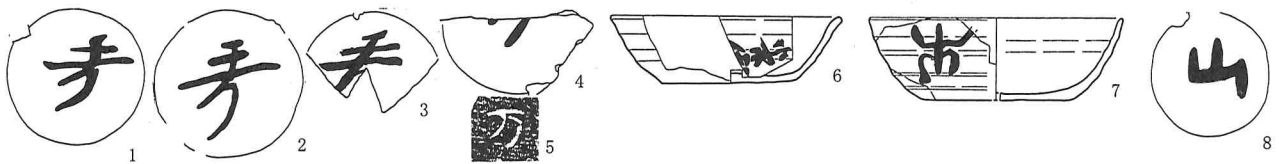
本書の上梓にあたり、事業主であるトヨタウッドユーホーム(株)の学術に対するご理解を高く評価し、報告書刊行の遅延を深謝する次第である。

また、現地調査時より報告書の作成に到るまでご助力を賜ったすべての方々に感謝申し上げるとともに、当地に眠る古代人の御霊の安らかなることを祈念して掲筆する。



1. 砂田A遺跡15号住居跡 2. 砂田A遺跡20号住居跡 3. 姿川第一小南遺跡167号住居跡 4. 姿川第一小南遺跡26号住居跡
1, 2は橋本澄朗 (1995) による。2は一部加筆。

第59図 間仕切住居跡比較図(1/200)



第60図 墨書、ヘラ書文字(1/4) 1~5(SI-177), 6(SI-161), 7(SI-159), 8(SI-185)

報告書抄録

ふりがな	すがたがわだいいちしょうみなみいせき							
書名	姿川第一小南遺跡							
副書名	(第3次調査)							
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第71集							
編著者名	水野順敏・新井 潔							
編集機関	株式会社 日本窯業史研究所							
所在地	〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂3112 TEL0287-93-0711							
発行機関	宇都宮市教育委員会							
所在地	〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5 TEL028-632-2764							
発行年月日	平成20年5月(西暦2008年5月)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
すがたがわだいいちしょうみなみいせき 姿川第一小南遺跡	うつのみやし 宇都宮市 まくだまち 慕田町, にしかわだまち 西川田町	9201	3321	36° 30' 35"	139° 50' 22"	1999.10.25~ 2000.4.28	約10,000m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
姿川第一小南遺跡	集落跡	縄文時代中・後期 古墳時代前期~ 平安時代 中・近世	竪穴住居跡 4軒 竪穴住居跡 53軒 掘立柱建物跡 37棟(中世を含む) 井戸,土坑,溝,掘立柱建物跡など	縄文時代早期~晩期の 土器・石器,弥生土器,古 墳時代前期~平安時代 の土師器・須恵器・鉄製 品,中近世の陶器・磁器・ 銭貨など		古墳時代前期に大きな集落 が営まれ,その後,古墳後期 ~平安時代にわたって集落 が営まれる。 中近世の遺構・遺物も認めら れる。		



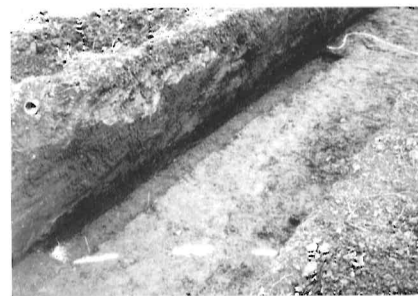
調査区近景（南東から）



調査前全景



D地区トレンチ調査風景



D地区GトレンチSI-140確認状況（南から）



D地区全景（南西から）



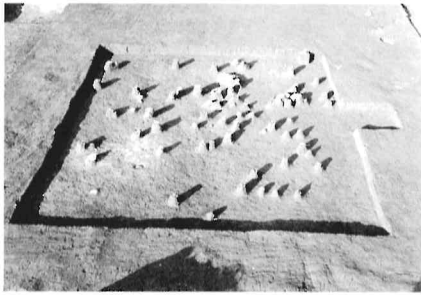
F地区全景（東から）



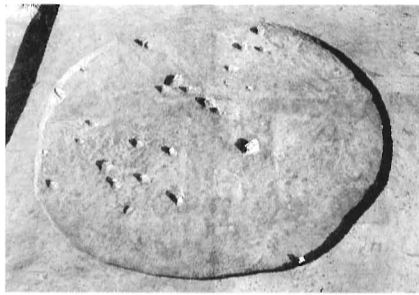
現地説明会風景



E地区全景（南から）



SIJ-1全景(南から)



SIJ-2全景(南から)



SIJ-2小穴全景(南から)



SIJ-3全景(南から)



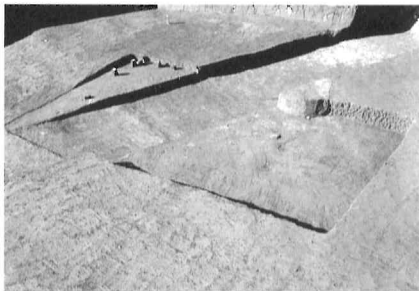
SIJ-3炉全景(南から)



SIJ-4全景(南東から)



SI-140全景(南から)



SI-141全景(南から)



SI-142全景(南から)



SI-143・152全景(南から)



SI-144全景(南西から)



SI-145全景(東から)



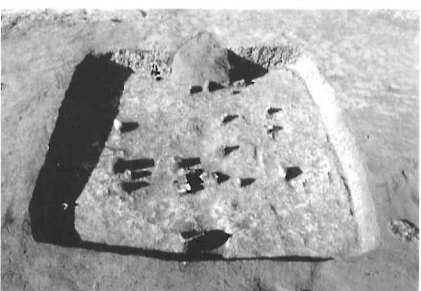
SI-147全景(南から)



SI-147カマド全景(南から)



SI-148・149全景(南から)



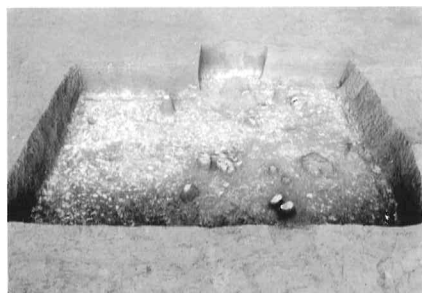
SI-150全景(南東から)



SI-151全景(南東から)



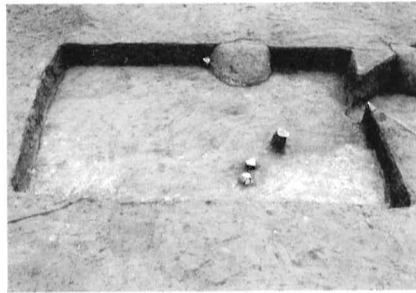
SI-151カマド全景(南東から)



SI-153全景(南から)



SI-154全景(南から)



SI-155全景(南から)



SI-156全景(南西から)



SI-156炉全景(南西から)



SI-157全景(南から)



SI-158全景(南から)



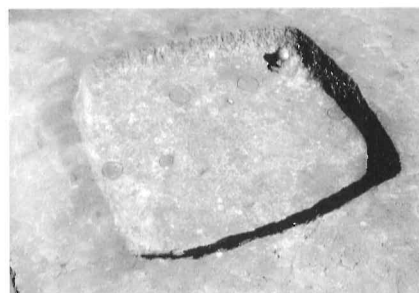
SI-159全景(南から)



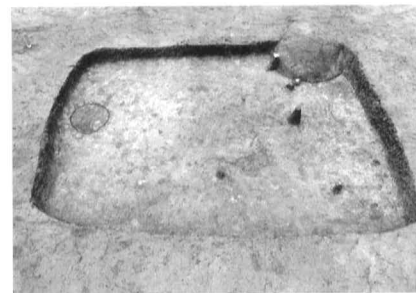
SI-160・179全景(南から)



SI-161全景(南から)



SI-162全景(南東から)



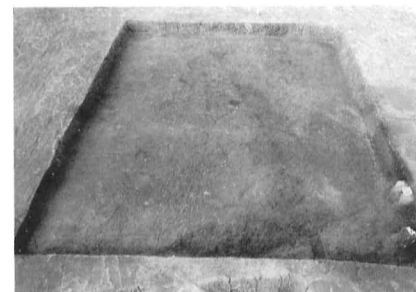
SI-163全景(南から)



SI-164・178全景(南から)



SI-165・178全景(南から)



SI-166全景(南西から)



SI-167全景(南から)



SI-167掘り方全景(南東から)

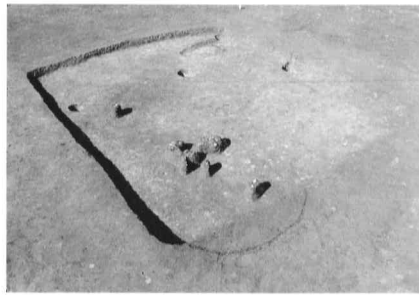


SI-168全景(南西から)

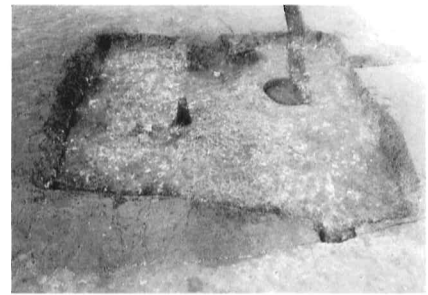
図版 4



SI-169全景(南から)



SI-170全景(南東から)



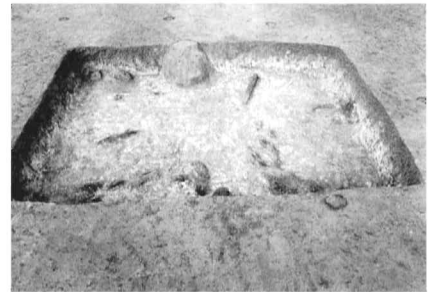
SI-171全景(南から)



SI-173全景(南東から)



SI-174全景(南東から)



SI-175全景(南から)



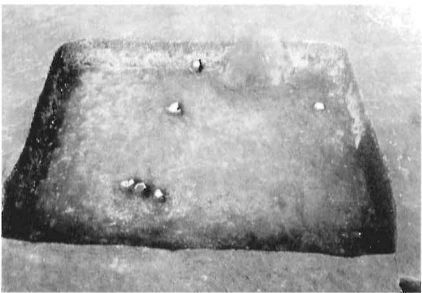
SI-176全景(南から)



SI-177全景(南から)



SI-177出土遺物(南から)



SI-180全景(南から)



SI-181全景(南から)



SI-182全景(南東から)



SI-183全景(南から)



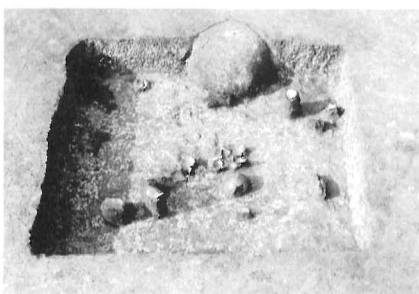
SI-184全景(東から)



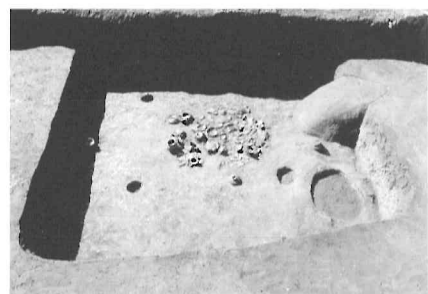
SI-184炉全景(西から)



SI-185全景(南東から)



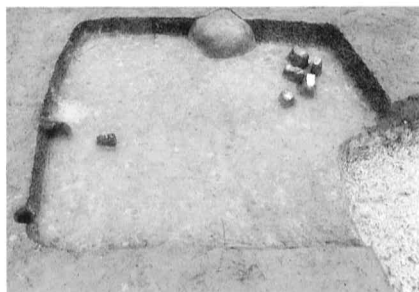
SI-186全景(南東から)



SI-187全景(東から)



SI-188全景(南から)



SI-189全景(南から)



SI-190全景(南西から)



SI-191全景(南西から)



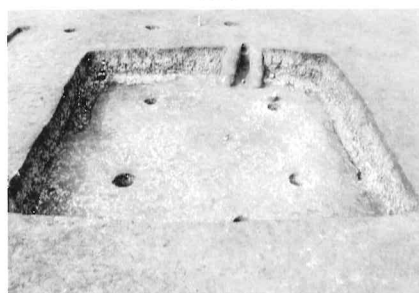
SI-192全景(北西から)



SI-193全景(南から)



SI-193出土遺物(西から)



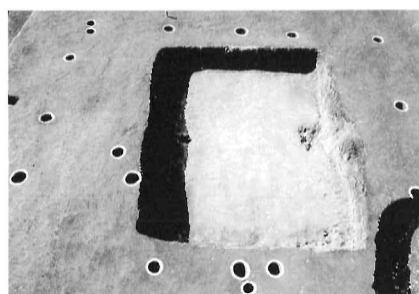
SI-194全景(南から)



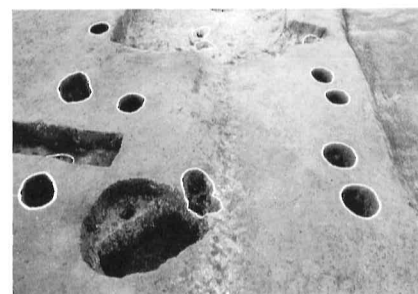
SI-194出土遺物(北から)



SB-51全景(南西から)



SB-52全景(東から)



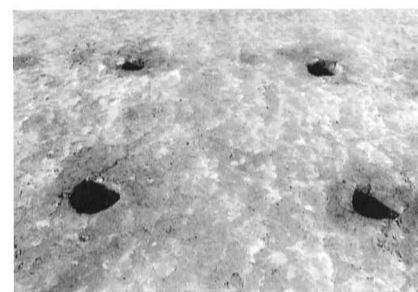
SB-53全景(南から)



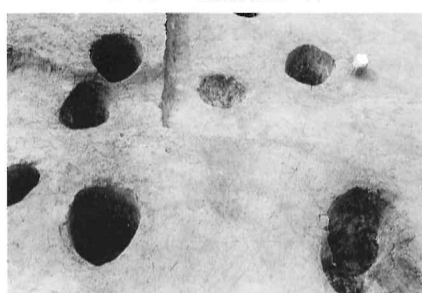
SB-54・55全景(南から)



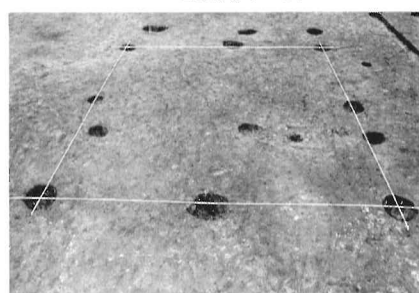
SB-56全景(西から)



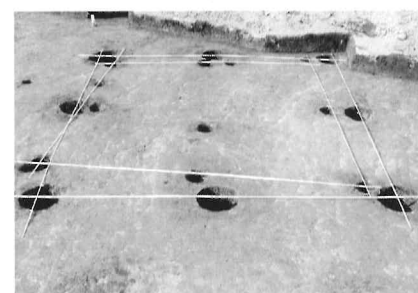
SB-57全景(南から)



SB-58全景(南から)



SB-60全景(南から)



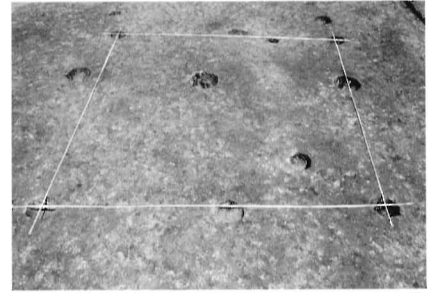
SB-61・67全景(南から)



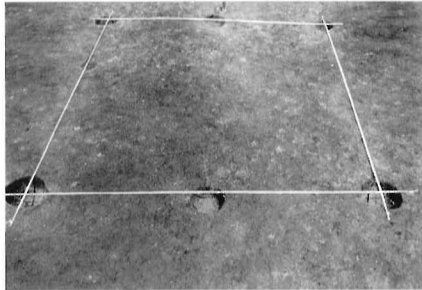
SB-62全景 (南から)



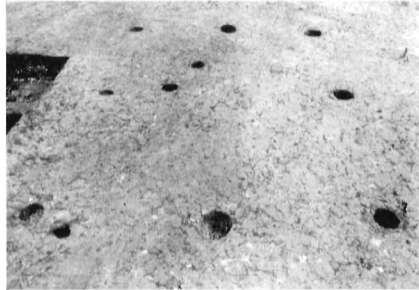
SB-63全景 (南から)



SB-64全景 (南から)



SB-65全景 (南から)



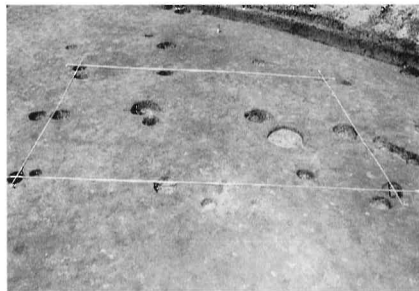
SB-66全景 (西から)



SB-68全景 (南から)



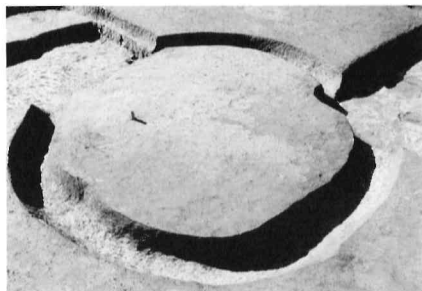
SB-69全景 (南から)



SB-70全景 (南から)



ED-6・7全景 (南から)



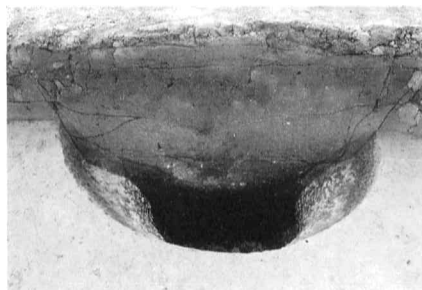
ED-8全景 (北東から)



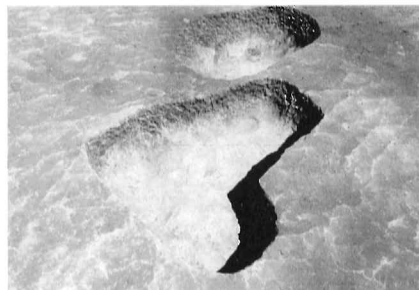
ED-9全景 (南から)



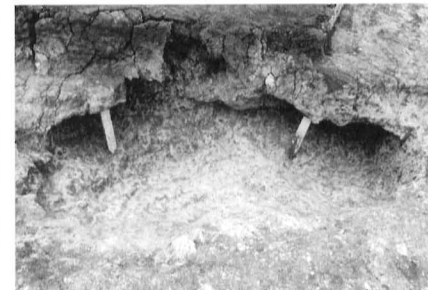
SK-303全景 (南から)



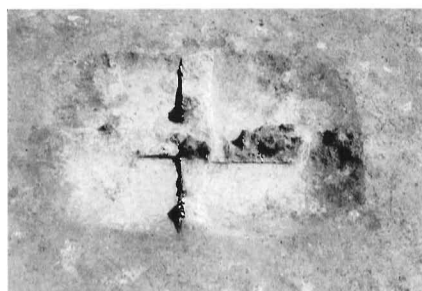
SK-319全景 (東から)



SK-320~322全景 (南西から)



SK-330全景 (東から)



SK-331全景 (東から)



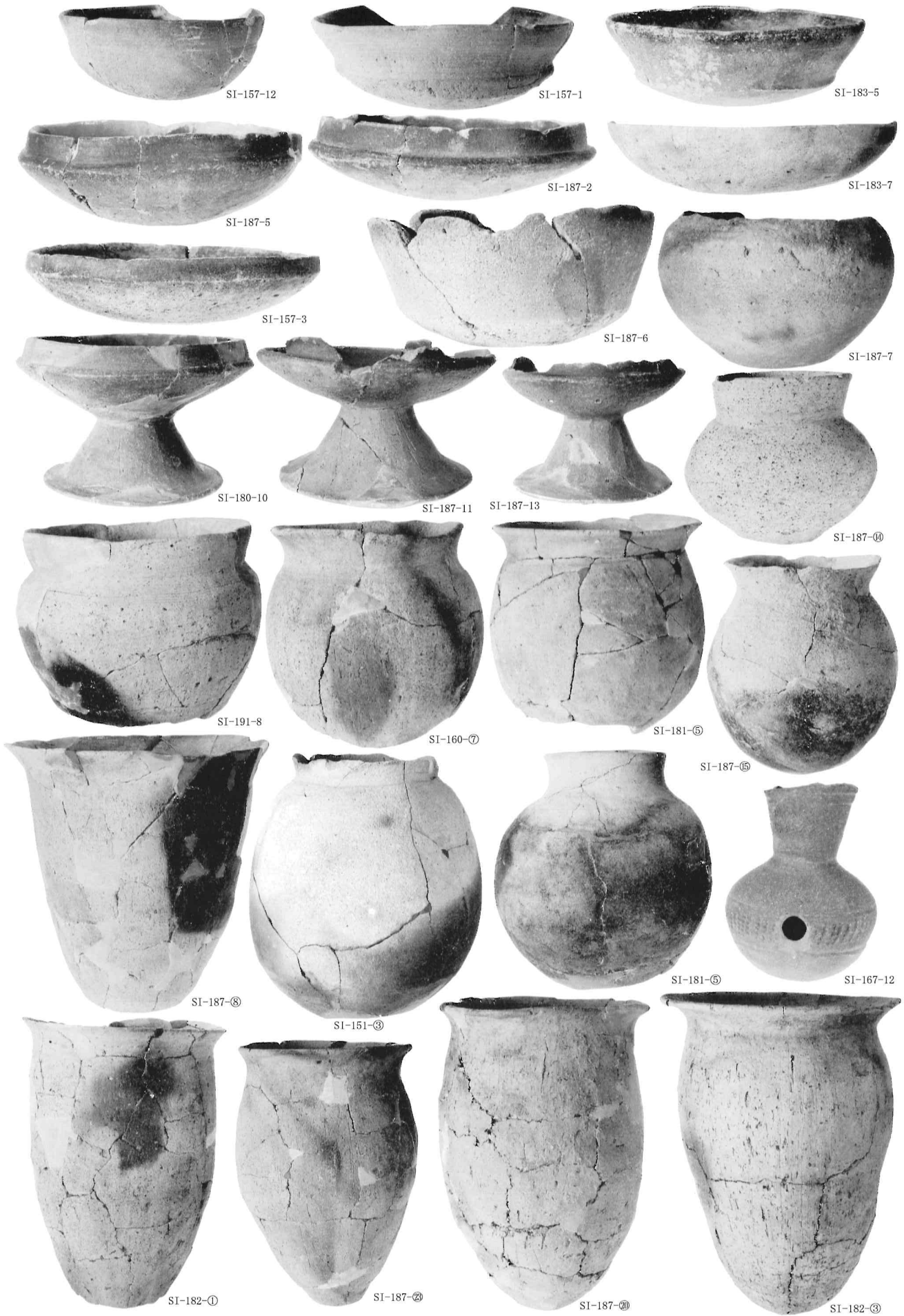
SK-332全景 (南から)



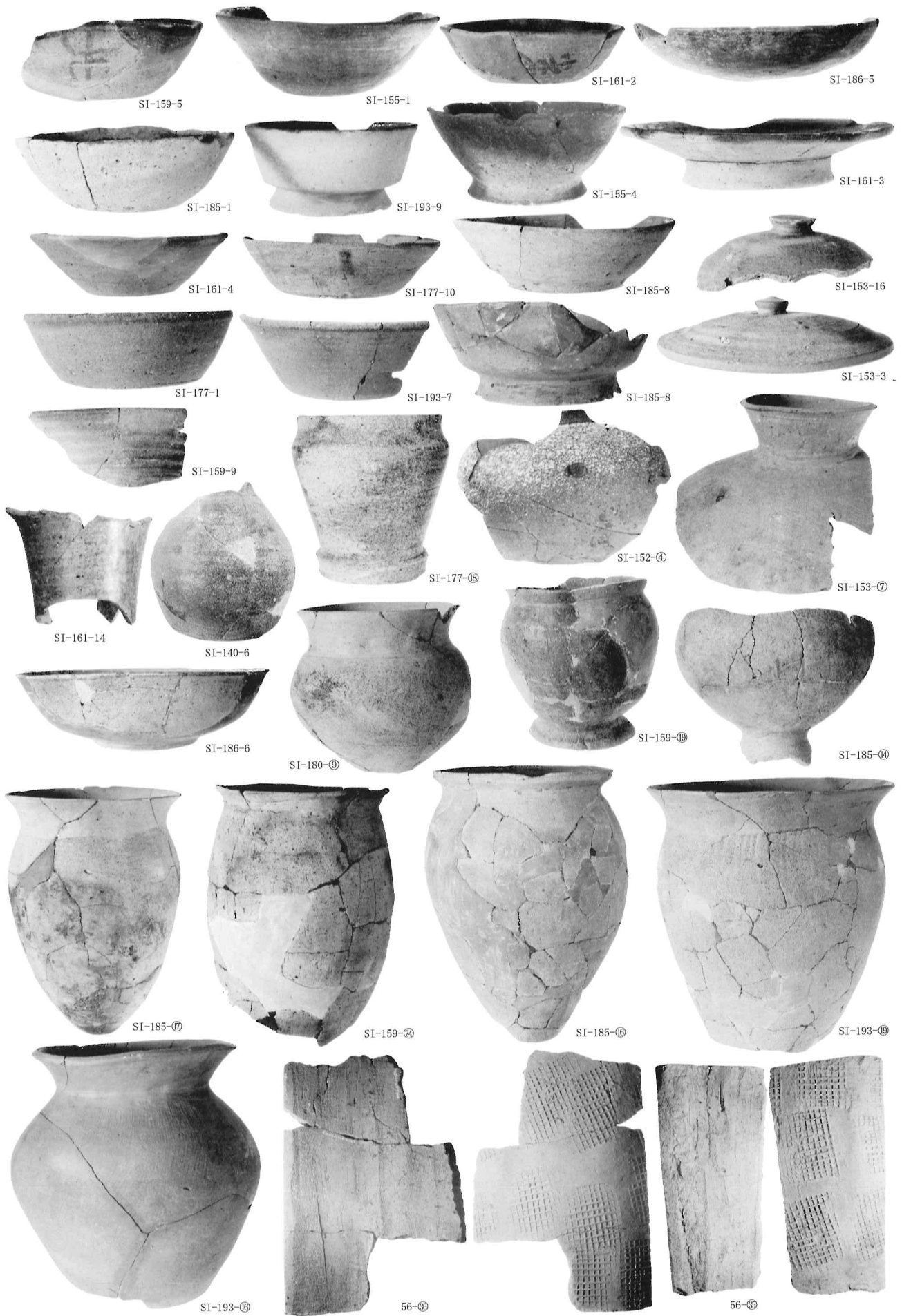
SD-20全景 (東から)



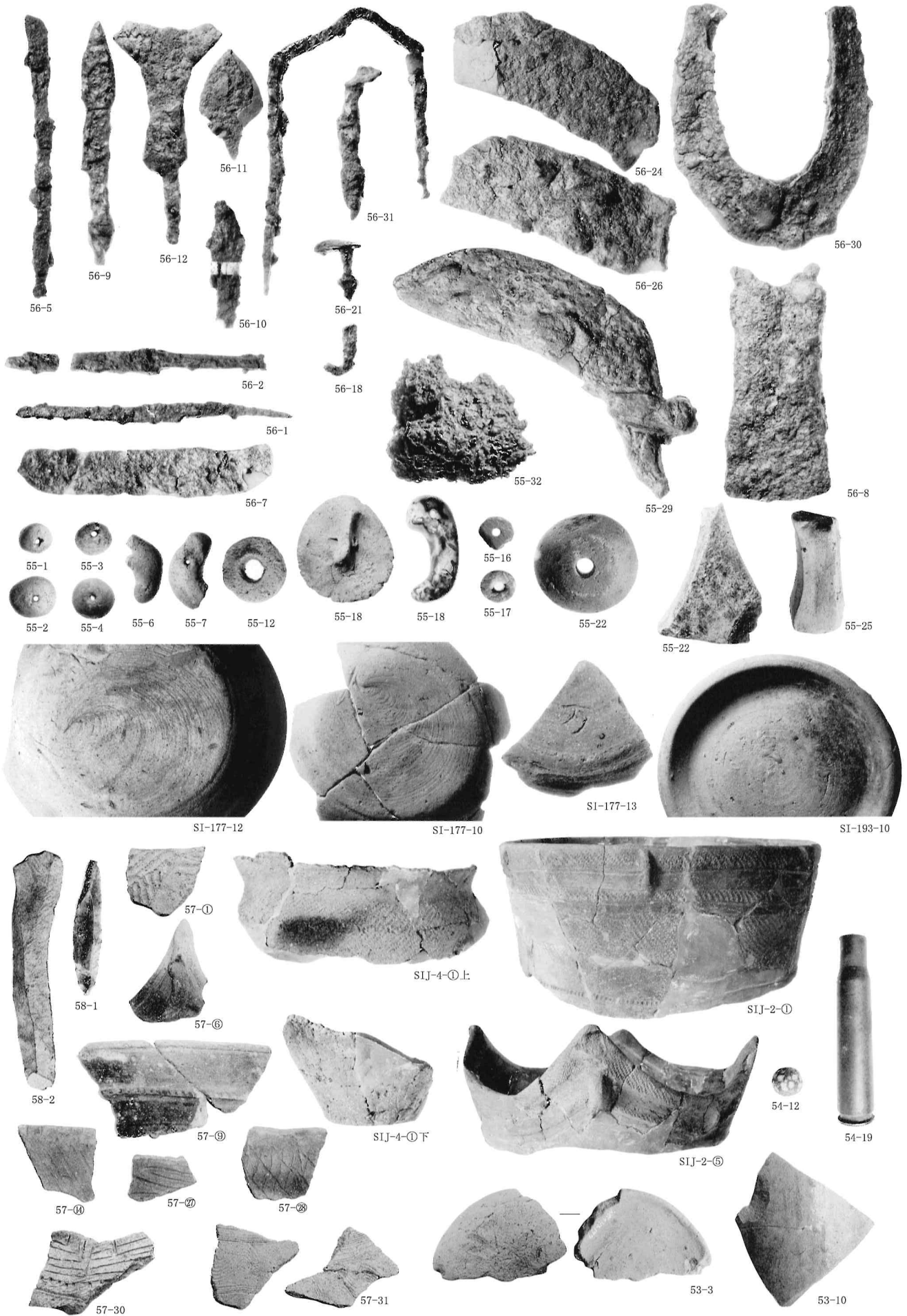
古墳時代の土器(1)



古墳時代の土器(2)



奈良・平安時代の土器・屋瓦



その他の遺物

掘立柱建物跡土層

SB-51 (第27図)

1. 褐色土 (ローム粒多量混)
2. 黒色土 (ローム粒混)
3. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
4. 黄褐色土 (ローム粒主体)
5. 黒色土
6. 褐色土 (ローム塊微量混)

SB-53 (第27図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 1よりローム粒少量
3. 褐色土 (ローム粒・塊主体)
4. 黒褐色土 (ローム粒少量混)

SB-54 (第27図)

1. 黒色土 (ローム粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒混)
3. 褐色土 (ローム粒多・塊少量混)

SB-55 (第27図)

1. 黒色土 (ローム粒少量混)
2. 黒色土 (ローム粒混)
3. 黒褐色土 (ローム粒多量混)
4. 黒褐色土 (ローム粒混)
5. 黒褐色土 (ローム粒・塊少量混)

SB-57 (第28図)

1. 黒褐色土 (ローム粒微量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
3. 黒褐色土 (ローム粒混)

SB-60 (第27図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 褐色土 (ローム粒混)
3. 黄褐色土 (ローム粒・塊多量混)

SB-61 (第29図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 褐色土 (ローム粒混)
3. 褐色土 (ローム粒・塊少量混)

SB-64 (第28図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 褐色土 (ローム粒混)

SB-65 (第28図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 黄褐色土 (ローム粒多, 塊少量混)

SB-67 (第30図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 黄褐色土 (ローム多量粒混)

SB-68 (第29図)

1. 黒褐色土 (ローム粒少量, 塊微量混)
2. 褐色土 (ローム粒混)
3. 黒色土 (ローム粒微量混)
4. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
5. 黄褐色土 (ローム粒多量混)

SB-69 (第29図)

1. 黒色土 (ローム粒少量混)
2. 黄褐色土 (ローム粒多量混)
3. 褐色土 (ローム粒混)
4. 褐色土 (ローム粒多量混)

土坑類土層 (第31図)

SK-301

1. 黒褐色土 (ローム粒・塊少量混)

SK-304

1. 黒褐色土 (粘土粒少量混)

SK-305

1. 黒褐色土 (焼土粒少量混)

SK-309

1. 黒色土 (ローム粒微量混)

SK-307・308

1. 黒色土 (ローム粒少量混, 308埋)
2. 黒褐色土 (ローム粒少量混, 以下307埋)
3. 褐色土 (ローム粒少量混)
4. 褐色土 (ローム塊少量混)
5. 黄褐色土 (ローム粒・塊主体)

SK-310

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒混, 塊含)
3. 黒褐色土 (ローム粒少量混, 塊含)
4. 黒褐色土 (ローム粒2より少, 3より多)

SK-311

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒混, 塊含)
3. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
4. 黒褐色土 (ローム粒2より少, 3より多)

SK-312B

1. 黒褐色土 (ローム粒混, 塊少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒少量, 塊多量混)

SK-313

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混)
2. 黒褐色土 (ローム粒混, 塊含)

SK-314

1. 黒色土 (ローム粒少量混) 2. 黒褐色土 (ローム粒混) 3. 褐色土 (ローム粒多量混)

SK-319

1. 黒色土 (白色粒少量混) 2. 褐色土 (白色粒微量混) 3. 黒褐色土 (白色粒少量混) 4. 黄褐色土 (ローム粒多量混) 5. 黒褐色土 (ローム・焼土粒混) 6. 黒褐色土 (ローム粒少量混) 7. 黒褐色土 (ローム粒少量, 塊微量混) 8. 褐色土 (ローム粒混, 塊少量混) 9. 黄褐色土 (ローム粒多量, 塊少量混)

SK-328

1. 黒褐色土 (ローム粒混) 2. 褐色土 (ローム粒多量混) 3. 褐色土 (2よりローム粒多)

SK-329

1. 黒褐色土 (炭化物粒少量混)

SD-330

1. 黄褐色土 (ローム粒混, 塊少量混) 2. 黄褐色土 (ローム粒主体, 黒褐色土混) 3. 黒色土 (ローム粒混, 塊少量混)

SK-330

1. 黒褐色土 (ローム粒混) 2. 褐色土 (ローム粒多量混) 3. 褐色土 (ローム粒2より多)

SK-331

1. 黒褐色土 (炭化物粒少量, 炭化物粒微量混) 2. 赤褐色土 (焼土粒主体, 炭化物粒微量) 3. 赤色土 (焼土) 4. 黄褐色土 (焼土粒少量混) 5. 赤褐色土 (焼土主体) 6. 赤色土 (焼土) 7. 黒褐色土 (焼土・炭化物粒微量混) 8. 赤化色土 (被熱硬化面)

SK-332

1. 黒褐色土 2. 灰褐色土 (粘土粒主体) 3. 黒褐色土 (ローム塊混, 粒少量混) 4. 黒褐色土 (ローム粒微量混) 5. 黒褐色土 (ローム粒少量, 塊微量混)

SK-333

1. 黒褐色土 (ローム粒少量混) 2. 黒色土 (ローム粒混) 3. 黒褐色土 (ローム粒少量混, 塊混) 4. 黒褐色土 (ローム粒多量, 微量混) 5. 褐色土 (ローム粒多量, 塊混) 6. 黄褐色土 (ローム主体) 7. 褐色土 (ローム粒多量, 塊少量混) 8. 灰褐色土 (粘土粒主体)

SK-335

1. 黒色土 (ローム粒少量混) 2. 黒褐色土 (粘性あり) 3. 黒褐色土 (ローム粒少量混) 4. 黒褐色土 (ローム粒多量混) 5. 黄褐色土 (ローム塊主体, 粒少量混)

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第71集

姿川第一小南遺跡 (第3次調査)

平成20年5月31日 発行

編 集 株式会社 日本窯業史研究所
〒324-0611 那須郡那珂川町小砂3112 TEL 0287-93-0711
発 行 宇都宮市教育委員会文化課
〒320-8540 宇都宮市旭1-1-5 TEL 028-662-2764
印刷・製本 下野印刷株式会社
